

# 大阪府アレルギー疾患実態調査 調査報告書

大阪府健康医療部保健医療室地域保健課

協賛：アストラゼネカ株式会社

# 目次

I. 調査概要	.....	P. 2
II. 主な調査結果	.....	P. 3
i. 医師調査	.....	P. 4
a. 属性情報	.....	P. 5
b. 医師Summary	.....	P. 12
ii. 患者調査	.....	P. 27
a. 属性情報	.....	P. 28
b. 患者Summary	.....	P. 34
iii. 調査結果からの考察	.....	P. 47
III. その他の調査結果	.....	P. 50
i. 医師調査	.....	P. 51
ii. 患者調査	.....	P. 90
IV. 参考資料	.....	P. 125
i. 医師調査	.....	P. 126
ii. 患者調査	.....	P. 157

# I. 調査概要

## 1. 調査の目的

アレルギー疾患対策基本法の基本理念を踏まえ、地域におけるアレルギー疾患医療の実態を把握し、その実情に応じた診療連携体制を検討するための基礎資料とするとともに、大阪府におけるアレルギー疾患対策に係る施策の検討に活用することを目的として実施する。

## 2. 調査の実施主体

実施主体：大阪府 協賛：アストラゼネカ株式会社

## 3. 調査の対象 [アレルギー疾患：気管支ぜん息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーのいずれか]

### [医師調査]

- ・大阪府の医院、診療所、クリニック（病床数が20床未満の施設）にご勤務されている先生
- ・アレルギー疾患をもつ患者さんを診察する先生

### [患者調査]

以下のいずれかに該当する方

- ・自身がアレルギー疾患をお持ちの方及び子どもがアレルギー疾患をお持ちの方

4. サンプル数：医師調査 … 524s / 患者調査 … 1,000s

5. 調査手法：インターネット / 郵送

6. 調査地域：大阪府

7. 実査期間：医師調査 … 令和2年10月8日 ～ 同年11月4日  
患者調査 … 令和2年10月9日 ～ 同年10月26日

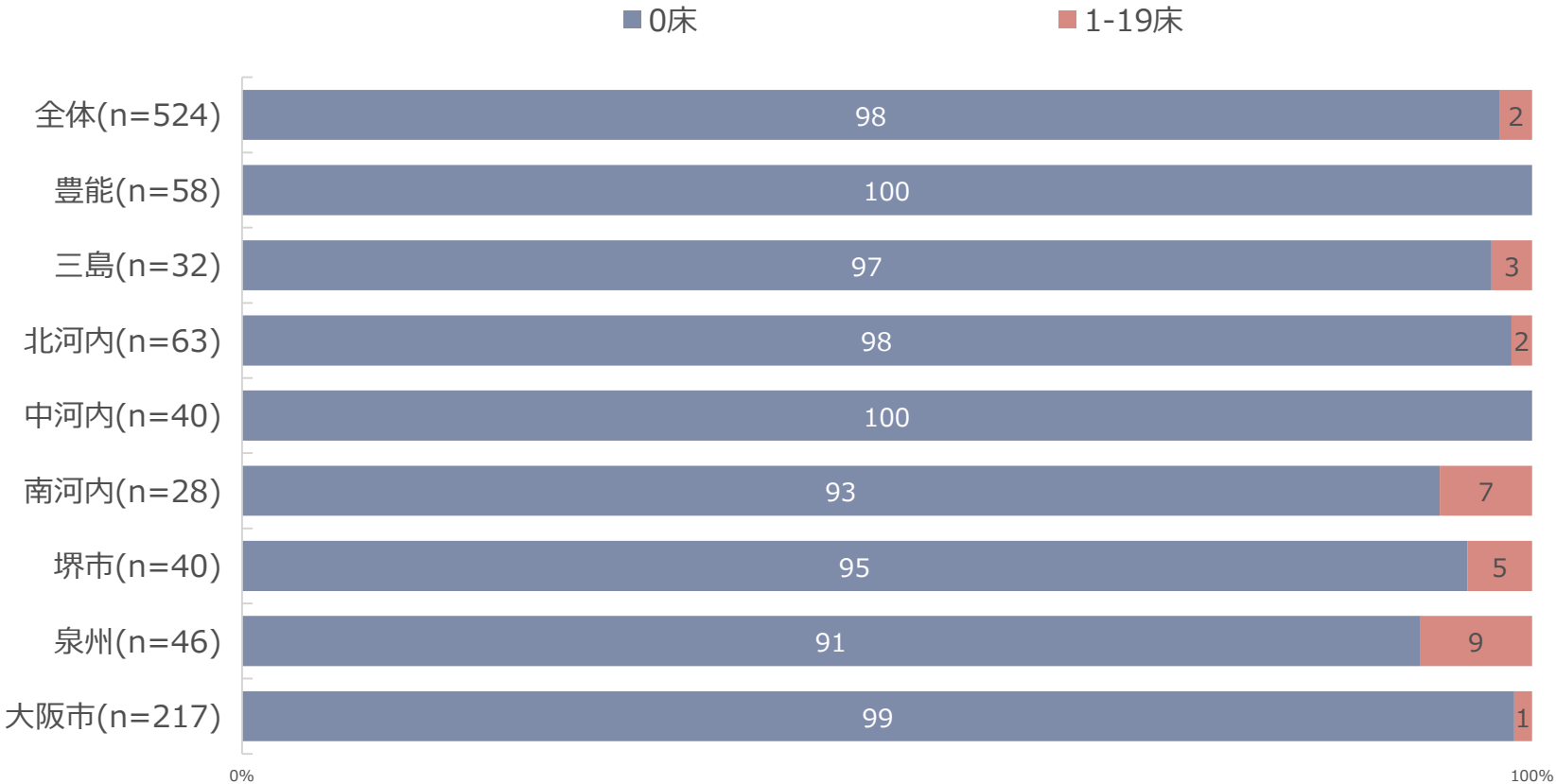
## Ⅱ. 主な調査結果

## II - i . 医師調査

## II - i a. 属性情報

# 病床数内訳

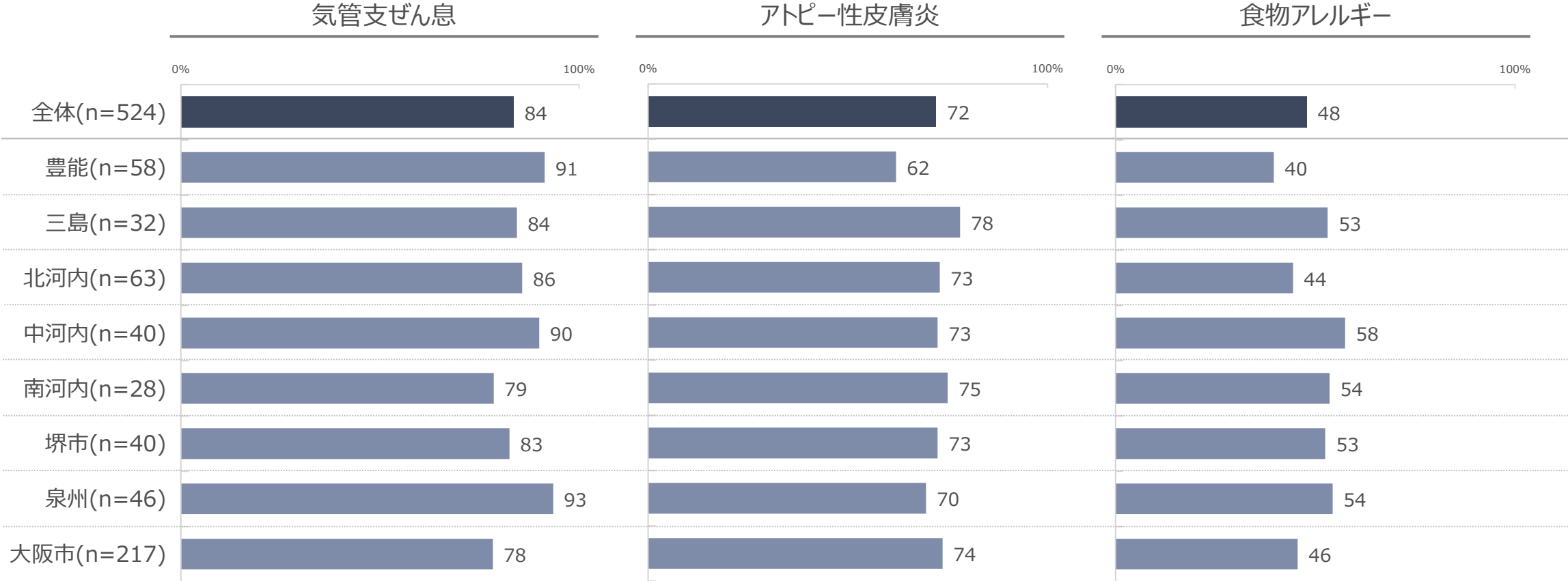
✓ 大阪府でアレルギー疾患をもつ患者さんを診療している医院・診療所・クリニックのうち、98%が0床の施設であった。



SC3. 先生のご勤務先の病床数をお教えてください。(ひとつだけ)

# 各アレルギー疾患の診療を行う医師割合

- ✓ 大阪府でアレルギー疾患をもつ患者さんを診療している医師のうち、気管支ぜん息の診療をする割合は84%、アトピー性皮膚炎の診療をする割合は72%、食物アレルギーの診療をする割合は48%であった。
- ✓ いずれの二次医療圏でも、食物アレルギーを診療する医師割合は、気管支ぜん息、アトピー性皮膚炎を診療する医師割合と比較して低かった。

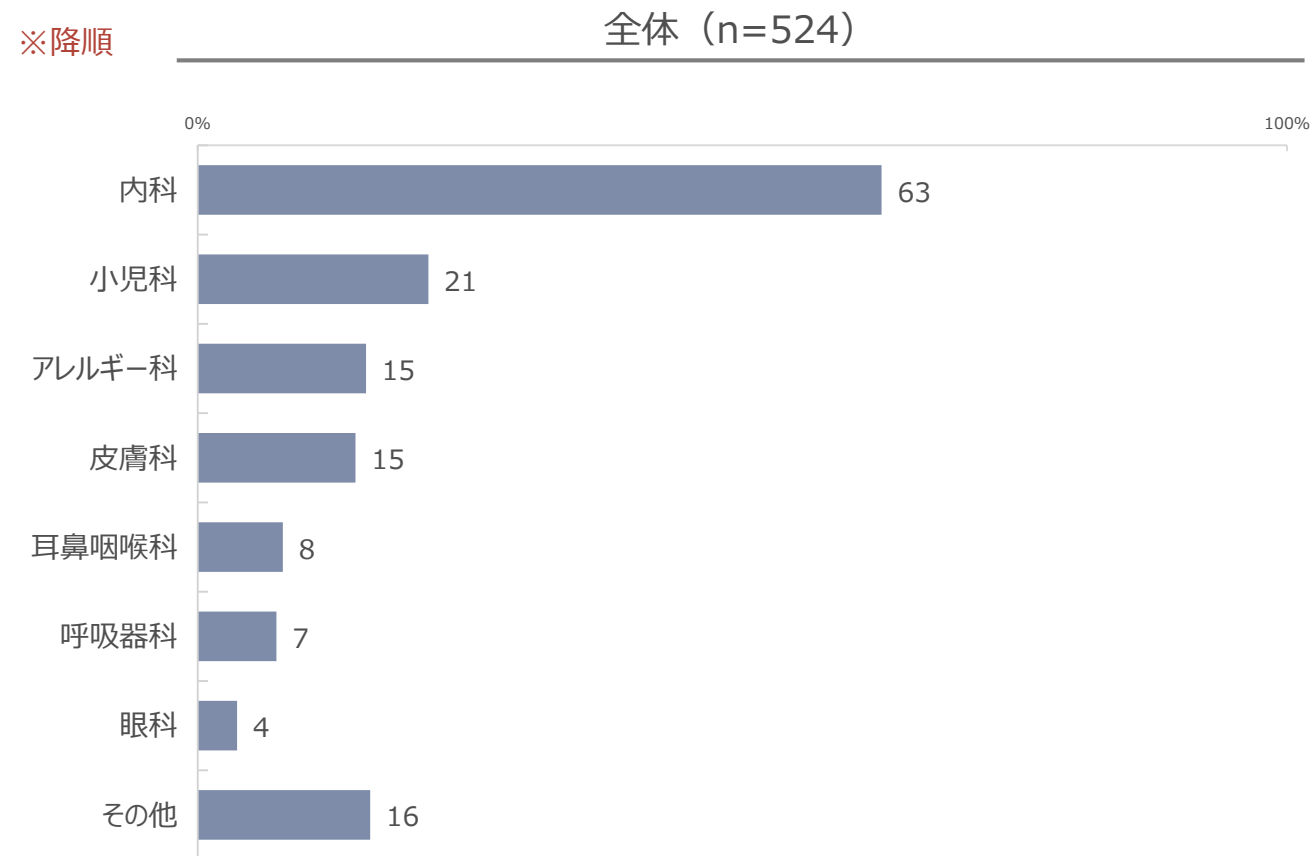


SC4. 次のアレルギー疾患のうち、先生が診療を行っているアレルギー疾患をすべてお選びください。(複数回答可)



# 【全体】 標榜診療科（複数標榜）

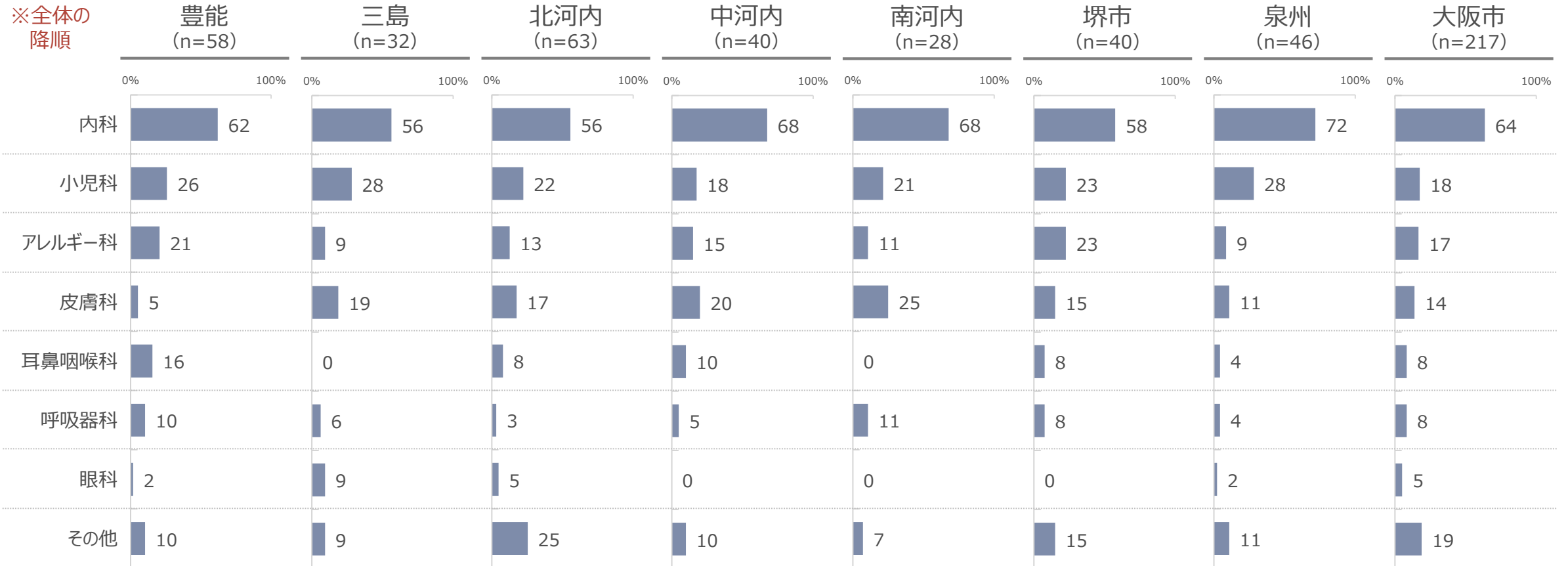
✓ 大阪府でアレルギー疾患をもつ患者さんを診療している医師が標榜している診療科として最も割合が高いのは「内科」で63%。続いて、「小児科」21%、「アレルギー科」15%、「皮膚科」15%、「耳鼻咽喉科」8%であった。



Q1. 先生のご勤務先が標榜されている診療科目についてお教えてください。（複数回答可）

# 【二次医療圏別】 標榜診療科（複数標榜）

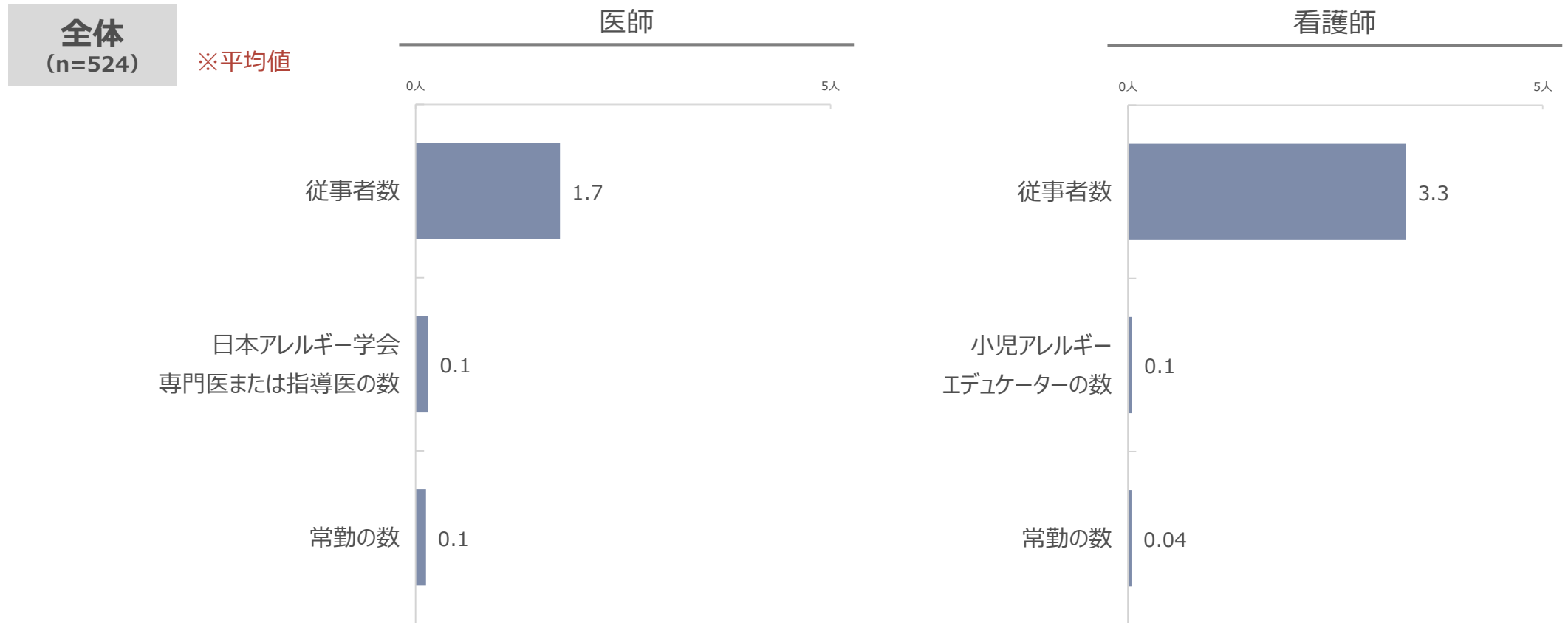
※全体の  
降順



Q1. 先生のご勤務先が標榜されている診療科目についてお教えてください。（複数回答可）

# 【全体】 アレルギー疾患の診療等に関わる医療従事者の配置状況

- ✓ 大阪府でアレルギー疾患をもつ患者さんを診療している施設における医師数は平均1.7人、看護師数は平均3.3人であった。
- ✓ 医師のうち、日本アレルギー学会専門医または指導医は平均0.1人、常勤の数は平均0.1人であった。
- ✓ 看護師のうち、小児アレルギーエドゥケーターは平均0.1人、常勤の数は0.04人であった。



Q2. 貴院においてアレルギー疾患の診療等に関わる医療従事者の配置状況についてお教えてください。

# 【二次医療圏別】

## アレルギー疾患の診療等に関わる医療従事者の配置状況

- ✓ アレルギー疾患をもつ患者さんを診療している施設での医師平均従事者数は、泉州で最も多く、2.1人。続いて、堺市2.0人、南河内1.9人。
- ✓ 一方、看護師平均従事者数は、南河内で最も多く、4.4人。続いて、中河内と泉州で3.8人、北河内と堺市で3.7人であった。
- ✓ 中河内では、日本アレルギー学会専門医または指導医、小児アレルギーエデュケーターの看護師の平均値が、他の二次医療圏と比較して高い傾向にあった。



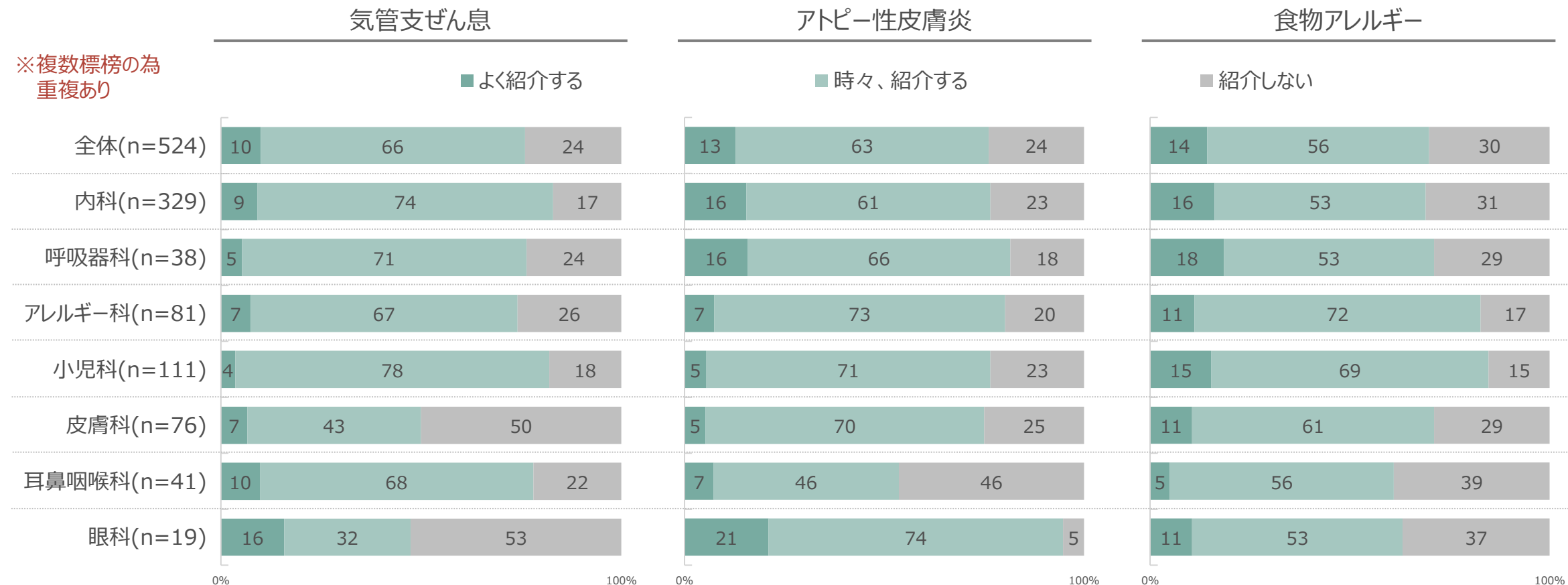
Q2. 貴院においてアレルギー疾患の診療等に関わる医療従事者の配置状況についてお教えてください。

## II - i b. 医師Summary

# Summary①-1

## 他の医療機関への患者の紹介状況（全医師）

▶ 大阪府で各アレルギー疾患をもつ患者さんを診療している医師のうち、患者さんを「よく紹介する」割合は、気管支ぜん息で10%、アトピー性皮膚炎で13%、食物アレルギーで14%であった。

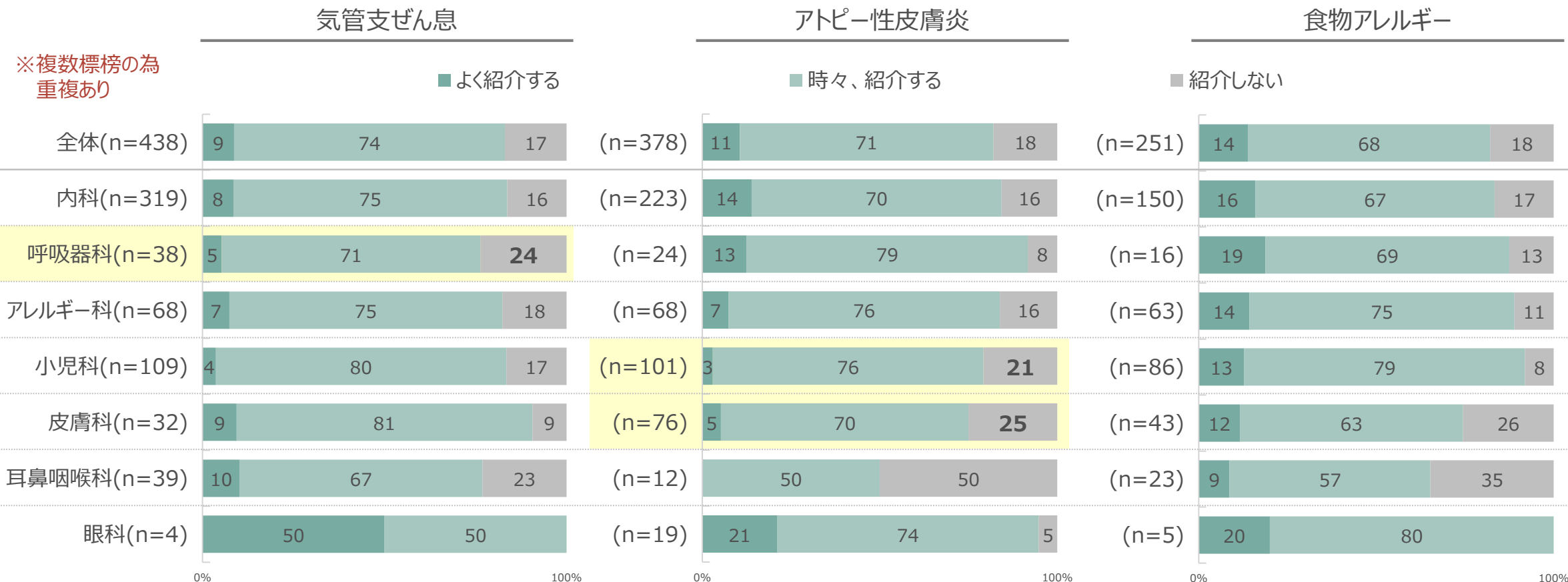


Q5. 貴院における他の医療機関との患者の紹介・逆紹介の状況をお教えてください。（それぞれひとつだけ）

# Summary①-2

## 他の医療機関への患者の紹介状況（各アレルギー疾患を診療する医師）

- ▶ 現在各アレルギー疾患の診療を行っている医師に限定した場合でも、紹介状況に大きな傾向の差異は見られなかった。
- ▶ 呼吸器科では気管支ぜん息を、小児科、皮膚科ではアトピー性皮膚炎を「紹介しない」患者割合が高かった。

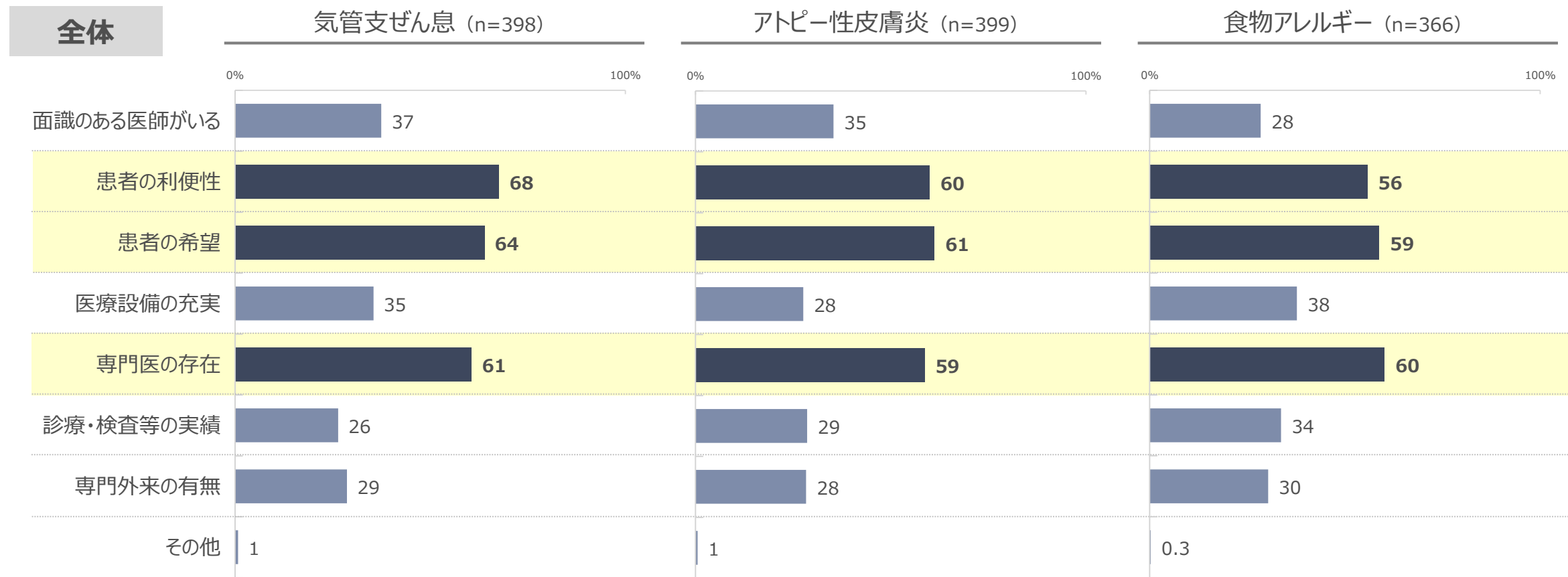


Q5. 貴院における他の医療機関との患者の紹介・逆紹介の状況をお教えてください。（それぞれひとつだけ）  
 ※各アレルギー疾患を診療する医師のみ

# Summary②

## アレルギー疾患患者を紹介する際に重視すること

- アレルギー疾患患者を紹介する際に重視することとして、いずれのアレルギー疾患についても、「患者の利便性」、「患者の希望」、「専門医の存在」を挙げる医師割合が高かった。
- 他のアレルギー疾患と比較して、アトピー性皮膚炎では「医療設備の充実」、食物アレルギーでは「面識のある医師がいる」を挙げる医師割合が低かった。



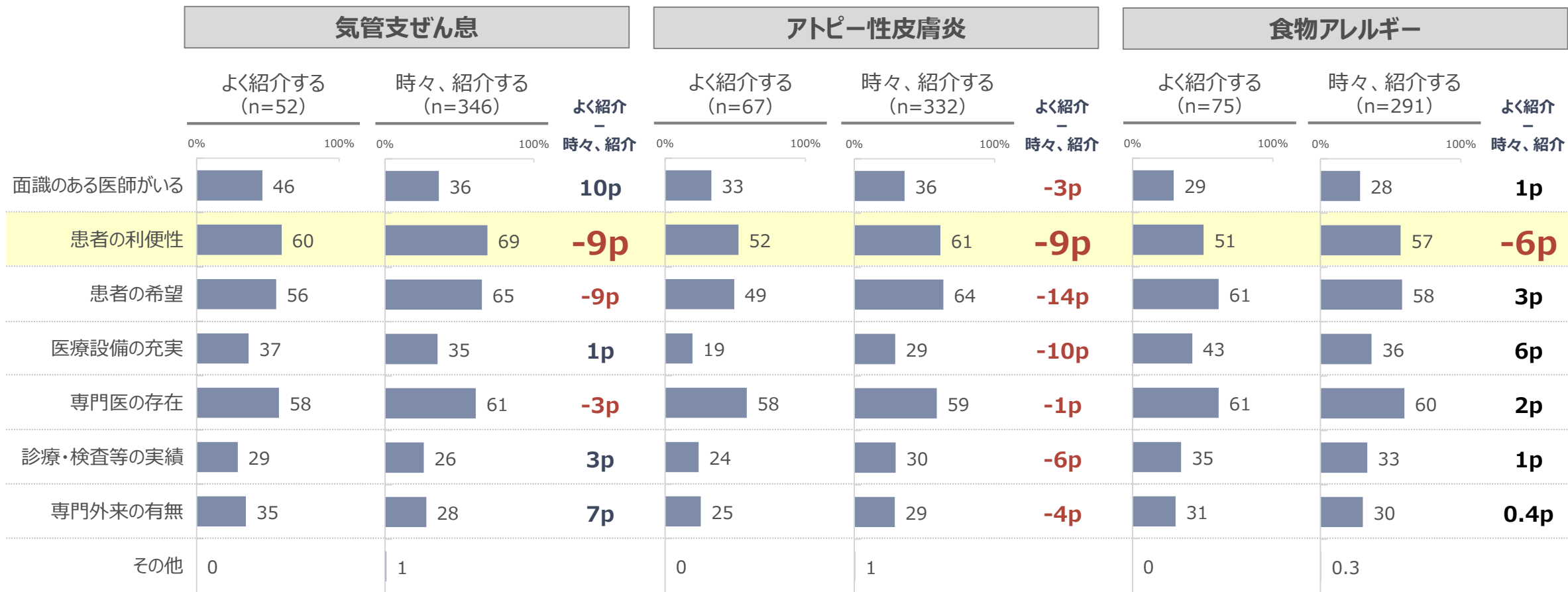
Q6. 紹介する医療機関は、どのようなことを考慮して決めますか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答可)  
 ※各アレルギー疾患患者を紹介することがある医師のみ



# Summary③

## アレルギー疾患患者を紹介する際に重視すること（患者紹介状況別）

➤ いずれのアレルギー疾患についても、患者を「時々、紹介する」医師は、「よく紹介する」医師と比較して、「患者の利便性」を重視する傾向にあった。

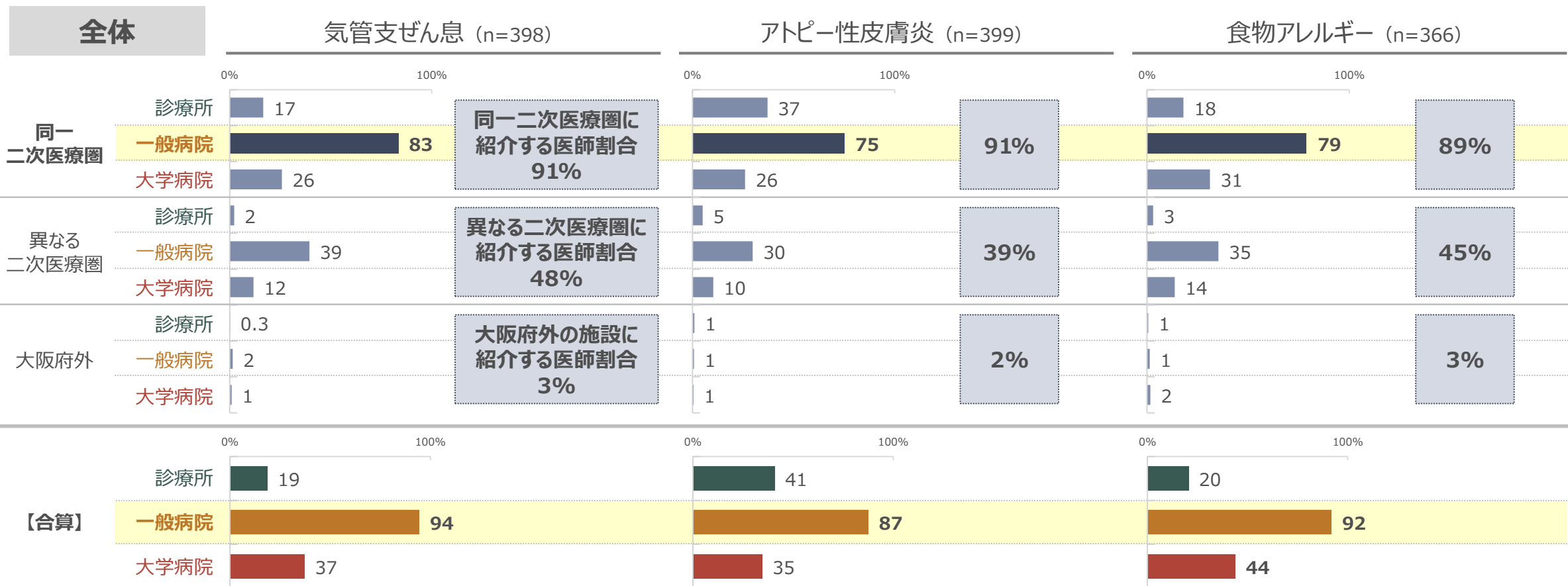


Q6. 紹介する医療機関は、どのようなことを考慮して決めますか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答可）  
 ※各アレルギー疾患患者を紹介することがある医師のみ

# Summary④

## アレルギー疾患患者の紹介先（上位2つ）

- アレルギー疾患患者の紹介先として最も割合が高かったのは、いずれのアレルギー疾患でも「同一二次医療圏の一般病院」であった。
- 二次医療圏別にみると、紹介先として最も多いのは「同一二次医療圏」、施設形態別にみると、紹介先として最も多いのは「一般病院」であった。
- 食物アレルギーについては、他の疾患と比較して、診療所に紹介する割合が低く、大学病院に紹介する割合が高かった。



Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）  
 ※各アレルギー疾患患者を紹介することがある医師のみ

# Summary⑤-1

## 気管支ぜん息患者の紹介先（上位2つ）

▶ 気管支ぜん息患者の紹介先について、呼吸器科では、他の診療科と比較して「異なる二次医療圏」に紹介する割合が高かった。

### 気管支ぜん息

#### 標榜診療科

標榜診療科		内科	呼吸器科	アレルギー科	小児科	皮膚科	耳鼻咽喉科	眼科
n		n=273	n=29	n=60	n=91	n=38	n=32	n=9
紹介先の医療圏	同一二次医療圏	91%	83%	85%	93%	84%	94%	100%
	異なる二次医療圏	52%	<b>66%</b>	55%	53%	42%	25%	56%
	大阪府外の施設	4%	7%	7%	2%	3%	0%	0%
紹介先の施設	診療所	14%	7%	17%	10%	16%	44%	33%
	一般病院	96%	97%	93%	98%	95%	88%	78%
	大学病院	38%	41%	42%	34%	58%	28%	33%

Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）

※気管支ぜん息患者を紹介することがある医師のみ

※複数標榜の為重複あり

## Summary⑤-2

## アトピー性皮膚炎患者の紹介先（上位2つ）

▶ アトピー性皮膚炎患者の紹介先について、皮膚科では、他の診療科と比較して大学病院に紹介する割合が高かった。

## アトピー性皮膚炎

## 標榜診療科

標榜診療科		内科	呼吸器科	アレルギー科	小児科	皮膚科	耳鼻咽喉科	眼科
n		n=252	n=31	n=65	n=85	n=57	n=22	n=18
紹介先の 医療圏	同一二次医療圏	92%	87%	82%	88%	86%	95%	100%
	異なる二次医療圏	39%	58%	55%	49%	47%	23%	22%
	大阪府外の施設	2%	0%	6%	1%	2%	5%	0%
紹介先の 施設	診療所	43%	35%	26%	32%	12%	45%	56%
	一般病院	90%	97%	86%	93%	88%	77%	83%
	大学病院	31%	35%	45%	29%	<b>68%</b>	32%	44%

Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）

※アトピー性皮膚炎患者を紹介することがある医師のみ

※複数標榜の為重複あり

# Summary⑤-3

## 食物アレルギー患者の紹介先（上位2つ）

▶ 食物アレルギー患者の紹介先として、アレルギー科では、他の診療科と比較して「異なる二次医療圏」に紹介する医師割合が高かった。

### 食物アレルギー

#### 標榜診療科

標榜診療科		内科	呼吸器科	アレルギー科	小児科	皮膚科	耳鼻咽喉科	眼科
n		n=227	n=27	n=67	n=94	n=54	n=25	n=12
紹介先の医療圏	同一二次医療圏	90%	81%	81%	88%	85%	88%	100%
	異なる二次医療圏	46%	59%	<b>64%</b>	52%	48%	32%	42%
	大阪府外の施設	3%	4%	10%	6%	4%	0%	0%
紹介先の施設	診療所	19%	15%	12%	14%	9%	24%	42%
	一般病院	93%	96%	91%	97%	91%	92%	75%
	大学病院	44%	52%	48%	35%	65%	44%	33%

Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）

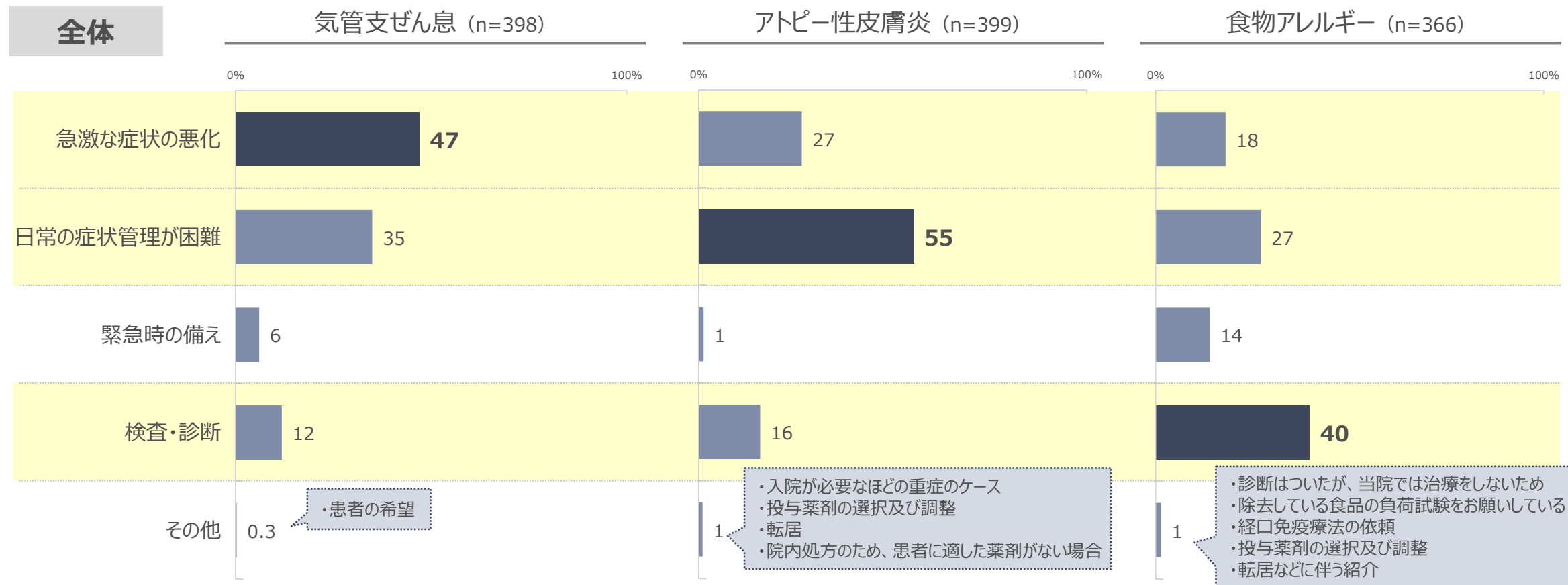
※食物アレルギー患者を紹介することがある医師のみ

※複数標榜の為重複あり

# Summary⑥

## 患者を紹介する理由

▶ アレルギー疾患患者を紹介する理由として最も割合が高かったのは、気管支ぜん息で「急激な症状の悪化」47%、アトピー性皮膚炎で「日常の症状管理が困難」55%、食物アレルギーで「検査・診断」40%と、アレルギー疾患ごとに患者を紹介する主な理由が異なっていた。

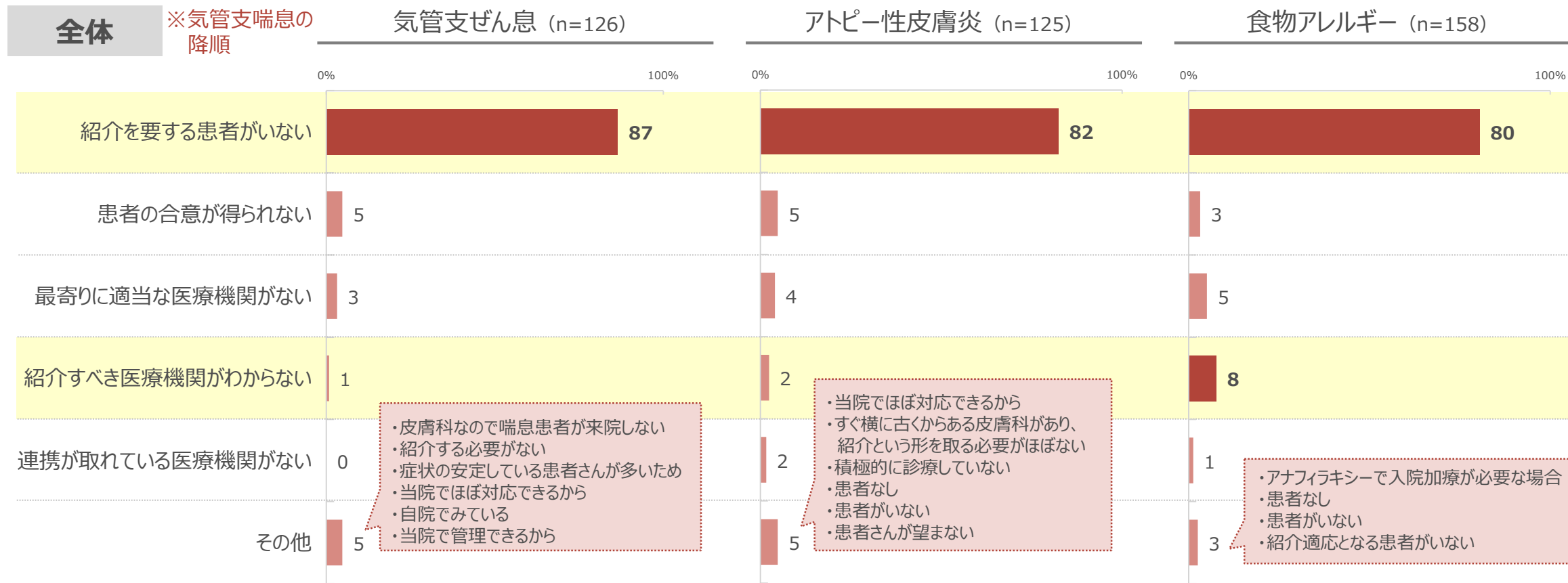


Q8. 患者を紹介する理由で最も多いものをお選びください。(ひとつだけ)  
※各アレルギー疾患患者を紹介することがある医師のみ

# Summary⑦

## 患者を紹介しない・できない理由

- アレルギー疾患患者を紹介しない・できない理由としては、いずれのアレルギー疾患についても「紹介を要する患者がいない」の割合が最も高かった。
- 食物アレルギーについて、他の疾患と比較して、「紹介すべき医療機関がわからない」を選択した医師割合が高かった。

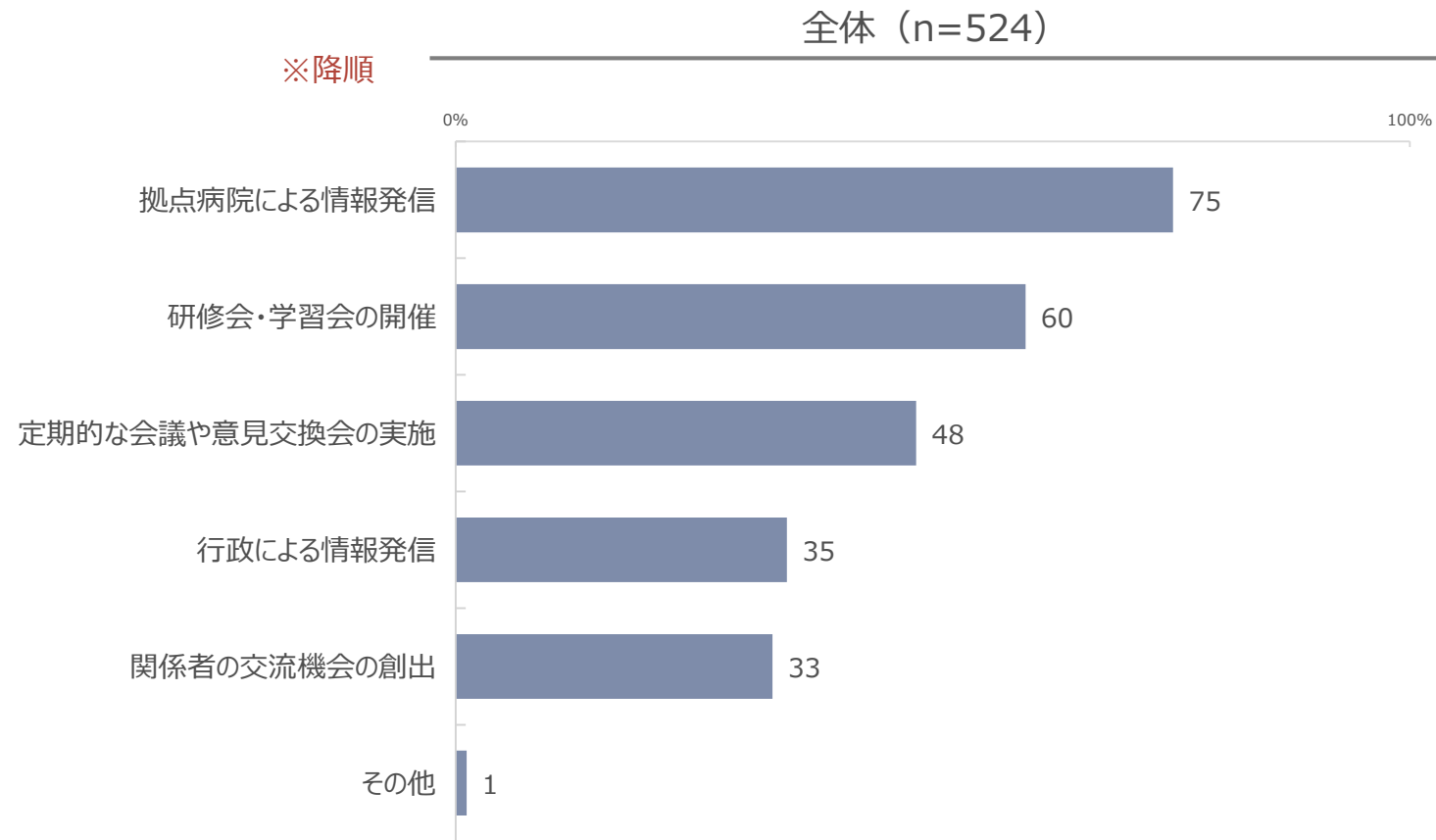


Q9. 患者を紹介しない、できない理由で最も多いものをお選びください。(ひとつだけ)  
 ※各アレルギー疾患患者を紹介しない医師のみ

## Summary⑧

## 地域における医療提供体制整備のために必要だと考えること

- ▶ 大阪府でアレルギー疾患をもつ患者さんを診療している医師が、地域における医療提供体制整備の為に必要だと考えることとして最も割合が高いのは「拠点病院による情報発信」75%。続いて、「研修会・学習会の開催」60%、「定期的な会議や意見交換会の実施」48%であった。



Q12. 地域において診療連携体制を構築するためにはどのような事が必要と思われますか。(複数回答可)



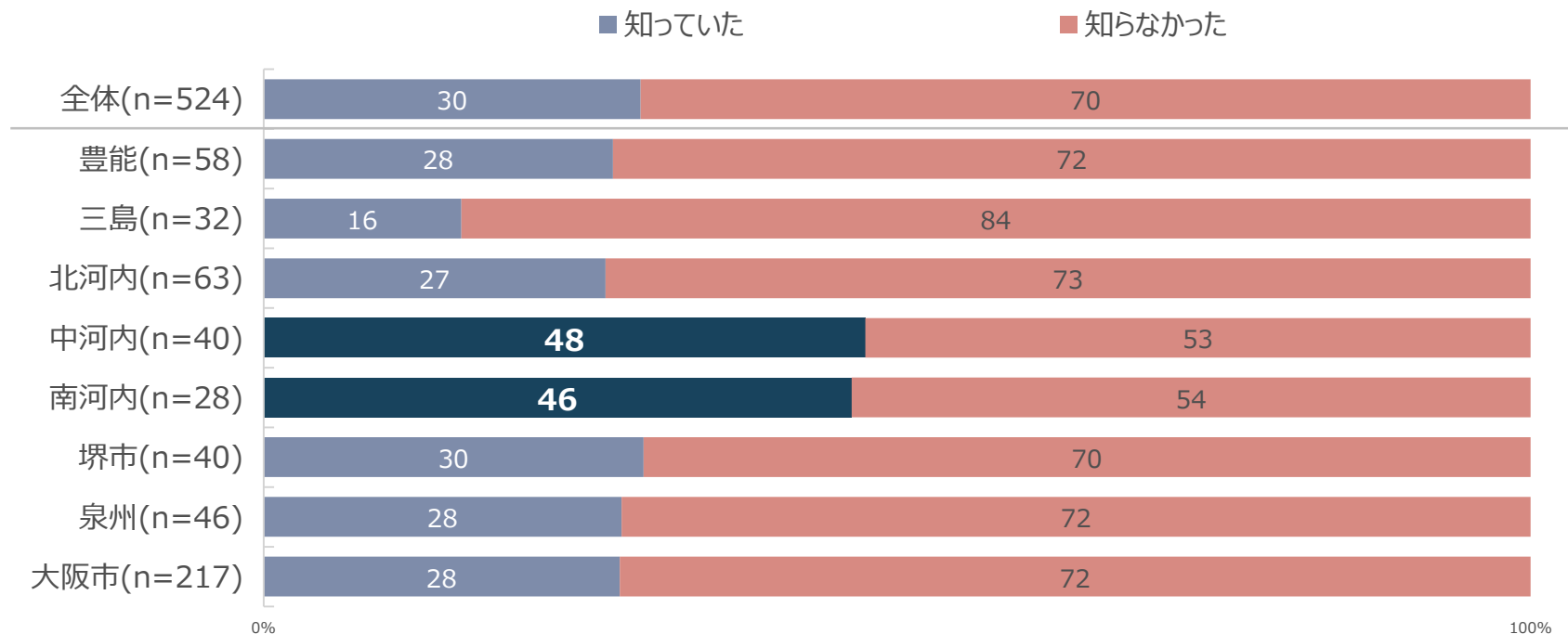
## Summary⑨-1

## 大阪府が医療提供体制整備を進めていることに対する認知度

- 大阪府が医療提供体制の整備を進めていることを認知している医師割合は30%であった。
- 中河内、南河内では、他の二次医療圏として認知率が高い一方で、三島では認知率が低かった。

### ＜アレルギー疾患医療拠点病院＞

「アレルギー疾患医療拠点病院」とは、アレルギー疾患対策基本法に基づき、国民が居住する地域に関わらず、等しくそのアレルギーの状態に応じて適切なアレルギー疾患医療を受けることができるよう、アレルギー疾患医療の拠点となる病院です。大阪府では、平成30年6月に近畿大学病院、大阪はいびきの医療センター、関西医科大学附属病院、大阪赤十字病院が指定され、診療連携体制の構築を進めています。



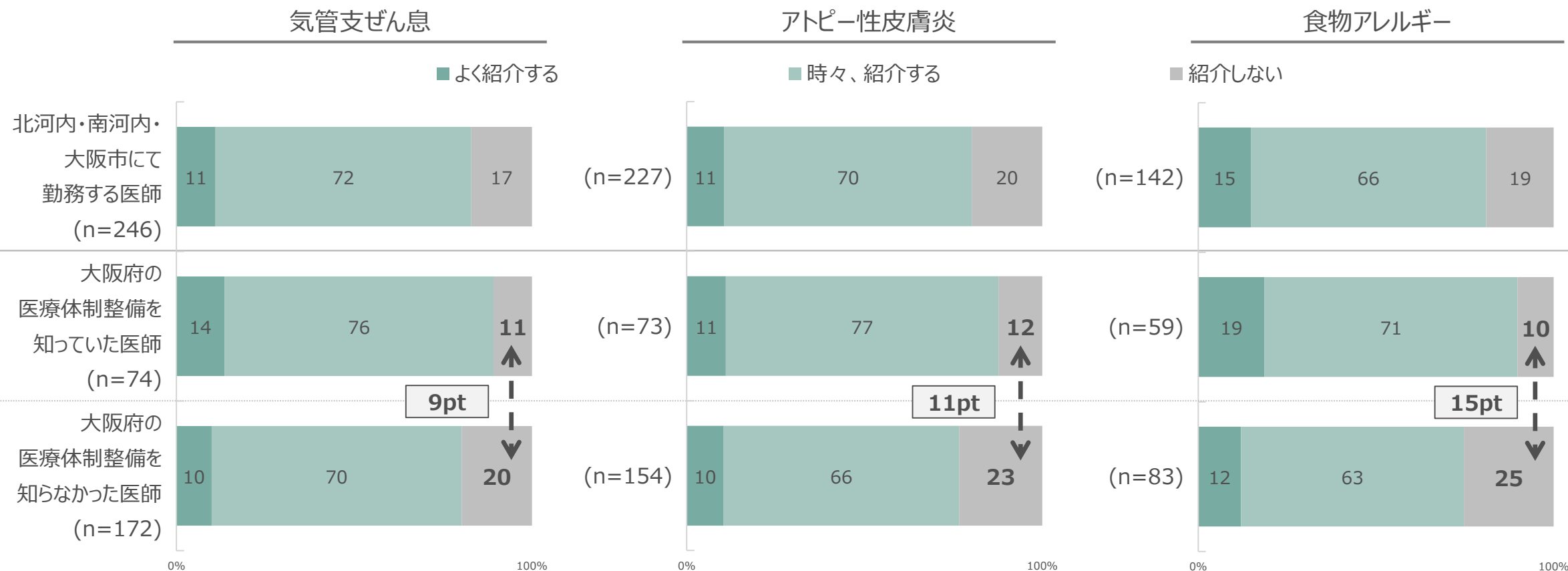
Q11. 大阪府がアレルギー疾患医療拠点病院を指定するなど医療提供体制整備を進めていることを知っていますか。

# Summary⑨-2

## 他の医療機関への患者の紹介状況（北河内・南河内・大阪市）

➤ いずれの疾患についても、大阪府が医療体制整備をしていることを知っていた医師は、知らなかった医師と比較して、患者の紹介割合が高かった。中でも特に、食物アレルギーについては、知っている医師と知らなかった医師の患者紹介割合の差が大きかった。

アレルギー疾患医療拠点病院がある北河内・南河内・大阪市医療圏にて勤務する医師のうち、各アレルギー疾患を診療する医師のみに限定して集計



Q5. 貴院における他の医療機関との患者の紹介・逆紹介の状況をお教えてください。(それぞれひとつだけ)  
 ※北河内・南河内・大阪市医療圏にて勤務する、各アレルギー疾患を診療する医師のみ

# Summary<sup>⑩</sup>

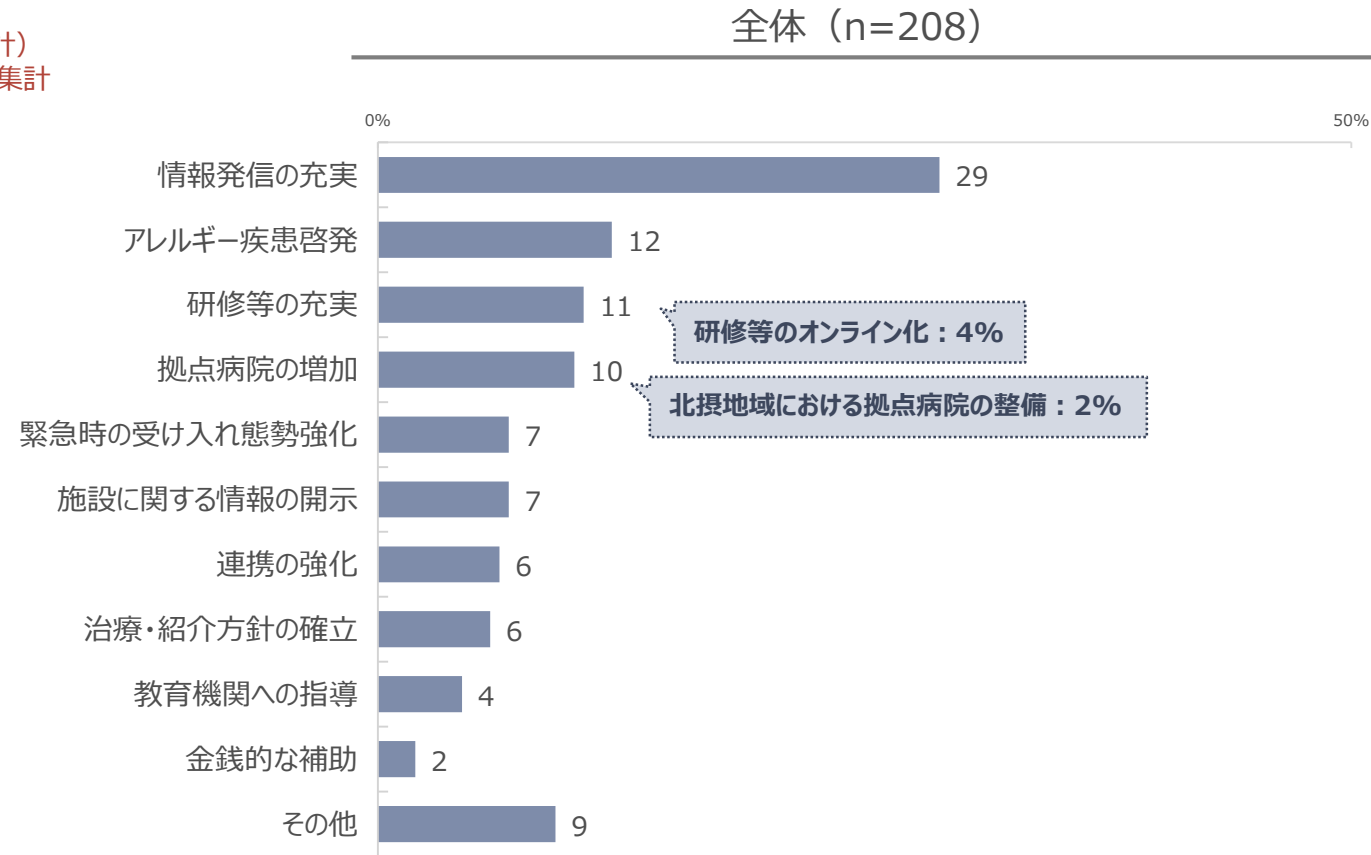
## 大阪府のアレルギー疾患対策に関する要望

- ▶ 大阪府のアレルギー疾患対策についての要望として最も挙がっていたのは「情報発信の充実」。続いて、「アレルギー疾患啓発」、「研修等の充実」、「拠点病院の増加」、「緊急時の受け入れ態勢」、「施設に関する情報の開示」であった。
- ▶ 「拠点病院の増加」の中でも、特に「北摂地域における拠点病院の整備」と回答していた医師が一定程度存在した。

※アフターコーディング

(自由回答を同じ内容ごとに分類して集計)

※「特になし」旨を回答した316sを除いて集計



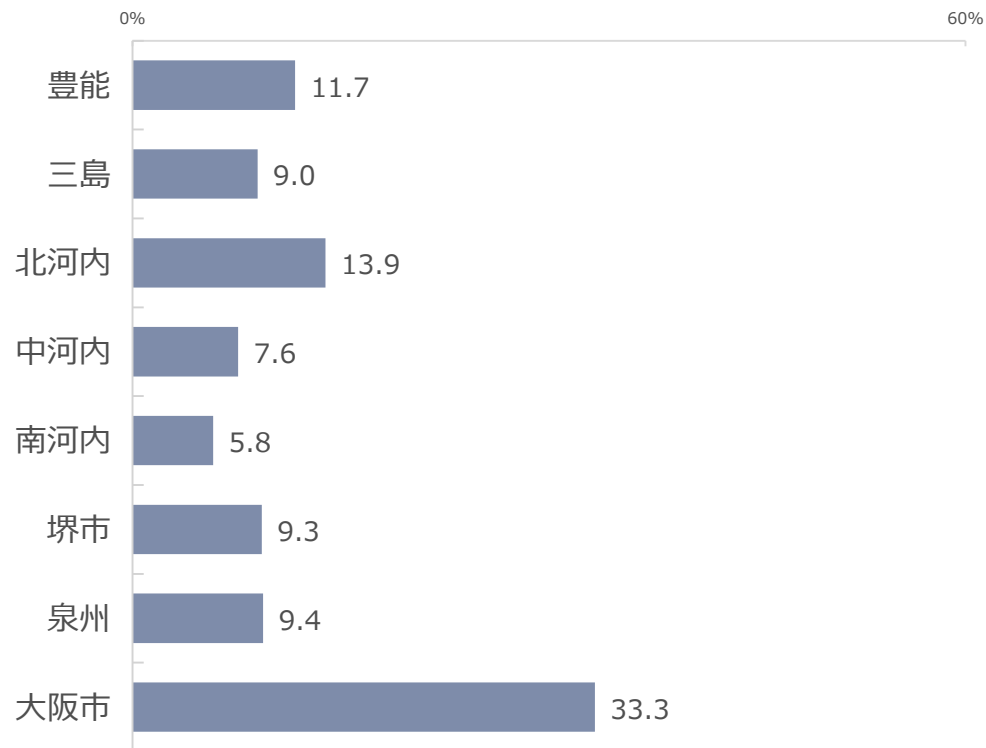
Q16. 大阪府のアレルギー疾患対策について、ご要望がありましたらお聞かせください。

## II - ii. 患者調査

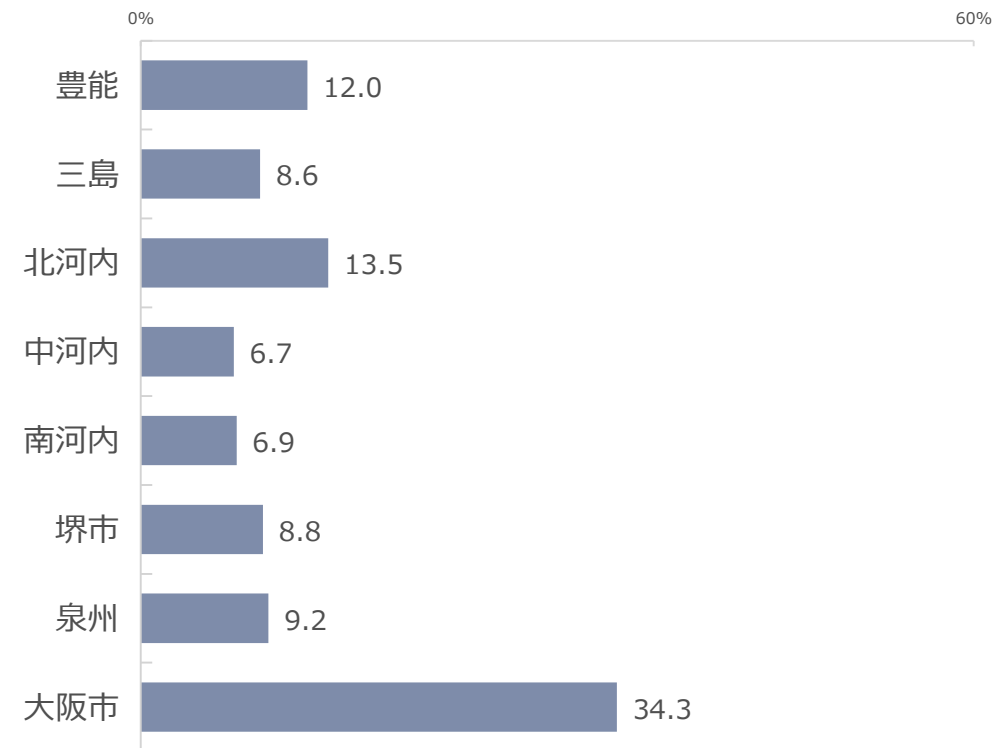
## II - ii a. 属性情報

## 二次医療圏ごとの居住地／通院先施設

調査回答者の居住地比率 (n=1000)



調査回答者の通院先施設比率 (n=1000)

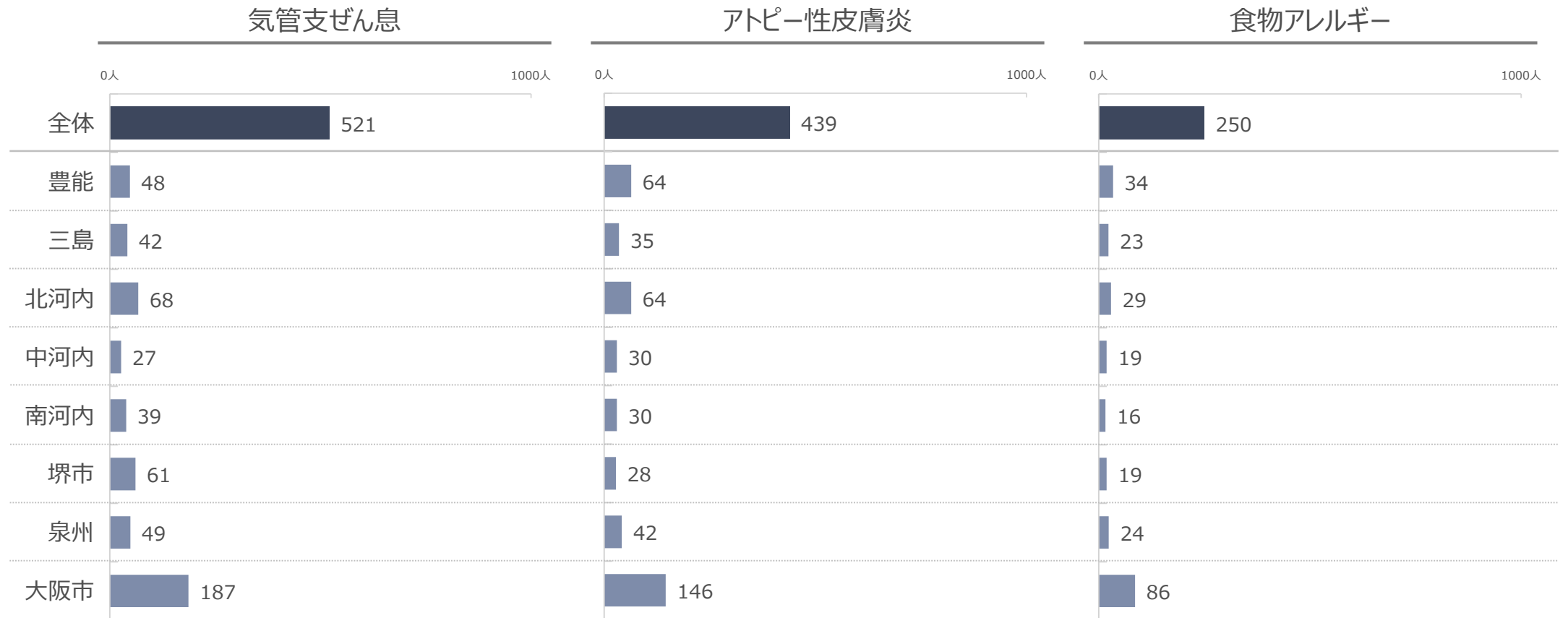


SC3-2. 受診されている医療機関がある市区町村を教えてください。(ひとつだけ)

Q3-2. お住まいの市区町村を教えてください。(ひとつだけ)

# 各アレルギー疾患の罹患患者数

✓ 調査対象1,000人のうち、気管支ぜん息の患者数は521人、アトピー性皮膚炎の患者数は439人、食物アレルギーの患者数は250人であった。



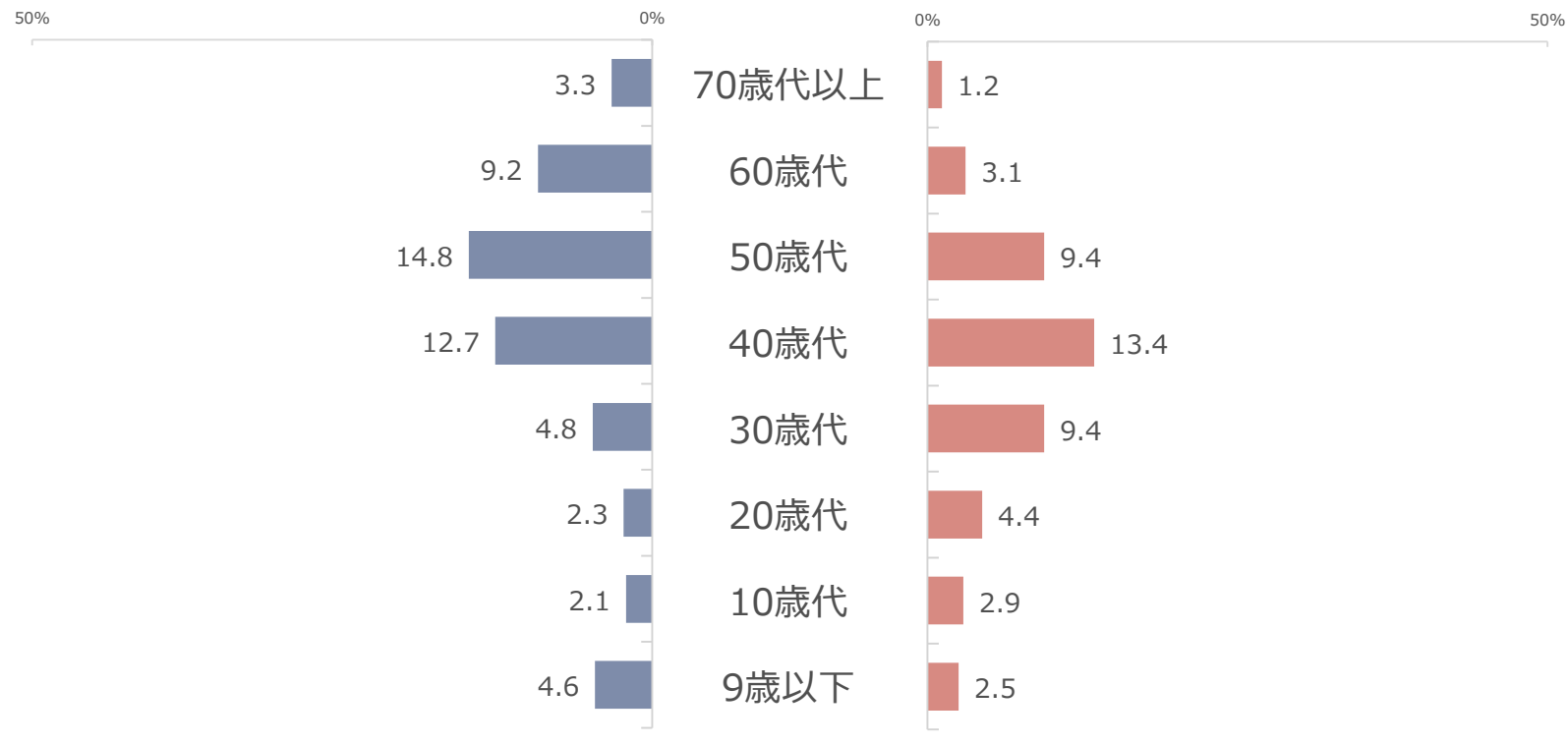
SC1. ご自身についてお聞きします。現在、医療機関で治療中のアレルギー疾患について教えてください。（複数回答可）  
 SC2. お子さんについてお聞きします。現在、医療機関で治療中のアレルギー疾患について教えてください。（複数回答可）

# 【気管支ぜん息】

## 性別年代ごとの患者内訳（人口ピラミッド）

✓ 気管支ぜん息患者のうち最も割合が高い性別・年代は、50代男性で14.8%。続いて、40代女性で13.4%、40代男性で12.7%であった。

気管支ぜん息をもつ患者全体を100とした場合の内訳（n=521）



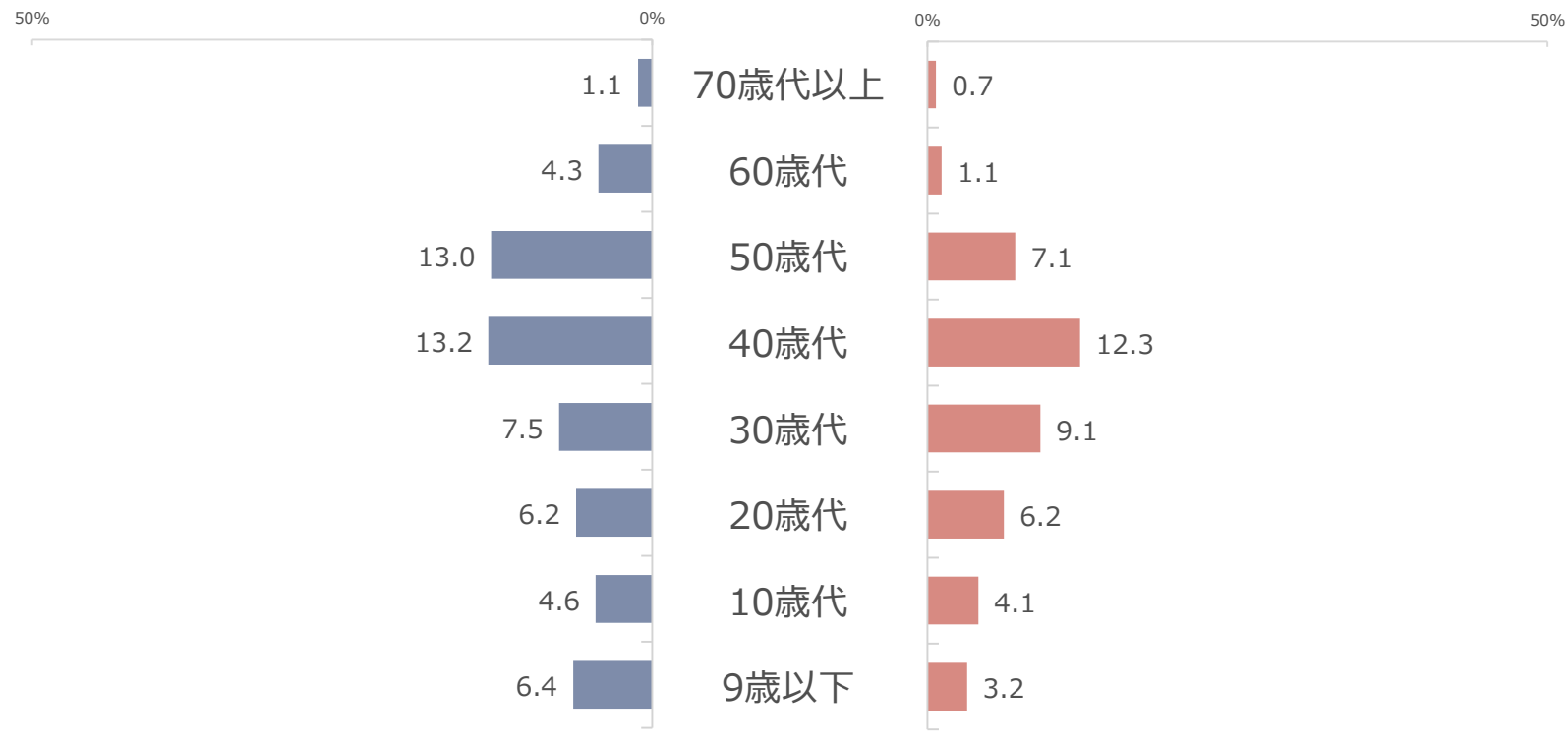
SC1. ご自身についてお聞きます。現在、医療機関で治療中のアレルギー疾患について教えてください。（複数回答可）  
 SC2. お子さんについてお聞きます。現在、医療機関で治療中のアレルギー疾患について教えてください。（複数回答可）  
 Q1. あなた（お子さん）の性別について教えてください。（ひとつだけ）  
 Q2. あなた（お子さん）の年齢を教えてください。



# 【アトピー性皮膚炎】 性別年代ごとの患者内訳（人口ピラミッド）

✓ アトピー性皮膚炎患者のうち最も割合が高い性別・年代は、40代男性で13.2%。続いて、50代男性で13.0%、40代女性で12.3%であった。

アトピー性皮膚炎をもつ患者全体を100とした場合の内訳（n=439）



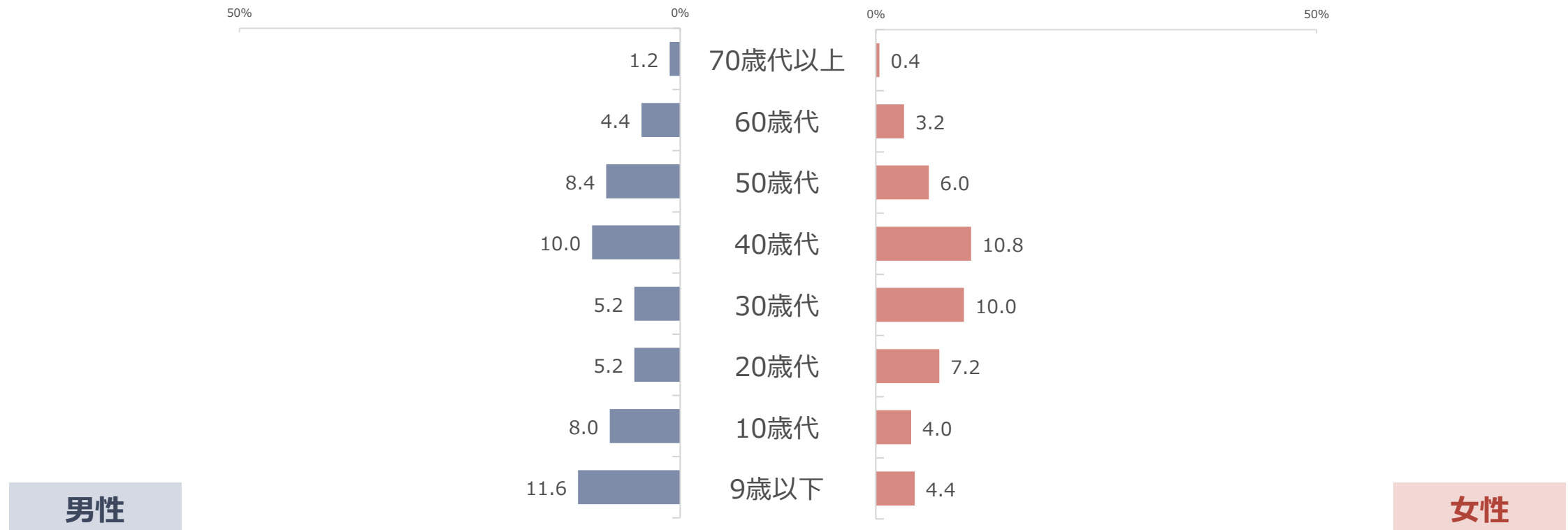
SC1. ご自身についてお聞きます。現在、医療機関で治療中のアレルギー疾患について教えてください。（複数回答可）  
 SC2. お子さんについてお聞きます。現在、医療機関で治療中のアレルギー疾患について教えてください。（複数回答可）  
 Q1. あなた（お子さん）の性別について教えてください。（ひとつだけ）  
 Q2. あなた（お子さん）の年齢を教えてください。

# 【食物アレルギー】

## 性別年代ごとの患者内訳（人口ピラミッド）

✓ 食物アレルギー患者のうち最も割合が高い性別・年代は、9歳以下の男性で11.6%。続いて、40代女性で10.8%、40代男性、30代女性で共に10.0%であった。

食物アレルギーをもつ患者全体を100とした場合の内訳（n=250）



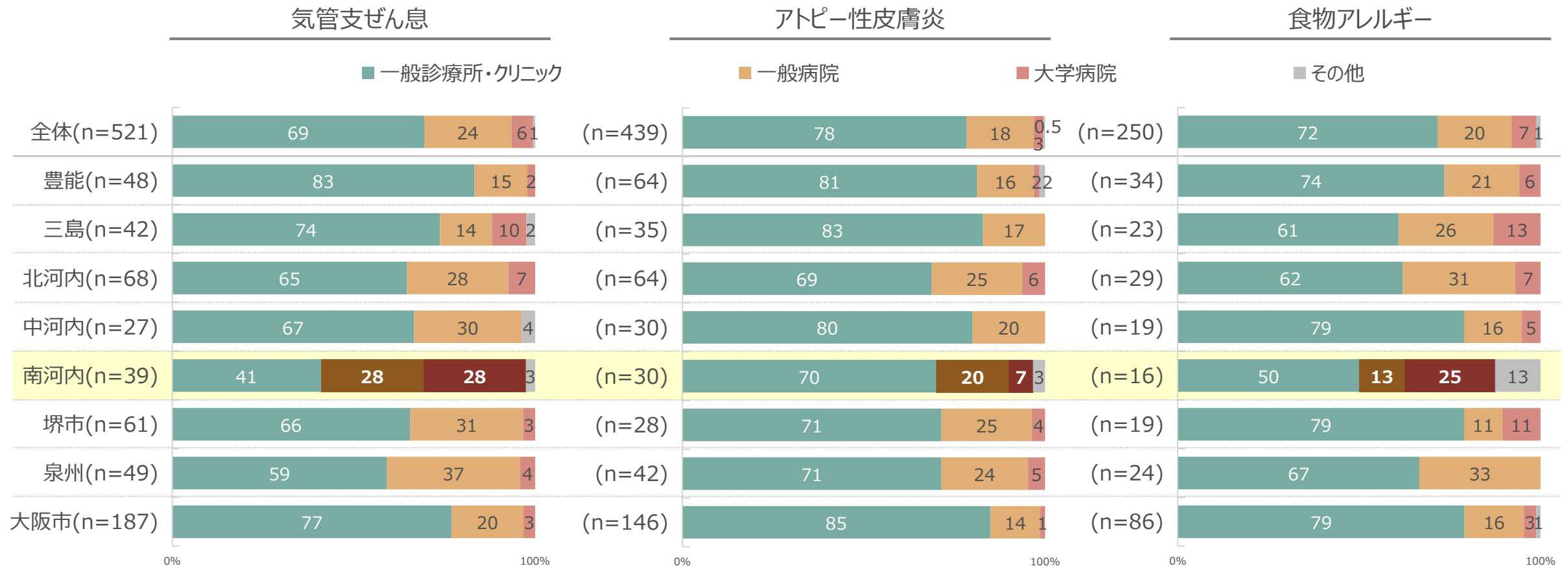
SC1. ご自身についてお聞きます。現在、医療機関で治療中のアレルギー疾患について教えてください。（複数回答可）  
 SC2. お子さんについてお聞きます。現在、医療機関で治療中のアレルギー疾患について教えてください。（複数回答可）  
 Q1. あなた（お子さん）の性別について教えてください。（ひとつだけ）  
 Q2. あなた（お子さん）の年齢を教えてください。

## II - ii b. 患者Summary

# Summary①

## 受診している医療機関の施設形態内訳

- いずれのアレルギー疾患についても、最も受診している患者割合が高い施設は一般診療所・クリニック。続いて一般病院であった。
- 食物アレルギーについては、他の疾患と比較して、大学病院にて受診している患者割合が高い傾向にあった。
- 南河内では、他の二次医療圏と比較して、大学病院にて受診している患者割合が高い傾向にあった。

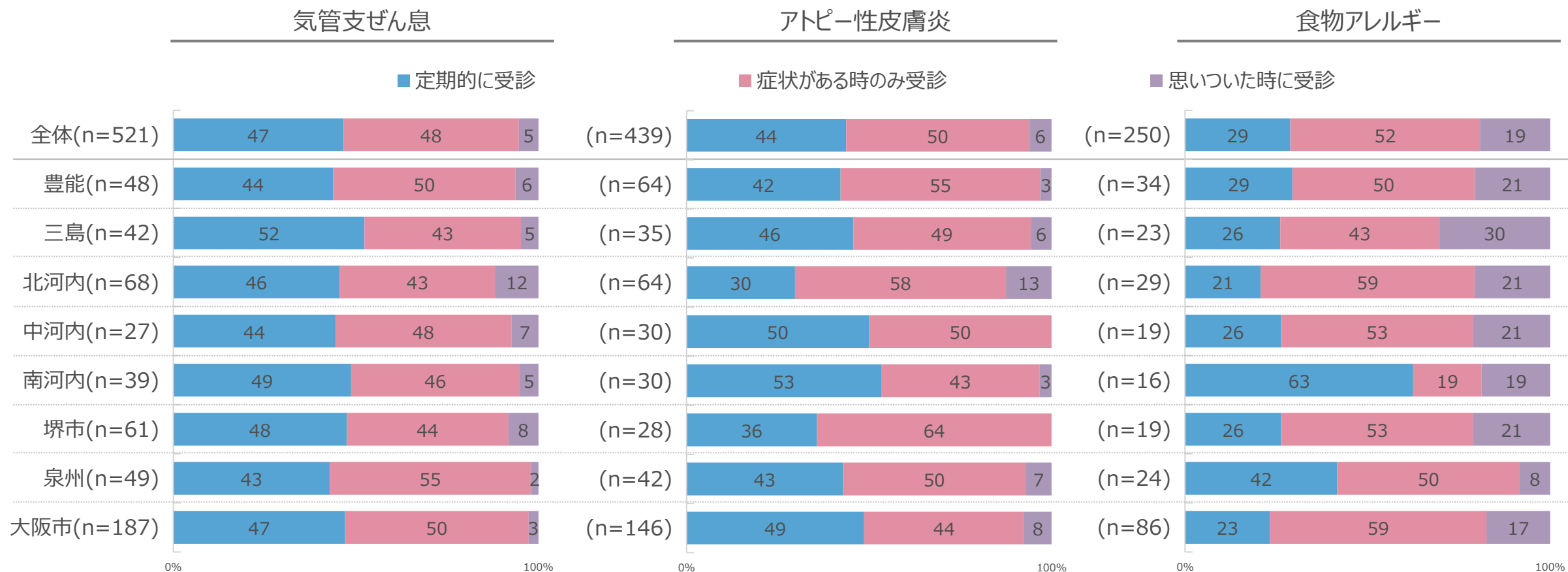


Q4. あなたが、現在受診している医療機関についてお答えください。(それぞれひとつだけ)  
 ※各アレルギー疾患に罹患している患者のみ

# Summary②

## 医療機関の受診頻度

- 医療機関の受診頻度について、いずれのアレルギー疾患でも、最も割合が高いのは「症状があるときのみ受診」であった。
- 食物アレルギーは、他の疾患と比較して、「定期的に受診」の割合が低い一方で、「思いついた時に受診」の割合が高かった。
- 南河内では、他の二次医療圏と比較して、食物アレルギーを「定期的に受診」する患者割合が高く、63%であった。



Q5. 医療機関の受診についてお答えください。(ひとつだけ)

Q8. 医療機関の受診についてお答えください。(ひとつだけ)

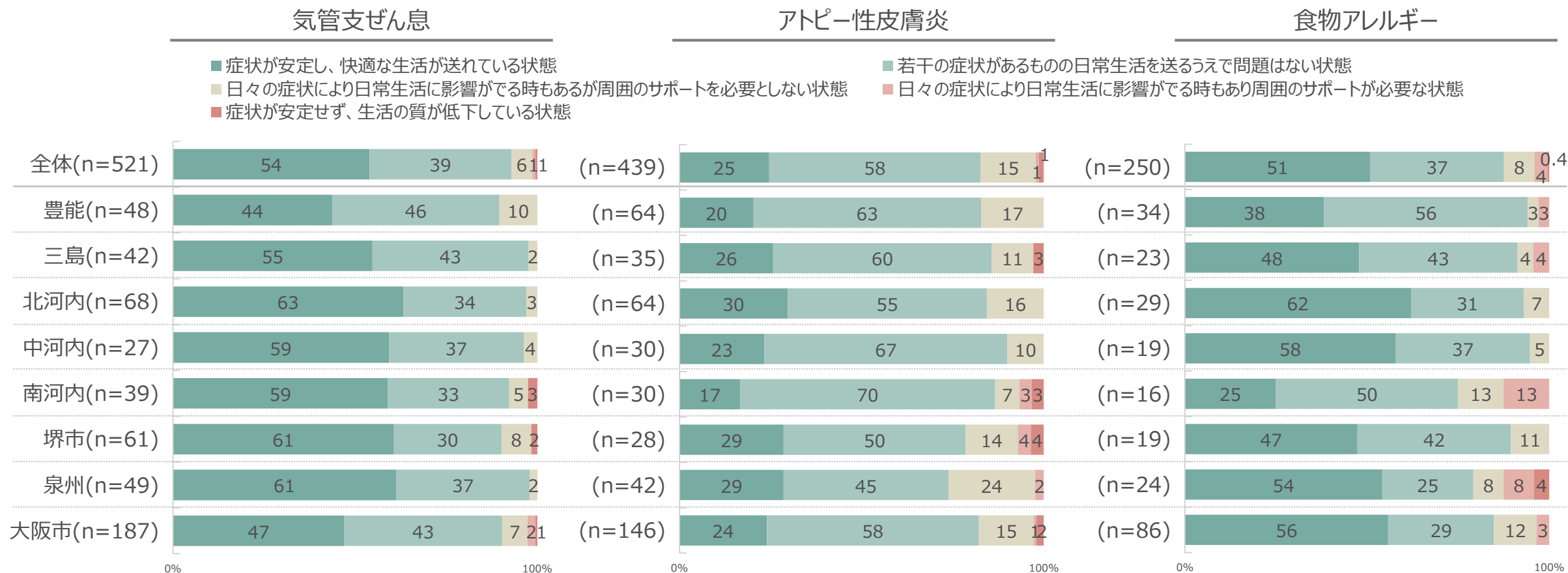
Q11. 医療機関の受診についてお答えください。(ひとつだけ)

※各アレルギー疾患に罹患している患者のみ

# Summary③

## アレルギー疾患の症状の度合い

▶ 気管支ぜん息、食物アレルギーについては「症状が安定し、快適な生活が送れている状態」の患者割合が最も高いのに対して、アトピー性皮膚炎については「若干の症状があるものの日常生活を送るうえで問題はない状態」の患者割合が最も高かった。

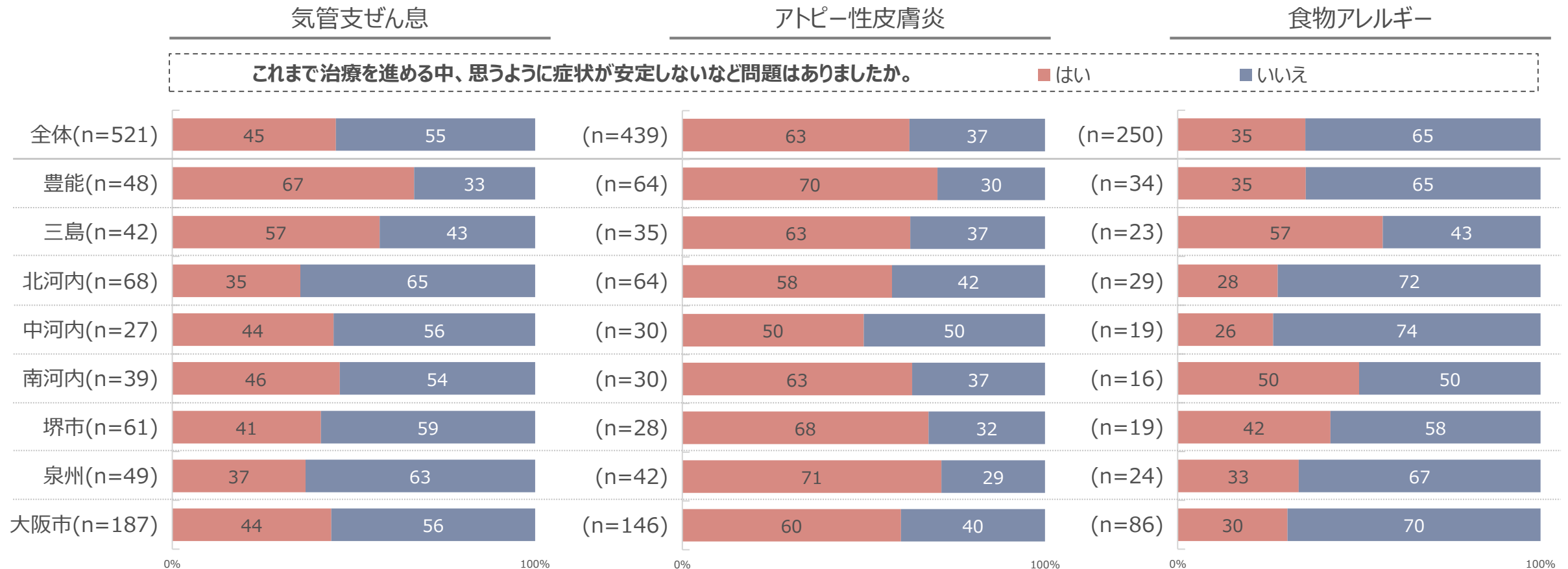


Q6. 現在の状態についてお答えください。(ひとつだけ)  
 Q9. 現在の状態についてお答えください。(ひとつだけ)  
 Q12. 現在の状態についてお答えください。(ひとつだけ)  
 ※各アレルギー疾患に罹患している患者のみ

## Summary④-1

## 治療を進める中で何かしらの問題が発生した患者割合

▶ 各アレルギー疾患患者のうち、治療を進める中で何かしらの問題が発生した割合は、気管支ぜん息患者で45%、アトピー性皮膚炎患者で63%、食物アレルギー患者で35%であった。



Q7-1. これまで治療を進める中、思うように症状が安定しないなど問題はありましたか。(ひとつだけ)

Q10-1. これまで治療を進める中、思うように症状が安定しないなど問題はありましたか。(ひとつだけ)

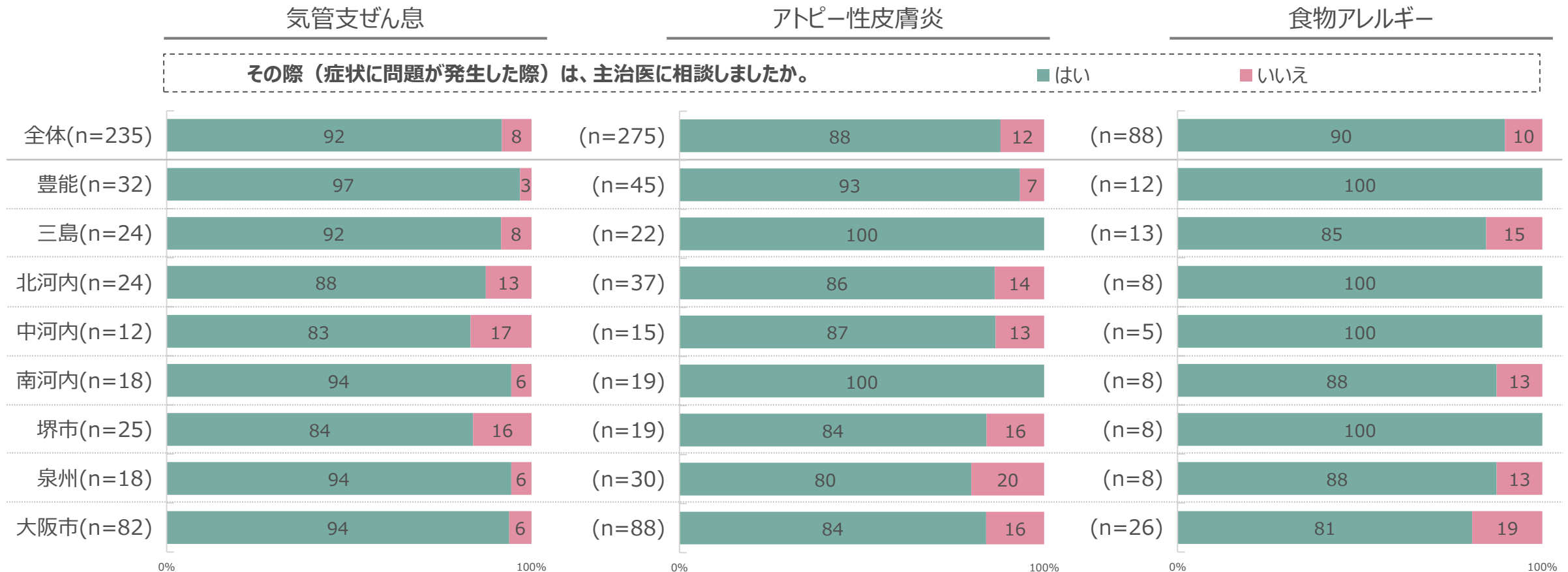
Q13-1. これまで治療を進める中、思うように症状が安定しないなど問題はありましたか。(ひとつだけ)

※各アレルギー疾患に罹患している患者のみ

## Summary④-2

## 症状に問題が発生した際の主治医への相談状況

▶ 各アレルギー疾患について、症状に問題が発生した際に主治医に相談した患者割合は、気管支ぜん息で92%、アトピー性皮膚炎で88%、食物アレルギーで90%。



Q7-2. その際は、主治医に相談しましたか。（ひとつだけ）

Q10-2. その際は、主治医に相談しましたか。（ひとつだけ）

Q13-2. その際は、主治医に相談しましたか。（ひとつだけ）

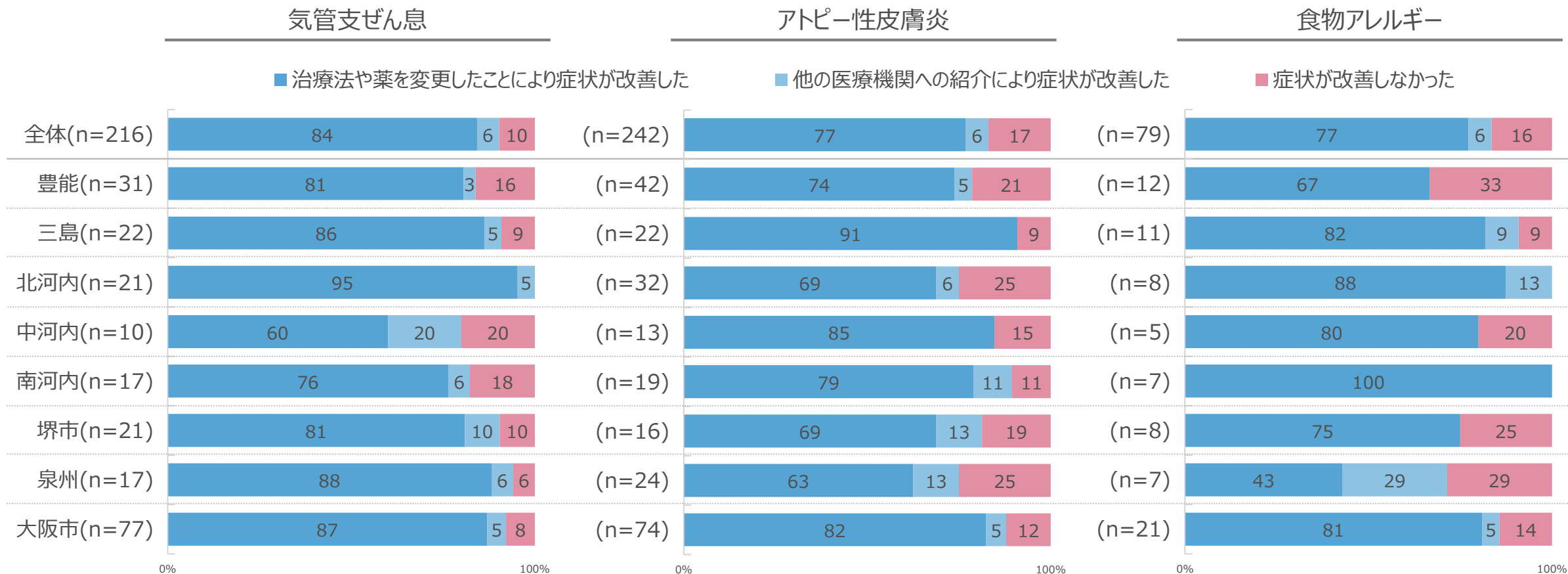
※各アレルギー疾患にて症状が安定しないなどの問題があった患者のみ



## Summary④-3

## 主治医に相談した場合の症状改善状況

▶ 各アレルギー疾患にて症状に問題が発生した際に主治医に相談した患者について、いずれのアレルギー疾患についても「治療法や薬を変更したことにより症状が改善した」患者割合が最も高かった。



Q7-3. 「主治医に相談した」と回答した方にお聞きします。相談した結果、症状は改善しましたか。(ひとつだけ)  
 Q10-3. 「主治医に相談した」と回答した方にお聞きします。相談した結果、症状は改善しましたか。(ひとつだけ)  
 Q13-3. 「主治医に相談した」と回答した方にお聞きします。相談した結果、症状は改善しましたか。(ひとつだけ)

※各アレルギー疾患にて症状が安定しないなど問題が発生した場合に、主治医に相談した患者のみ

# Summary⑤-1

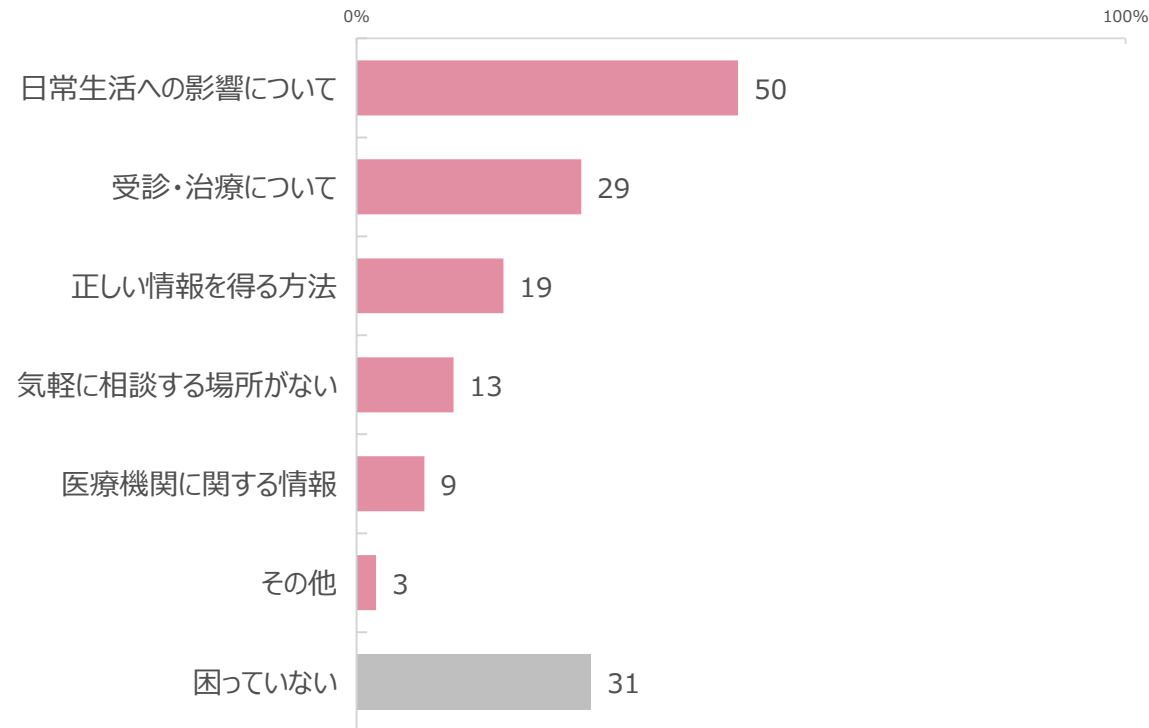
## アレルギー疾患に対する考え方

- アレルギー疾患で困っていることとして最も割合が高かったのは「日常生活への影響について」50%。続いて、「受診・治療について」29%、「正しい情報を得る方法」19%。
- アレルギー疾患とつきあっていくうえで必要だと思う情報として最も割合が高いのは「治療方法に関する情報」69%。続いて、「医療機関に関する情報」59%、「薬品に関する情報」58%、「専門医などの情報」53%であった。

全体  
(n=1000)

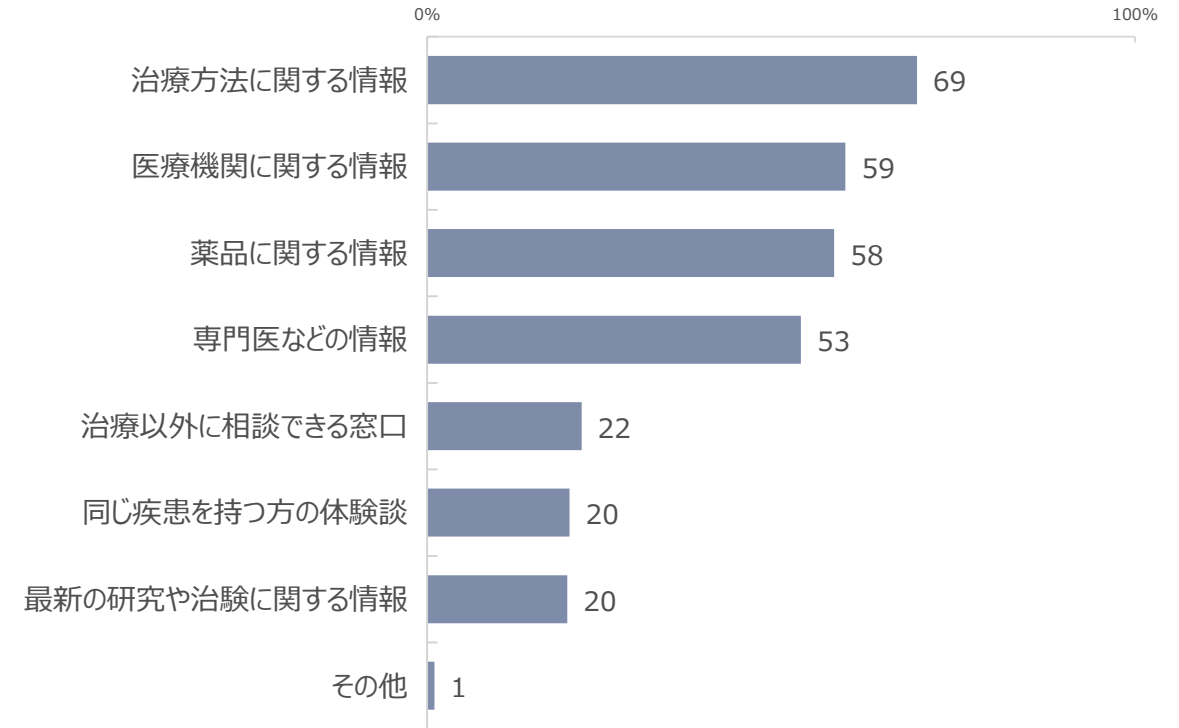
※降順

アレルギー疾患で困っていること



※降順

アレルギー疾患につきあっていくうえで必要だと思う情報



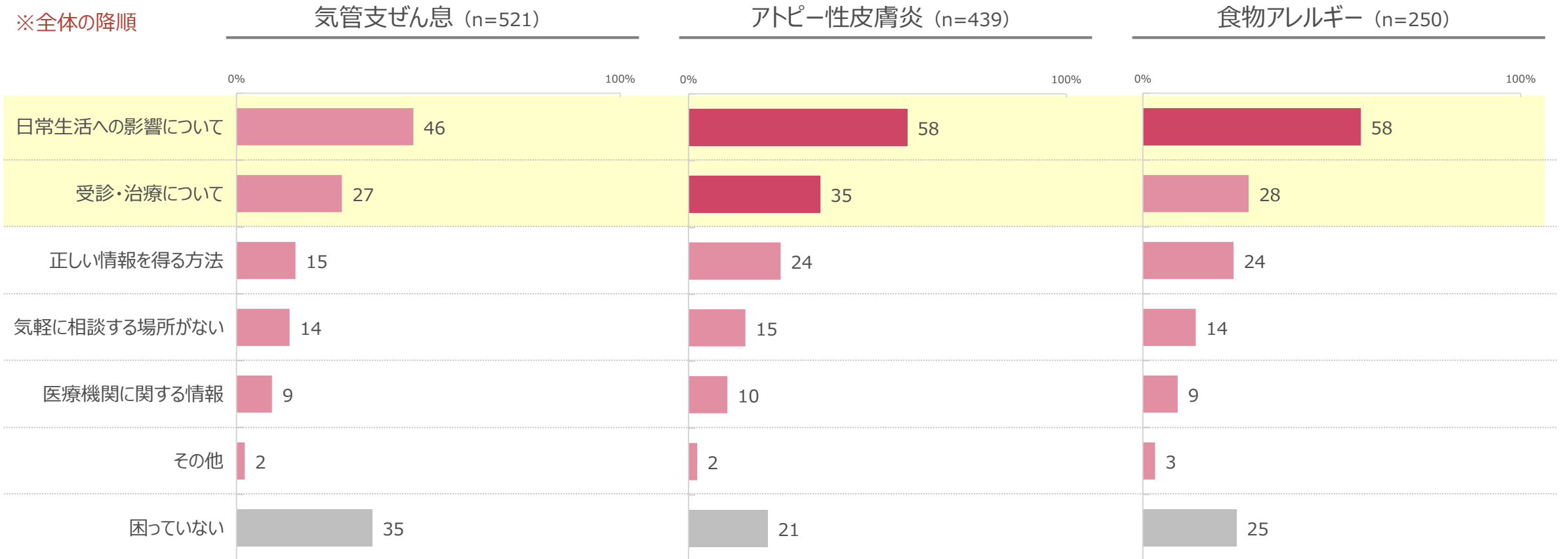
Q14. アレルギー疾患で困っていることは何ですか。(複数回答可)

Q16. アレルギー疾患と付きあっていくうえでどのような情報が必要だと思いますか。(複数回答可)

# Summary⑤-2

## アレルギー疾患で困っていること

- アレルギー疾患別にみると、アレルギー疾患で困っていることとして最も割合が高かったのは、いずれの疾患でも「日常生活への影響について」であった。
- アトピー性皮膚炎患者、食物アレルギー患者は、気管支ぜん息患者と比較して「日常生活への影響について」特に困っている割合が高かった。加えて、アトピー性皮膚炎患者は、他の疾患と比較して、「受診・治療について」困っている割合が高かった。



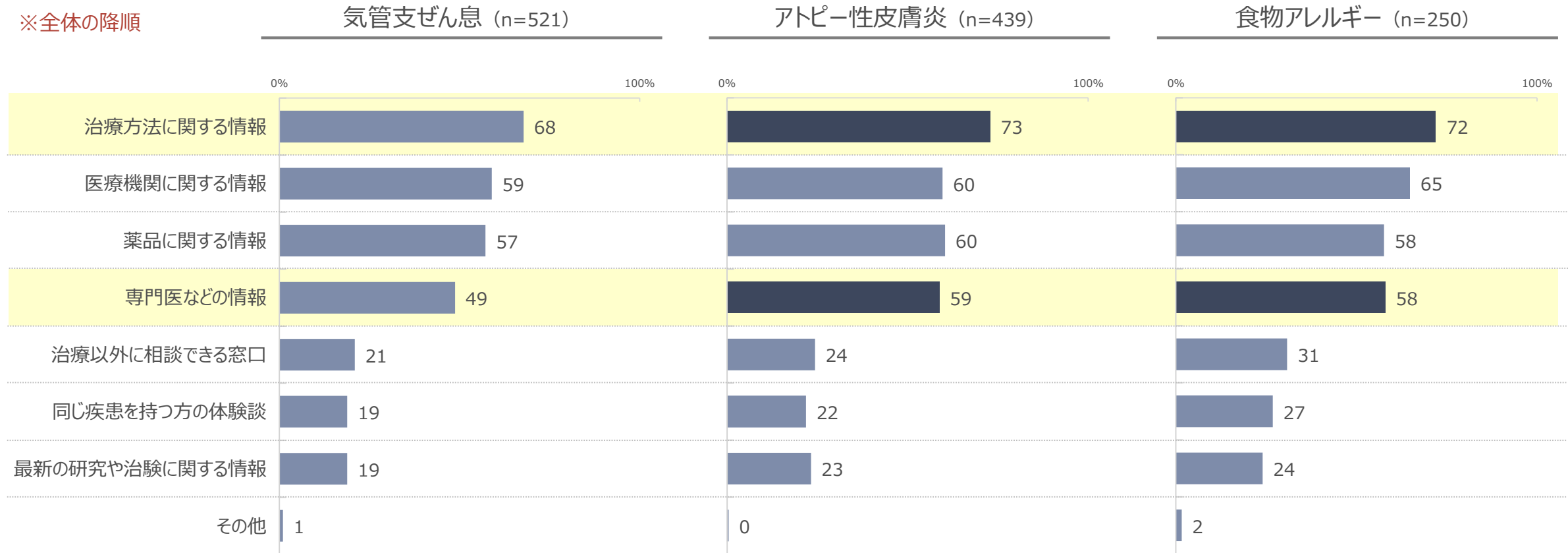
Q14. アレルギー疾患で困っていることは何ですか。(複数回答可)

## Summary⑤-3

## アレルギー疾患につきあっていくうえで必要だと思う情報

- アレルギー疾患別にみると、アレルギー疾患につきあっていくうえで必要だと思う情報として最も割合が高かったのは、いずれの疾患でも「治療方法に関する情報」であった。
- アトピー性皮膚炎患者、食物アレルギー患者は、気管支ぜん息患者と比較して「治療方法に関する情報」、「専門医などの情報」を特に必要としている割合が高かった。

※全体の降順



Q16. アレルギー疾患と付き合っていくうえでどのような情報が必要だと思いますか。(複数回答可)

## Summary⑥

## 大阪府の各種取り組みに対する認知率

▶ 大阪府の各種取り組みに対する認知率は、「アレルギー疾患講演会」16%、「アレルギーポータルサイト」11%と、いずれも低かった。

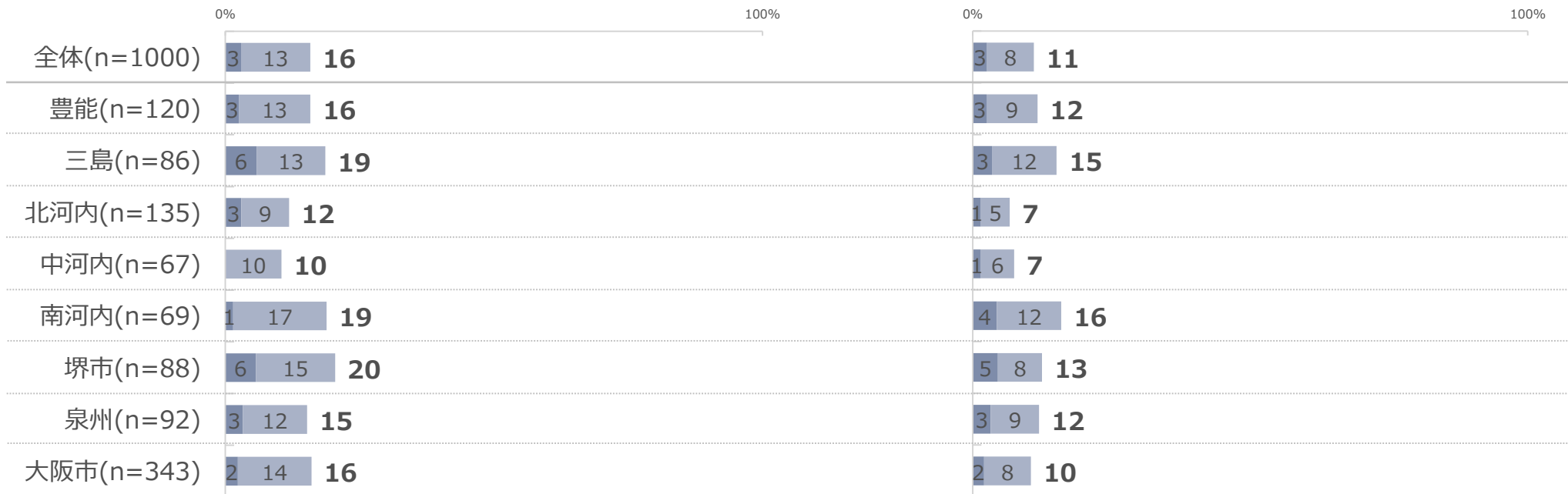
太字：認知率

## アレルギー疾患講演会

## アレルギーポータルサイト

- 知っており、参加したことがある
- 知っているが、参加したことがない

- 知っており、利用したことがある
- 知っているが、利用したことがない



Q17. 大阪府が府民への啓発活動としてアレルギー疾患講演会を行っていることはご存じでしたか。(ひとつだけ)

Q18. 大阪府が「大阪府アレルギーポータルサイト」により情報発信していることをご存じですか。(ひとつだけ)

Q19. 大阪府が拠点病院を指定するなど医療提供体制整備を進めていることを知っていましたか。(ひとつだけ)

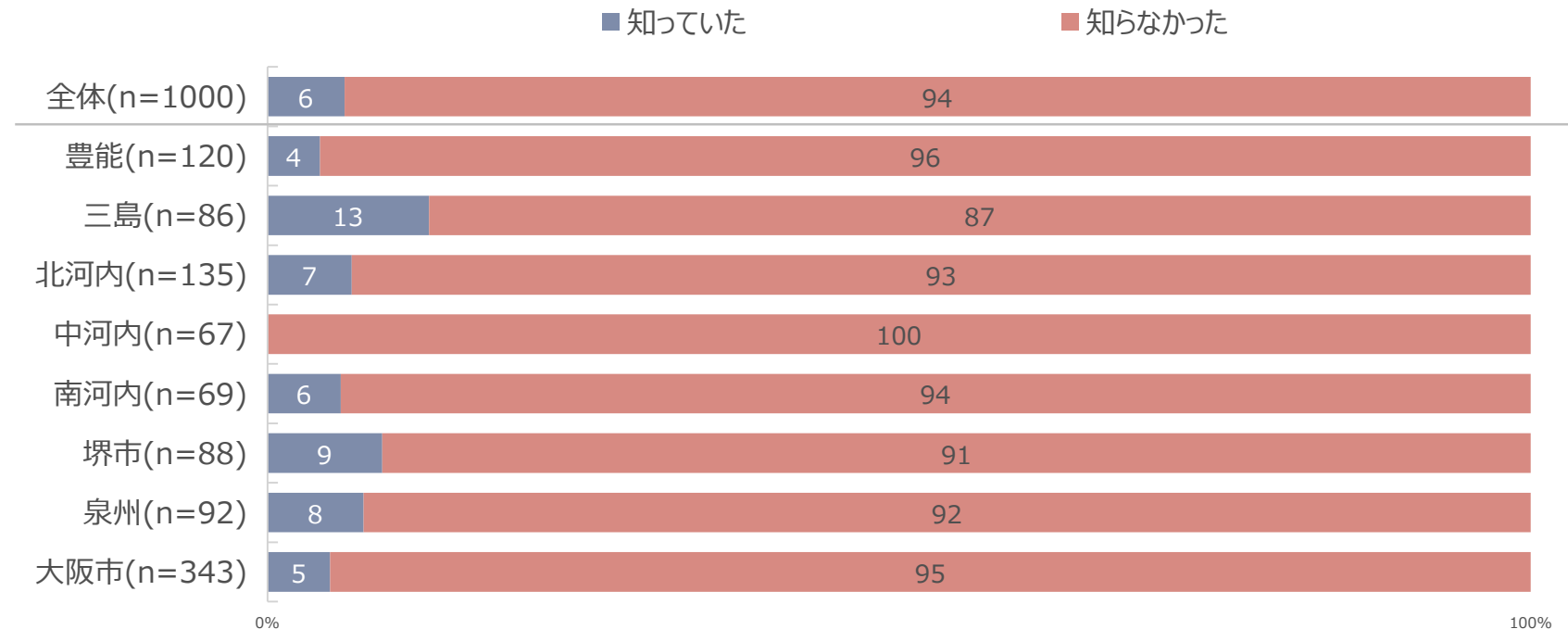
## Summary⑦

## 大阪府が医療提供体制整備を進めていることに対する認知度

▶ 大阪府が医療提供体制整備を進めていることを認知している患者割合は6%であった。

### ＜アレルギー疾患医療拠点病院＞

「アレルギー疾患医療拠点病院」とは、「アレルギー疾患対策基本法」や同指針において掲げられている「アレルギー疾患を有する者が、その居住する地域にかかわらず等しく科学的知見に基づく適切なアレルギー疾患に係る医療を受けることができるようにすること」を目指して、国が各都道府県に指定するよう求めているものです。大阪府では、平成30年6月に4病院が指定されています。



Q19. 大阪府が拠点病院を指定するなど医療提供体制整備を進めていることを知っていましたか。(ひとつだけ)

## Summary⑧

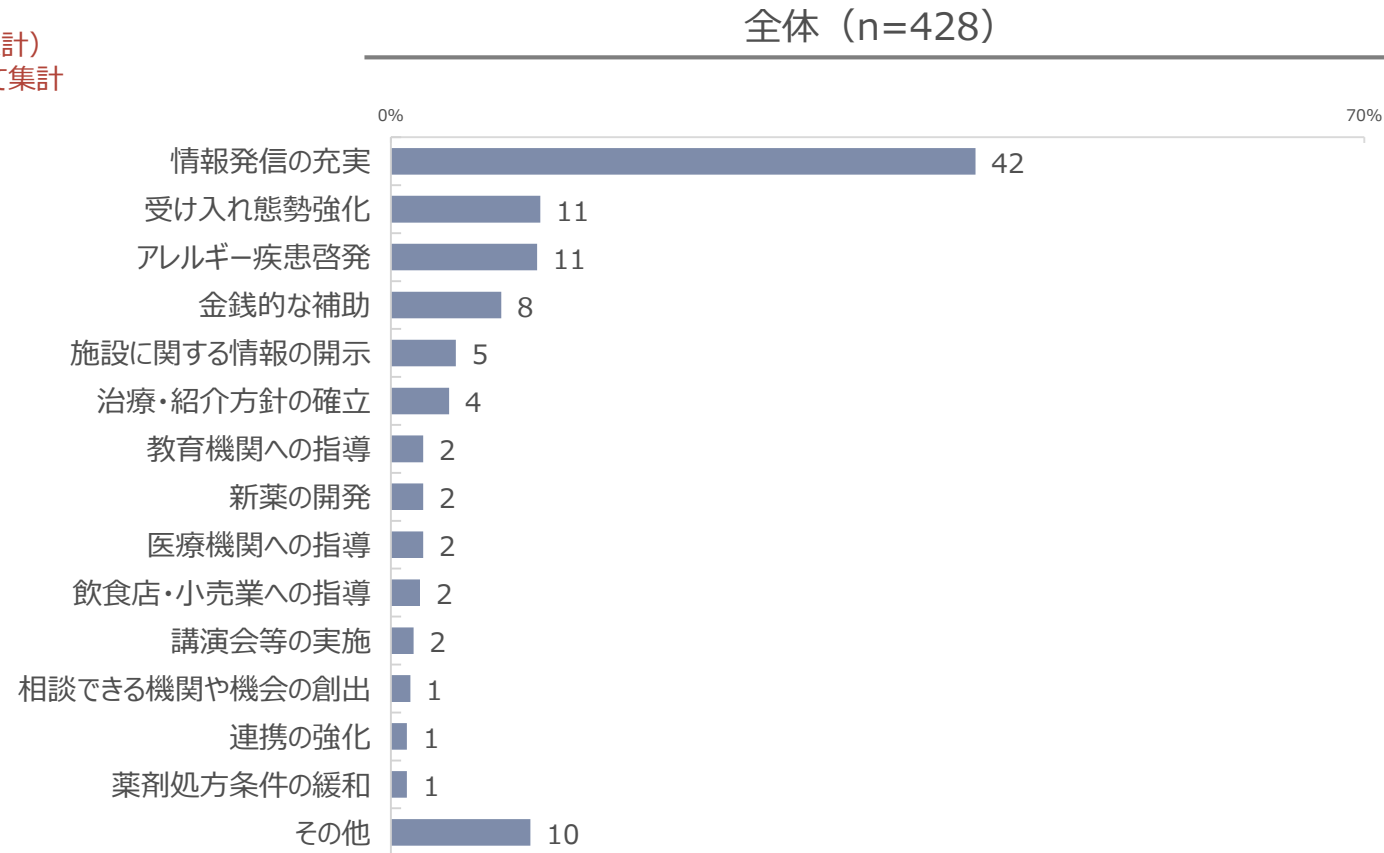
## 大阪府のアレルギー疾患対策に関する要望

- ▶ 大阪府のアレルギー疾患対策に関する要望として最も挙げたのは「情報発信の充実」。続いて、「受け入れ態勢強化」、「アレルギー疾患啓発」、「金銭的な補助」、「施設に関する情報の開示」、「治療・紹介方針の確立」であった。

## ※アフターコーディング

(自由回答を同じ内容ごとに分類して集計)

※「特になし」旨を回答した572sを除いて集計



Q21. 大阪府のアレルギー疾患対策について、ご要望がありましたらお聞かせください。

## II-iii. 調査結果からの考察

(注意) 考察については本調査の結果を踏まえて作成されたものであり、大阪府による考察として正式に定めたものではありません。



## 考察① 大阪府のアレルギー疾患の診療実態について

大阪府のアレルギー疾患の診療実態について、主なポイントは下記の2つである。

- **アレルギー疾患患者の治療において約半数の患者が十分にコントロールされた状態で治療ができています。**  
**問題が起こった場合も多く、多くの患者が医師に相談し解決できているが、一部相談しても解決できていないケースが残っている。**  
いずれのアレルギー疾患についても問題を感じていない患者割合が4～6割存在した。問題を感じている場合でも、9割程度の患者が主治医に相談ができおり、そのうちの8割程度が「治療法や薬を変更したことにより症状が改善した」と回答している。但し、医師に相談をしたとしても、1～2割程度の患者については「症状が改善しなかった」と回答していた。
- **大阪府において患者紹介のフローは確立されているが、積極的に紹介する医師は少ない。**  
**積極的に紹介しない医師は、患者を紹介する際に患者の希望や利便性をより意識していることから、連携先の少なさや情報不足が紹介しない一因になっている可能性が考えられる。**  
各アレルギー疾患患者を診療する医師のうち8割程度が患者を紹介しており、患者を紹介しない医師についてもその理由のほとんどが「紹介を要する患者がない」であったことから、大阪府のアレルギー疾患を診療しているクリニックにおいては、必要に応じて患者を他施設に紹介できるフローは確立されていると考えられる。但し、患者を紹介する医師の中でも、患者を「よく紹介する」割合は1割程度で、多くの医師は「時々、紹介する」と回答している。患者を「時々、紹介する」医師は、「よく紹介する」医師と比較して、患者の希望や利便性をより重視していた。患者調査の結果からも紹介を必要としているケースは多くないとは考えられるが、紹介が必要な際に、積極的に患者を紹介しない医師は、患者の希望や利便性がネックとなって紹介できていない可能性が考えられる。

## 考察② 大阪府の今後の取り組みに関する検討点について

### ➤ 情報発信の増加

#### <患者向け>

アレルギー疾患患者の8割以上が日常生活を問題なく送ることができるくらいに症状を安定化させることができているが、それでもなお、アレルギー疾患とつきあっていくうえで治療方法、医療機関、薬品に関する情報など、幅広い情報を必要と考えている患者が多い。加えて、1～2割程度は主治医に相談したにも関わらず症状が改善していない患者が存在することを踏まえると、これらの情報提供を患者向けに対して積極的に実施し、認知してもらうことは有用であると考えられる。大阪府の医療提供体制整備に対する認知や講演会、ポータルサイトの認知率には向上の余地がみられるため、それらを活用しながら情報提供の周知を図っていくことが、周知の方法の1つとして考えられる。

#### <医師向け>

大阪府のアレルギー疾患対策に関しては「情報提供の充実」、地域における医療提供体制整備に関しては、「拠点病院による情報発信」、「行政による情報発信」を望む意見が多かったことから、医師向けの情報提供をより充実させることが必要であると考えられる。特に、拠点病院がある二次医療圏に勤務する医師では、大阪府の医療提供体制整備について認知している医師は、認知していない医師に比べ、アレルギー疾患患者の紹介率が高いことから、医療提供体制整備の進捗状況や今後の予定など、体制整備に関して行っていることを発信し、医師側への認知度を上げていく必要があると考えられる。

### ➤ 拠点となりうる病院の更なる整備

拠点病院が医療圏に2つ存在する南河内医療圏では、他と比較して一般病院や大学病院に受診している患者割合が高い傾向にあった。アレルギー疾患を紹介する際に、医師は患者の希望や利便性を重視しており、特に、患者を「時々、紹介する」医師にはその傾向が強くみられることから、現状拠点となりうる病院がない二次医療圏に、拠点病院をつくることで、医師がより患者を紹介しやすい体制を作ることができると考えられる。

### ➤ その他の取り組みに対する提言

上記2つの取り組みを中心に、それ以外にも、大阪府に求めることとして、医師、患者共に回答していた「教育機関への指導」、「施設に関する情報の開示」、「治療・紹介方針の確立」、「飲食店・小売店への指導」などを併せて実施することで、アレルギー疾患に関わる医師、患者の満足度向上につながると考えられる。

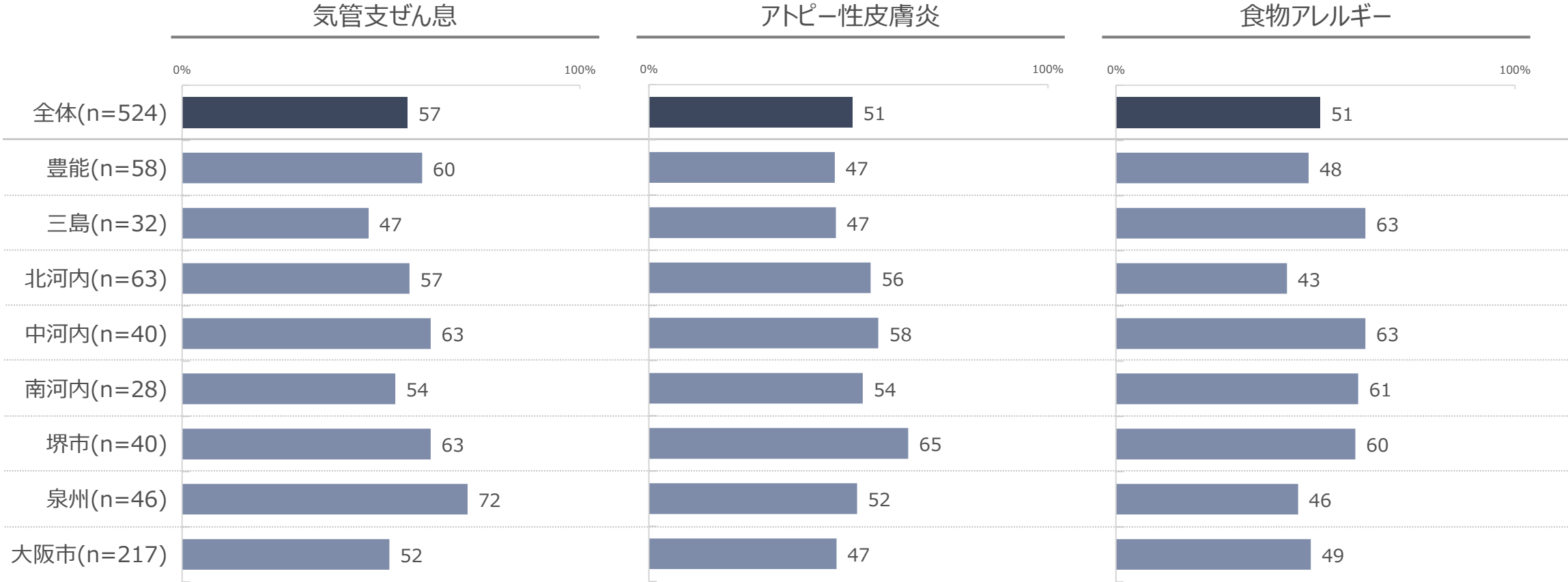
### **Ⅲ. その他の調査結果**

## Ⅲ- i . 医師調査

### Ⅲ- i a. アレルギー疾患診療状況

# アレルギー疾患の検査を実施している施設の割合

✓ 大阪府でアレルギー疾患をもつ患者さんを診療している施設における、各アレルギー疾患の検査実施率は、気管支ぜん息で57%、アトピー性皮膚炎で51%、食物アレルギーで51%であった。



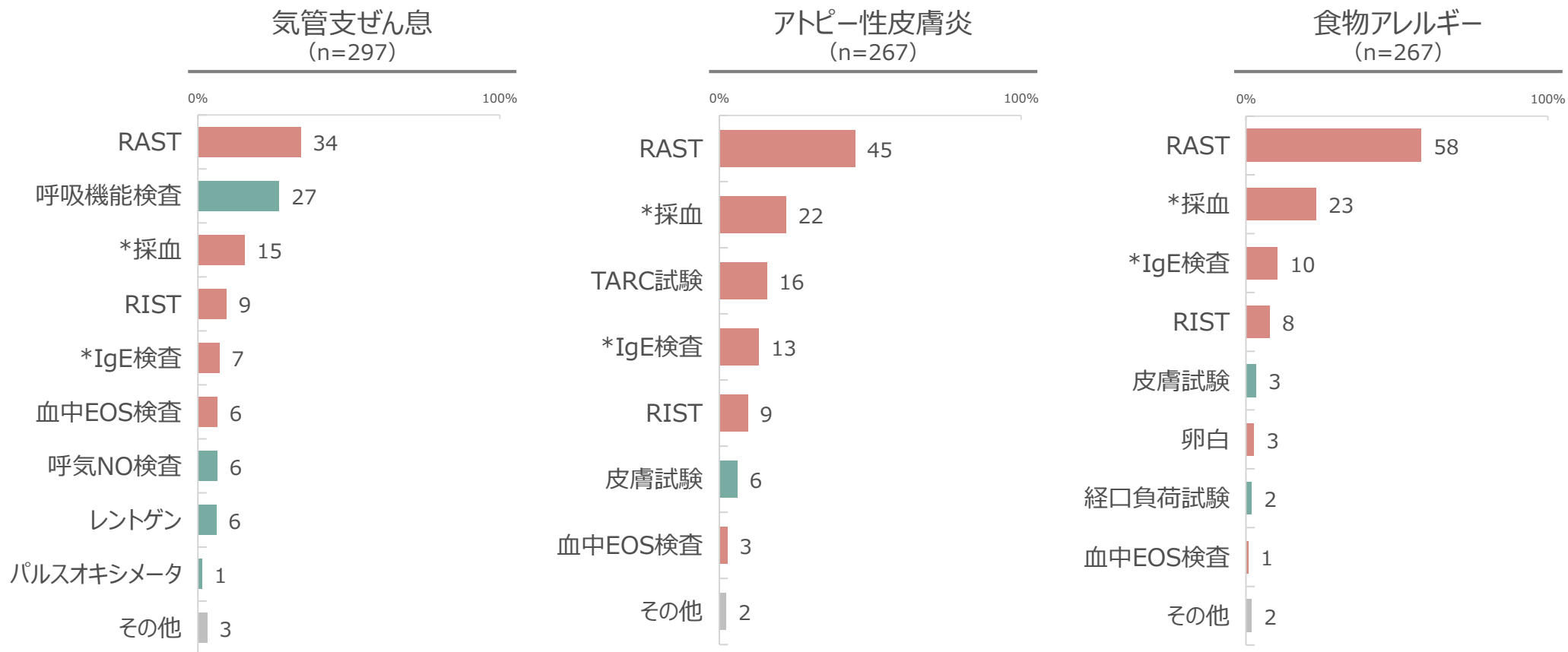
Q3. 次のアレルギー疾患のうち検査を行っている項目をすべてお選びください。(複数回答可)

# 【全体】 各アレルギー疾患で最も実施回数が多い検査

✓ いずれのアレルギー疾患でも、最も実施回数が多い検査として挙げられている割合が最も高いのは「RAST」であった。

※アフターコーディング  
(自由回答を同じ内容  
ごとに分類して集計)

- 採血関連
- 採血以外
- その他



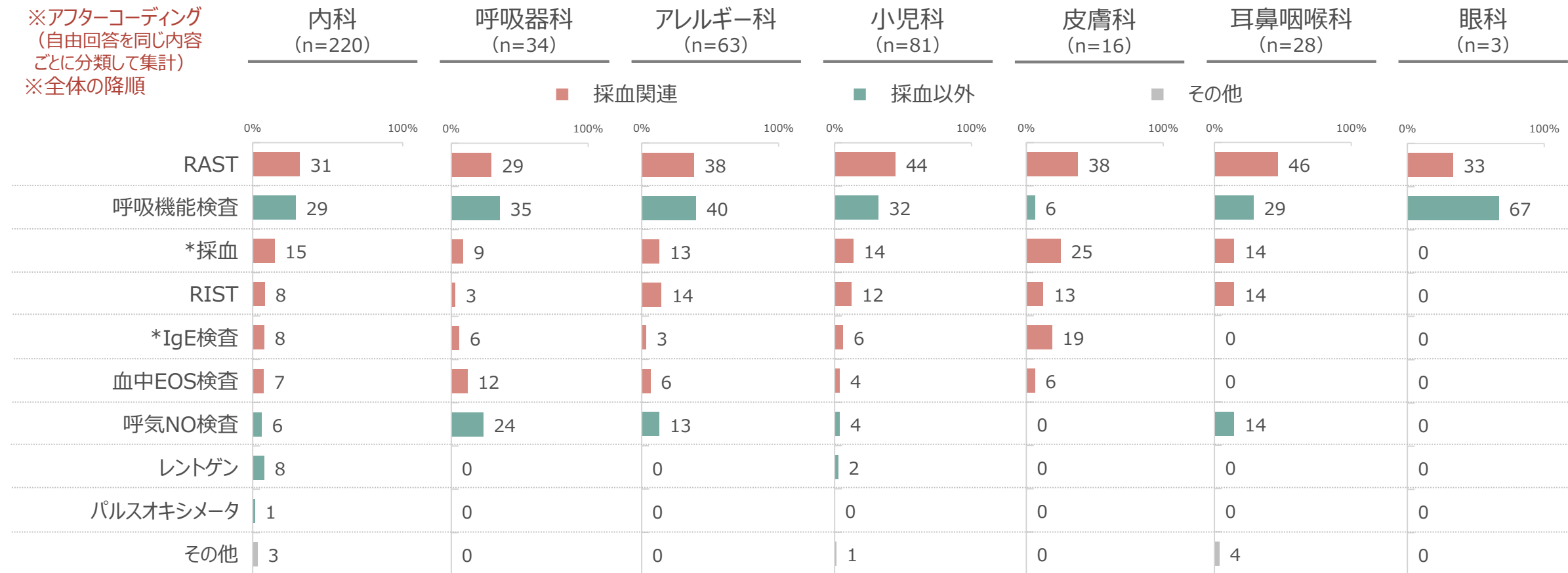
Q3. 次のアレルギー疾患のうち検査を行っている項目をすべてお選びください。(複数回答可)  
\*「採血」、「IgE検査」は、具体的な内容 (RAST、RIST等) 判別できなかったものを分類して集計  
※各アレルギー疾患の検査を実施する医師のみ

# 【標榜診療科別】

## 気管支ぜん息で最も実施回数が多い検査

※アフターコーディング  
(自由回答を同じ内容  
ごとに分類して集計)

※全体の降順



Q3. 次のアレルギー疾患のうち検査を行っている項目をすべてお選びください。(複数回答可)

\*「採血」、「IgE検査」は、具体的な内容 (RAST、RIST等) 判別できなかったものを分類して集計

※気管支ぜん息の検査を実施する医師のみ

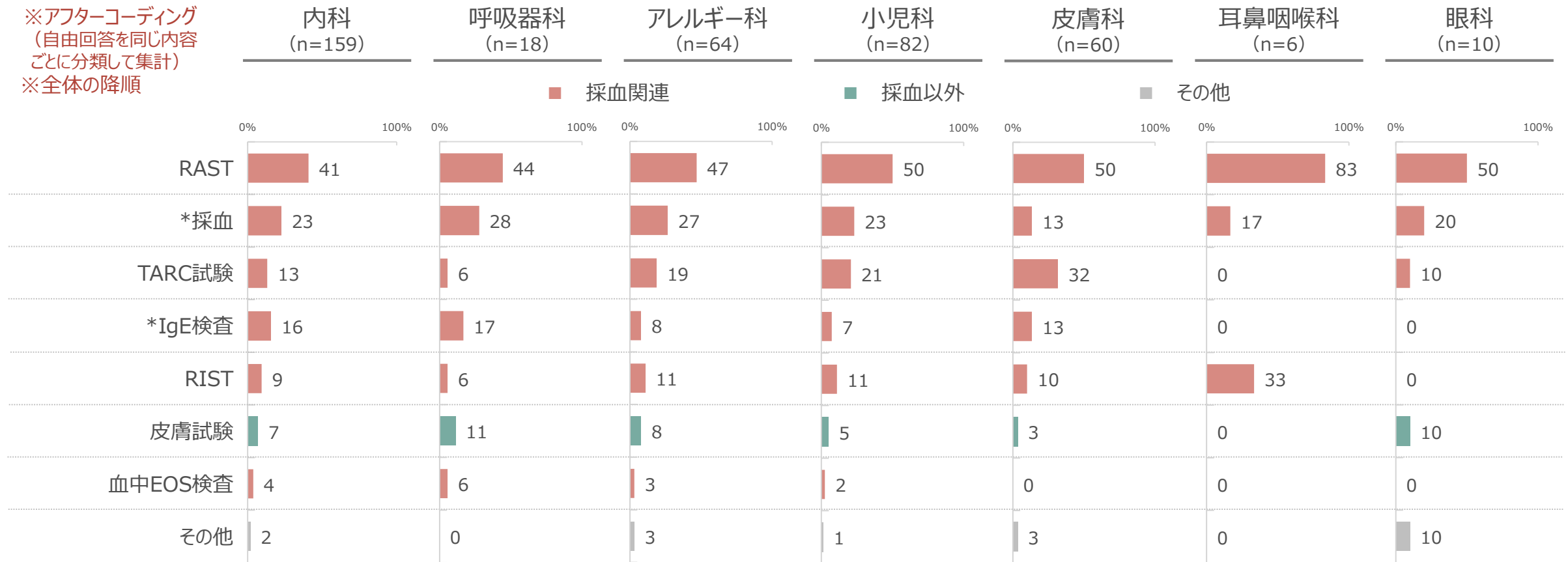
※複数標榜の為重複あり



# 【標榜診療科別】

## アトピー性皮膚炎で最も実施回数が多い検査

※アフターコーディング  
 (自由回答を同じ内容  
 ごとに分類して集計)  
 ※全体の降順



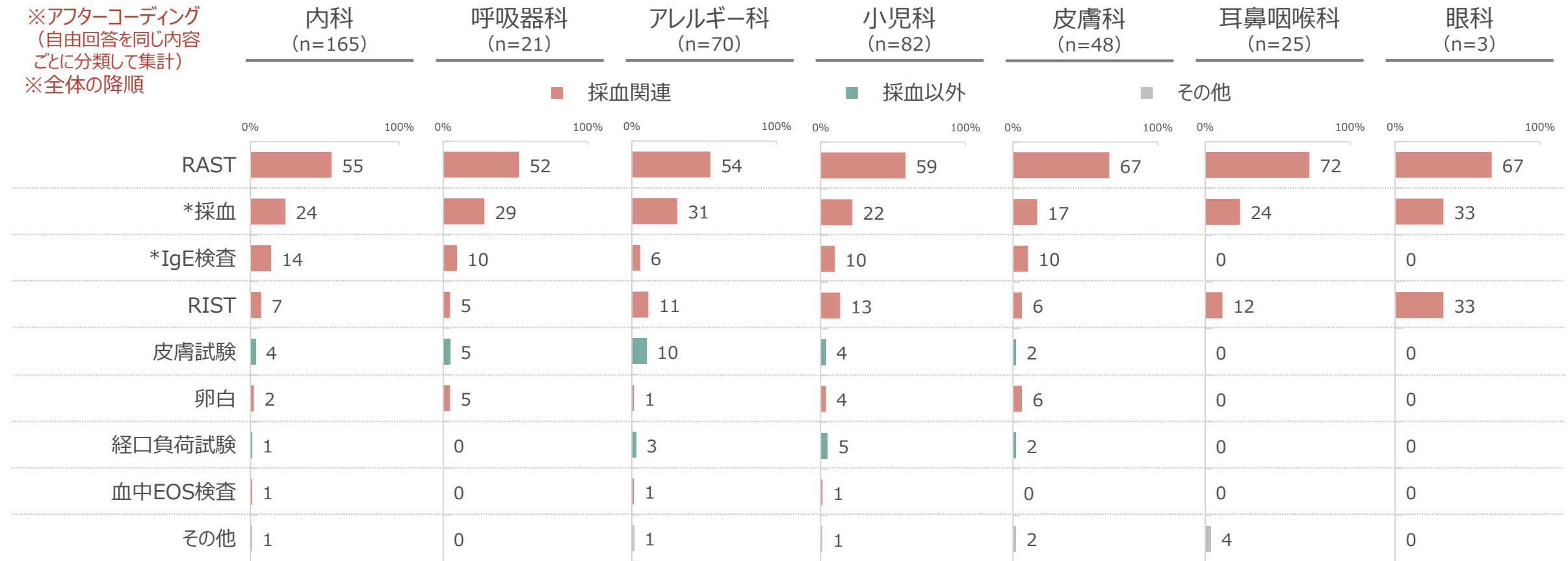
Q3. 次のアレルギー疾患のうち検査を行っている項目をすべてお選びください。(複数回答可)  
 \*「採血」、「IgE検査」は、具体的な内容 (RAST、RIST等) 判別できなかったものを分類して集計  
 ※アトピー性皮膚炎の検査を実施する医師のみ  
 ※複数標榜の為重複あり

# 【標榜診療科別】

## 食物アレルギーで最も実施回数が多い検査

※アフターコーディング  
(自由回答を同じ内容  
ごとに分類して集計)

※全体の降順



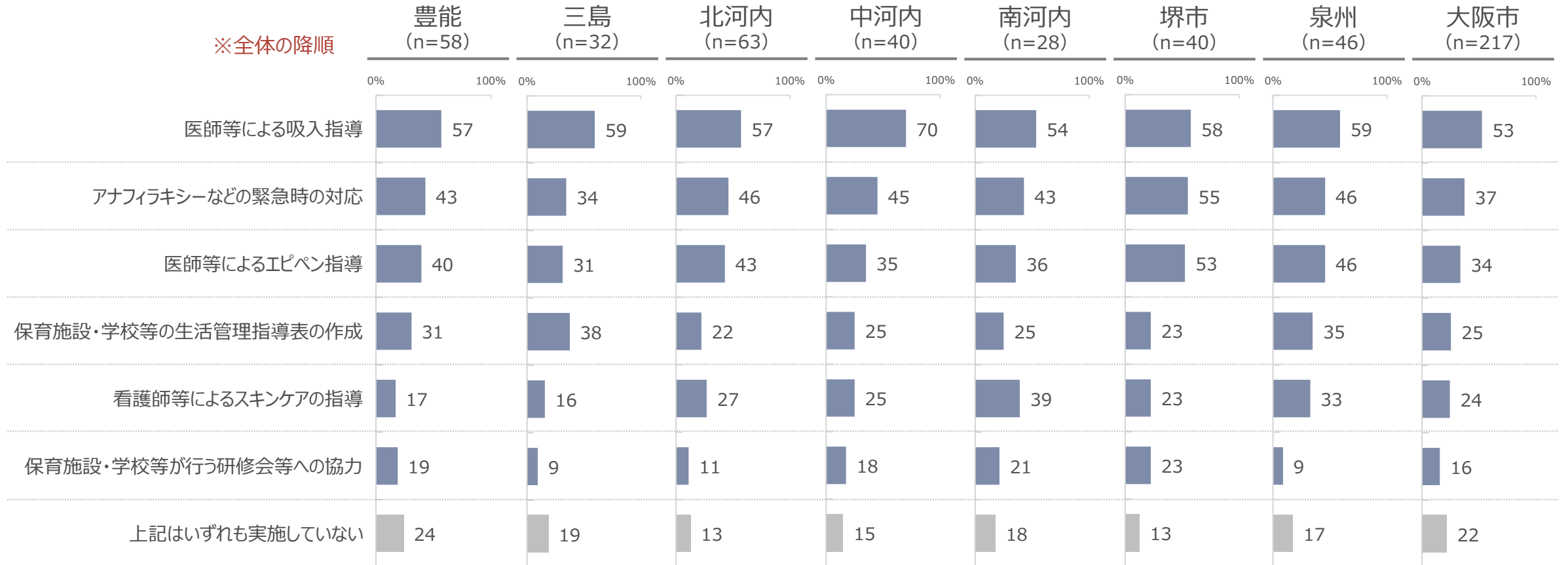
Q3. 次のアレルギー疾患のうち検査を行っている項目をすべてお選びください。(複数回答可)

\*「採血」、「IgE検査」は、具体的な内容 (RAST、RIST等) 判別できなかったものを分類して集計

※食物アレルギーの検査を実施する医師のみ

※複数標榜の為重複あり

# 【二次医療圏別】 アレルギー疾患関連の指導や協力の実施状況

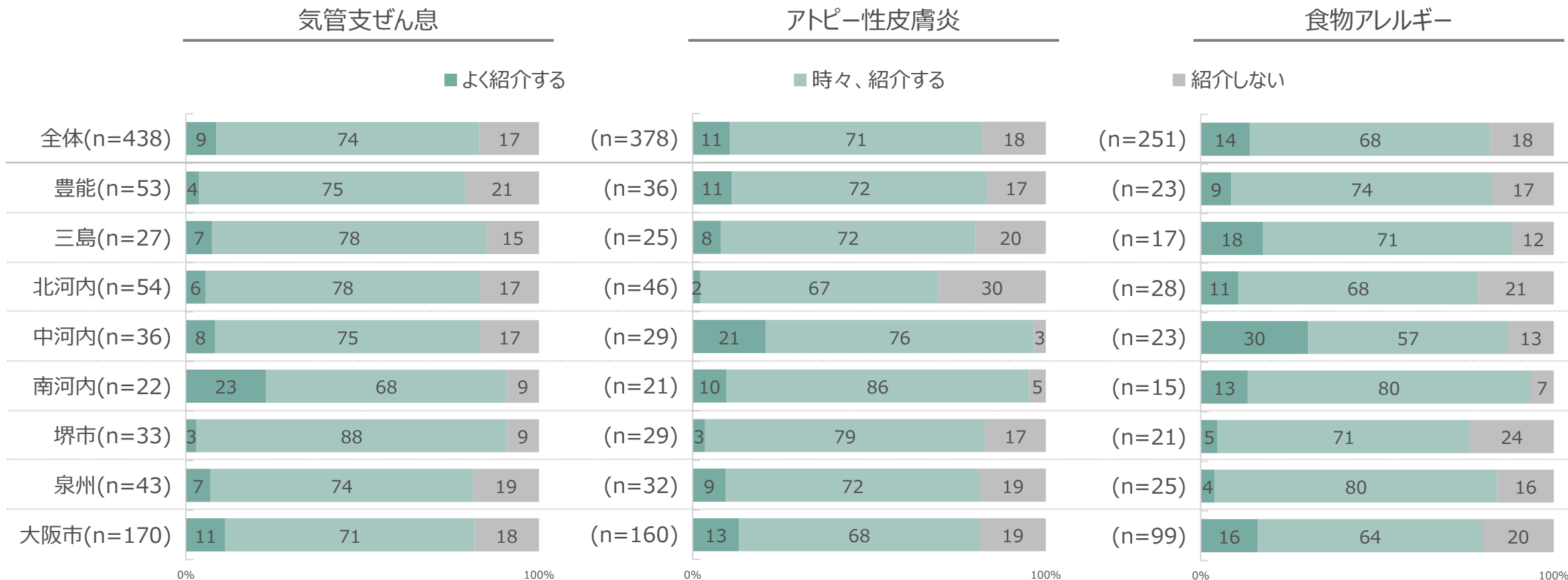


Q4. 下記の中で貴院にて実施しているものがありましたらすべてお選びください。(複数回答可)

### Ⅲ- i b. アレルギー疾患における他施設との連携状況

# 【各アレルギー疾患を診療する医師限定】 他の医療機関への患者の紹介状況

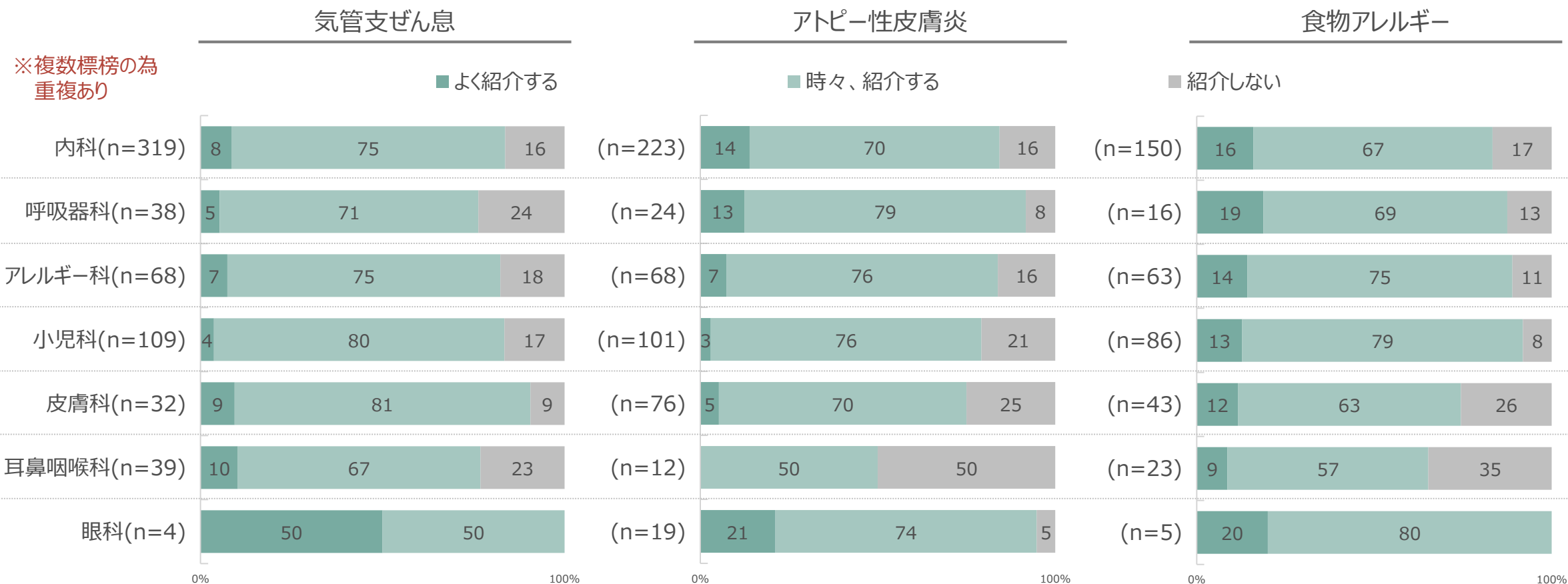
- ✓ 各アレルギー疾患を診察している医師のうち患者を「よく紹介する」割合は、気管支ぜん息で9%、アトピー性皮膚炎で11%、食物アレルギーで14%であった。
- ✓ 他の二次医療圏と比較して、南河内では気管支ぜん息患者を「よく紹介する」割合、中河内ではアトピー性皮膚炎、食物アレルギーを「よく紹介する」割合が高かった。また、多くの二次医療圏で、食物アレルギーは、他の疾患と比較して「よく紹介する」医師割合が高い傾向にあった。



Q5. 貴院における他の医療機関との患者の紹介・逆紹介の状況をお教えてください。(それぞれひとつだけ)  
※各アレルギー疾患を診療する医師のみ

# 【標榜診療科別／各アレルギー疾患を診療する医師限定】 他の医療機関への患者の紹介状況

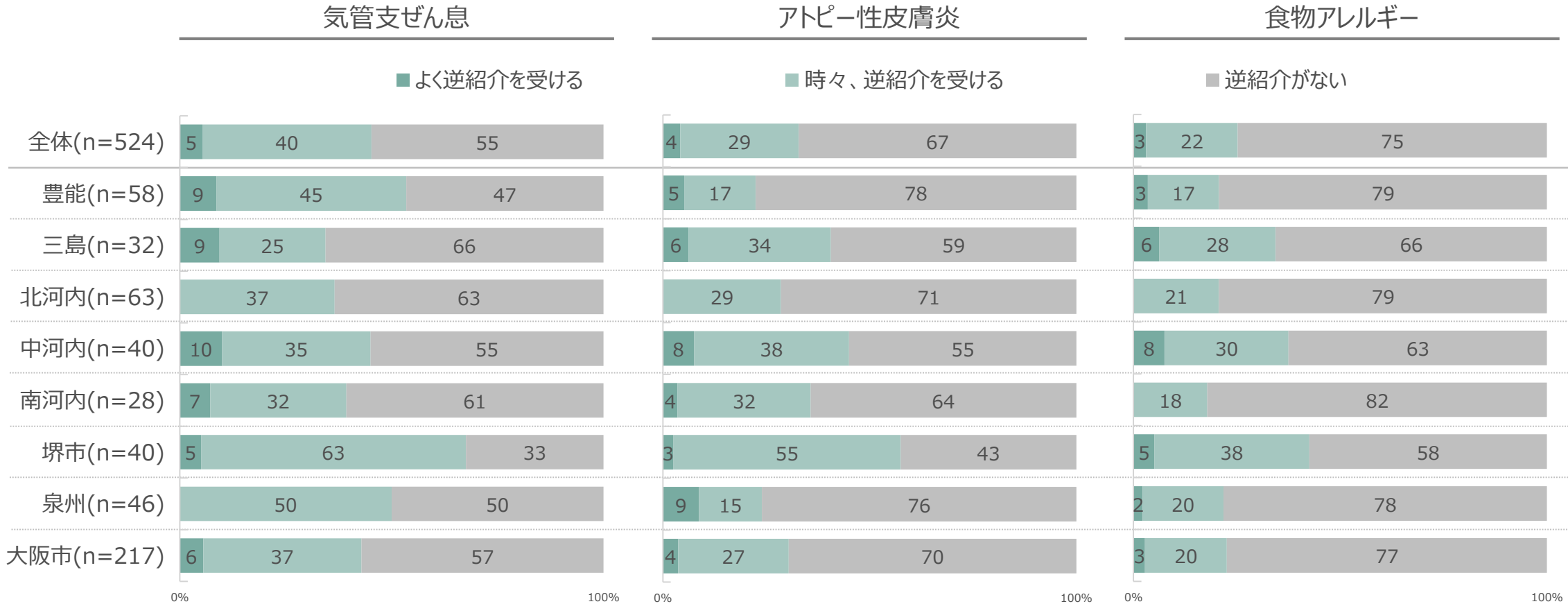
- ✓ 多くの診療科で、食物アレルギーは、他の疾患と比較して、「よく紹介する」医師割合が高かった。
- ✓ 一方、呼吸器科では気管支ぜん息を、小児科、皮膚科ではアトピー性皮膚炎を「紹介しない」医師割合が高かった。



Q5. 貴院における他の医療機関との患者の紹介・逆紹介の状況をお教えてください。(それぞれひとつだけ)  
※各アレルギー疾患を診療する医師のみ

# 他の医療機関からの患者の逆紹介状況

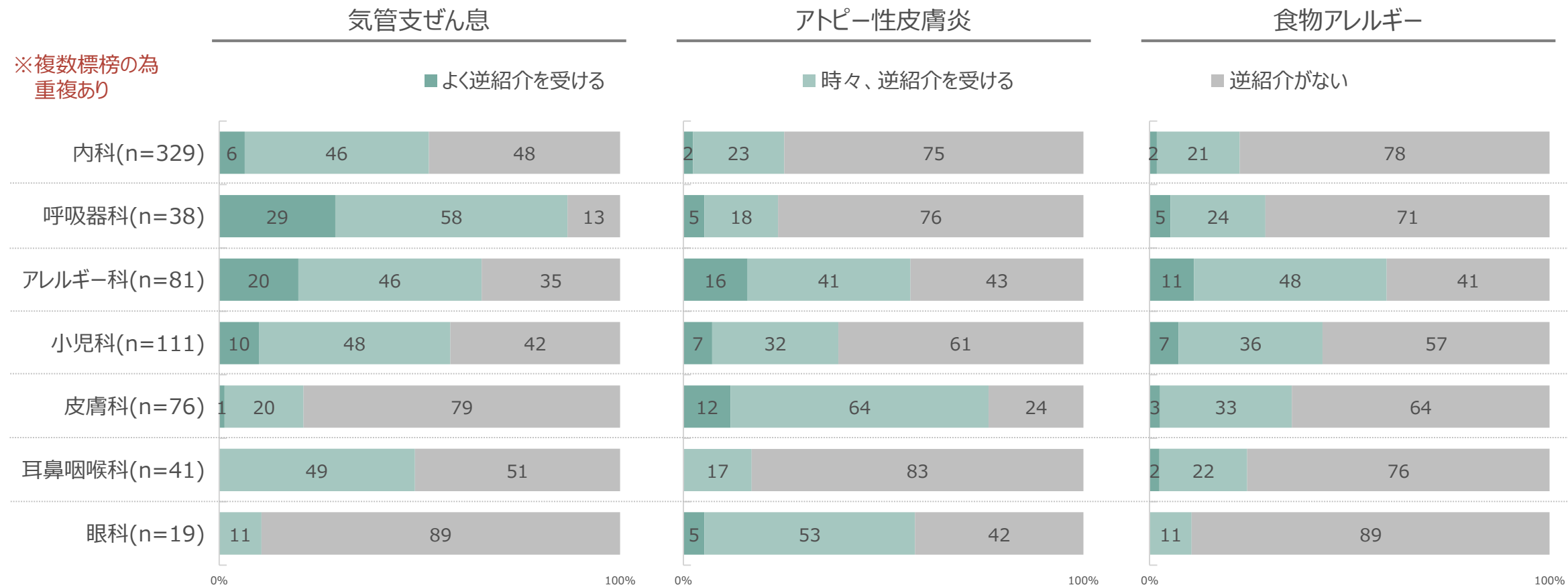
- ✓ 各アレルギー患者について「逆紹介がない」割合は、気管支ぜん息で55%、アトピー性皮膚炎で67%、食物アレルギーで75%であった。
- ✓ 食物アレルギーについては、他の疾患と比べて、特に「逆紹介がない」割合が高い傾向にあった。



Q5. 貴院における他の医療機関との患者の紹介・逆紹介の状況をお教えてください。(それぞれひとつだけ)

# 【標榜診療科別】 他の医療機関からの患者の逆紹介状況

- ✓ アレルギー科では、他の診療科と比較して、いずれのアレルギー疾患についても逆紹介を受けることがある医師割合が高かった。
- ✓ また、内科、呼吸器科に対する気管支ぜん息患者の逆紹介割合、皮膚科に対するアトピー性皮膚炎の逆紹介割合も高かった。

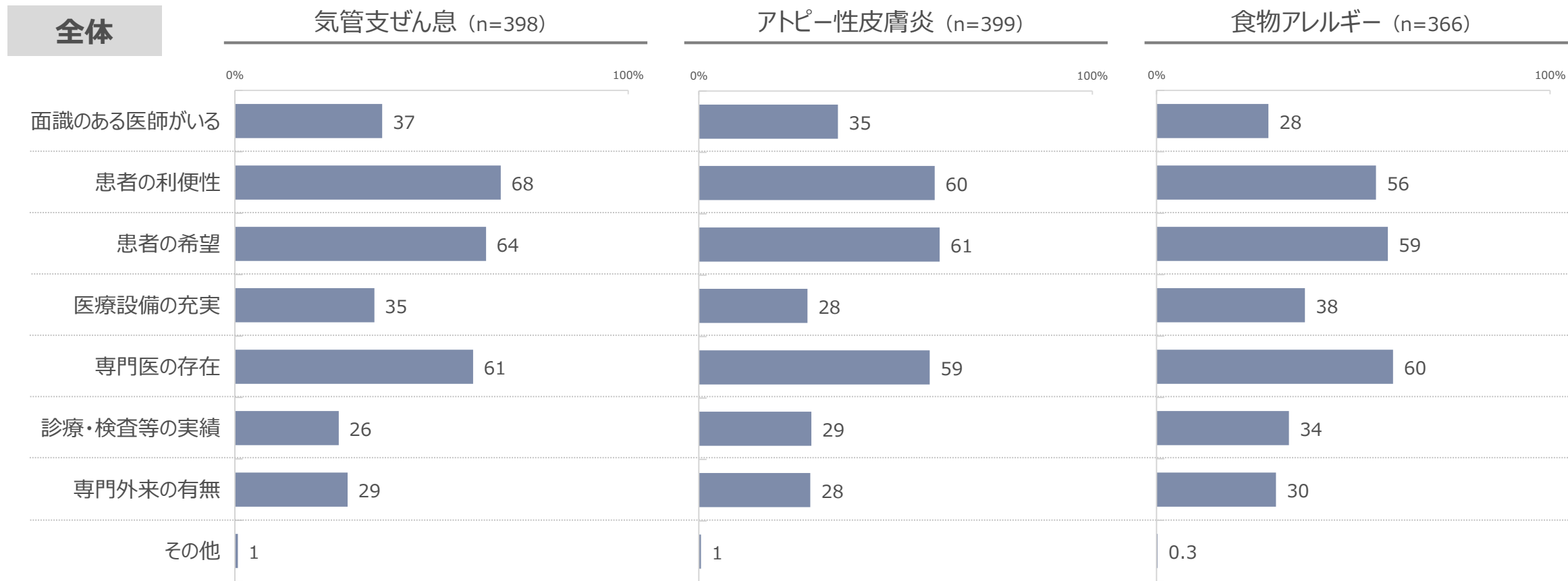


Q5. 貴院における他の医療機関との患者の紹介・逆紹介の状況をお教えてください。(それぞれひとつだけ)



# 【全体】 アレルギー疾患患者を紹介する際に重視すること

- ✓ アレルギー疾患患者を紹介する際に重視することとして、いずれのアレルギー疾患についても、「患者の利便性」、「患者の希望」、「専門医の存在」を挙げる医師割合が高かった。
- ✓ 他のアレルギー疾患と比較して、アトピー性皮膚炎では「医療設備の充実」、食物アレルギーでは「面識のある医師がいる」を挙げる医師割合が低かった。

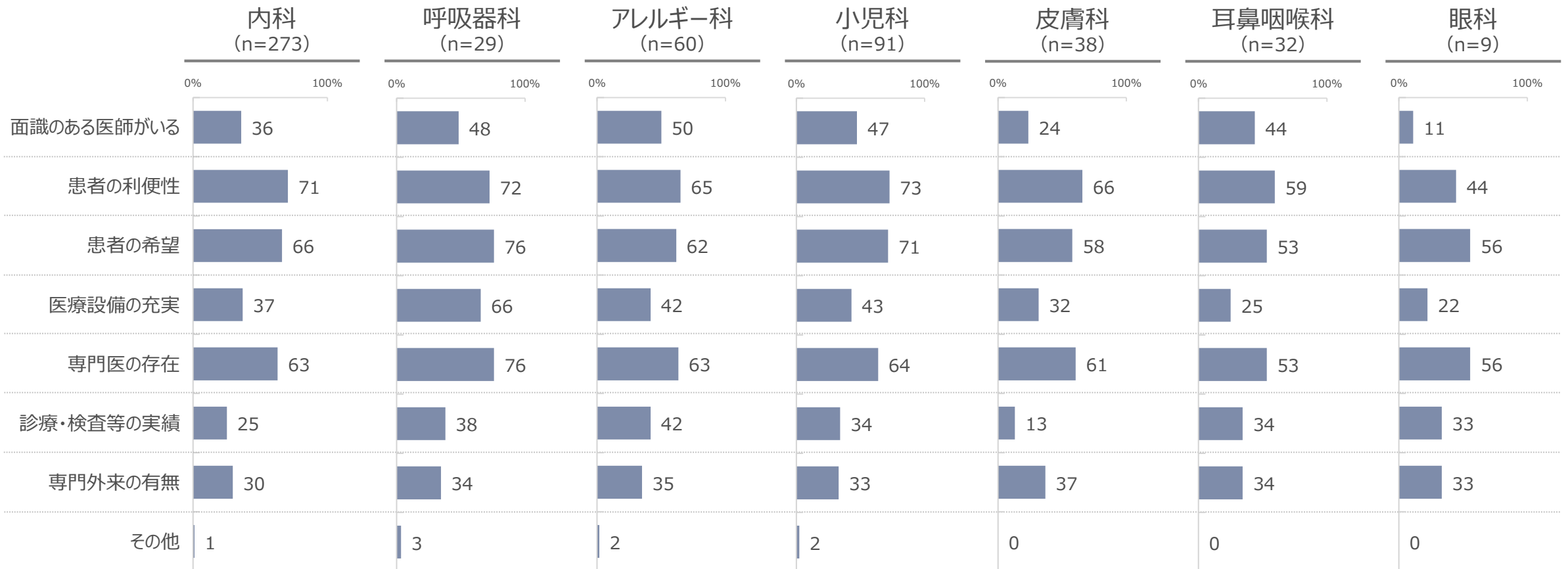


Q6. 紹介する医療機関は、どのようなことを考慮して決めますか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答可）  
 ※各アレルギー疾患患者を紹介することがある医師のみ

# 【標榜診療科別】

## 気管支ぜん息患者を紹介する際に重視すること

✓ 気管支ぜん息患者を紹介する際に重視することとして、呼吸器科では、他の診療科と比較して、「患者の希望」、「医療設備の充実」、「専門医の存在」を挙げる医師割合が高かった。



Q6. 紹介する医療機関は、どのようなことを考慮して決めますか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答可)

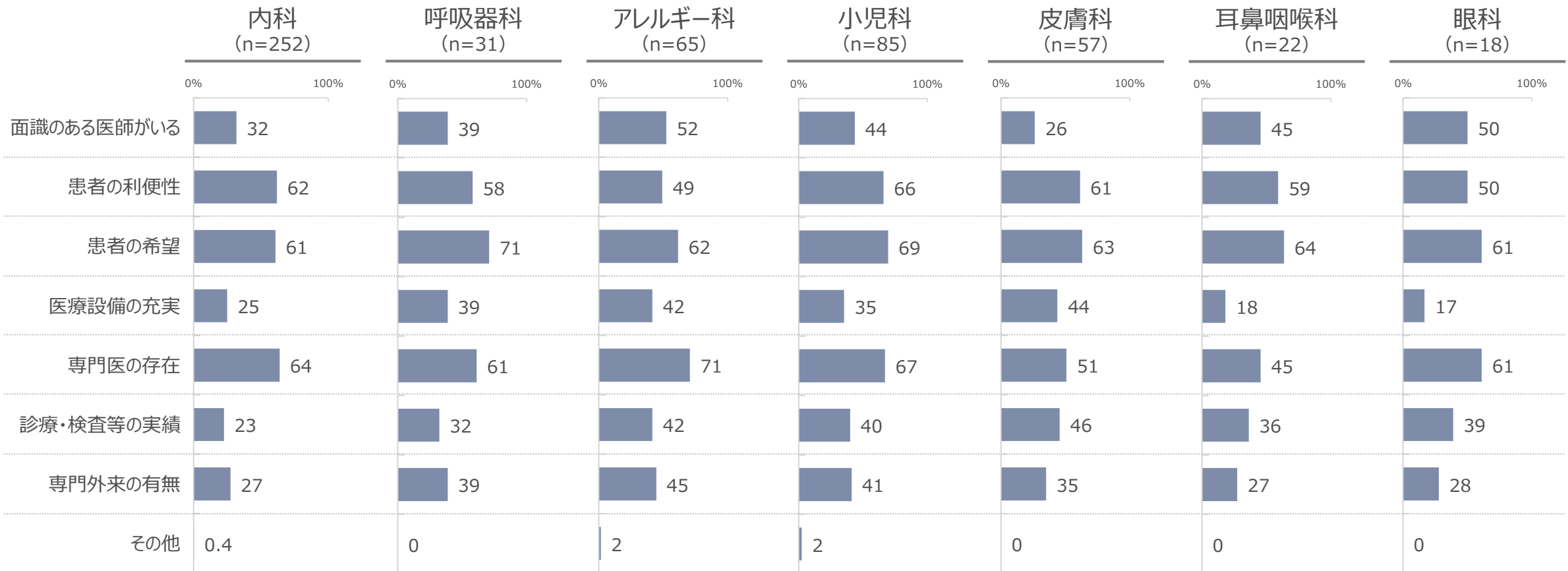
※気管支ぜん息患者を紹介することがある医師のみ

※複数標榜の為重複あり

# 【標榜診療科別】

## アトピー性皮膚炎患者を紹介する際に重視すること

✓ アトピー性皮膚炎患者を紹介する際に重視することとして、皮膚科では、他の診療科と比較して、「医療設備の充実」、「診療・検査等の実績」を挙げる医師割合が高いのに対して、「面識のある医師がいる」を挙げる医師割合が低かった。



Q6. 紹介する医療機関は、どのようなことを考慮して決めますか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答可)

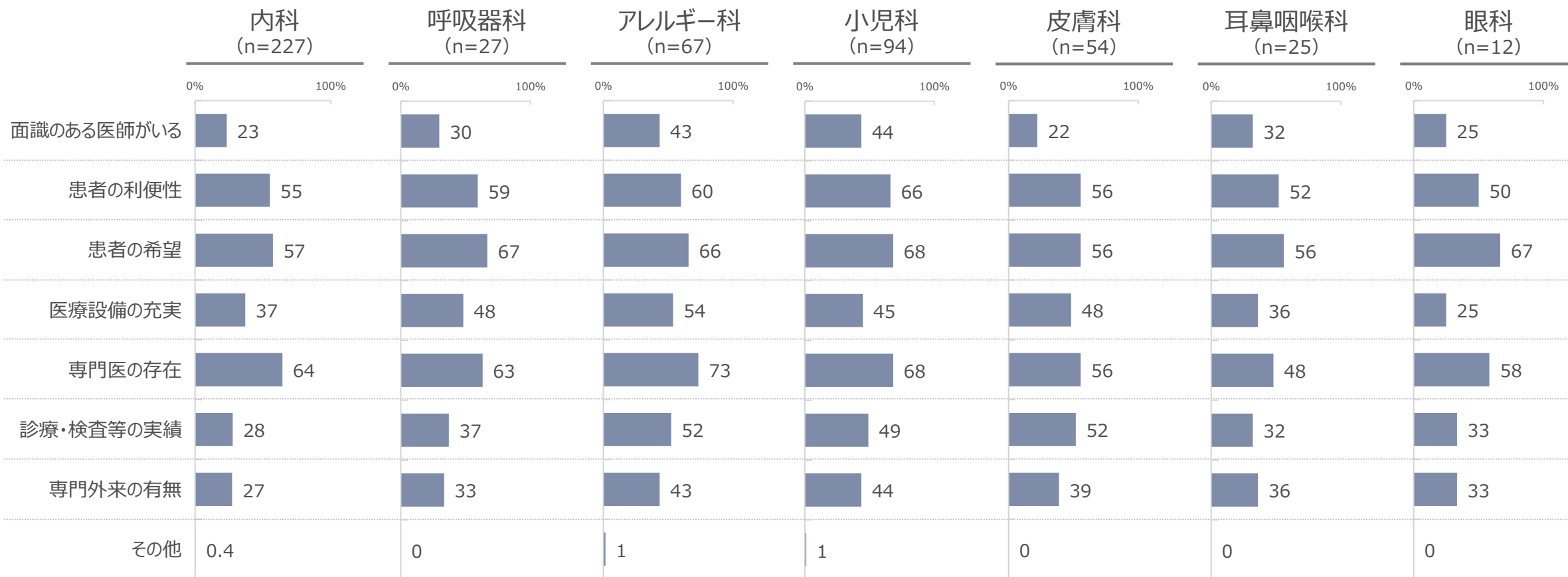
※アトピー性皮膚炎患者を紹介することがある医師のみ

※複数標榜の為重複あり

# 【標榜診療科別】

## 食物アレルギー患者を紹介する際に重視すること

✓ 食物アレルギー患者を紹介する際に重視することとして、アレルギー科では、他の診療科と比較して、「医療設備の充実」、「専門医の存在」を挙げる医師割合が高かった。



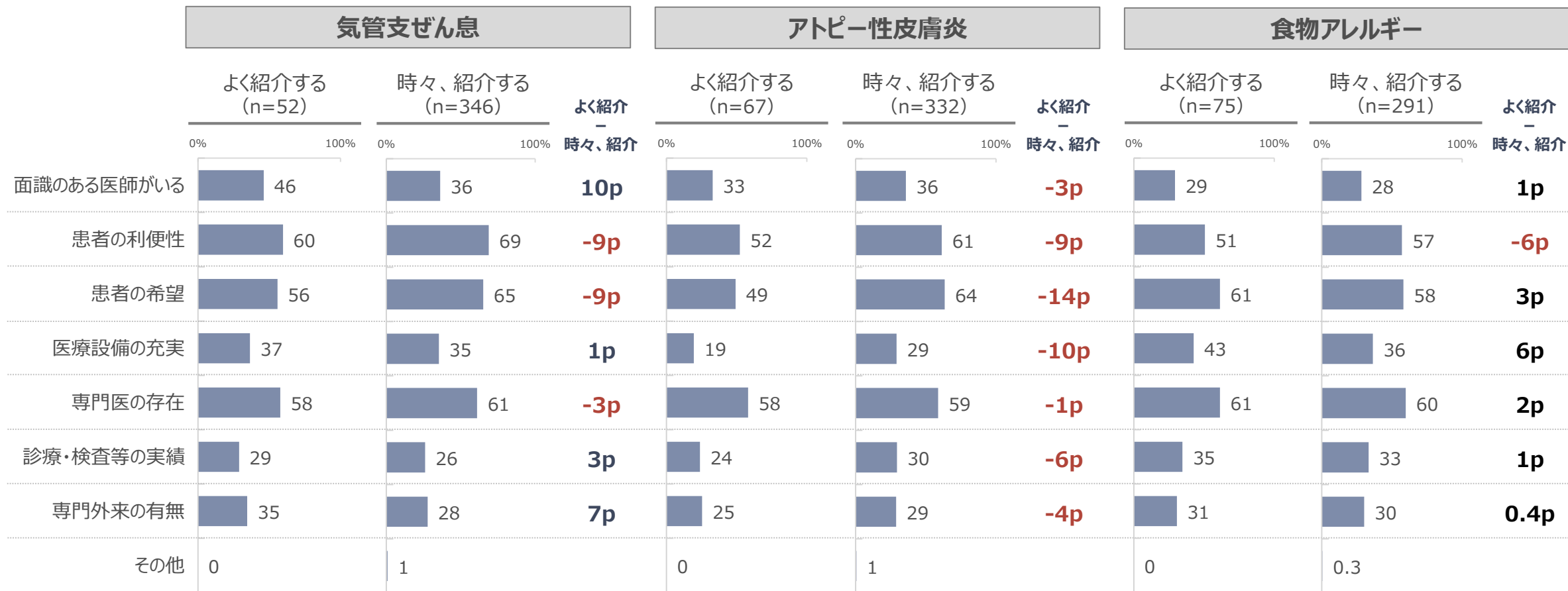
Q6. 紹介する医療機関は、どのようなことを考慮して決めますか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答可)

※食物アレルギー患者を紹介することがある医師のみ

※複数標榜の為重複あり

# 【患者紹介状況別】 アレルギー疾患患者を紹介する際に重視すること

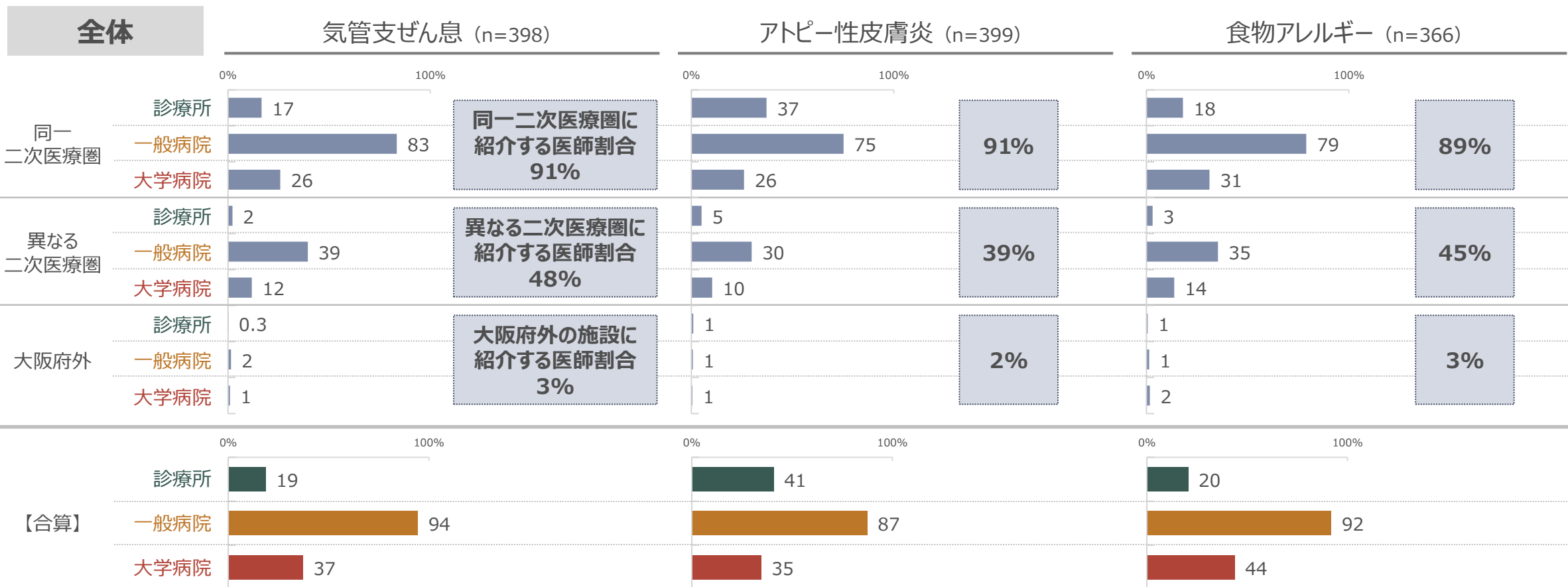
- ✓ いずれのアレルギー疾患についても、患者を「時々、紹介する」医師は、「よく紹介する」医師と比較して、「患者の利便性」を重視する傾向にあった。
- ✓ 気管支ぜん息については、患者を「よく紹介する」医師は、「時々、紹介する」医師と比較して、「面識のある医師がいる」、「専門外来の有無」を重視する傾向にあった。



Q6. 紹介する医療機関は、どのようなことを考慮して決めますか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答可)  
 ※各アレルギー疾患患者を紹介することがある医師のみ

# 【全体】 アレルギー疾患患者の紹介先（上位2つ）

- ✓ アレルギー疾患患者の紹介先として最も割合が高かったのは、いずれのアレルギー疾患でも「同一二次医療圏の一般病院」であった。
- ✓ 二次医療圏別にみると、紹介先として最も多いのは「同一二次医療圏」、施設形態別にみると、紹介先として最も多いのは「一般病院」であった。
- ✓ 食物アレルギーについては、他の疾患と比較して、診療所に紹介する割合が低く、大学病院に紹介する割合が高かった。



Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）  
 ※各アレルギー疾患患者を紹介することがある医師のみ

## 【二次医療圏別】

## 気管支ぜん息患者の紹介先（上位2つ）

- ✓ 気管支ぜん息患者の紹介先について、中河内、堺市では他の二次医療圏と比較して「異なる二次医療圏」に紹介する医師割合が高かった。  
一方、北河内、南河内については、他の二次医療圏と比較して「大学病院」に紹介する医師割合が高かった。

## 気管支ぜん息

## 二次医療圏

二次医療圏		豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市
n		n=45	n=24	n=51	n=33	n=21	n=33	n=37	n=154
紹介先の医療圏	同一二次医療圏	96%	96%	94%	91%	90%	91%	97%	86%
	異なる二次医療圏	51%	17%	33%	64%	52%	61%	46%	50%
	大阪府外の施設	2%	4%	4%	0%	0%	0%	0%	5%
紹介先の施設	診療所	18%	33%	16%	21%	10%	15%	14%	20%
	一般病院	98%	100%	88%	97%	95%	97%	100%	92%
	大学病院	20%	38%	65%	21%	57%	33%	27%	37%

Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）

※気管支ぜん息患者を紹介することがある医師のみ

# 【二次医療圏別】 アトピー性皮膚炎患者の紹介先（上位2つ）

✓ アトピー性皮膚炎患者の紹介先について、中河内、堺市では他の二次医療圏と比較して「異なる二次医療圏」に紹介する医師割合が高かった。  
一方、北河内、南河内については、他の二次医療圏と比較して「大学病院」に紹介する医師割合が高かった。

## アトピー性皮膚炎

### 二次医療圏

二次医療圏		豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市
n		n=40	n=25	n=42	n=34	n=24	n=30	n=35	n=169
紹介先の医療圏	同一二次医療圏	93%	96%	95%	88%	92%	80%	100%	89%
	異なる二次医療圏	35%	16%	29%	65%	46%	57%	23%	40%
	大阪府外の施設	3%	8%	2%	0%	0%	0%	0%	3%
紹介先の施設	診療所	55%	48%	31%	26%	21%	43%	46%	43%
	一般病院	90%	88%	76%	100%	92%	97%	89%	85%
	大学病院	10%	40%	71%	24%	63%	23%	17%	34%

Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）  
※アトピー性皮膚炎患者を紹介することがある医師のみ



# 【二次医療圏別】

## 食物アレルギー患者の紹介先（上位2つ）

✓ 食物アレルギー患者の紹介先について、中河内、堺市では他の二次医療圏と比較して「異なる二次医療圏」に紹介する医師割合が高かった。  
一方、北河内、南河内については、他の二次医療圏と比較して「大学病院」に紹介する医師割合が高かった。

### 食物アレルギー

#### 二次医療圏

二次医療圏		豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市
n		n=36	n=24	n=39	n=34	n=24	n=31	n=31	n=147
紹介先の医療圏	同一二次医療圏	97%	96%	95%	88%	92%	77%	97%	85%
	異なる二次医療圏	42%	21%	36%	74%	33%	68%	29%	46%
	大阪府外の施設	6%	0%	3%	0%	4%	0%	0%	5%
紹介先の施設	診療所	28%	29%	15%	9%	4%	19%	26%	23%
	一般病院	97%	96%	85%	94%	92%	100%	97%	88%
	大学病院	17%	50%	77%	35%	71%	39%	29%	42%

Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）

※食物アレルギー患者を紹介することがある医師のみ

# 【標榜診療科別】 気管支ぜん息患者の紹介先（上位2つ）

✓ 気管支ぜん息患者の紹介先について、呼吸器科では、他の診療科と比較して「異なる二次医療圏」に紹介する割合が高かった。

## 気管支ぜん息

### 標榜診療科

標榜診療科		内科	呼吸器科	アレルギー科	小児科	皮膚科	耳鼻咽喉科	眼科
n		n=273	n=29	n=60	n=91	n=38	n=32	n=9
紹介先の医療圏	同一二次医療圏	91%	83%	85%	93%	84%	94%	100%
	異なる二次医療圏	52%	66%	55%	53%	42%	25%	56%
	大阪府外の施設	4%	7%	7%	2%	3%	0%	0%
紹介先の施設	診療所	14%	7%	17%	10%	16%	44%	33%
	一般病院	96%	97%	93%	98%	95%	88%	78%
	大学病院	38%	41%	42%	34%	58%	28%	33%

Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）

※気管支ぜん息患者を紹介することがある医師のみ

※複数標榜の為重複あり

# 【標榜診療科別】 アトピー性皮膚炎患者の紹介先（上位2つ）

✓ アトピー性皮膚炎患者の紹介先について、皮膚科では、他の診療科と比較して大学病院に紹介する割合が高かった。

## アトピー性皮膚炎

### 標榜診療科

標榜診療科		内科	呼吸器科	アレルギー科	小児科	皮膚科	耳鼻咽喉科	眼科
n		n=252	n=31	n=65	n=85	n=57	n=22	n=18
紹介先の 医療圏	同一二次医療圏	92%	87%	82%	88%	86%	95%	100%
	異なる二次医療圏	39%	58%	55%	49%	47%	23%	22%
	大阪府外の施設	2%	0%	6%	1%	2%	5%	0%
紹介先の 施設	診療所	43%	35%	26%	32%	12%	45%	56%
	一般病院	90%	97%	86%	93%	88%	77%	83%
	大学病院	31%	35%	45%	29%	68%	32%	44%

Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）

※アトピー性皮膚炎患者を紹介することがある医師のみ

※複数標榜の為重複あり

# 【標榜診療科別】 食物アレルギー患者の紹介先（上位2つ）

✓ 食物アレルギー患者の紹介先として、アレルギー科では、他の診療科と比較して「異なる二次医療圏」に紹介する医師割合が高かった。

## 食物アレルギー

### 標榜診療科

標榜診療科		内科	呼吸器科	アレルギー科	小児科	皮膚科	耳鼻咽喉科	眼科
n		n=227	n=27	n=67	n=94	n=54	n=25	n=12
紹介先の 医療圏	同一二次医療圏	90%	81%	81%	88%	85%	88%	100%
	異なる二次医療圏	46%	59%	64%	52%	48%	32%	42%
	大阪府外の施設	3%	4%	10%	6%	4%	0%	0%
紹介先の 施設	診療所	19%	15%	12%	14%	9%	24%	42%
	一般病院	93%	96%	91%	97%	91%	92%	75%
	大学病院	44%	52%	48%	35%	65%	44%	33%

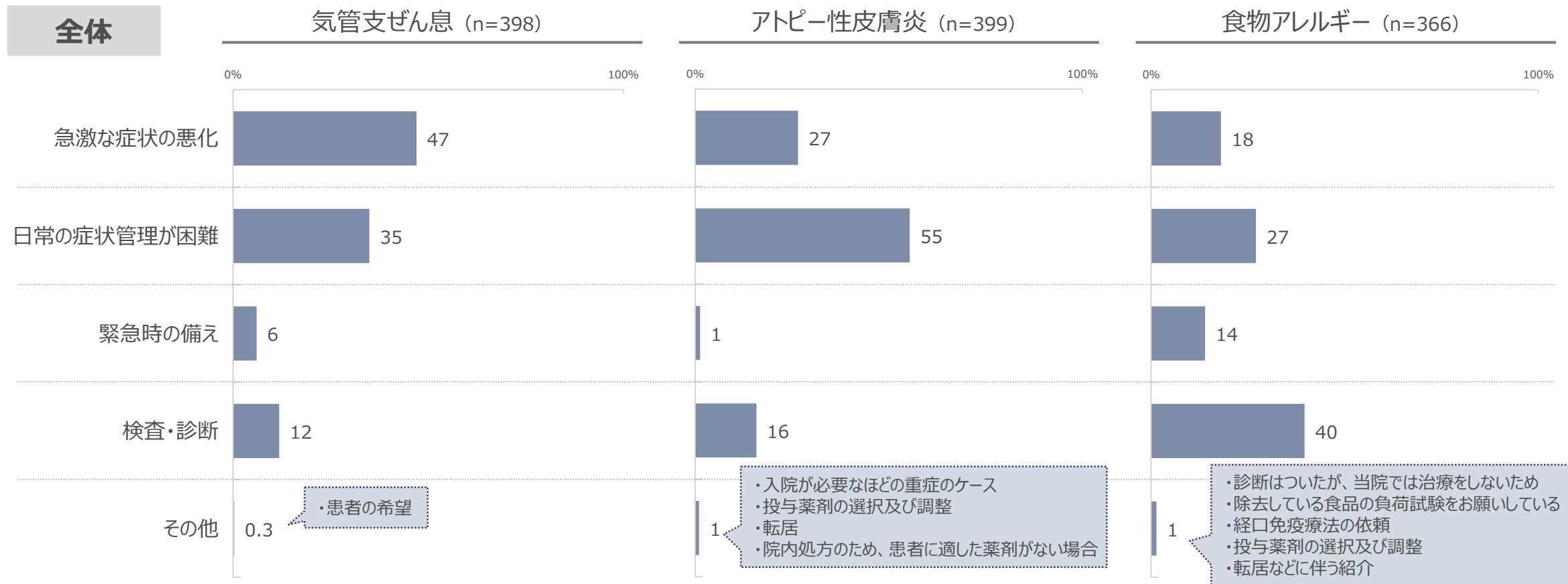
Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）

※食物アレルギー患者を紹介することがある医師のみ

※複数標榜の為重複あり

# 【全体】 患者を紹介する理由

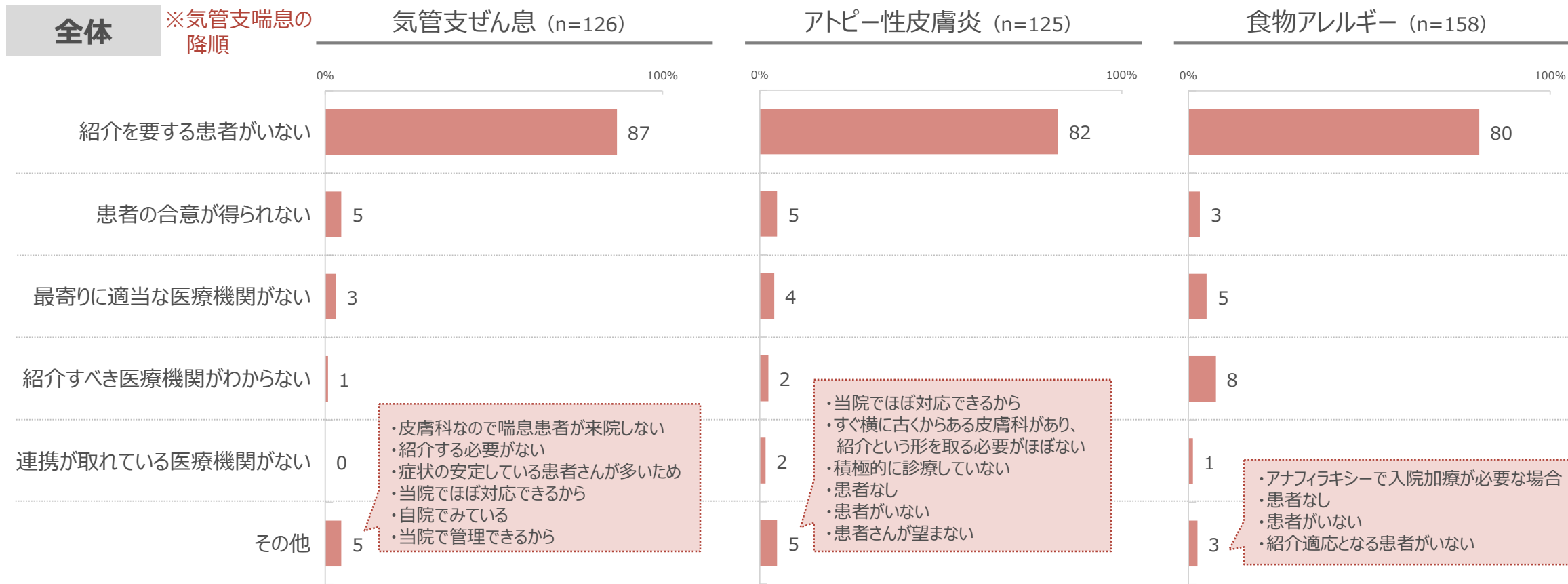
✓ アレルギー疾患患者を紹介する理由として最も割合が高かったのは、気管支ぜん息で「急激な症状の悪化」47%、アトピー性皮膚炎で「日常の症状管理が困難」55%、食物アレルギーで「検査・診断」40%と、アレルギー疾患ごとに患者を紹介する主な理由が異なっていた。



Q8. 患者を紹介する理由で最も多いものをお選びください。(ひとつだけ)  
※各アレルギー疾患患者を紹介することがある医師のみ

# 【全体】 患者を紹介しない・できない理由

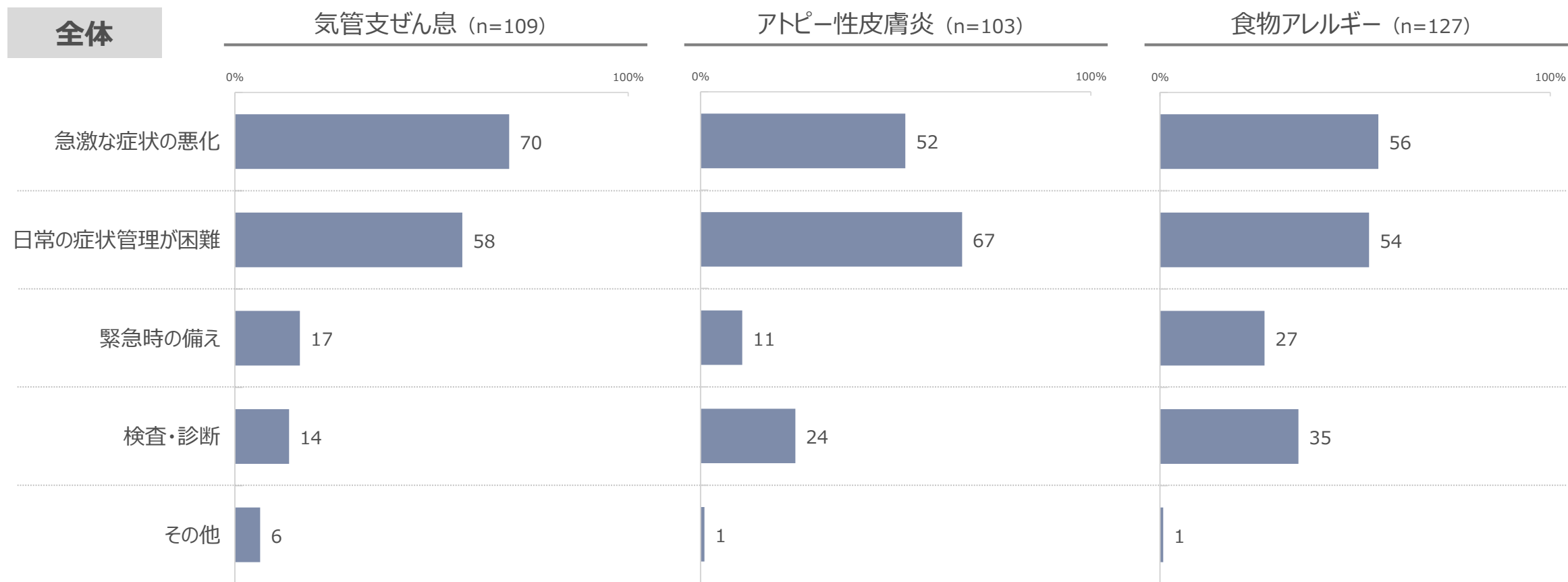
- ✓ アレルギー疾患患者を紹介しない・できない理由としては、いずれのアレルギー疾患についても「紹介を要する患者がいない」の割合が最も高かった。
- ✓ 食物アレルギーについて、他の疾患と比較して、「紹介すべき医療機関がわからない」を選択した医師割合が高かった。



Q9. 患者を紹介しない、できない理由で最も多いものをお選びください。(ひとつだけ)  
 ※各アレルギー疾患患者を紹介しない医師のみ

# 【全体】 患者を紹介しない医師が紹介を検討するケース

✓ 患者を紹介しない医師が、紹介を検討するケースとして最も割合が高かったのは、気管支ぜん息と食物アレルギーでは「急激な症状の悪化」であったのに対して、アトピー性皮膚炎では「日常の症状管理が困難」であった。



Q10. Q9において「紹介を要する患者がない」と回答された方にお聞きます。どのような場合に紹介を考えますか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答可)

※各アレルギー疾患患者について「紹介する患者がない」と回答した医師のみ

### Ⅲ- i c. 大阪府の取り組みに対する認知・今後の期待事項

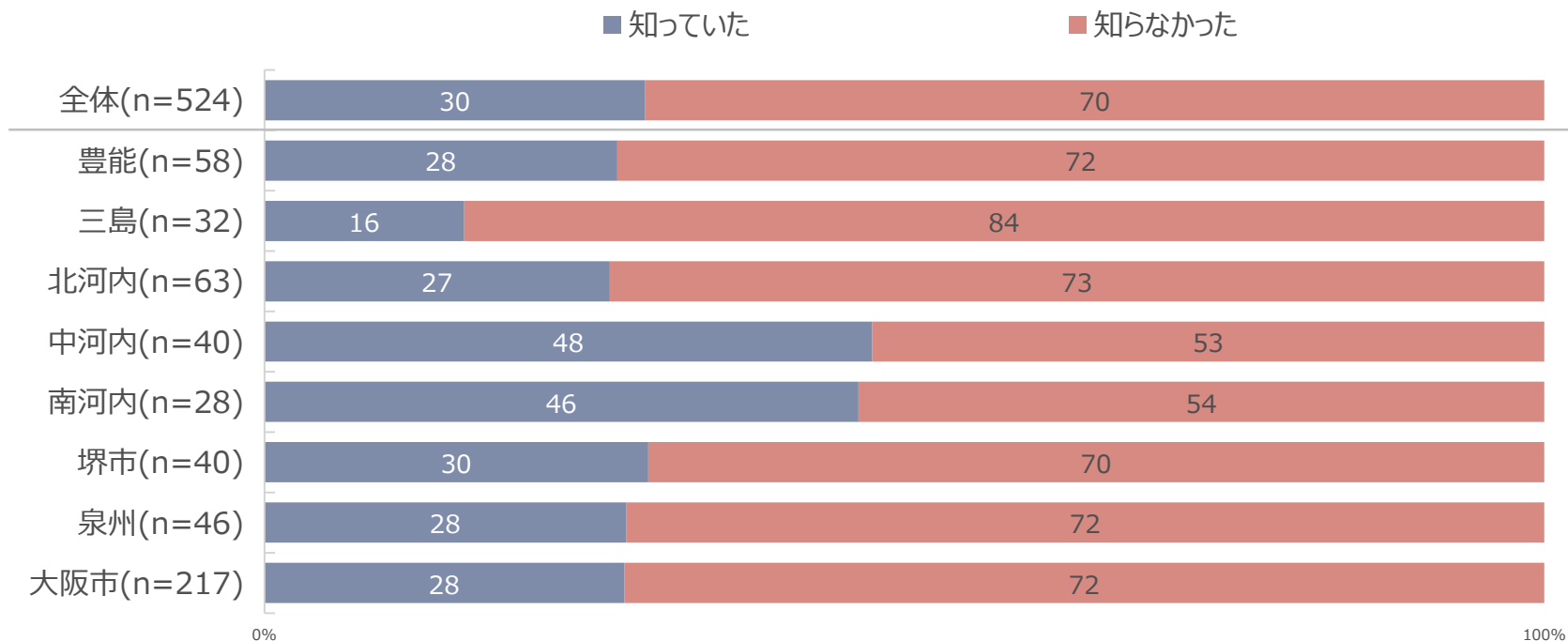


# 大阪府が医療提供体制整備を進めていることに対する認知度

- ✓ 大阪府が医療提供体制の整備を進めていることを認知している医師割合は30%であった。
- ✓ 中河内、南河内では、他の二次医療圏として認知率が高い一方で、三島では認知率が低かった。

## ＜アレルギー疾患医療拠点病院＞

「アレルギー疾患医療拠点病院」とは、アレルギー疾患対策基本法に基づき、国民が居住する地域に関わらず、等しくそのアレルギーの状態に応じて適切なアレルギー疾患医療を受けることができるよう、アレルギー疾患医療の拠点となる病院です。大阪府では、平成30年6月に近畿大学病院、大阪はいびきの医療センター、関西医科大学附属病院、大阪赤十字病院が指定され、診療連携体制の構築を進めています。

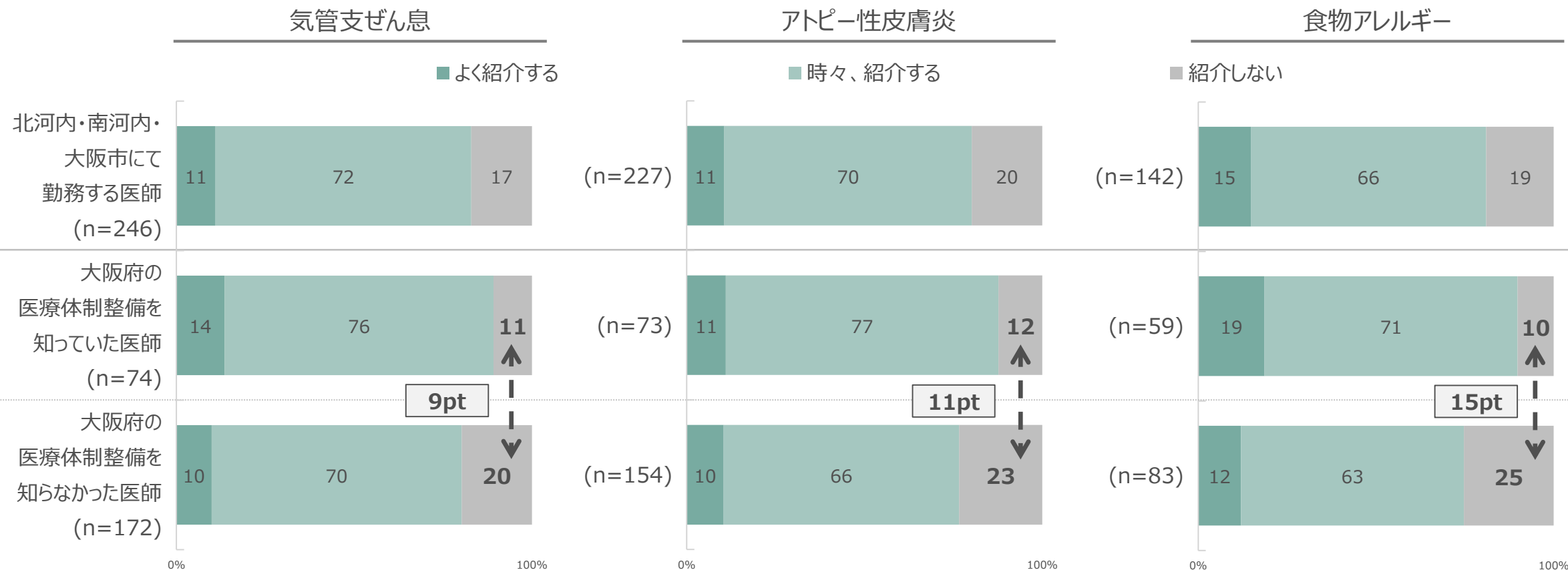


Q11. 大阪府がアレルギー疾患医療拠点病院を指定するなど医療提供体制整備を進めていることを知っていますか。

# 【各アレルギー疾患を診療する医師限定】 他の医療機関への患者の紹介状況（北河内・南河内・大阪市）

✓ いずれの疾患についても、大阪府が医療体制整備をしていることを知っていた医師は、知らなかった医師と比較して、患者の紹介割合が高かった。  
中でも特に、食物アレルギーについては、知っている医師と知らなかった医師の患者紹介割合の差が大きかった。

アレルギー疾患医療拠点病院がある北河内・南河内・大阪市医療圏にて勤務する医師のうち、各アレルギー疾患を診療する医師のみに限定して集計

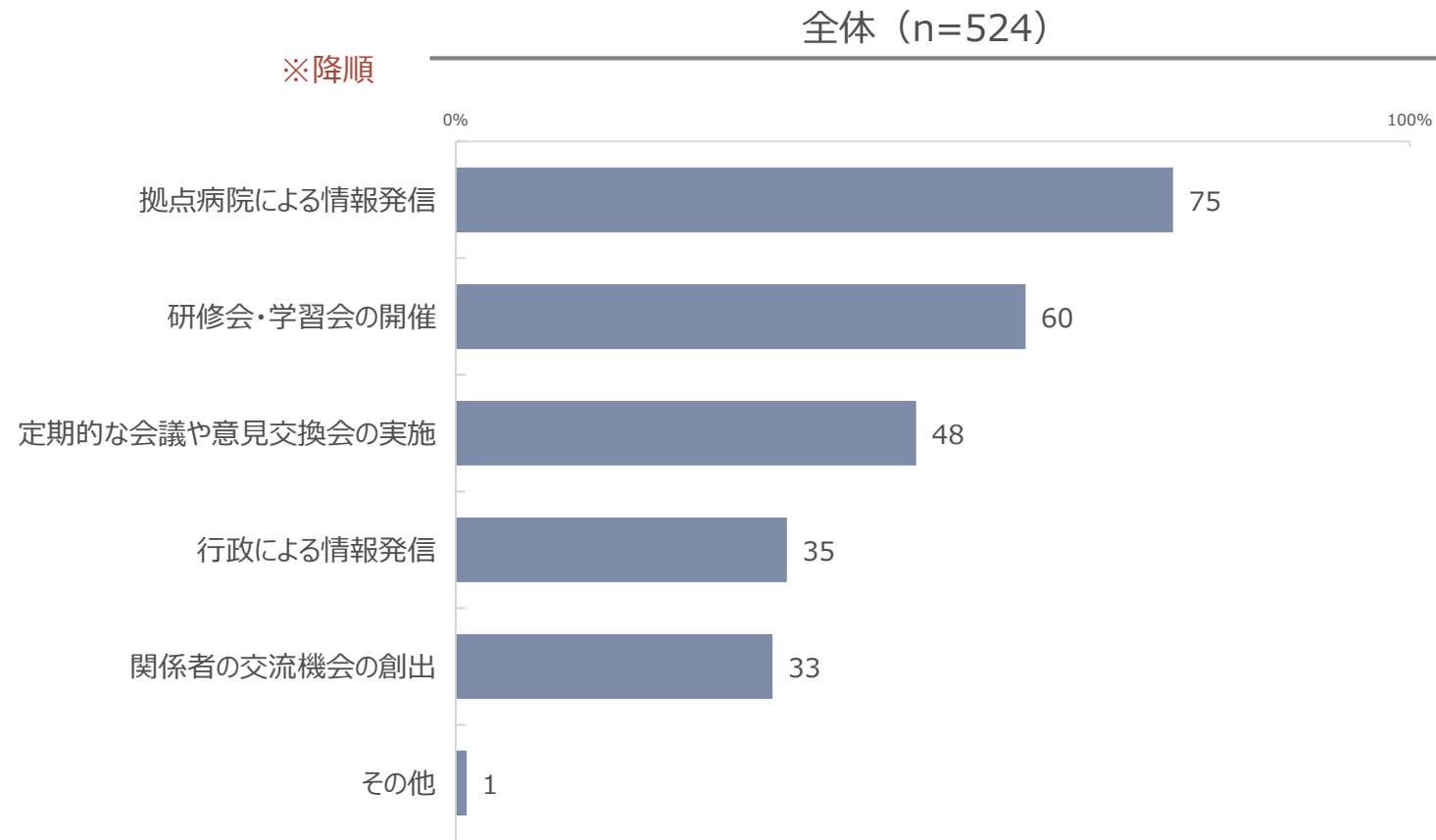


Q5. 貴院における他の医療機関との患者の紹介・逆紹介の状況をお教えてください。（それぞれひとつだけ）  
※北河内・南河内・大阪市医療圏にて勤務する、各アレルギー疾患を診療する医師のみ

## 【全体】

## 地域における医療提供体制整備のために必要だと考えること

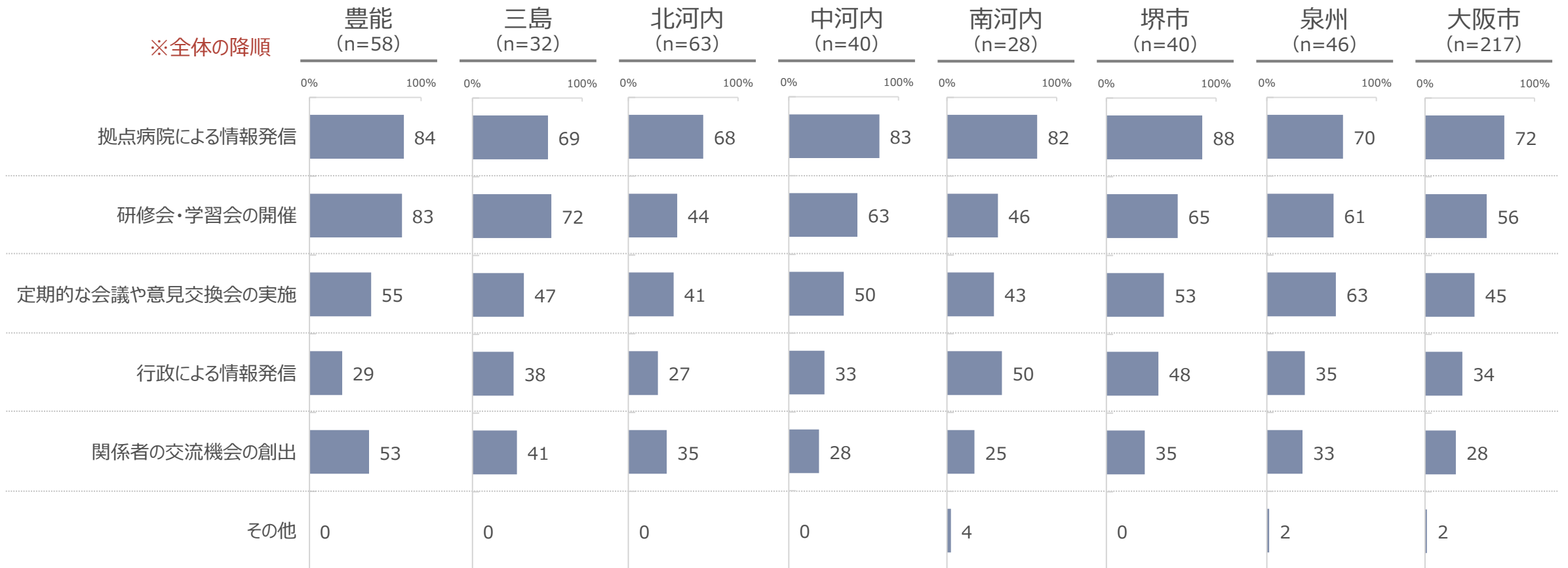
✓ 大阪府でアレルギー疾患をもつ患者さんを診療している医師が、地域における医療提供体制整備の為に必要だと考えることとして最も割合が高いのは「拠点病院による情報発信」75%。続いて、「研修会・学習会の開催」60%、「定期的な会議や意見交換会の実施」48%であった。



Q12. 地域において診療連携体制を構築するためにはどのような事が必要と思われますか。(複数回答可)

# 【二次医療圏別】

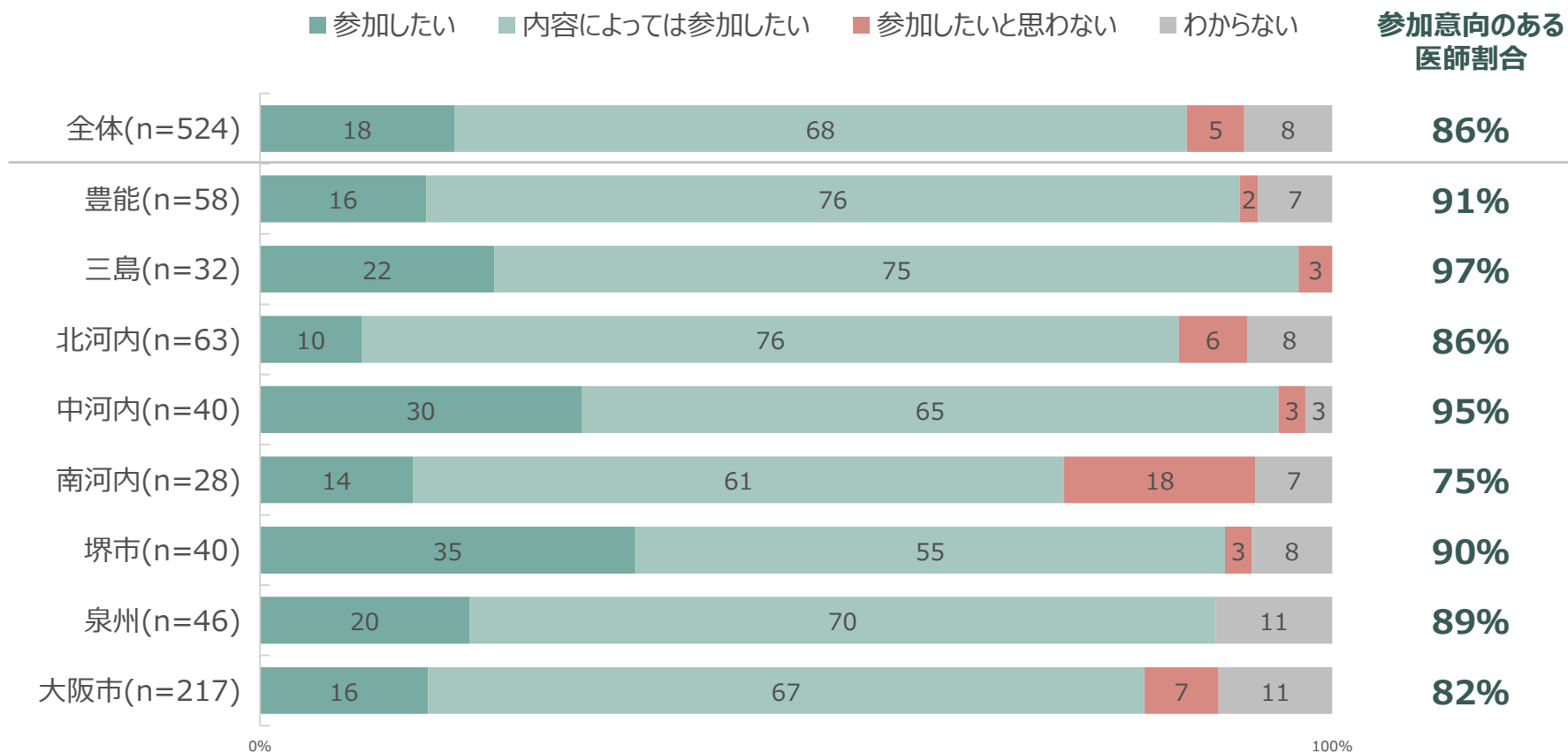
## 地域における医療提供体制整備のために必要だと考えること



Q12. 地域において診療連携体制を構築するためにどのような事が必要と思われますか。(複数回答可)

## 医療従事者を対象とした研修会への参加意向

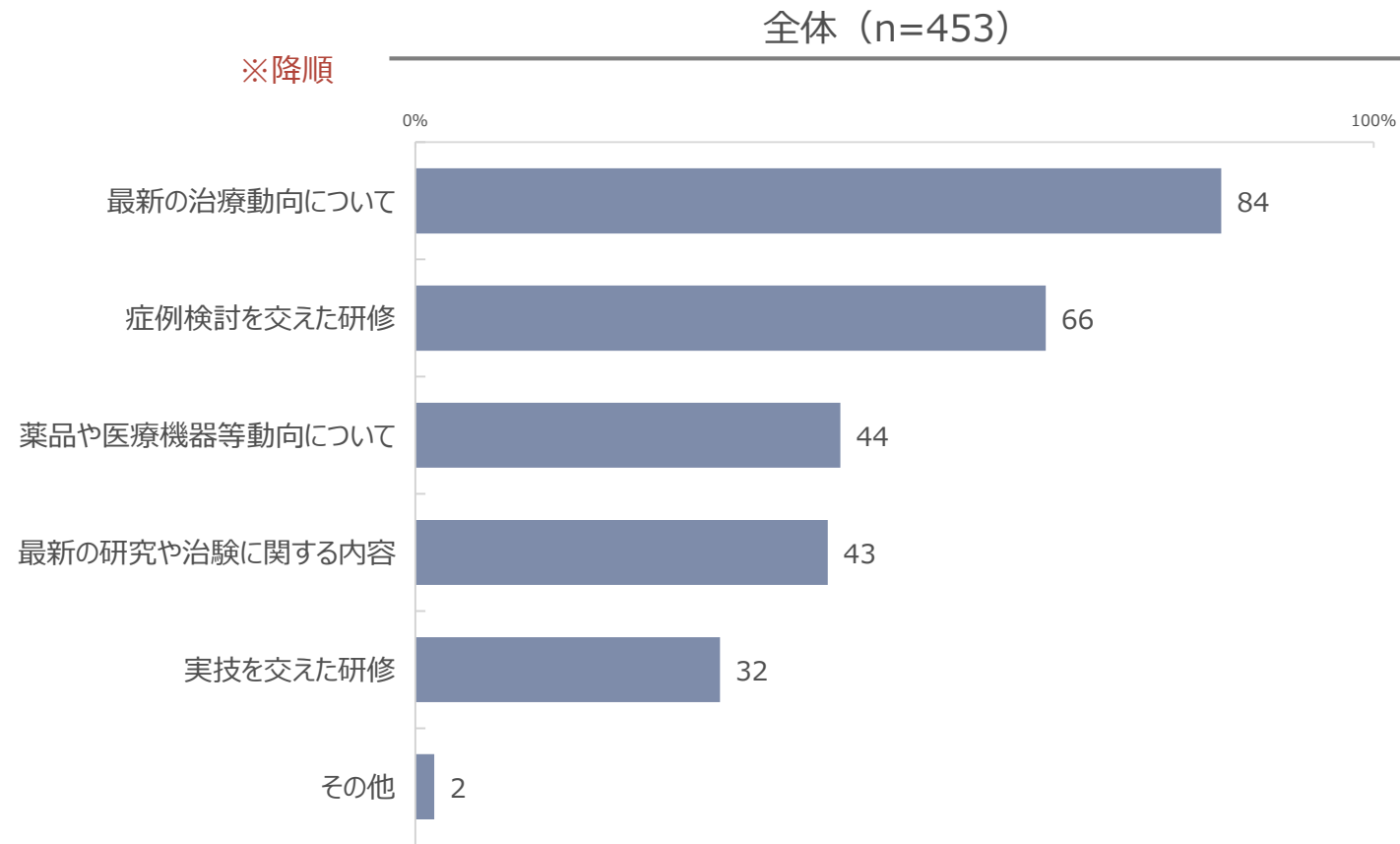
- ✓ 医療従事者を対象とした研修会に参加意向のある医師割合は86%であった。
- ✓ 南河内では、他の二次医療圏と比較して「参加したいと思わない」割合が高く、18%。一方、堺市では、他の二次医療圏と比較して「参加したい」割合が高く、35%。



Q13. 大阪府ではアレルギー疾患医療拠点病院と連携し、府内の医療従事者を対象とした研修会を実施していますが、このような場に参加しようと思われますか。(ひとつだけ)

# 【全体】 研修会にて希望する内容

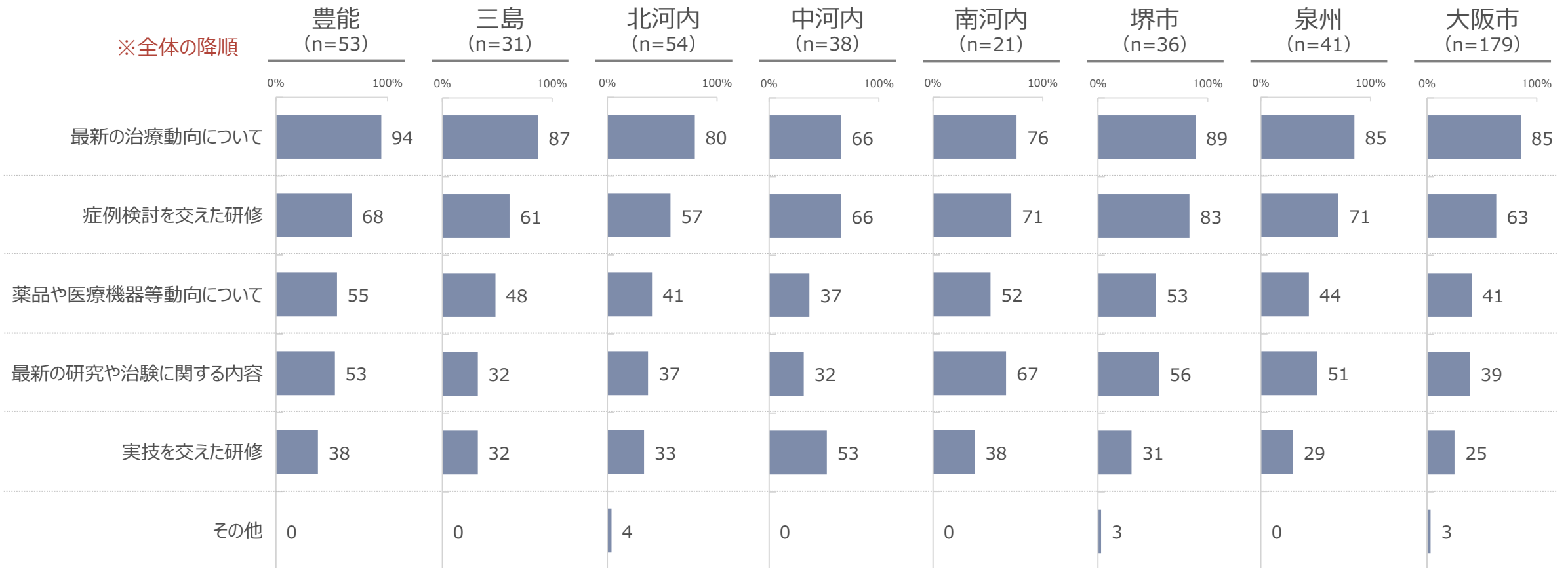
✓ 研修会の内容として最も希望される内容は、「最新の治療動向について」84%。続いて、「症例検討を交えた研修」66%、「薬品や医療機器等動向について」44%、「最新の研究や治験に関する内容」43%であった。



Q14. Q13で「参加したい」、「内容によっては参加したい」と回答された方にお聞きます。どのような内容の研修会を希望されますか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答可）

※医療従事者を対象とした研修会への参加意向がある医師のみ

# 【二次医療圏別】 研修会にて希望する内容

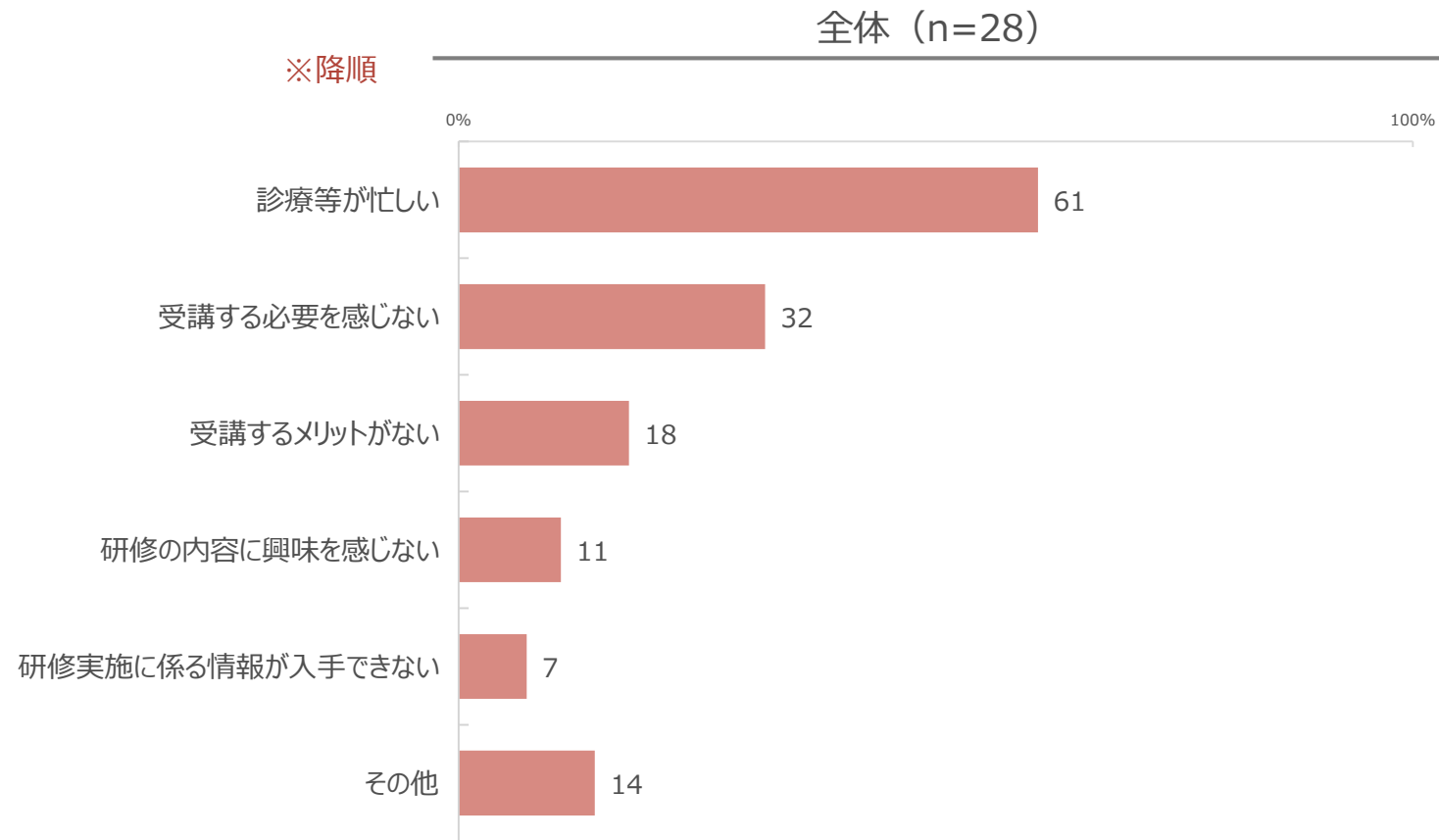


Q14. Q13で「参加したい」、「内容によっては参加したい」と回答された方にお聞きます。どのような内容の研修会を希望されますか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答可）

※医療従事者を対象とした研修会への参加意向がある医師のみ

# 【全体】 研修会に参加したいと思わない理由

✓ 研修会に参加したいと思わない理由として最も割合が高いのは、「診療等が忙しい」61%。続いて、「受講する必要を感じない」32%、「受講するメリットがない」18%、「研修の内容に興味を感じない」11%であった。



Q15、Q13で「参加したいと思わない」と回答された方にお聞きします。参加したいと思わない理由をお教えてください。（複数回答可）

※医療従事者を対象とした研修会への参加意向がない医師のみ



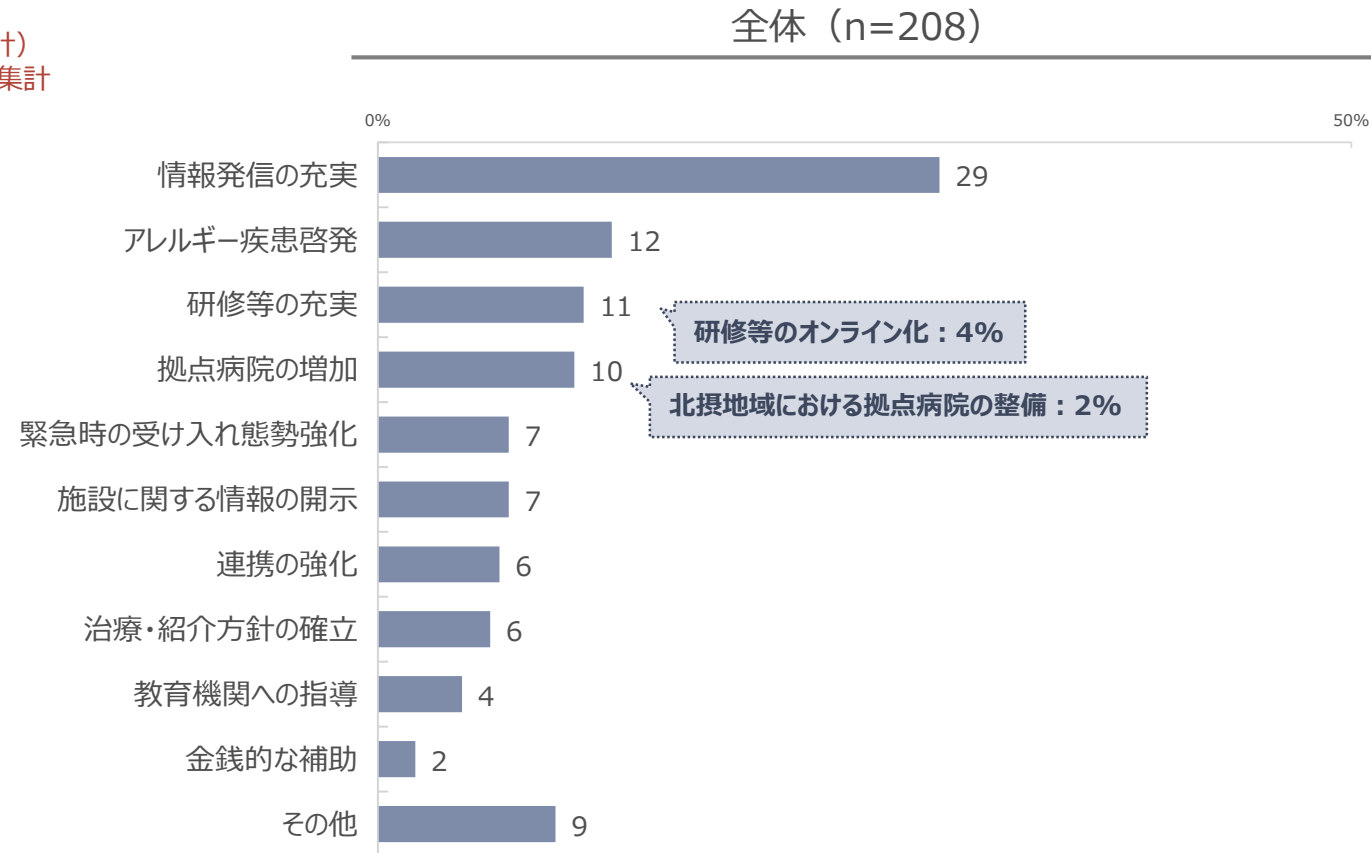
# 【全体】 大阪府のアレルギー疾患対策に関する要望

- ✓ 大阪府のアレルギー疾患対策についての要望として最も挙がっていたのは「情報発信の充実」。続いて、「アレルギー疾患啓発」、「研修等の充実」、「拠点病院の増加」、「緊急時の受け入れ態勢」、「施設に関する情報の開示」であった。
- ✓ 「拠点病院の増加」の中でも、特に「北摂地域における拠点病院の整備」と回答していた医師が一定程度存在した。

## ※アフターコーディング

(自由回答を同じ内容ごとに分類して集計)

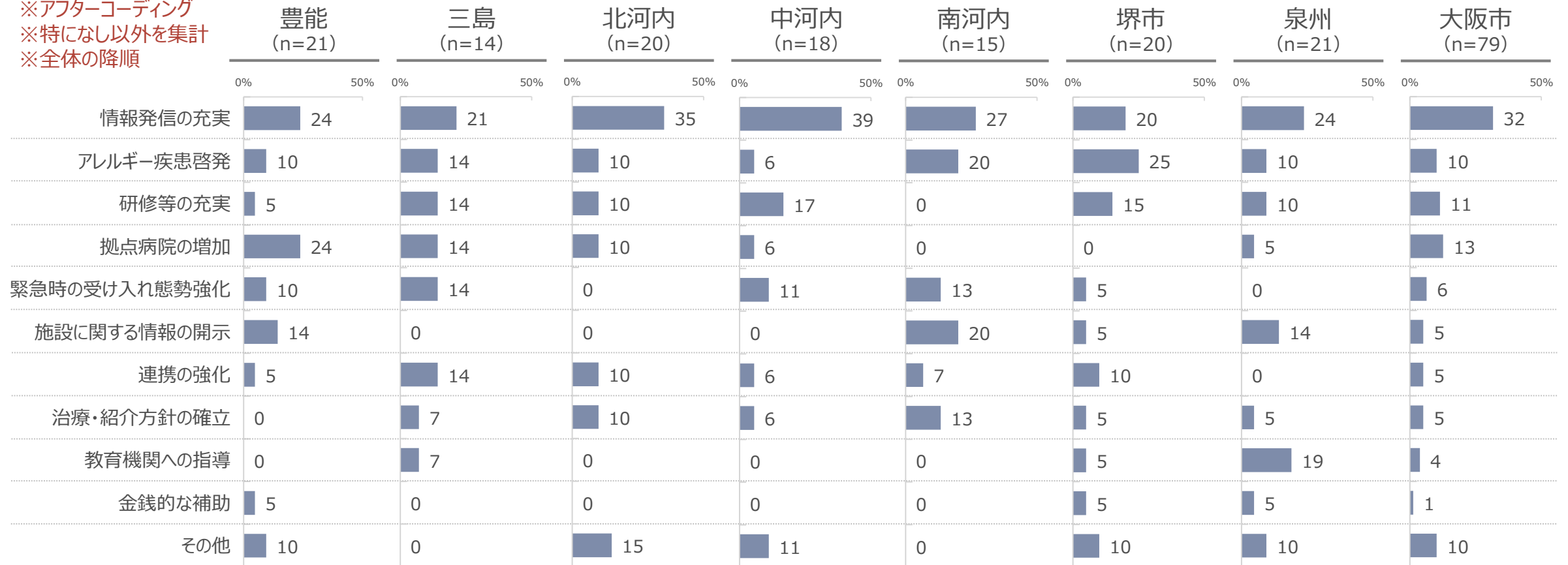
※「特になし」旨を回答した316sを除いて集計



Q16. 大阪府のアレルギー疾患対策について、ご要望がありましたらお聞かせください。

# 【二次医療圏別】 大阪府のアレルギー疾患対策に関する要望

※アフターコーディング  
※特になし以外を集計  
※全体の降順



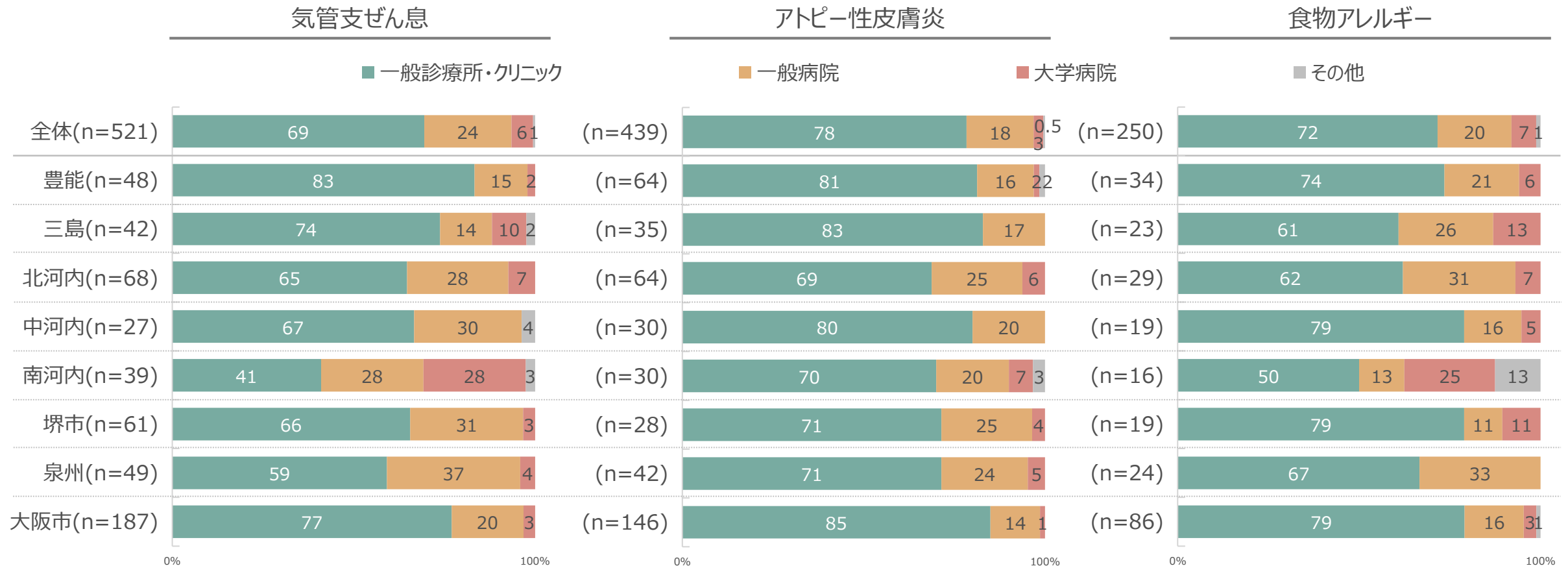
Q16. 大阪府のアレルギー疾患対策について、ご要望がありましたらお聞かせください。

## Ⅲ- ii. 患者調査

### Ⅲ- ii a. アレルギー疾患の受診状況

# 受診している医療機関の施設形態内訳

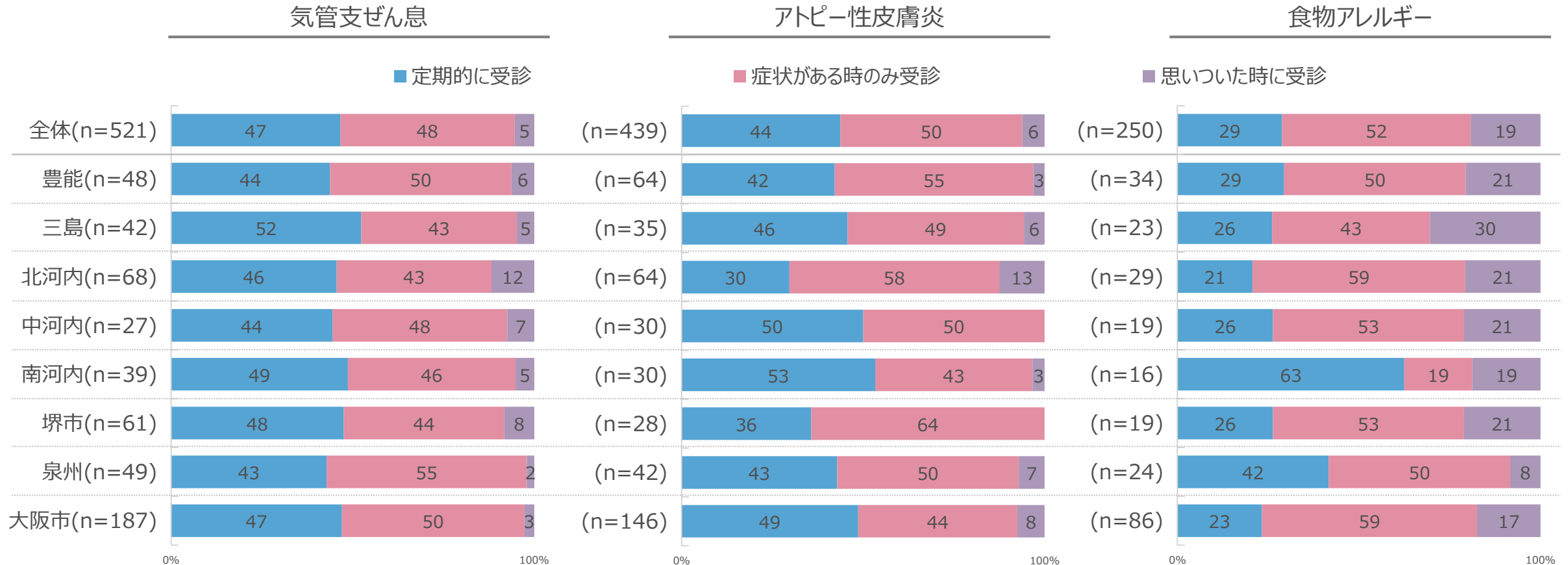
- ✓ いずれのアレルギー疾患についても、最も受診している患者割合が高い施設は一般診療所・クリニック。続いて一般病院であった。
- ✓ 食物アレルギーについては、他の疾患と比較して、大学病院にて受診している患者割合が高い傾向にあった。
- ✓ 南河内では、他の二次医療圏と比較して、大学病院にて受診している患者割合が高い傾向にあった。



Q4. あなたが、現在受診している医療機関についてお答えください。(それぞれひとつだけ)  
 ※各アレルギー疾患に罹患している患者のみ

# 医療機関の受診頻度

- ✓ 医療機関の受診頻度について、いずれのアレルギー疾患でも、最も割合が高いのは「症状があるときのみ受診」であった。
- ✓ 食物アレルギーは、他の疾患と比較して、「定期的に受診」の割合が低い一方で、「思いついた時に受診」の割合が高かった。
- ✓ 南河内では、他の二次医療圏と比較して、食物アレルギーを「定期的に受診」する患者割合が高く、63%であった。



Q5. 医療機関の受診についてお答えください。(ひとつだけ)

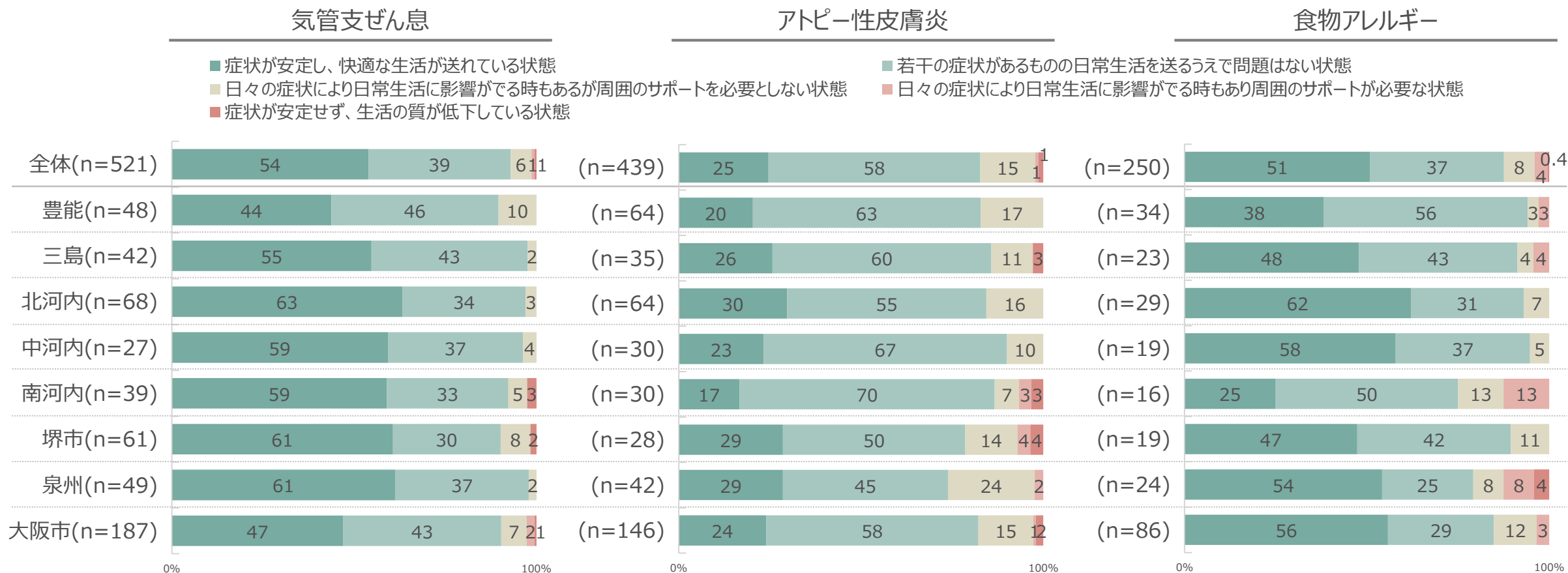
Q8. 医療機関の受診についてお答えください。(ひとつだけ)

Q11. 医療機関の受診についてお答えください。(ひとつだけ)

※各アレルギー疾患に罹患している患者のみ

## アレルギー疾患の症状の度合い

✓ 気管支ぜん息、食物アレルギーについては「症状が安定し、快適な生活が送れている状態」の患者割合が最も高いのに対して、アトピー性皮膚炎については「若干の症状があるものの日常生活を送るうえで問題はない状態」の患者割合が最も高かった。



Q6. 現在の状態についてお答えください。(ひとつだけ)  
 Q9. 現在の状態についてお答えください。(ひとつだけ)  
 Q12. 現在の状態についてお答えください。(ひとつだけ)  
 ※各アレルギー疾患に罹患している患者のみ

# 【医療機関別】 アレルギー疾患の症状の度合い

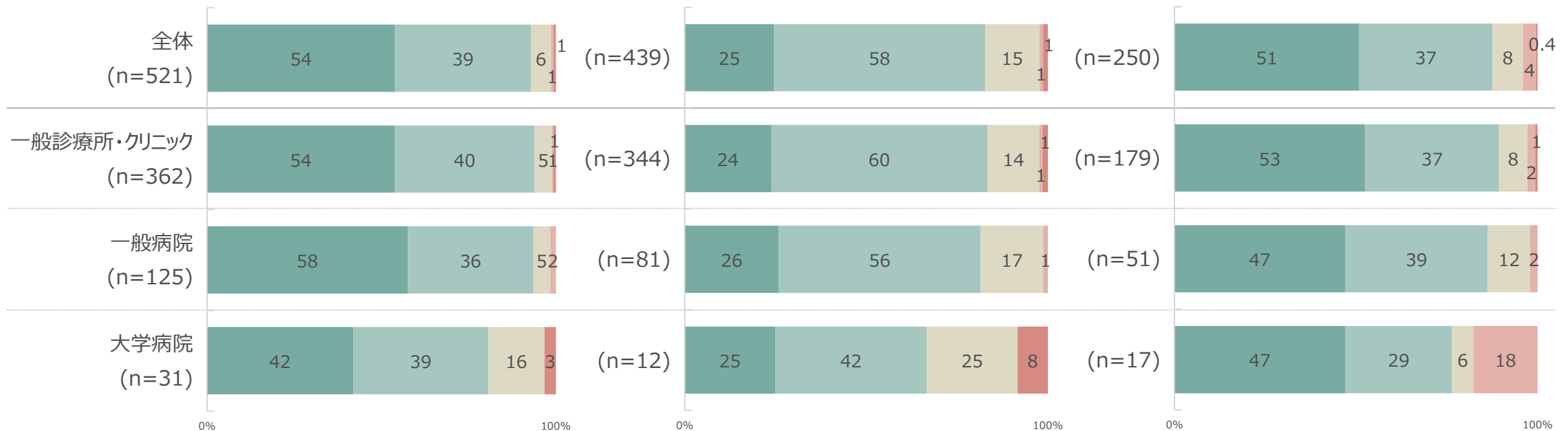
気管支ぜん息

アトピー性皮膚炎

食物アレルギー

- 症状が安定し、快適な生活が送れている状態
- 日々の症状により日常生活に影響がでる時もあるが周囲のサポートを必要としない状態
- 症状が安定せず、生活の質が低下している状態

- 若干の症状があるものの日常生活を送るうえで問題はない状態
- 日々の症状により日常生活に影響がでる時もあり周囲のサポートが必要な状態



Q6. 現在の状態についてお答えください。(ひとつだけ)

Q9. 現在の状態についてお答えください。(ひとつだけ)

Q12. 現在の状態についてお答えください。(ひとつだけ)

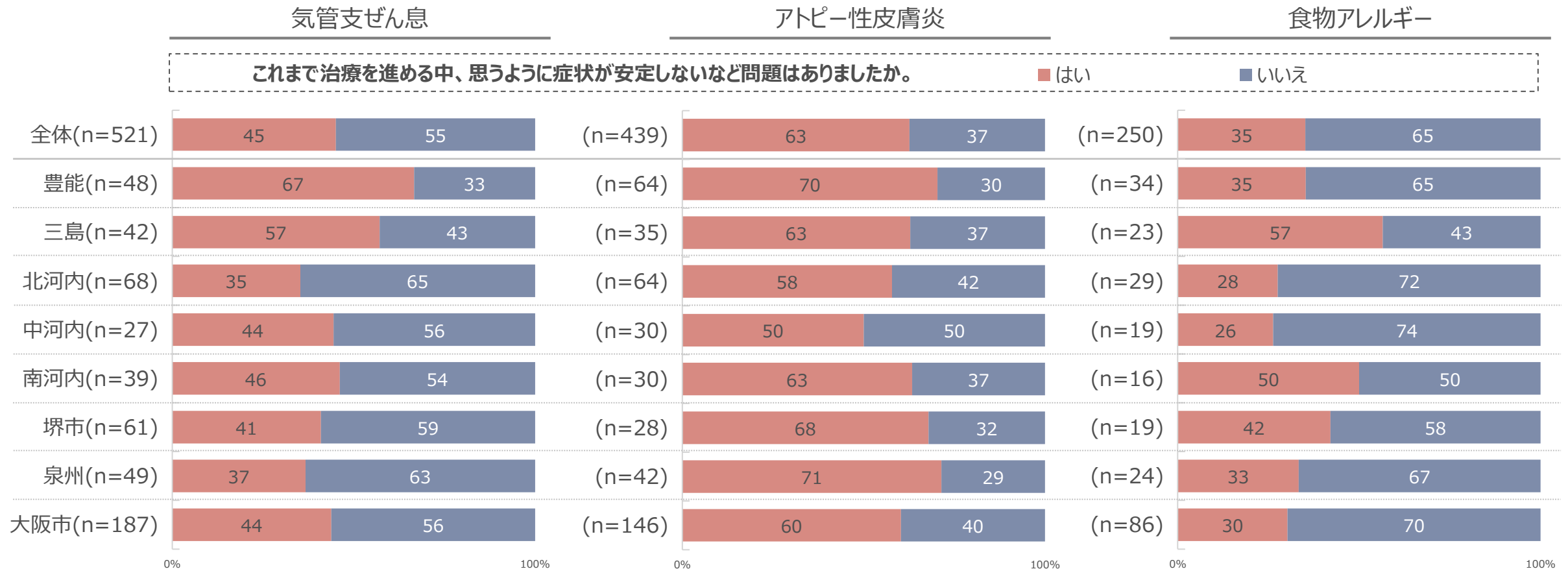
※各アレルギー疾患に罹患している患者のみ、「その他」はサンプル僅少の為掲載なし



### Ⅲ- ii b. アレルギー疾患におけるコントロール不良時の対応実態

# 治療を進める中で何かしらの問題が発生した患者割合

✓ 各アレルギー疾患患者のうち、治療を進める中で何かしらの問題が発生した割合は、気管支ぜん息患者で45%、アトピー性皮膚炎患者で63%、食物アレルギー患者で35%であった。



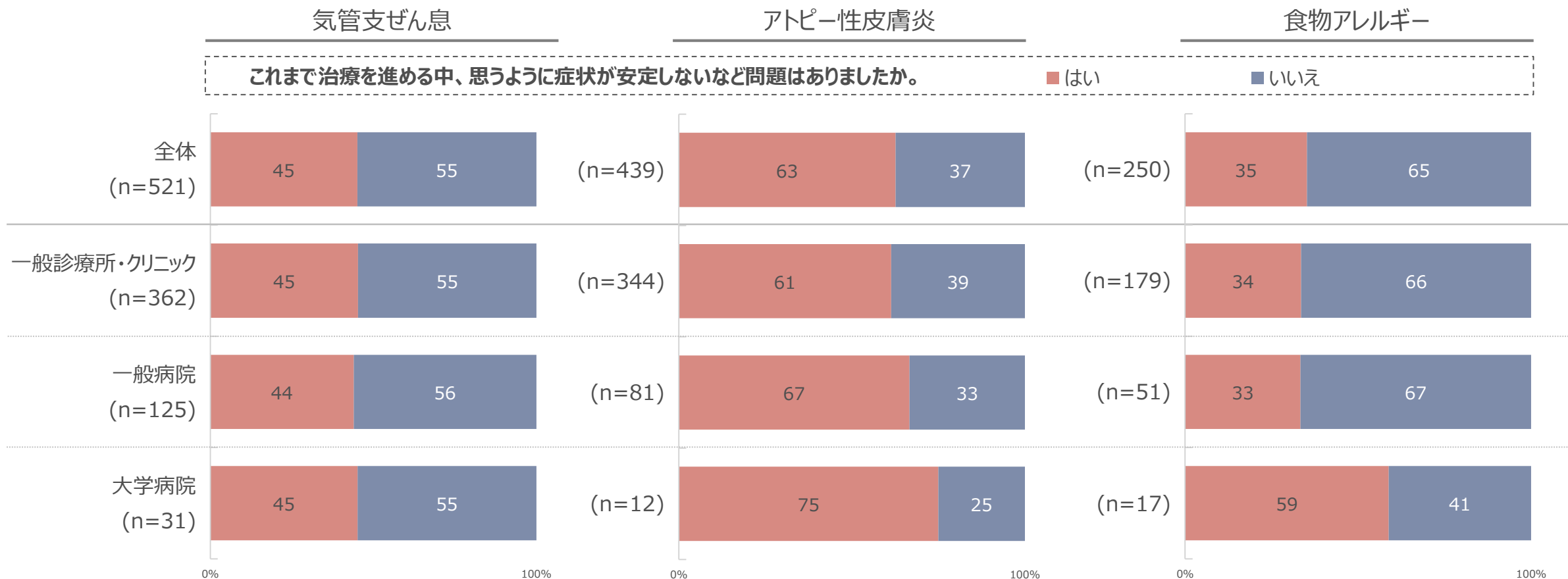
Q7-1. これまで治療を進める中、思うように症状が安定しないなど問題はありましたか。(ひとつだけ)

Q10-1. これまで治療を進める中、思うように症状が安定しないなど問題はありましたか。(ひとつだけ)

Q13-1. これまで治療を進める中、思うように症状が安定しないなど問題はありましたか。(ひとつだけ)

※各アレルギー疾患に罹患している患者のみ

# 【医療機関別】 治療を進める中で何かしらの問題が発生した患者割合

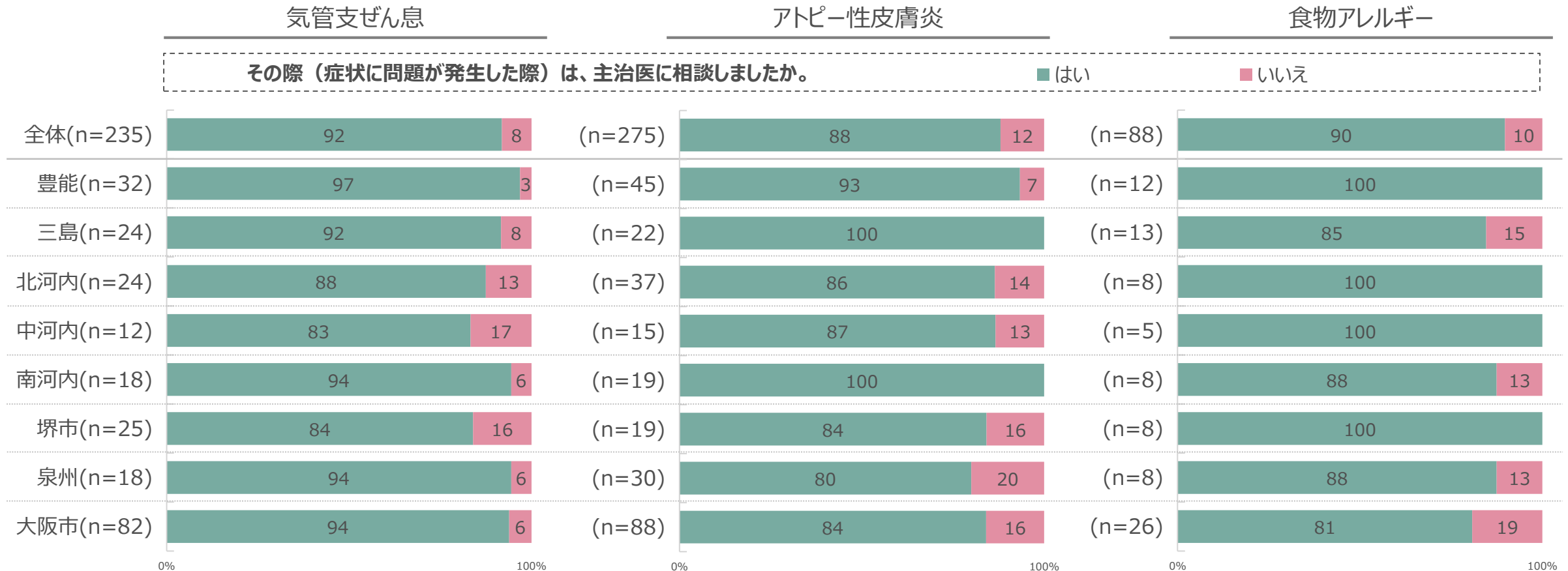


Q7-1. これまで治療を進める中、思うように症状が安定しないなど問題はありましたか。(ひとつだけ)  
 Q10-1. これまで治療を進める中、思うように症状が安定しないなど問題はありましたか。(ひとつだけ)  
 Q13-1. これまで治療を進める中、思うように症状が安定しないなど問題はありましたか。(ひとつだけ)  
 ※各アレルギー疾患に罹患している患者のみ、その他はサンプル僅少の為掲載なし

# 【症状に問題が発生した患者】

## 症状に問題が発生した際の主治医への相談状況

✓ 各アレルギー疾患について、症状に問題が発生した際に主治医に相談した患者割合は、気管支ぜん息で92%、アトピー性皮膚炎で88%、食物アレルギーで90%。



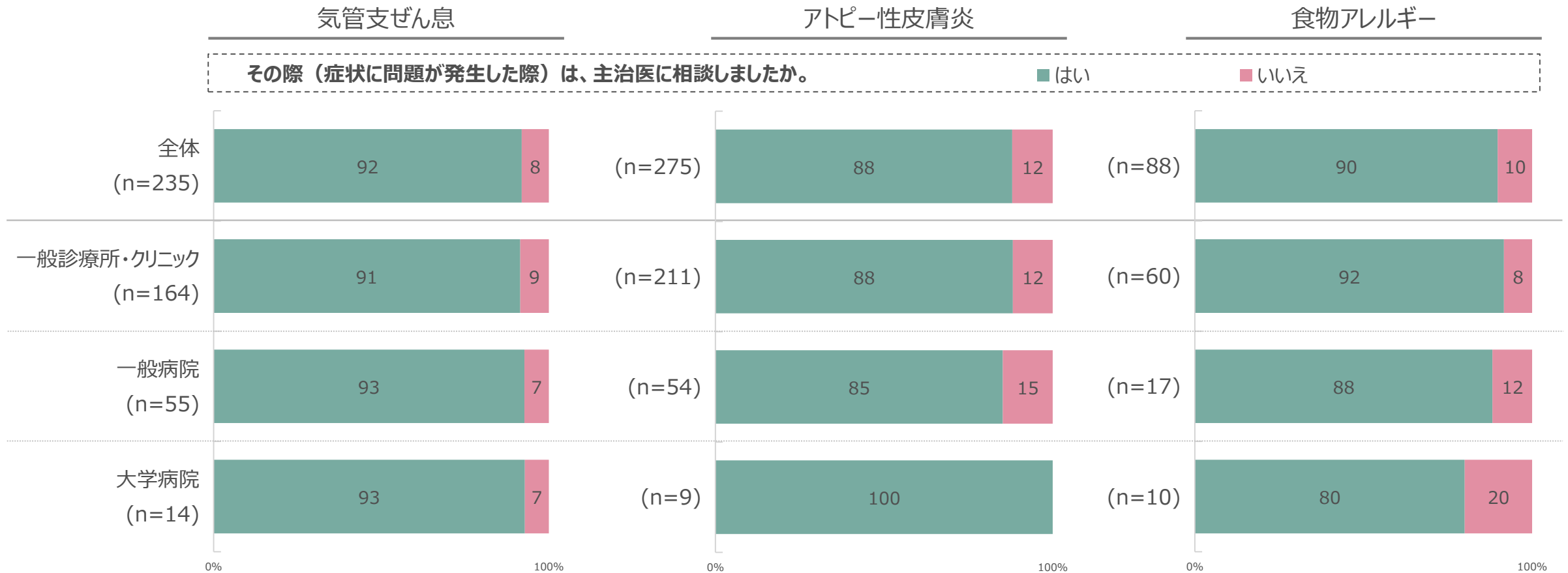
Q7-2. その際は、主治医に相談しましたか。（ひとつだけ）

Q10-2. その際は、主治医に相談しましたか。（ひとつだけ）

Q13-2. その際は、主治医に相談しましたか。（ひとつだけ）

※各アレルギー疾患にて症状が安定しないなどの問題があった患者のみ

# 【医療機関別】 症状に問題が発生した際の主治医への相談状況



Q7-2. その際は、主治医に相談しましたか。（ひとつだけ）

Q10-2. その際は、主治医に相談しましたか。（ひとつだけ）

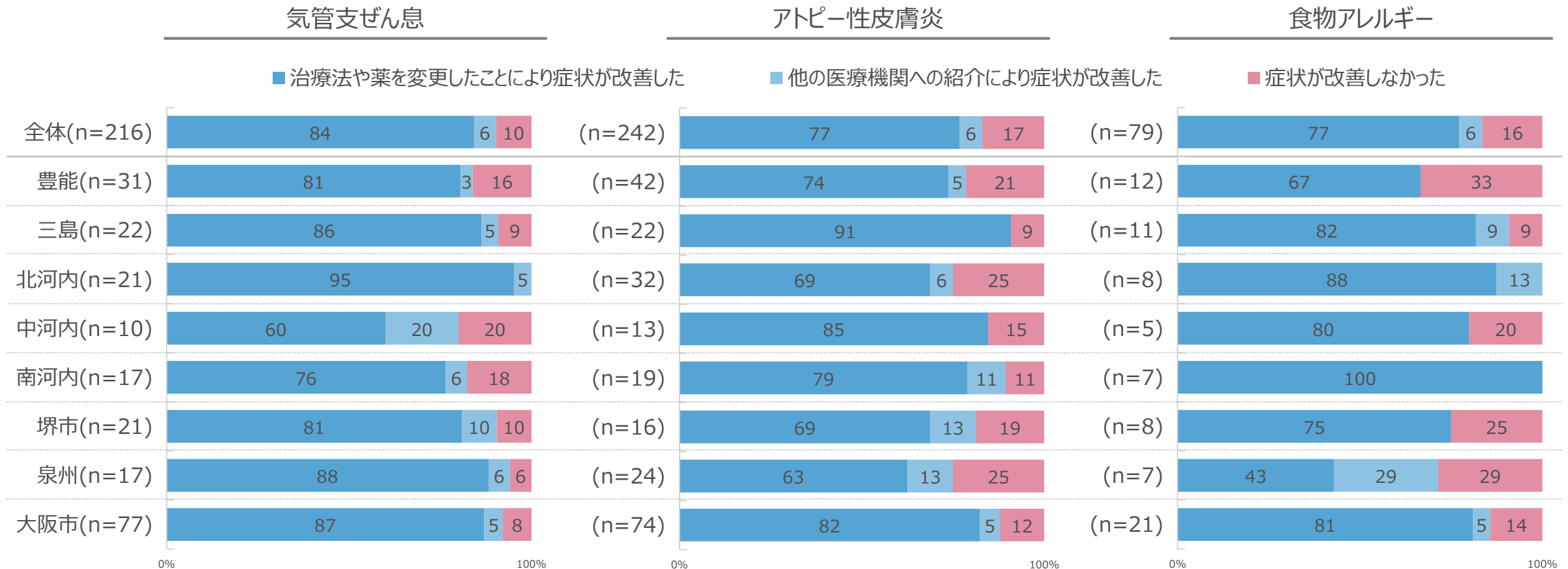
Q13-2. その際は、主治医に相談しましたか。（ひとつだけ）

※各アレルギー疾患にて症状が安定しないなどの問題があった患者のみ、その他はサンプル僅少の為掲載なし

# 【症状に問題が発生して主治医に相談した患者】

## 主治医に相談した場合の症状改善状況

✓ 各アレルギー疾患にて症状に問題が発生した際に主治医に相談した患者について、いずれのアレルギー疾患についても「治療法や薬を変更したことにより症状が改善した」患者割合が最も高かった。



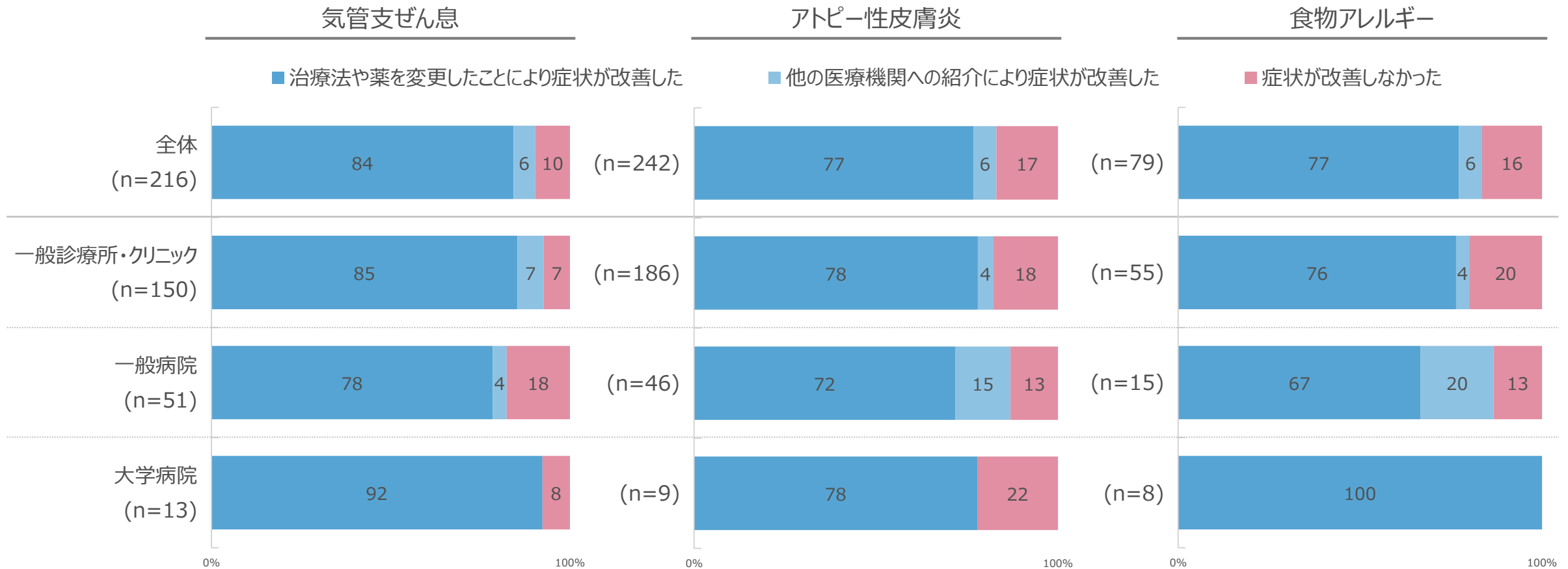
Q7-3. 「主治医に相談した」と回答した方にお聞きします。相談した結果、症状は改善しましたか。(ひとつだけ)

Q10-3. 「主治医に相談した」と回答した方にお聞きします。相談した結果、症状は改善しましたか。(ひとつだけ)

Q13-3. 「主治医に相談した」と回答した方にお聞きします。相談した結果、症状は改善しましたか。(ひとつだけ)

※各アレルギー疾患にて症状が安定しないなど問題が発生した場合に、主治医に相談した患者のみ

# 【医療機関別】 主治医に相談した場合の症状改善状況



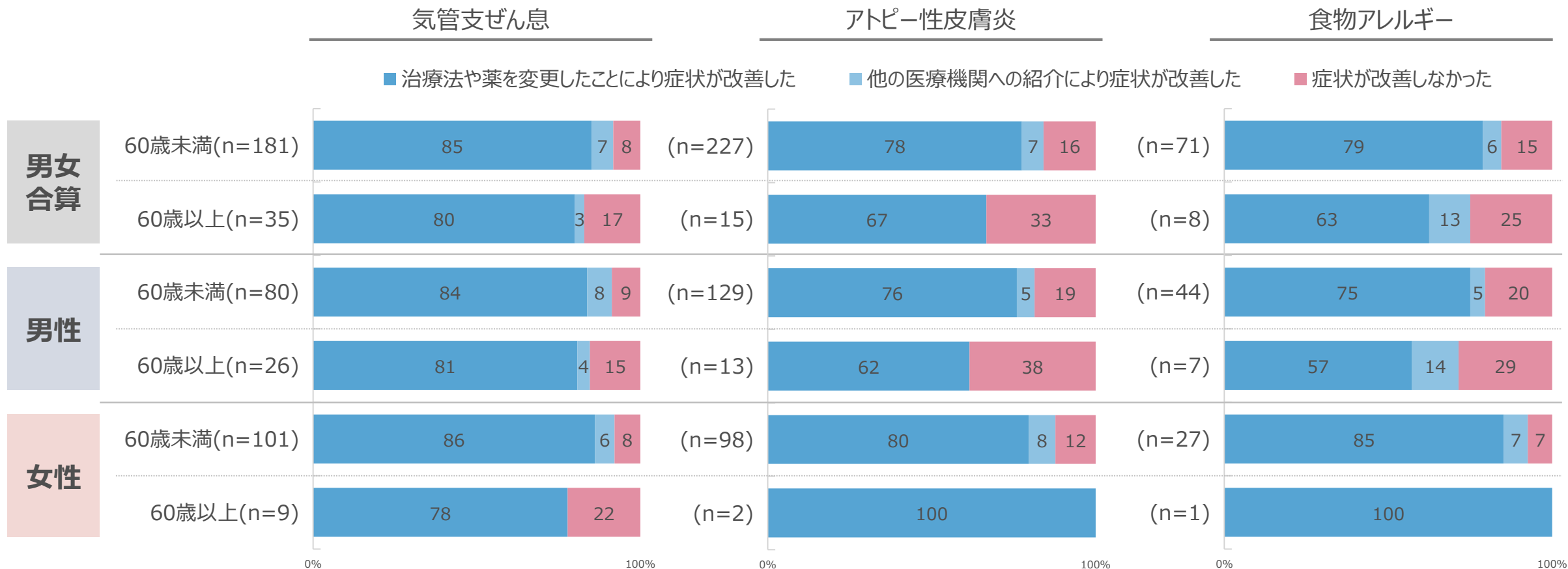
Q7-3. 「主治医に相談した」と回答した方にお聞きします。相談した結果、症状は改善しましたか。(ひとつだけ)

Q10-3. 「主治医に相談した」と回答した方にお聞きします。相談した結果、症状は改善しましたか。(ひとつだけ)

Q13-3. 「主治医に相談した」と回答した方にお聞きします。相談した結果、症状は改善しましたか。(ひとつだけ)

※各アレルギー疾患にて症状が安定しないなど問題が発生した場合に、主治医に相談した患者のみ、その他はサンプル僅少の為掲載なし

# 【性別×年代別】 主治医に相談した結果



Q7-3. 「主治医に相談した」と回答した方にお聞きします。相談した結果、症状は改善しましたか。(ひとつだけ)

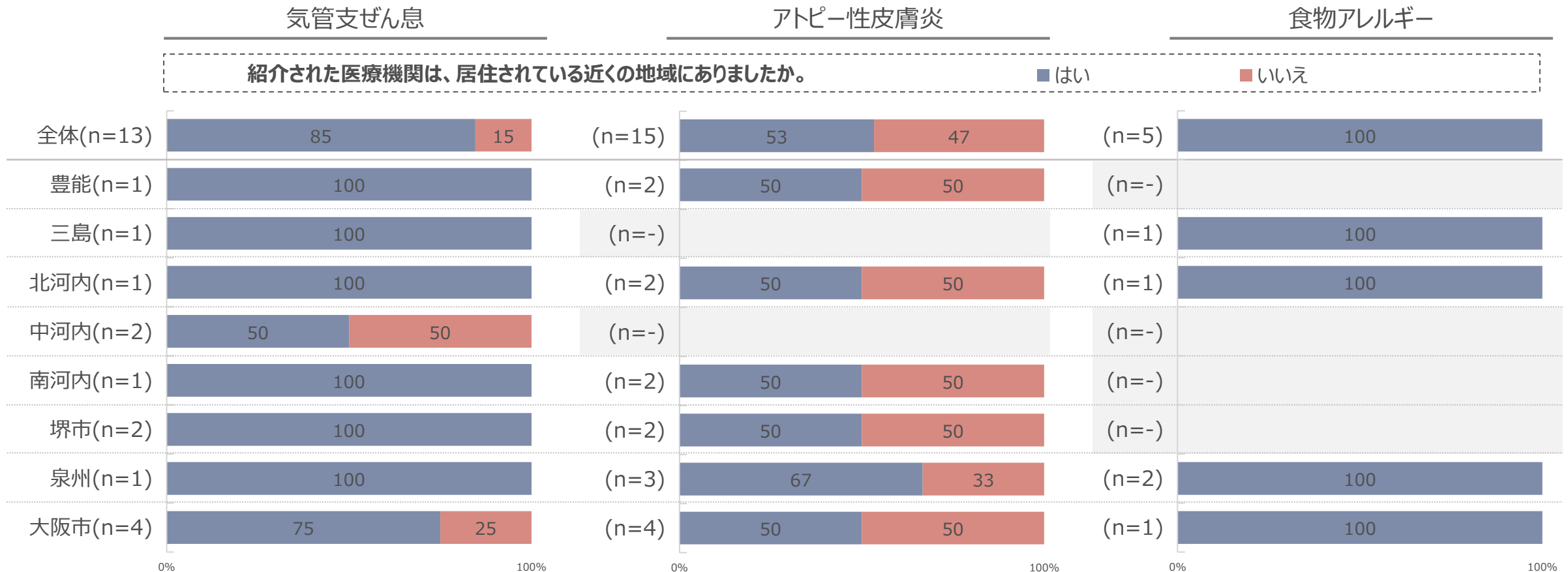
Q10-3. 「主治医に相談した」と回答した方にお聞きします。相談した結果、症状は改善しましたか。(ひとつだけ)

Q13-3. 「主治医に相談した」と回答した方にお聞きします。相談した結果、症状は改善しましたか。(ひとつだけ)

※各アレルギー疾患にて症状が安定しないなど問題が発生した場合に、主治医に相談した患者のみ



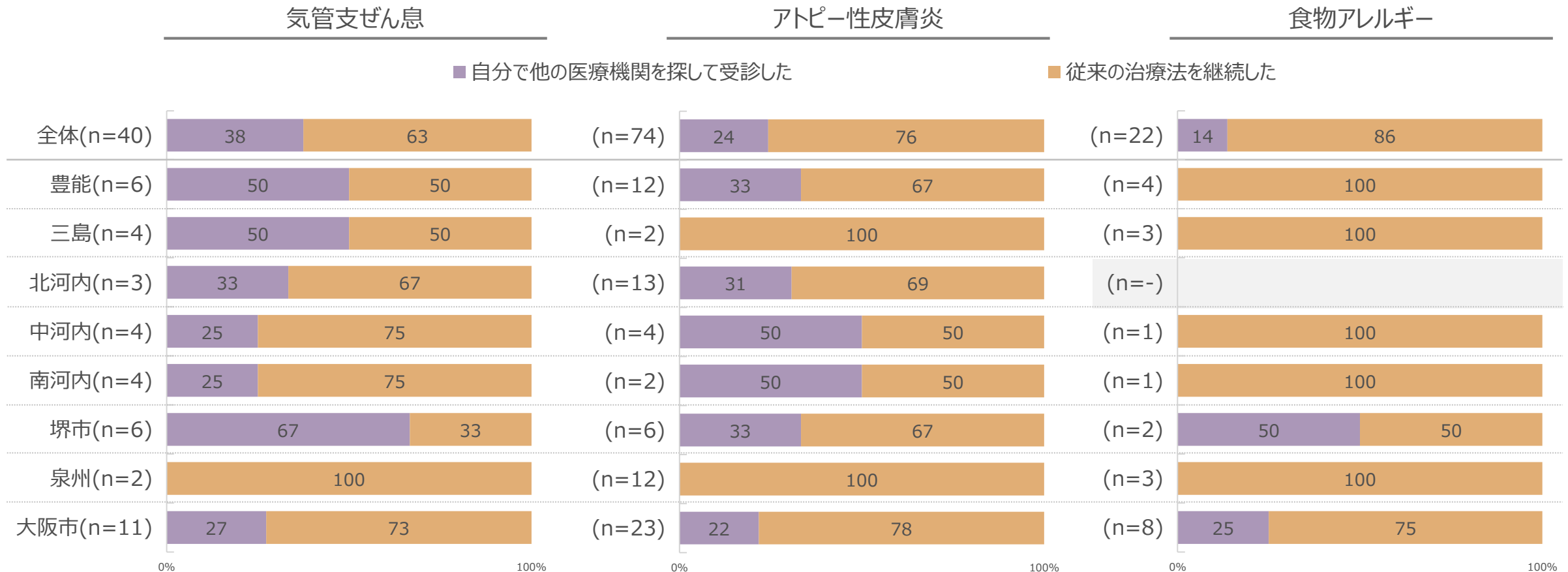
# 【主治医に相談した結果他の医療機関を紹介された患者】 紹介された他の医療機関の所在地（居住地の近くかどうか）



Q7-4. 「他の医療機関への紹介により症状が改善した」と回答した方にお聞きます。紹介された医療機関は、居住されている近くの地域にありましたか。（ひとつだけ）  
 Q10-4. 「他の医療機関への紹介により症状が改善した」と回答した方にお聞きます。紹介された医療機関は、居住されている近くの地域にありましたか。（ひとつだけ）  
 Q13-4. 「他の医療機関への紹介により症状が改善した」と回答した方にお聞きます。紹介された医療機関は、居住されている近くの地域にありましたか。（ひとつだけ）  
 ※各アレルギー疾患にて症状が安定しないなど問題が発生した場合に、主治医に相談し、他の医療機関への紹介により症状が改善した患者のみ

# 【主治医に相談しなかった／相談したが症状が改善しなかった患者】 その後の対応

✓ 各アレルギー疾患にて症状が安定しないなどの問題が発生した場合に、主治医に相談し、他の医療機関への紹介により症状が改善しなかった患者について、いずれのアレルギー疾患患者についても、「自分で他の医療機関を探して受診した」割合よりも「従来の治療法を継続した」割合の方が高かった。



Q7-5. 「主治医に相談しなかった」と回答した方、また「主治医に相談したが症状が改善しなかった」と回答した方にお聞きます。その後はどうされましたか。(ひとつだけ)

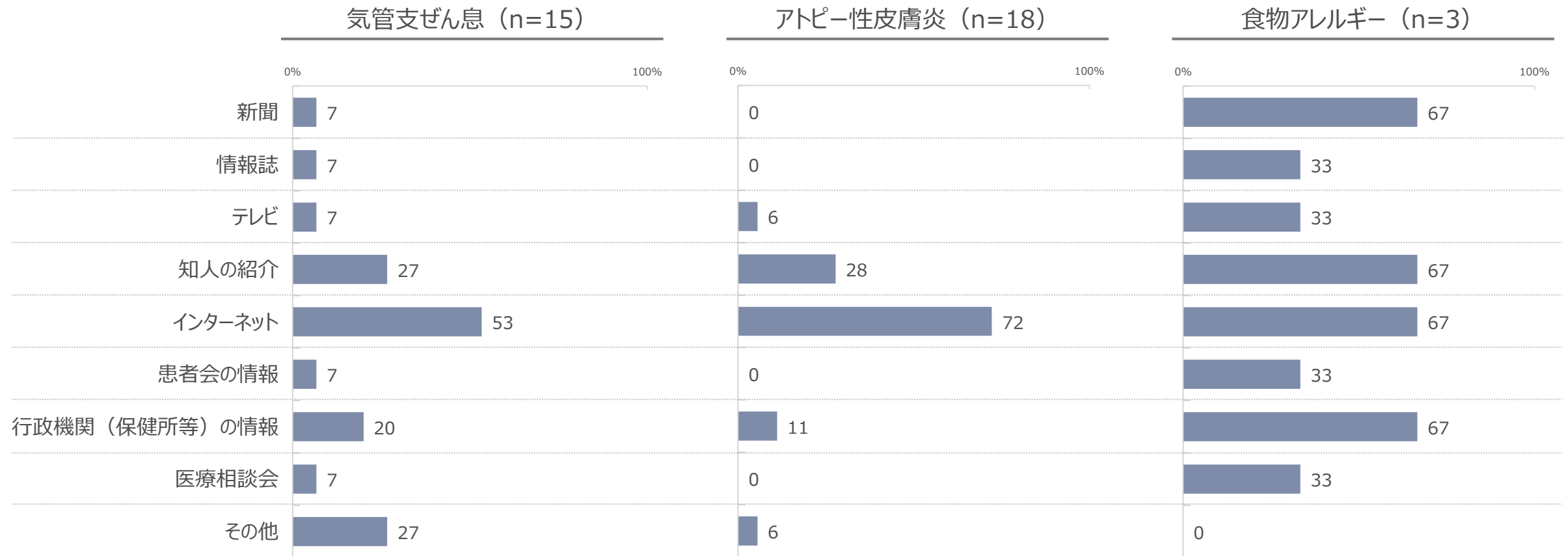
Q10-5. 「主治医に相談しなかった」と回答した方、また「主治医に相談したが症状が改善しなかった」と回答した方にお聞きます。その後はどうされましたか。(ひとつだけ)

Q13-5. 「主治医に相談しなかった」と回答した方、また「主治医に相談したが症状が改善しなかった」と回答した方にお聞きます。その後はどうされましたか。(ひとつだけ)

※各アレルギー疾患にて症状が安定しないなど問題が発生した場合に、主治医に相談しなかった、あるいは主治医に相談したにもかかわらず症状が改善しなかった患者のみ

# 【全体】 医療機関を探した方法

✓ 自分で他の医療機関を探した患者について、探した方法としては、いずれのアレルギー疾患患者についても「インターネット」の割合が最も高かった。



Q7-6. 「自分で他の医療機関を探して受診した」と回答した方にお聞きます。その医療機関を、どのように探されましたか。（複数回答可）

Q10-6. 「自分で他の医療機関を探して受診した」と回答した方にお聞きます。その医療機関を、どのように探されましたか。（複数回答可）

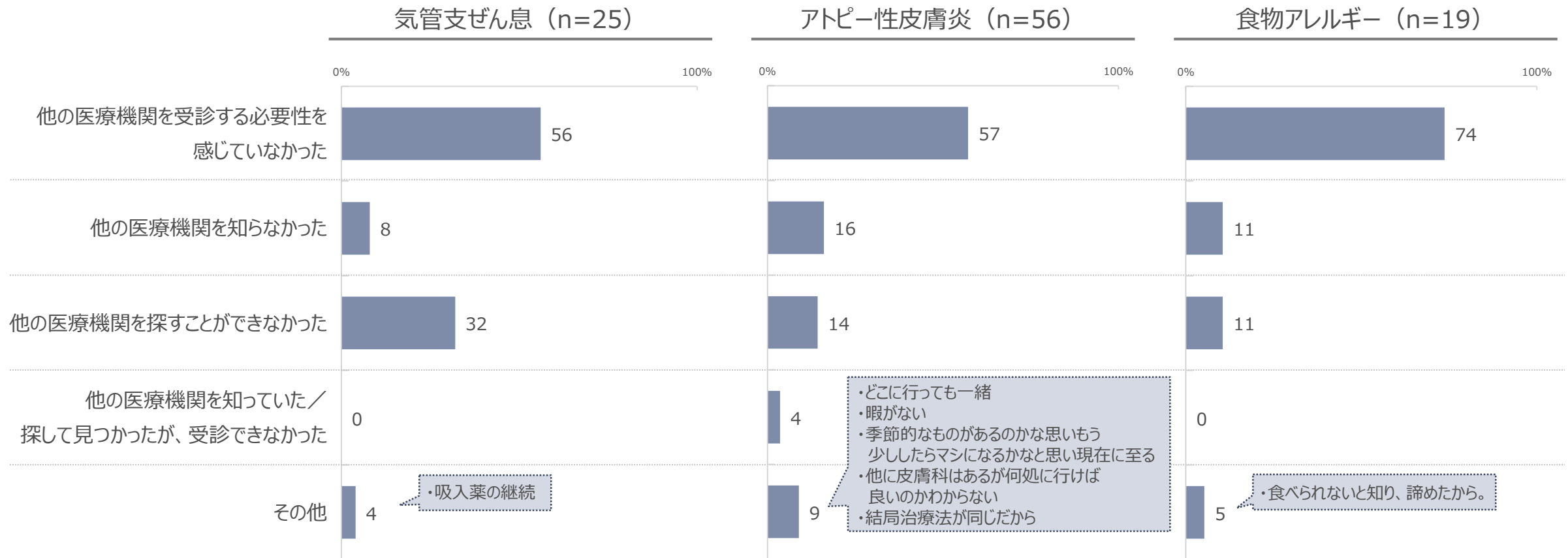
Q13-6. 「自分で他の医療機関を探して受診した」と回答した方にお聞きます。その医療機関を、どのように探されましたか。（複数回答可）

※各アレルギー疾患にて症状が安定しないなど問題が発生した場合、主治医に相談しなかった、あるいは主治医に相談したにもかかわらず症状が改善せず、自分で他の医療機関を探して受診した患者のみ

## 【全体】

## 症状が改善しないにもかかわらず従来の治療法を継続した理由

✓ 症状が改善しないにもかかわらず従来の治療法を継続した理由について、いずれのアレルギー疾患についても、最も割合が高かったのは「他の医療機関を受診する必要性を感じていなかった」であった。



Q7-7. 「従来の治療法を継続した」と回答した方にお聞きます。理由を教えてください。(複数回答可)

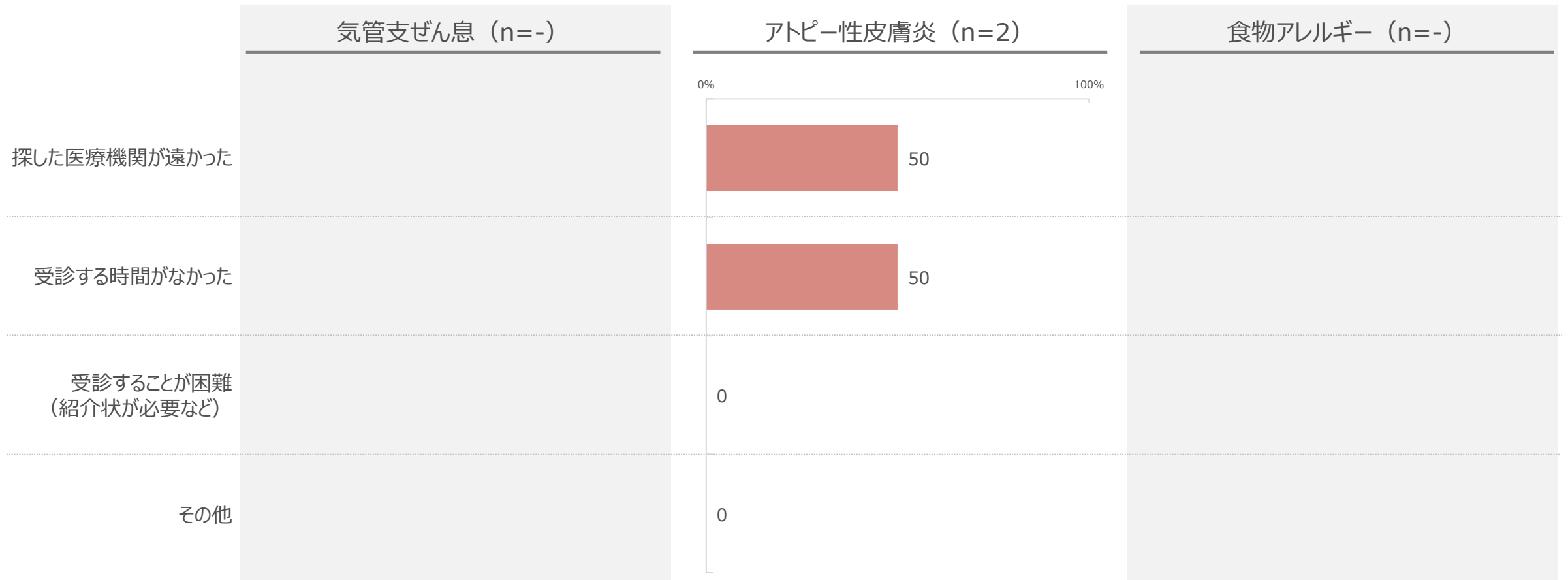
Q10-7. 「従来の治療法を継続した」と回答した方にお聞きます。理由を教えてください。(複数回答可)

Q13-7. 「従来の治療法を継続した」と回答した方にお聞きます。理由を教えてください。(複数回答可)

※各アレルギー疾患にて症状が安定しないなど問題が発生した場合に、主治医に相談しなかった、あるいは主治医に相談したにもかかわらず症状が改善せず、従来の治療法を継続した患者のみ

## 【全体】

## 他の医療機関を知っていた/見つけたのに受診まで至らなかった理由



Q7-8. 「他の医療機関を知っていた/探して見つけたが、受診できなかった」と回答した方にお聞きします。受診できなかった理由を教えてください。(複数回答可)

Q10-8. 「他の医療機関を知っていた/探して見つけたが、受診できなかった」と回答した方にお聞きします。受診できなかった理由を教えてください。(複数回答可)

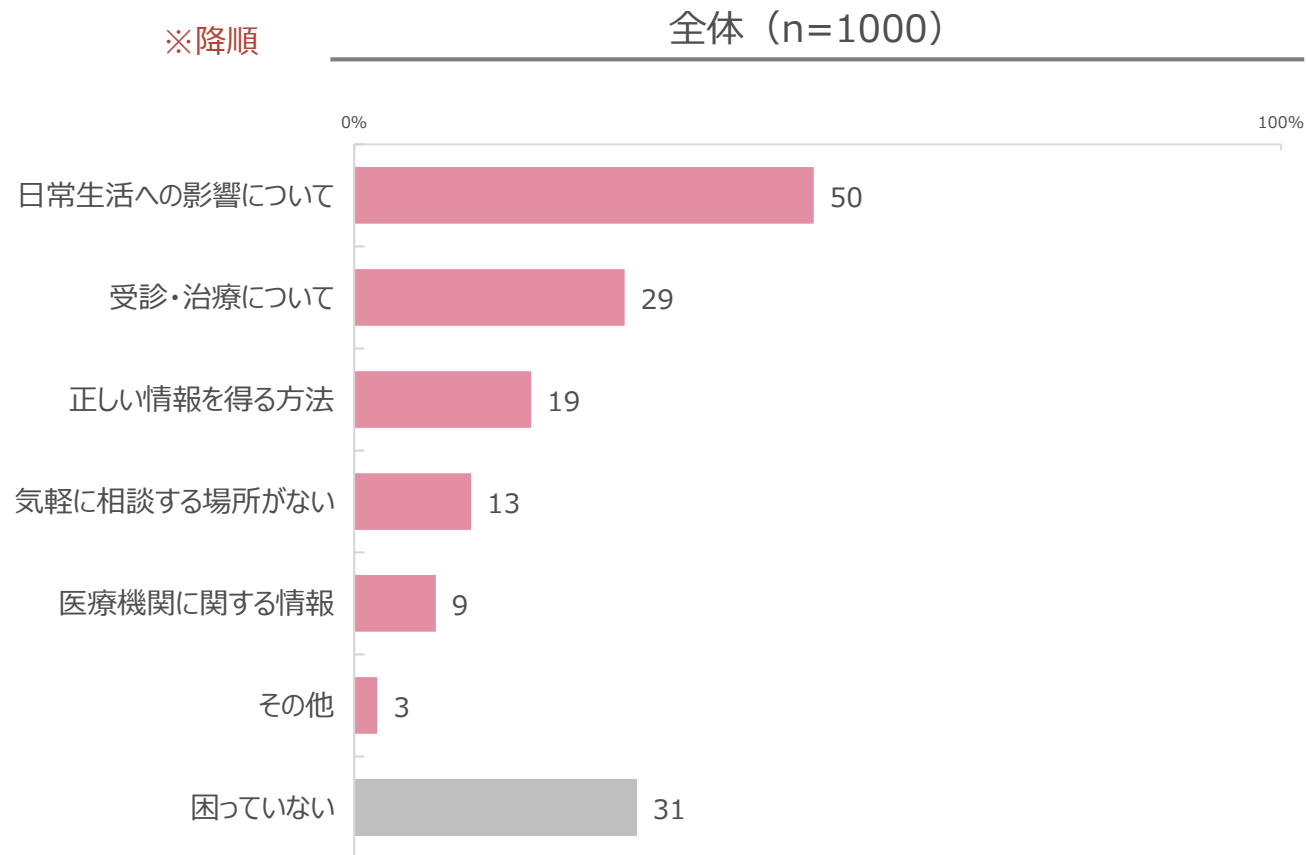
Q13-8. 「他の医療機関を知っていた/探して見つけたが、受診できなかった」と回答した方にお聞きします。受診できなかった理由を教えてください。(複数回答可)

※各アレルギー疾患にて症状が安定しないなど問題が発生した場合に、主治医に相談しなかった、あるいは主治医に相談したにもかかわらず症状が改善せず、従来の治療法を継続した理由として、他の医療機関を知っていた/探して見つけたが、受診できなかったと回答した患者のみ

### Ⅲ- ii c. アレルギー疾患治療に対する患者ニーズ

# 【全体】 アレルギー疾患で困っていること

- ✓ アレルギー疾患で困っていることとして最も割合が高かったのは「日常生活への影響について」50%。続いて、「受診・治療について」29%、「正しい情報を得る方法」19%、「気軽に相談する場所がない」13%、「医療機関に関する情報」9%であった。
- ✓ 一方、「困っていない」を選択した患者割合は31%であった。

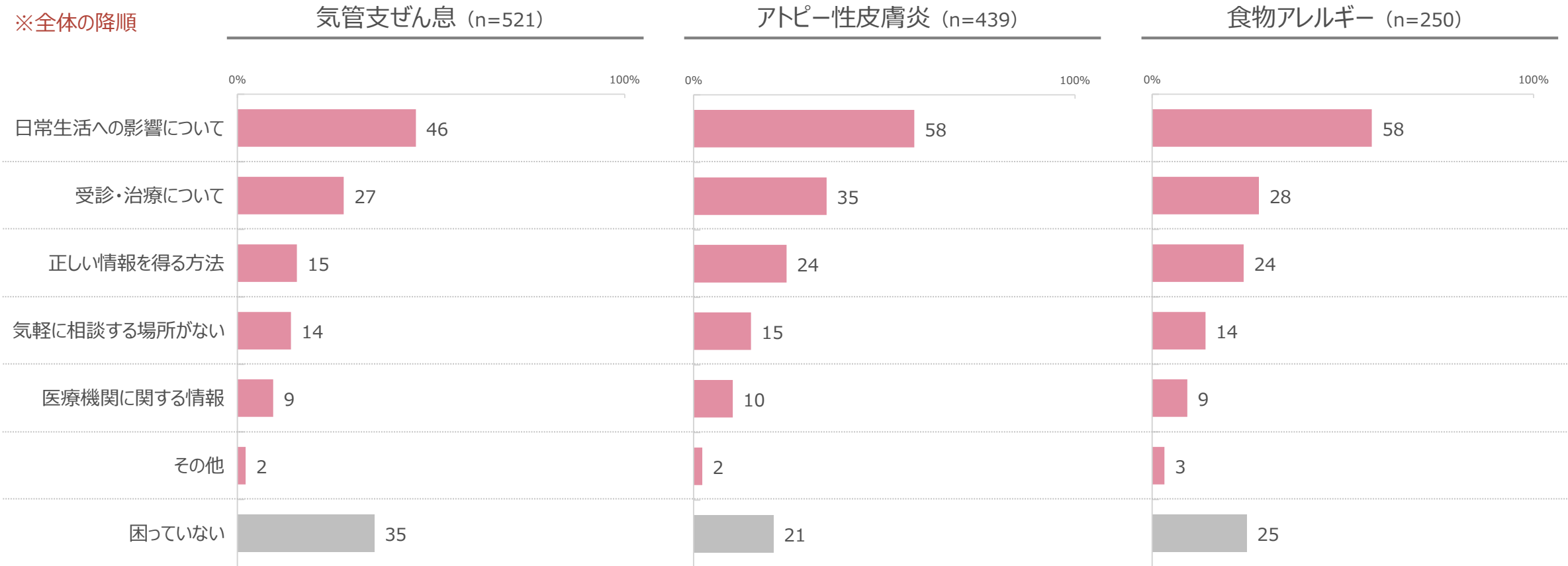


Q14. アレルギー疾患で困っていることは何ですか。(複数回答可)

# 【アレルギー疾患別】 アレルギー疾患で困っていること

- ✓ アレルギー疾患別にみると、アレルギー疾患で困っていることとして最も割合が高かったのは、いずれの疾患でも「日常生活への影響について」であった。
- ✓ 気管支ぜん息患者はそれ以外の患者と比較して「日常生活への影響について」、「正しい情報を得る方法」について困っている割合が低く、「困っていない」割合が高かった。一方、アトピー性皮膚炎患者は、それ以外の患者と比較して「受診・治療について」困っている割合が高かった。

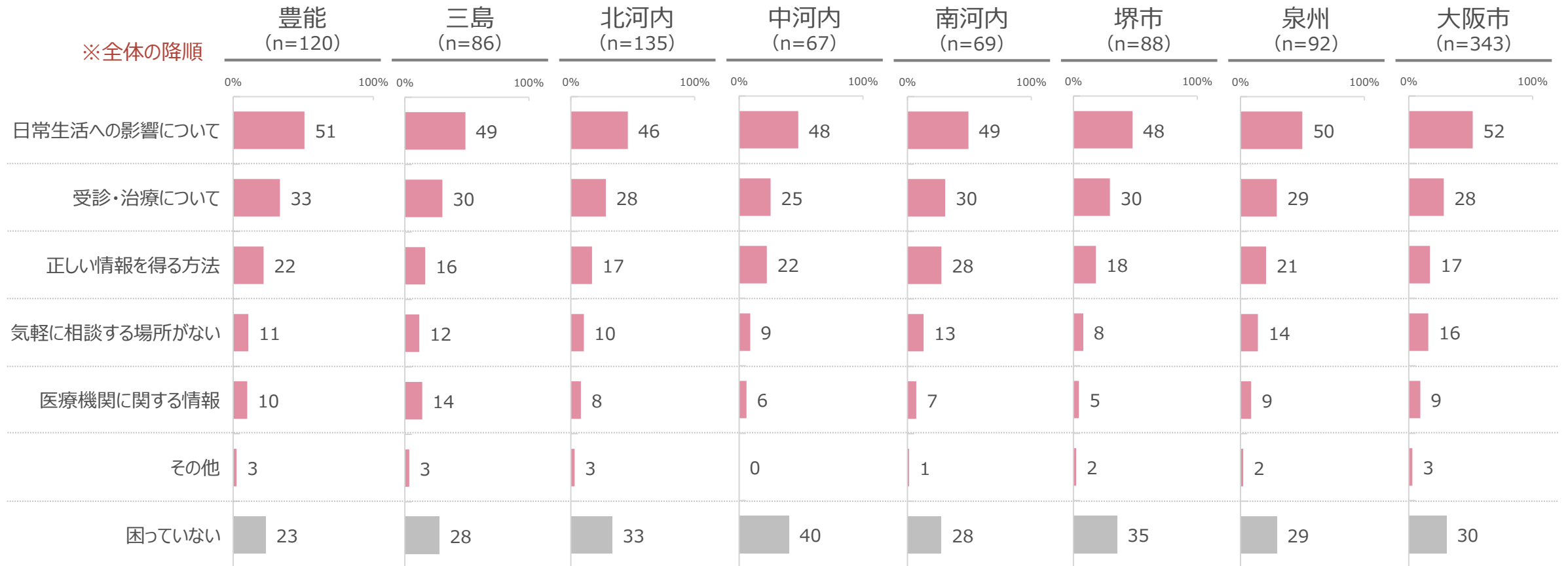
※全体の降順



Q14. アレルギー疾患で困っていることは何ですか。(複数回答可)



# 【二次医療圏別】 アレルギー疾患で困っていること

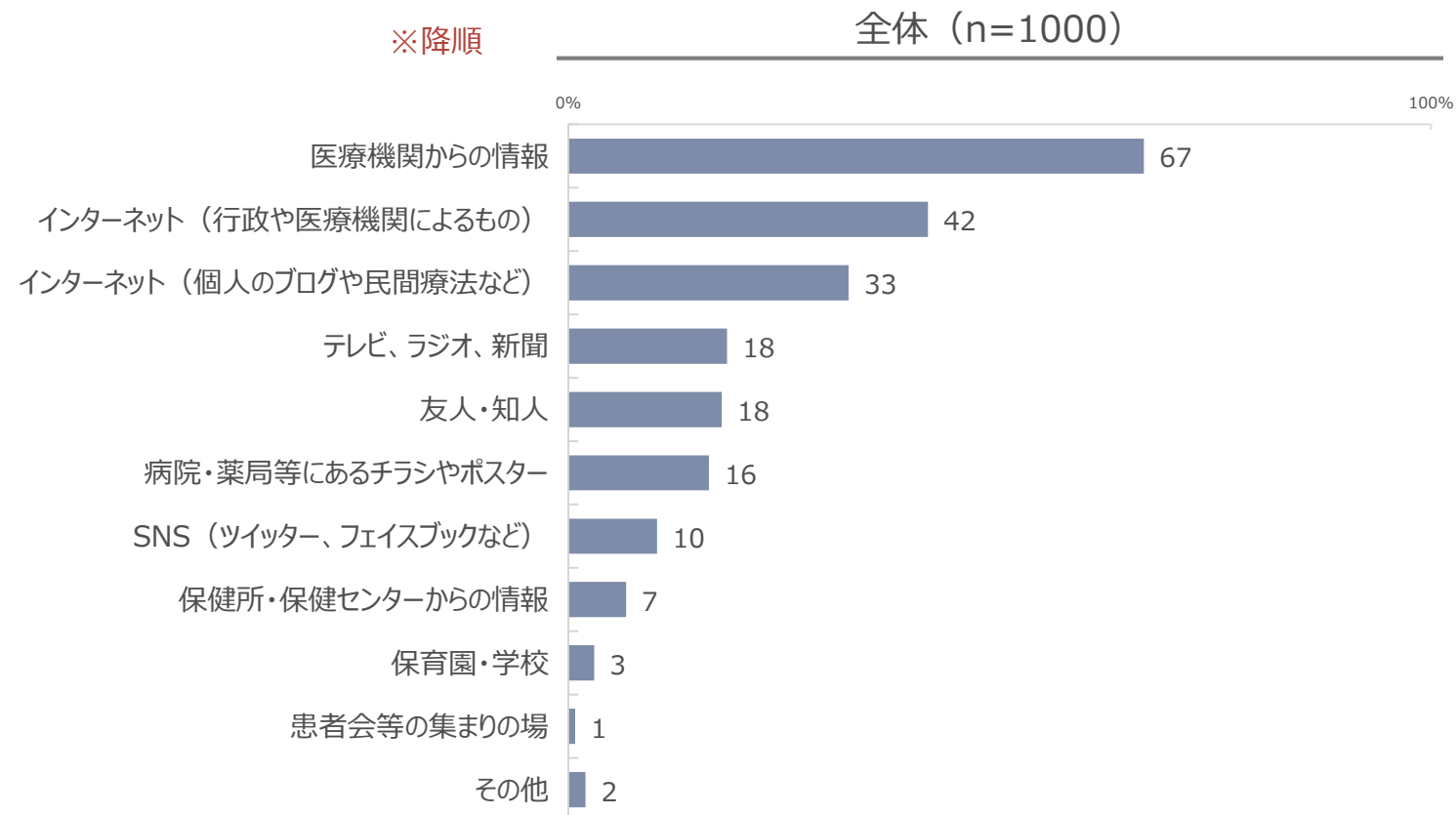


Q14. アレルギー疾患で困っていることは何ですか。(複数回答可)

# 【全体】

## 日頃のアレルギーに関する情報の入手方法

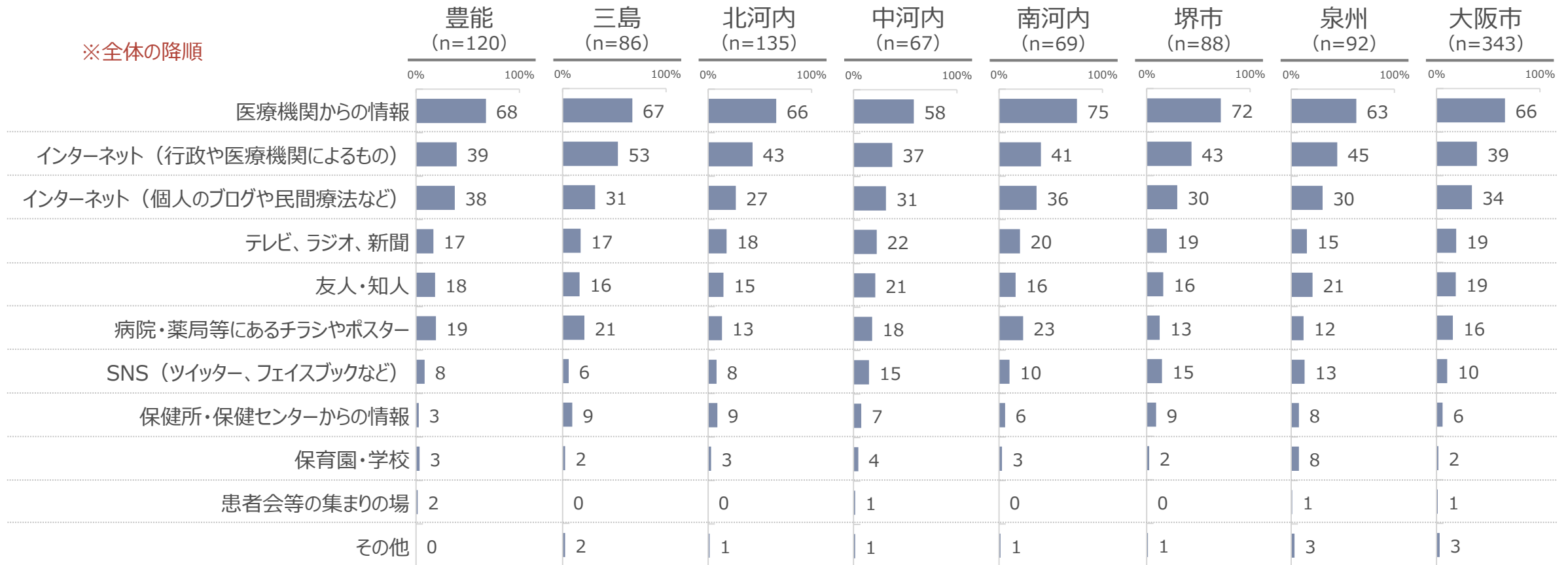
✓ 日頃のアレルギーに関する情報の入手方法として、最も割合が高いのは「医療機関からの情報」67%。続いて、「インターネット（行政や医療機関によるもの）」42%、「インターネット（個人のブログや民間療法など）」33%、「テレビ、ラジオ、新聞」18%、「友人・知人」18%であった。



Q15. 日頃、アレルギーに関する情報（病気や治療、療養生活など）をどのような手段で得ていますか。（複数回答可）

# 【二次医療圏別】 日頃のアレルギーに関する情報の入手方法

※全体の降順

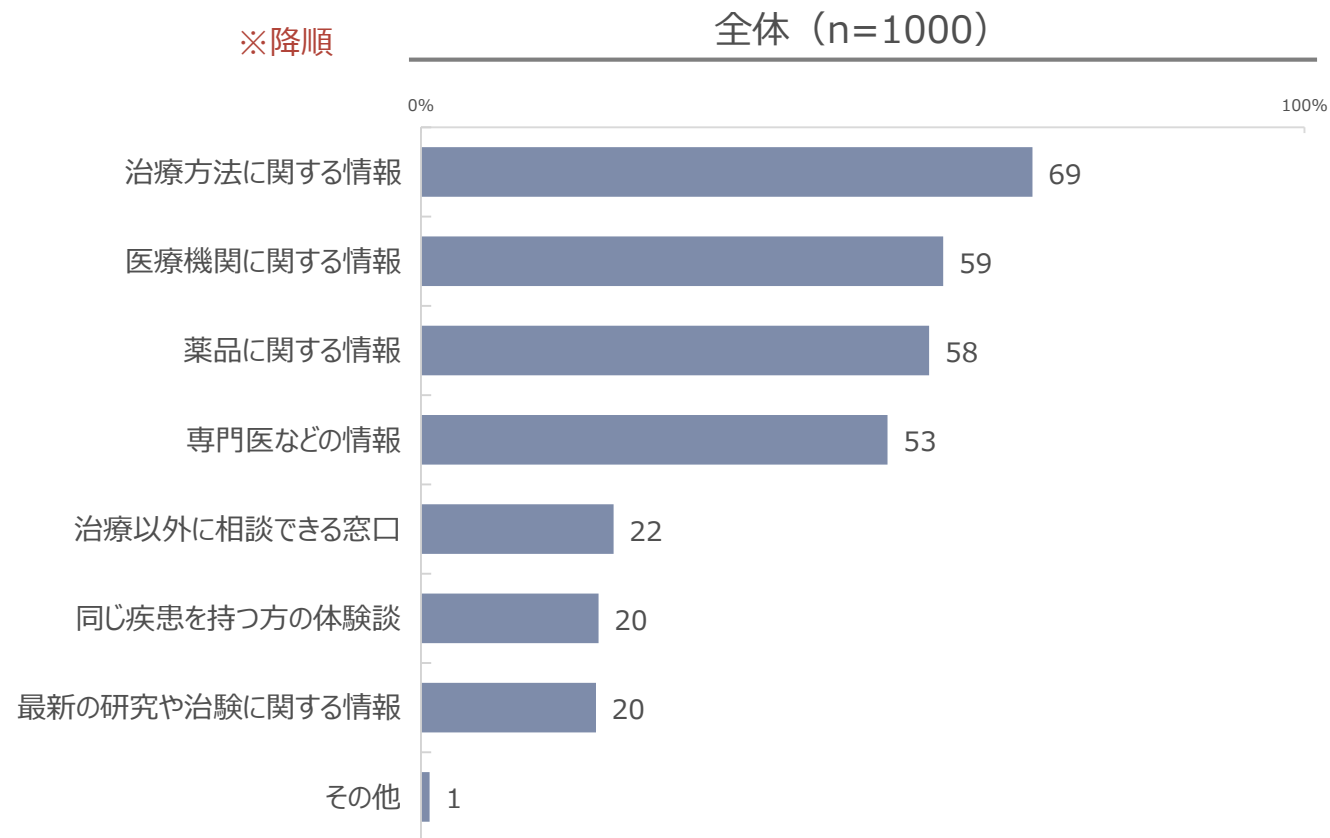


Q15. 日頃、アレルギーに関する情報（病気や治療、療養生活など）をどのような手段で得ていますか。（複数回答可）

## 【全体】

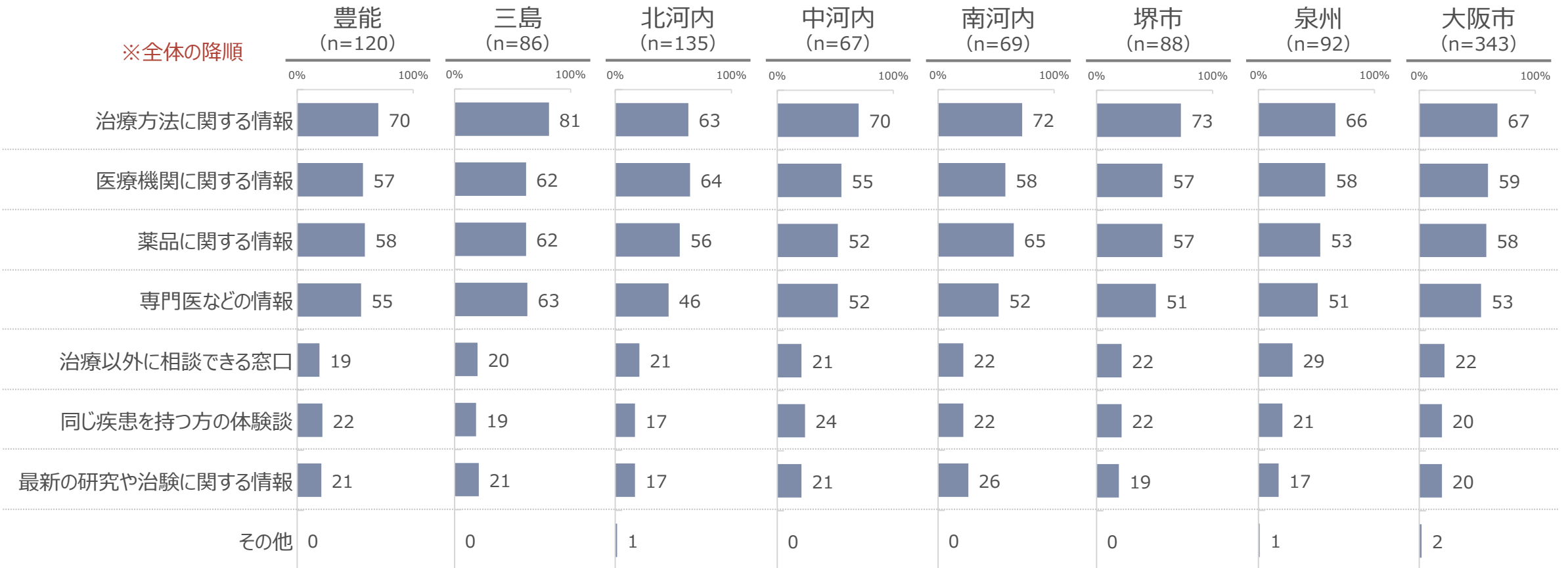
## アレルギー疾患とつきあっていくうえで必要だと思う情報

✓ アレルギー疾患とつきあっていくうえで必要だと思う情報として最も割合が高いのは「治療方法に関する情報」69%。続いて、「医療機関に関する情報」59%、「薬品に関する情報」58%、「専門医などの情報」53%であった。



Q16. アレルギー疾患と付き合っていくうえでどのような情報が必要だと思いますか。(複数回答可)

# 【二次医療圏別】 アレルギー疾患とつきあっていくうえで必要だと思う情報

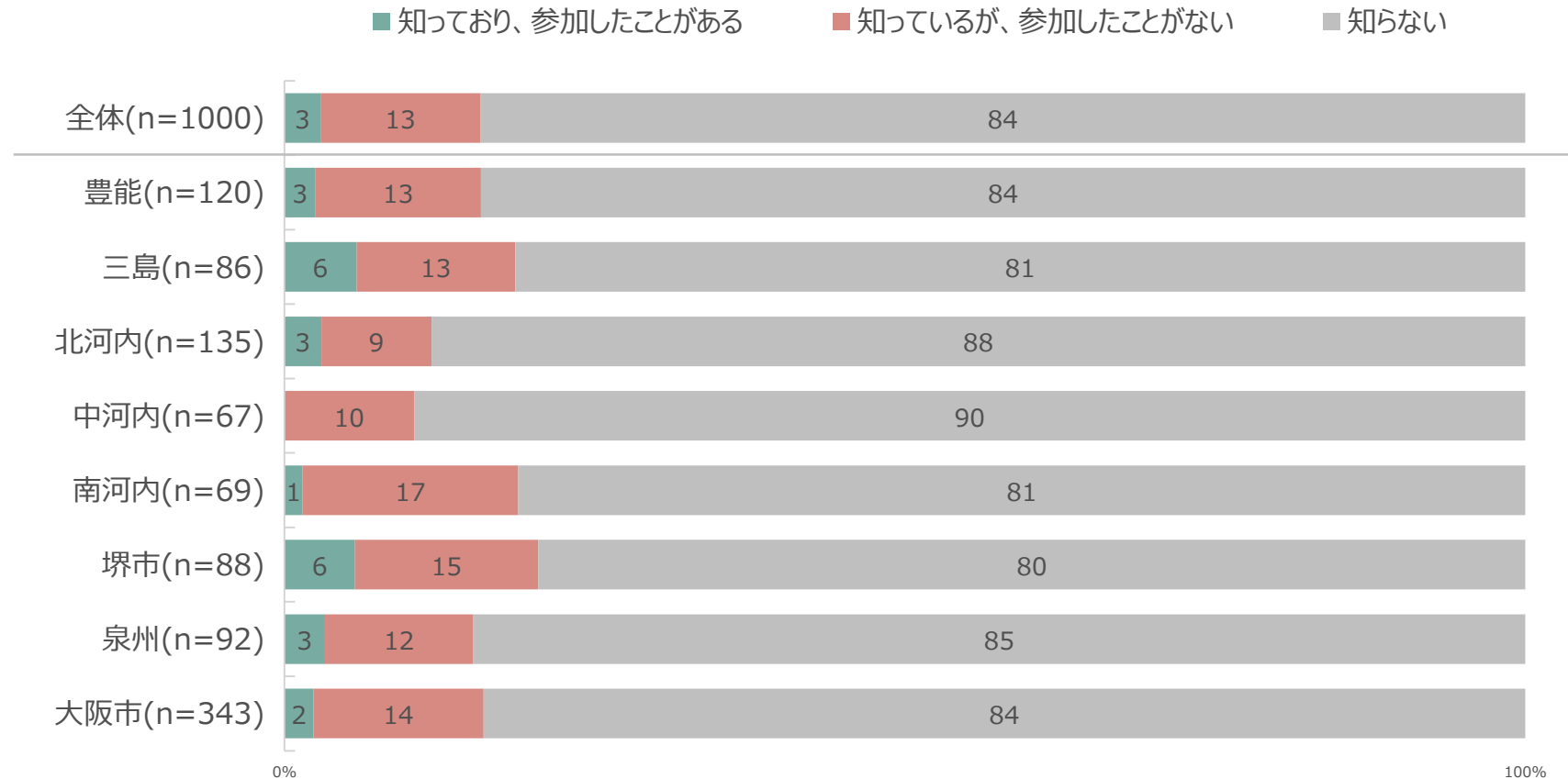


Q16. アレルギー疾患と付きあっていくうえでどのような情報が必要だと思いますか。(複数回答可)

### Ⅲ- ii d. 大阪府の取り組みに対する認知・今後の期待事項

## 大阪府がアレルギー疾患講演会を実施していることの認知度

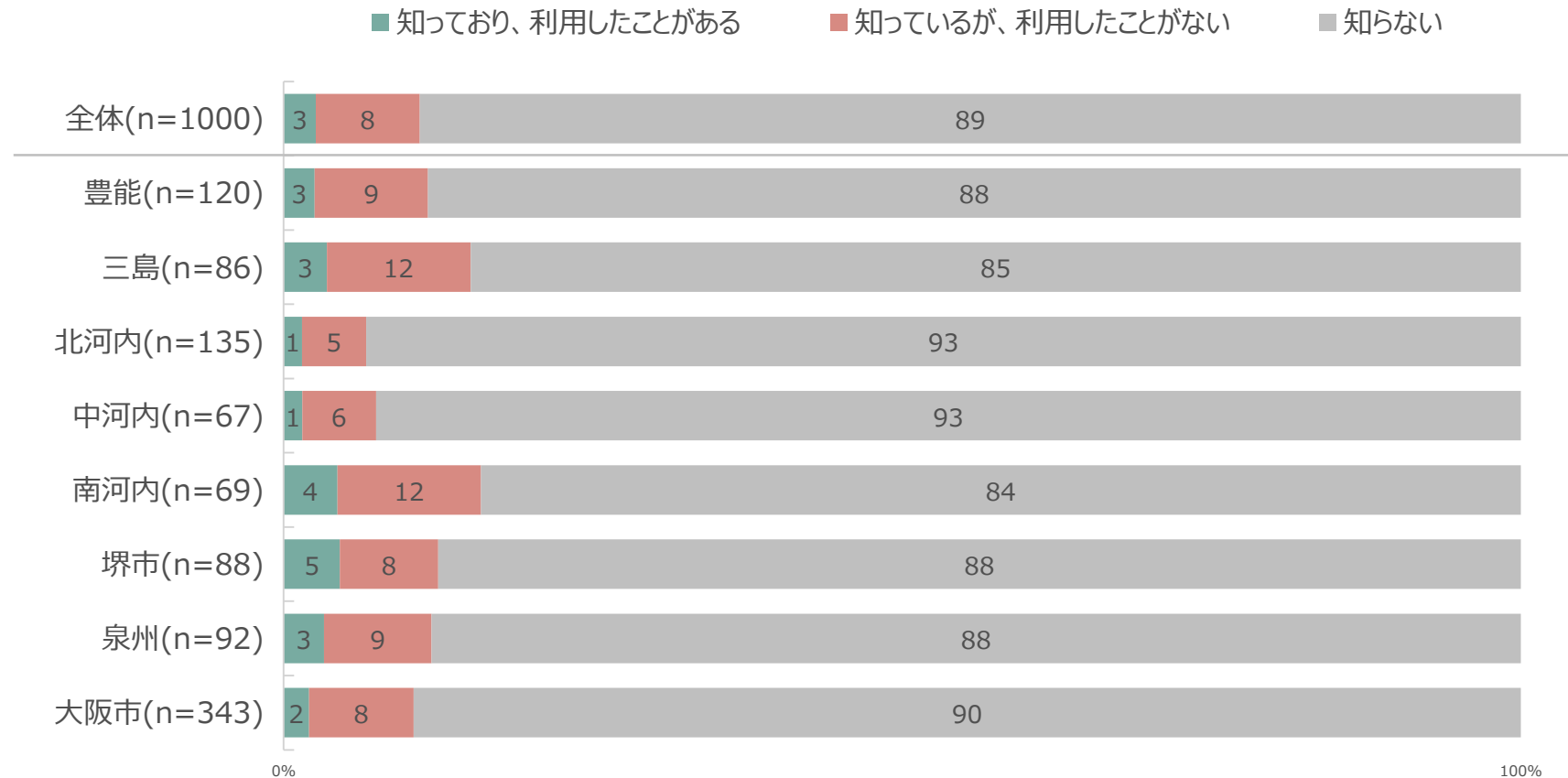
✓ 大阪府がアレルギー疾患講演会を実施していることを認知している患者割合は16%であった。その中でも、「知っており、参加したことがある」患者割合が3%、「知っているが、参加したことがない」患者割合が13%であった。



Q17. 大阪府が府民への啓発活動としてアレルギー疾患講演会を行っていることはご存じでしたか。(ひとつだけ)

## 大阪府が「アレルギーポータルサイト」により情報発信をしていることの認知度

- ✓ 大阪府が「アレルギーポータルサイト」により情報発信をしていることを認知している医師割合は11%であった。その中でも、「知っており、利用したことがある」割合は3%、「知っているが、利用したことがない」割合は8%であった。
- ✓ 他の診療科と比較して、三島、南河内では認知度が高い一方で、北河内、中河内では認知度が低かった。



Q18. 大阪府が「大阪府アレルギーポータルサイト」により情報発信していることをご存じですか。(ひとつだけ)

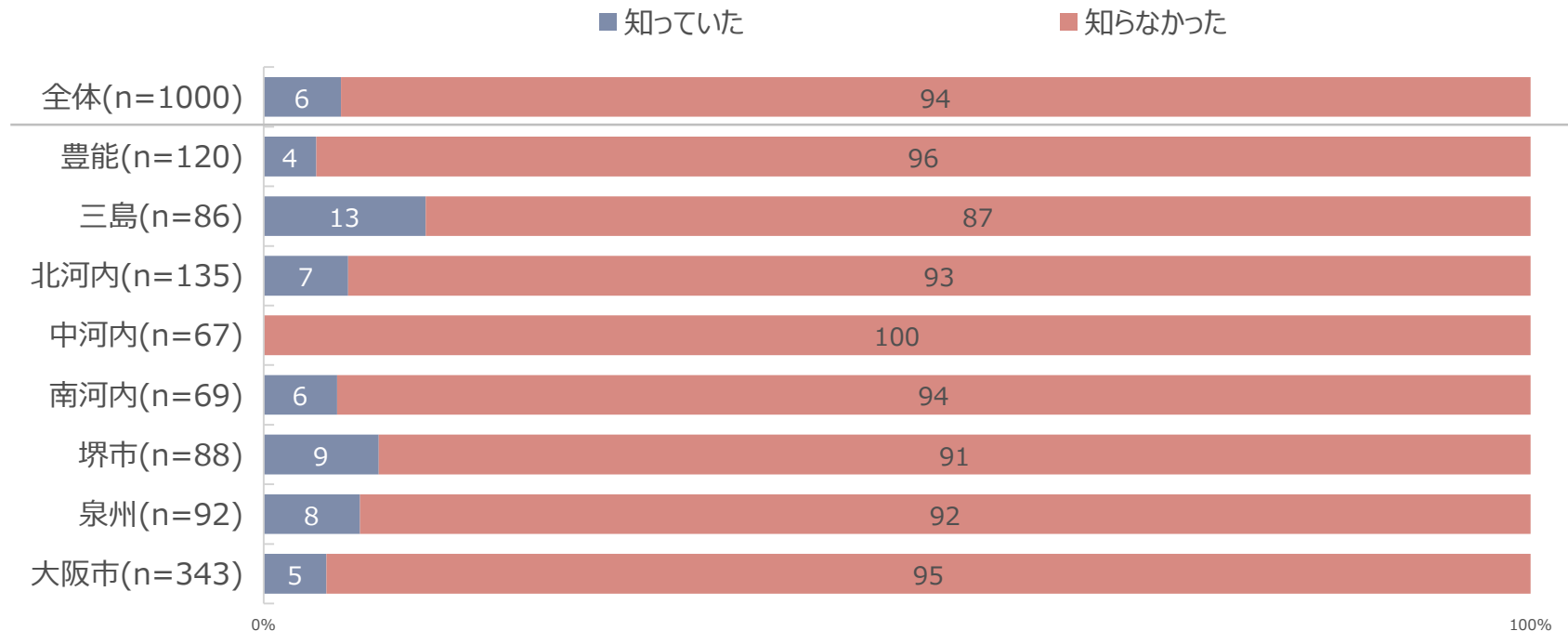


# 大阪府が医療提供体制整備を進めていることに対する認知度

✓ 大阪府が医療提供体制整備を進めていることを認知している患者割合は6%であった。

## ＜アレルギー疾患医療拠点病院＞

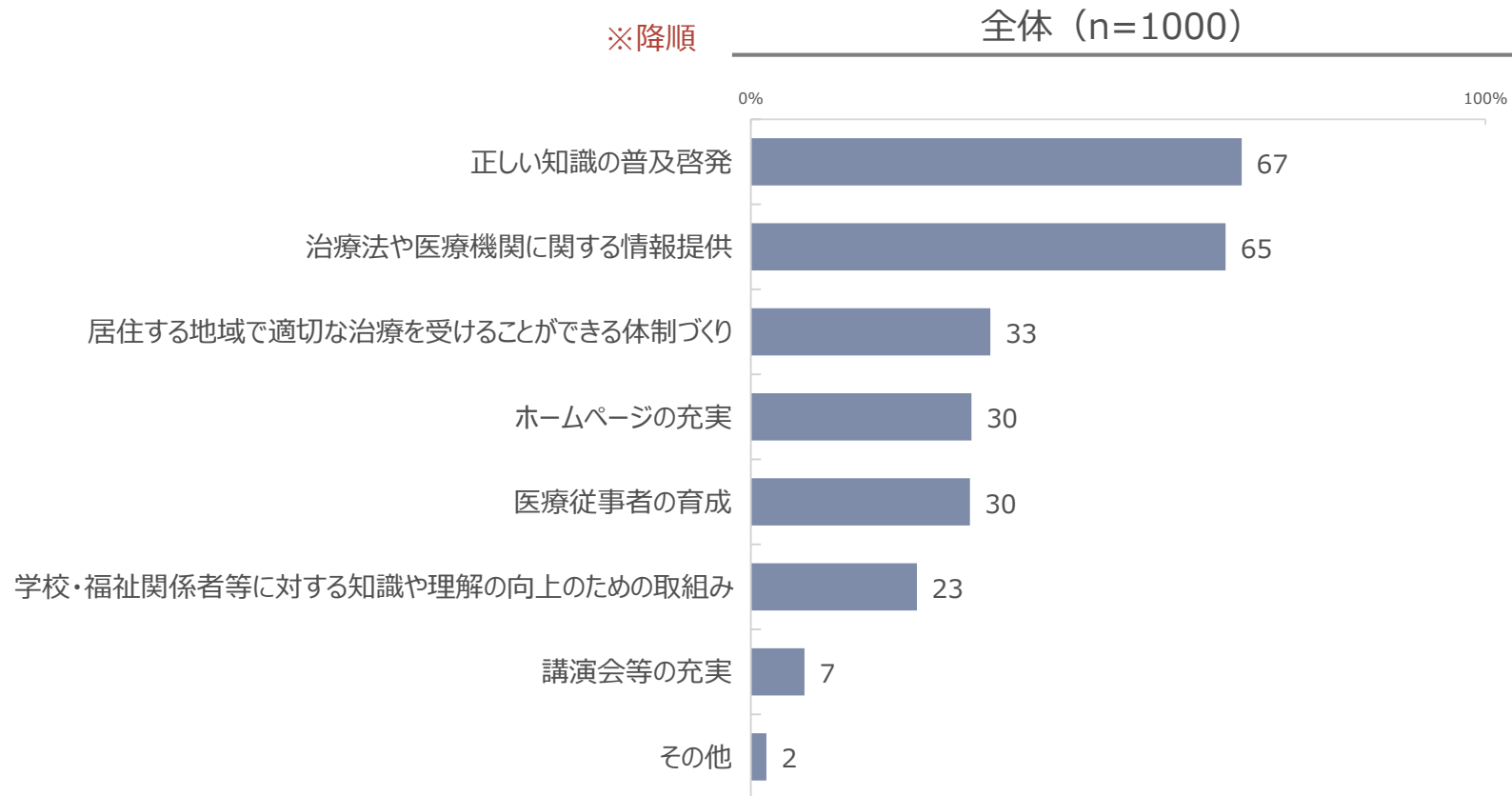
「アレルギー疾患医療拠点病院」とは、「アレルギー疾患対策基本法」や同指針において掲げられている「アレルギー疾患を有する者が、その居住する地域にかかわらず等しく科学的知見に基づく適切なアレルギー疾患に係る医療を受けることができるようにすること」を目指して、国が各都道府県に指定するよう求めているものです。大阪府では、平成30年6月に4病院が指定されています。



Q19. 大阪府が拠点病院を指定するなど医療提供体制整備を進めていることを知っていましたか。(ひとつだけ)

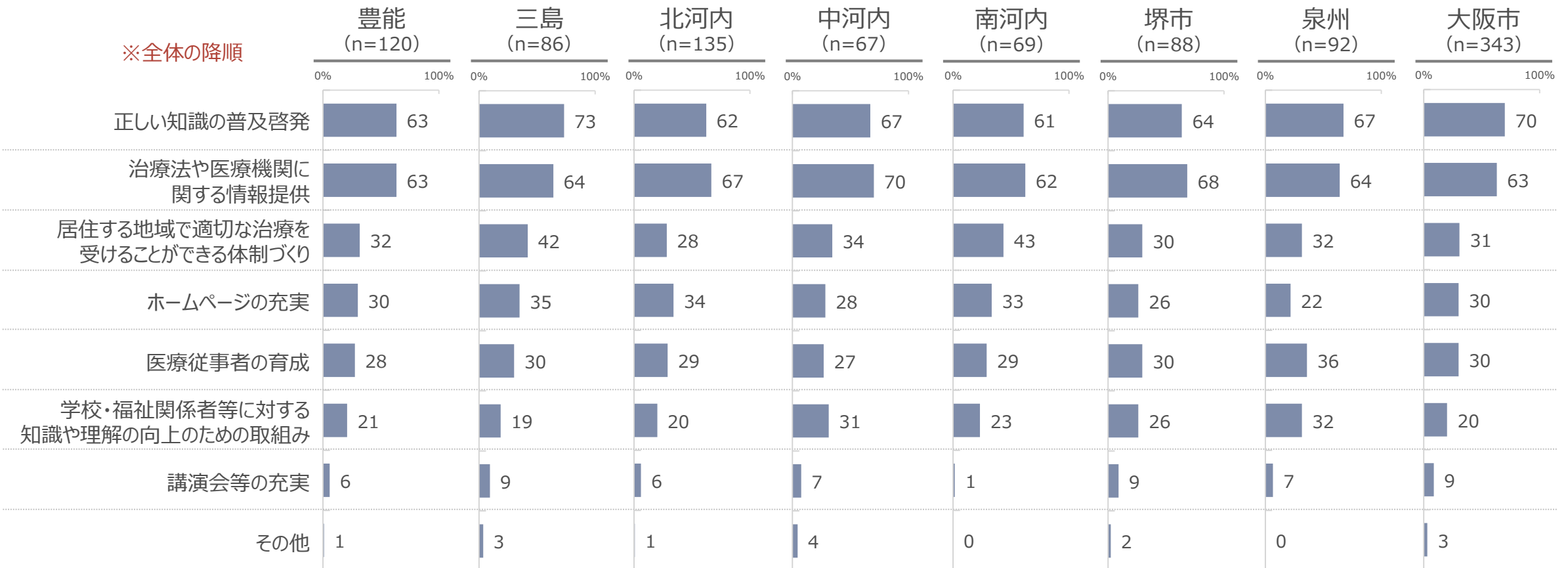
# 【全体】 大阪府のアレルギー疾患対策に希望すること

✓ 大阪府のアレルギー疾患対策に希望することとして最も割合が高かったのは、「正しい知識の普及啓発」67%。続いて、「治療法や医療機関に関する情報提供」65%、「居住する地域で適切な治療を受けることができる体制づくり」33%、「ホームページの充実」30%、「医療従事者の育成」30%であった。



Q20. 大阪府のアレルギー疾患対策に希望することはありますか。(複数回答可)

# 【二次医療圏別】 大阪府のアレルギー疾患対策に希望すること



Q20. 大阪府のアレルギー疾患対策に希望することはありますか。(複数回答可)

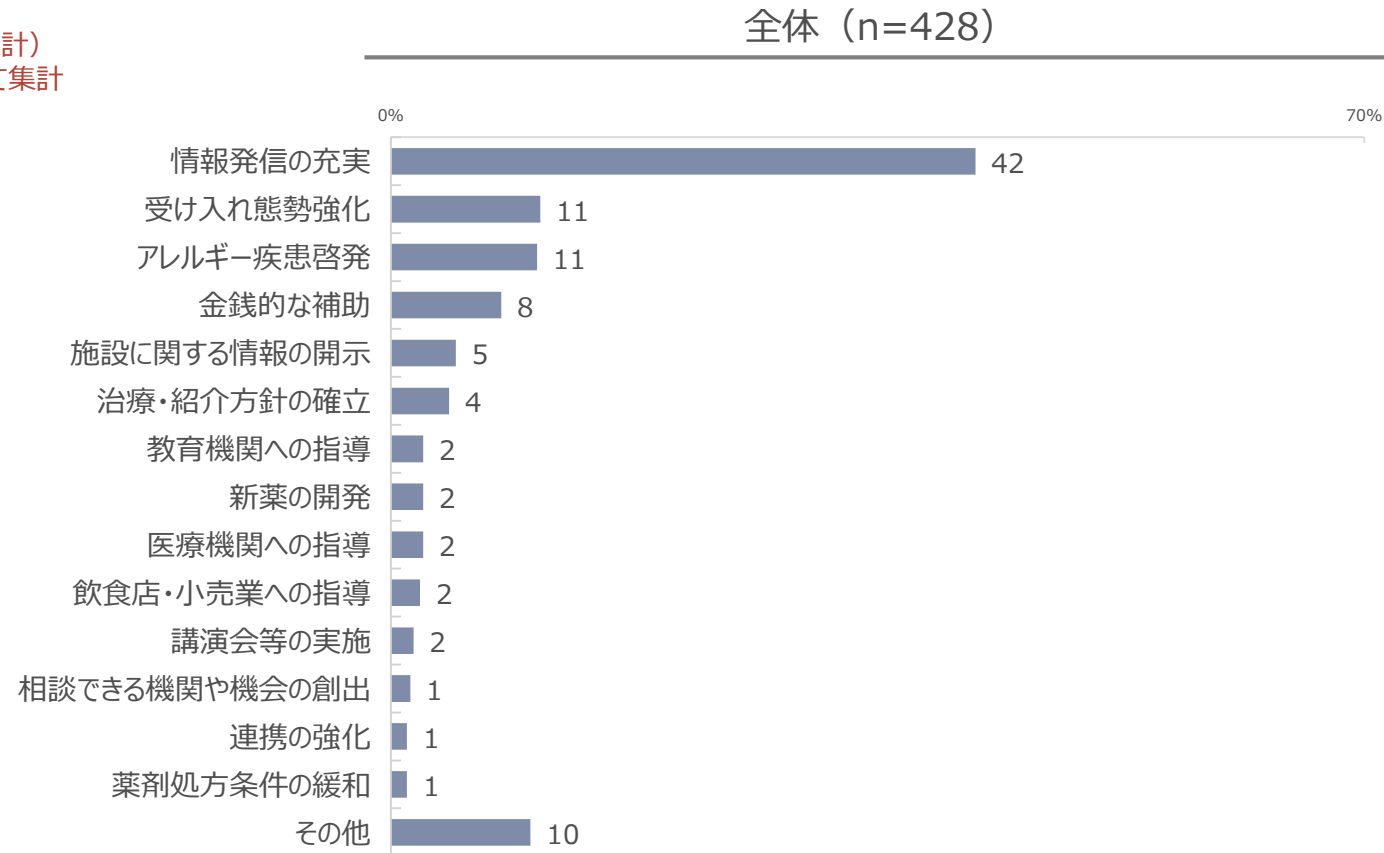
# 【全体】 大阪府のアレルギー疾患対策に関する要望

✓ 大阪府のアレルギー疾患対策に関する要望として最も挙げたのは「情報発信の充実」。続いて、「受け入れ態勢強化」、「アレルギー疾患啓発」、「金銭的な補助」、「施設に関する情報の開示」、「治療・紹介方針の確立」であった。

## ※アフターコーディング

(自由回答を同じ内容ごとに分類して集計)

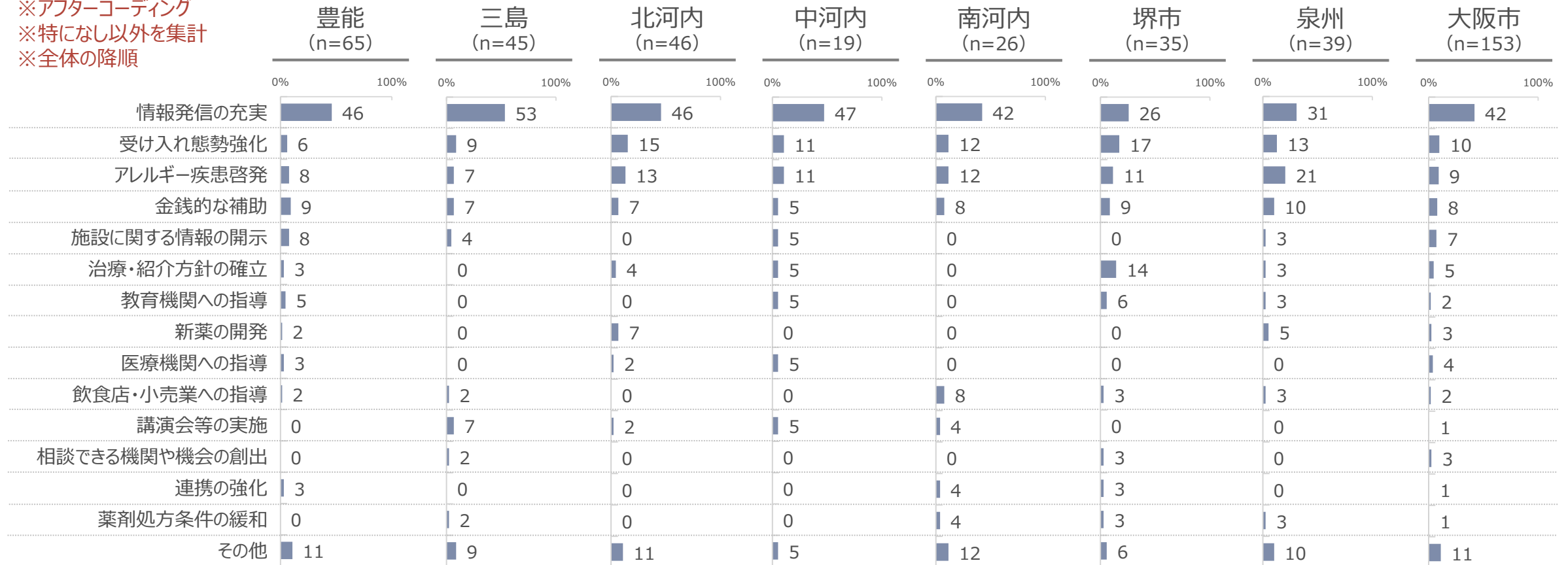
※「特になし」旨を回答した572sを除いて集計



Q21. 大阪府のアレルギー疾患対策について、ご要望がありましたらお聞かせください。

# 【二次医療圏別】 大阪府のアレルギー疾患対策に関する要望

※アフターコーディング  
※特になし以外を集計  
※全体の降順

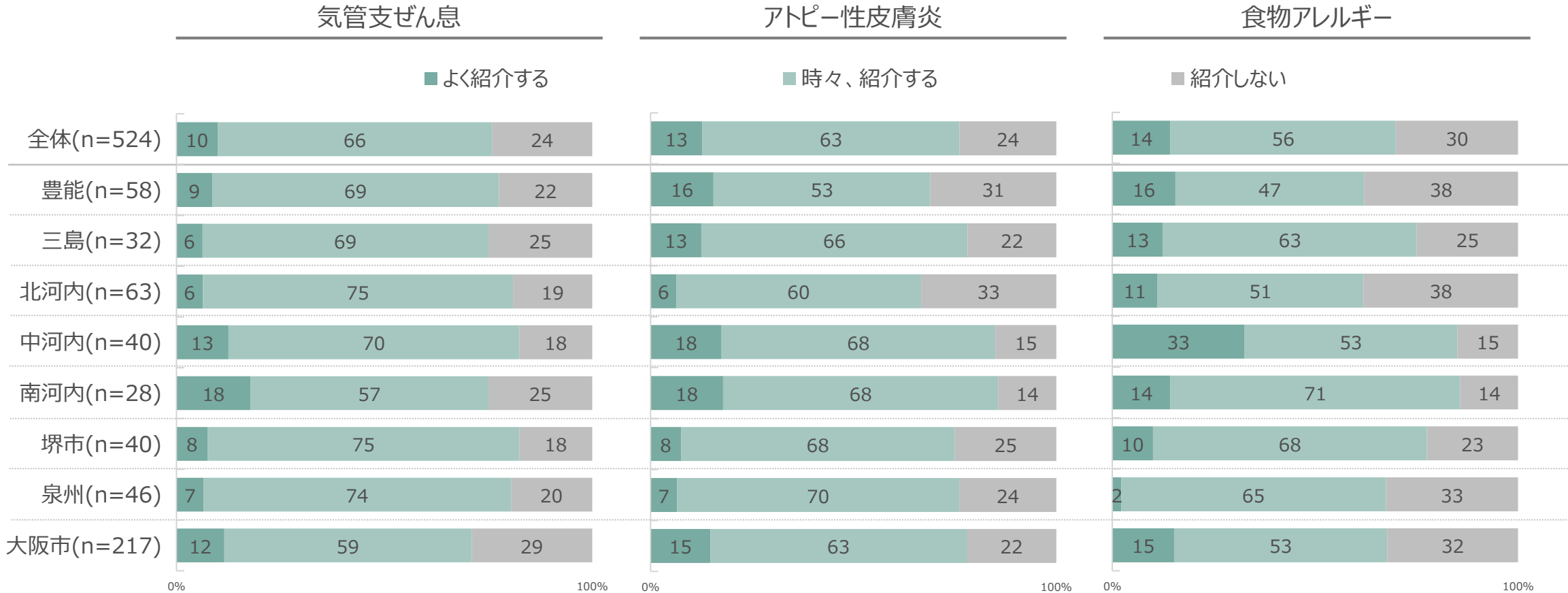


Q21. 大阪府のアレルギー疾患対策について、ご要望がありましたらお聞かせください。

## IV. 參考資料

## IV- i . 医師調査

# 他の医療機関への患者の紹介状況（全医師）



Q5. 貴院における他の医療機関との患者の紹介・逆紹介の状況をお教えてください。（それぞれひとつだけ）



# 【標榜診療科別】 他の医療機関への患者の紹介状況（全医師）

※複数標榜の為  
重複あり

気管支ぜん息

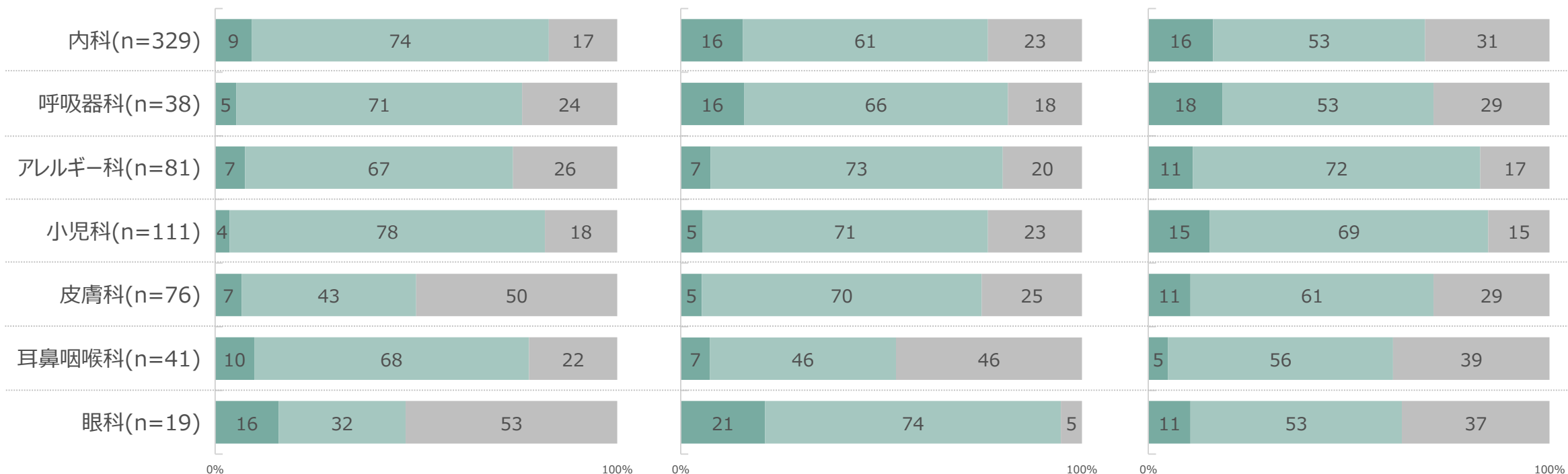
アトピー性皮膚炎

食物アレルギー

■ よく紹介する

■ 時々、紹介する

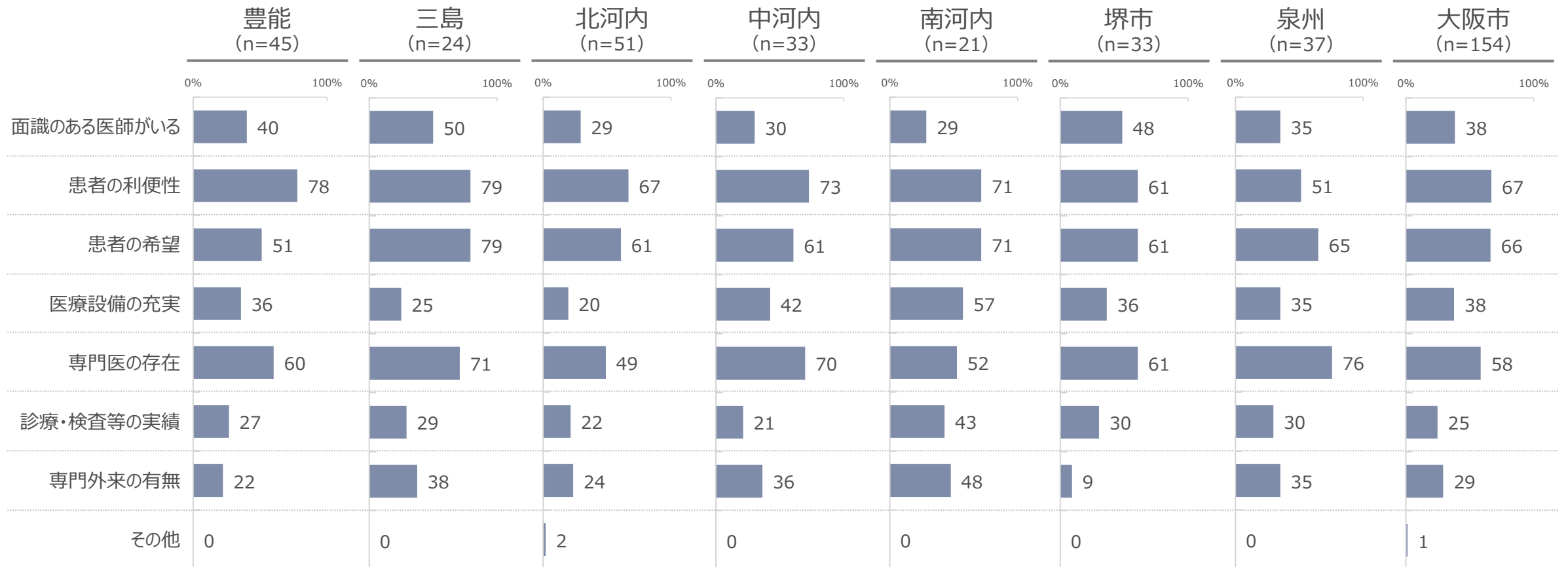
■ 紹介しない



Q5. 貴院における他の医療機関との患者の紹介・逆紹介の状況をお教えてください。（それぞれひとつだけ）

# 【二次医療圏別】

## 気管支ぜん息患者を紹介する際に重視すること

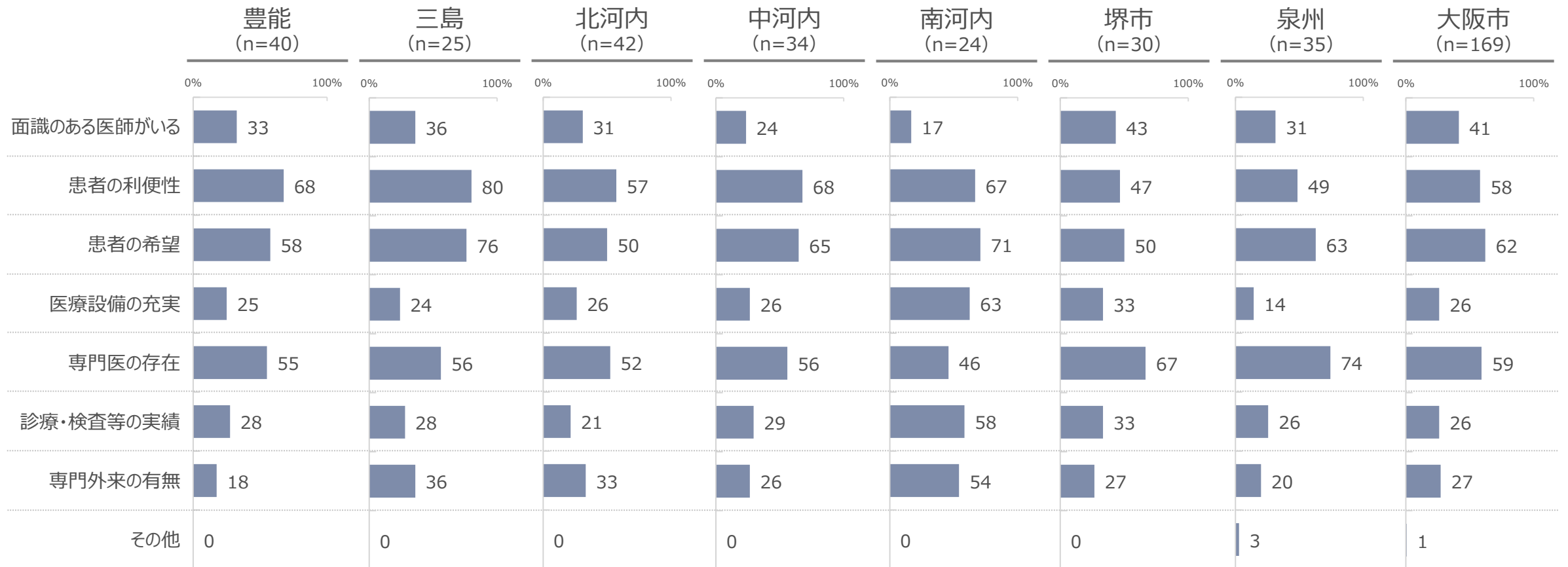


Q6. 紹介する医療機関は、どのようなことを考慮して決めますか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答可）

※気管支ぜん息患者を紹介することがある医師のみ

# 【二次医療圏別】

## アトピー性皮膚炎患者を紹介する際に重視すること

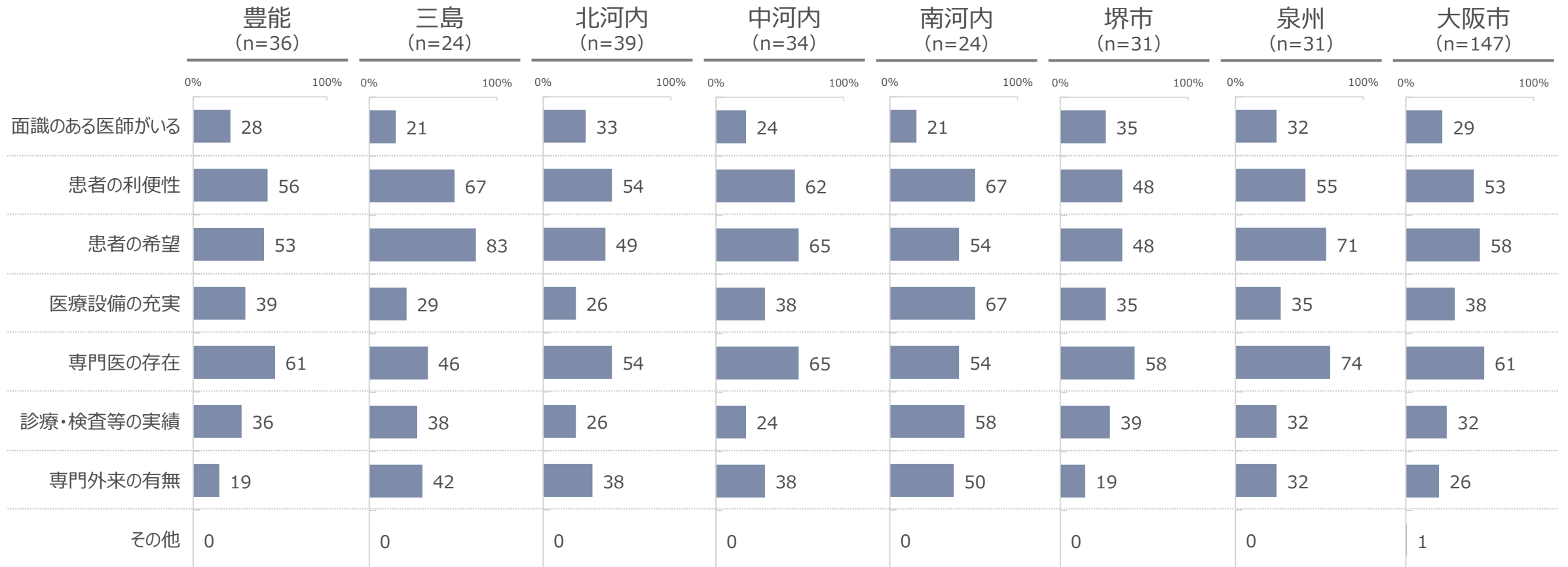


Q6. 紹介する医療機関は、どのようなことを考慮して決めますか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答可)

※アトピー性皮膚炎患者を紹介することがある医師のみ

# 【二次医療圏別】

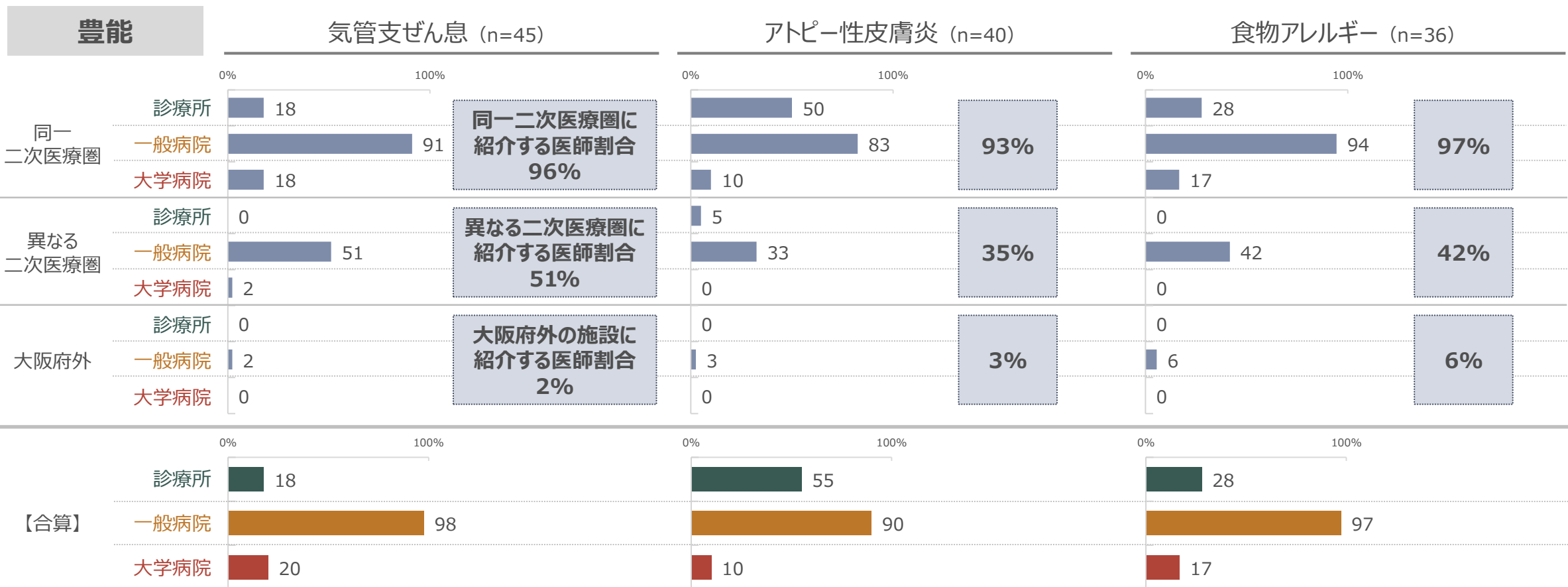
## 食物アレルギー患者を紹介する際に重視すること



Q6. 紹介する医療機関は、どのようなことを考慮して決めますか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答可)

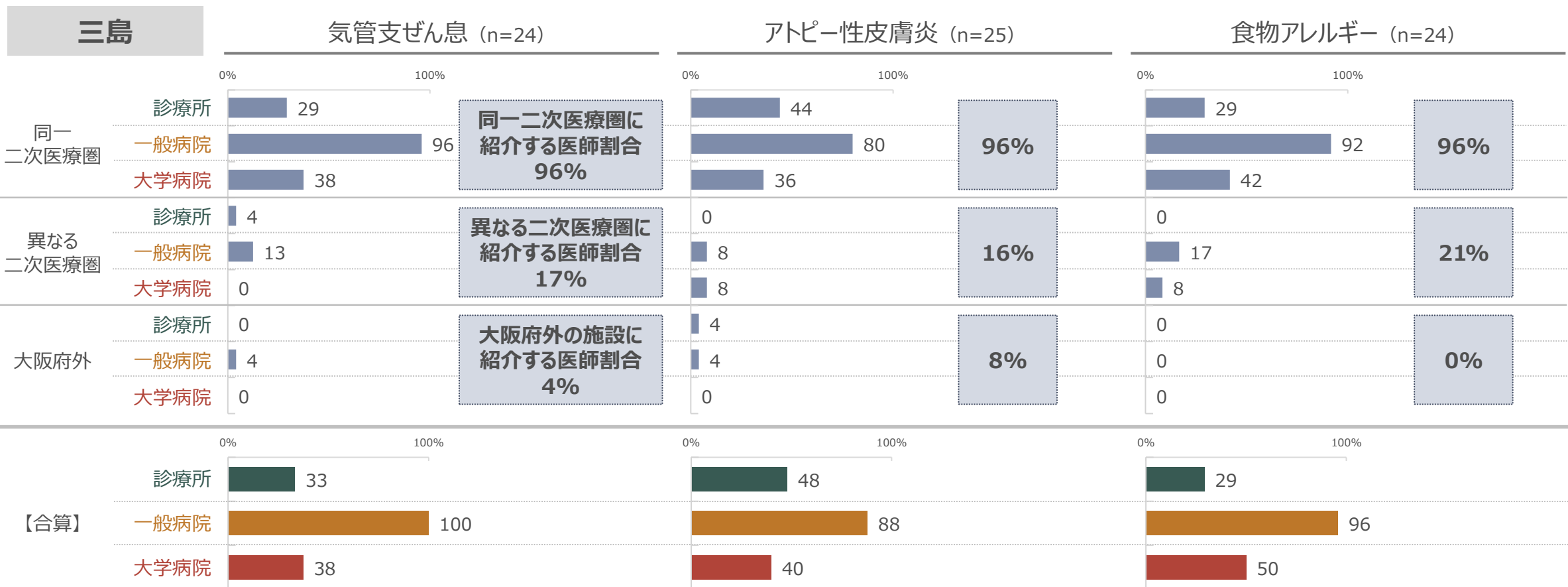
※食物アレルギー患者を紹介することがある医師のみ

# 【豊能】 アレルギー疾患患者の紹介先（上位2つ）



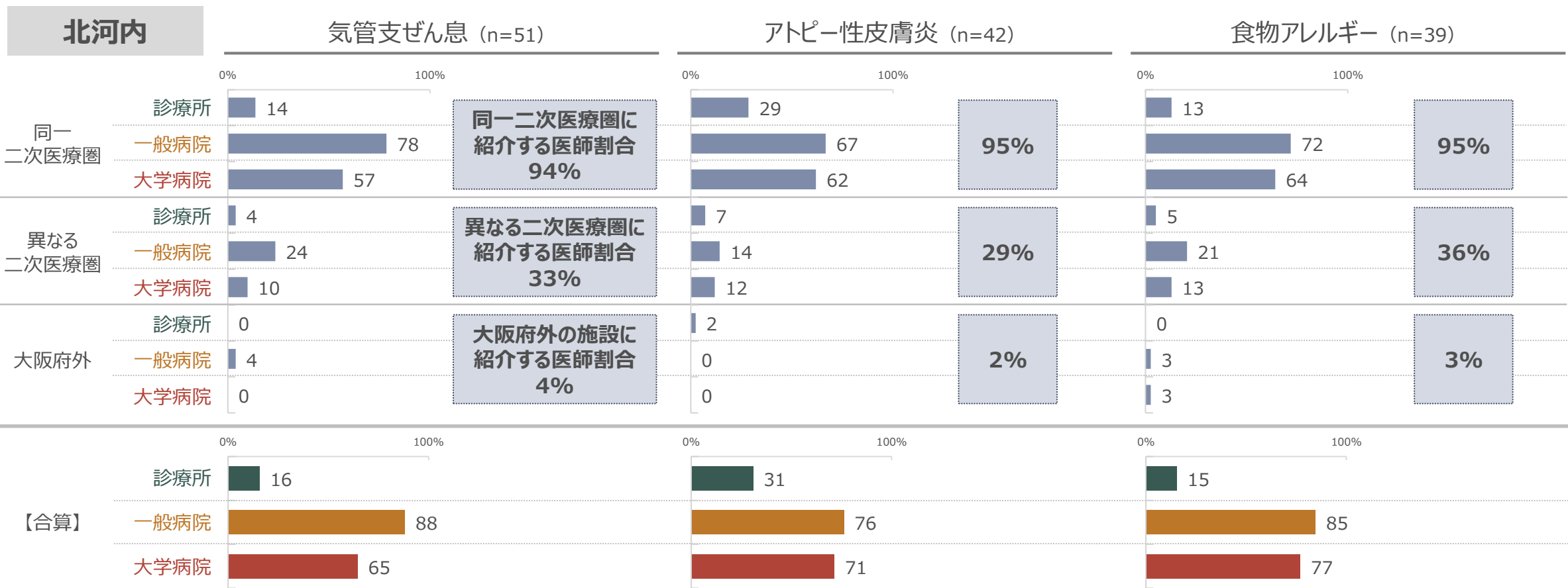
Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）  
 ※各アレルギー疾患患者を紹介することがある医師のみ

# 【三島】 アレルギー疾患患者の紹介先（上位2つ）



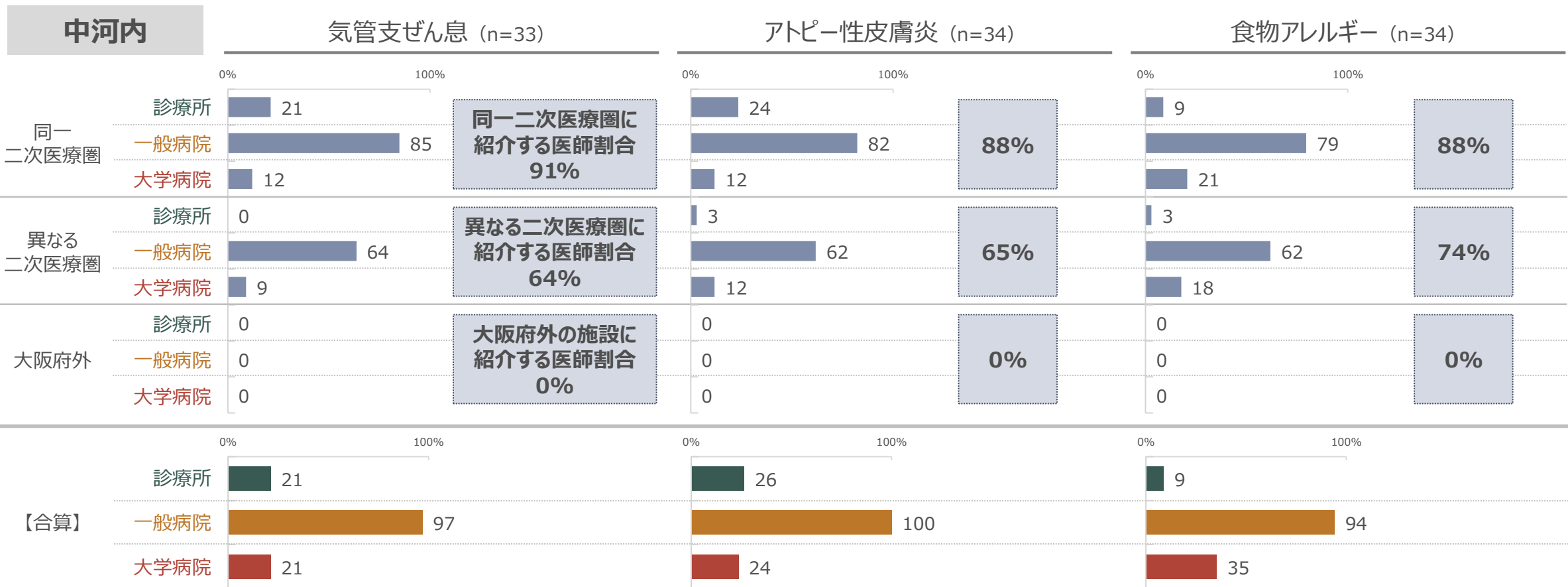
Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）  
 ※各アレルギー疾患患者を紹介することがある医師のみ

# 【北河内】 アレルギー疾患患者の紹介先（上位2つ）



Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）  
※各アレルギー疾患患者を紹介することがある医師のみ

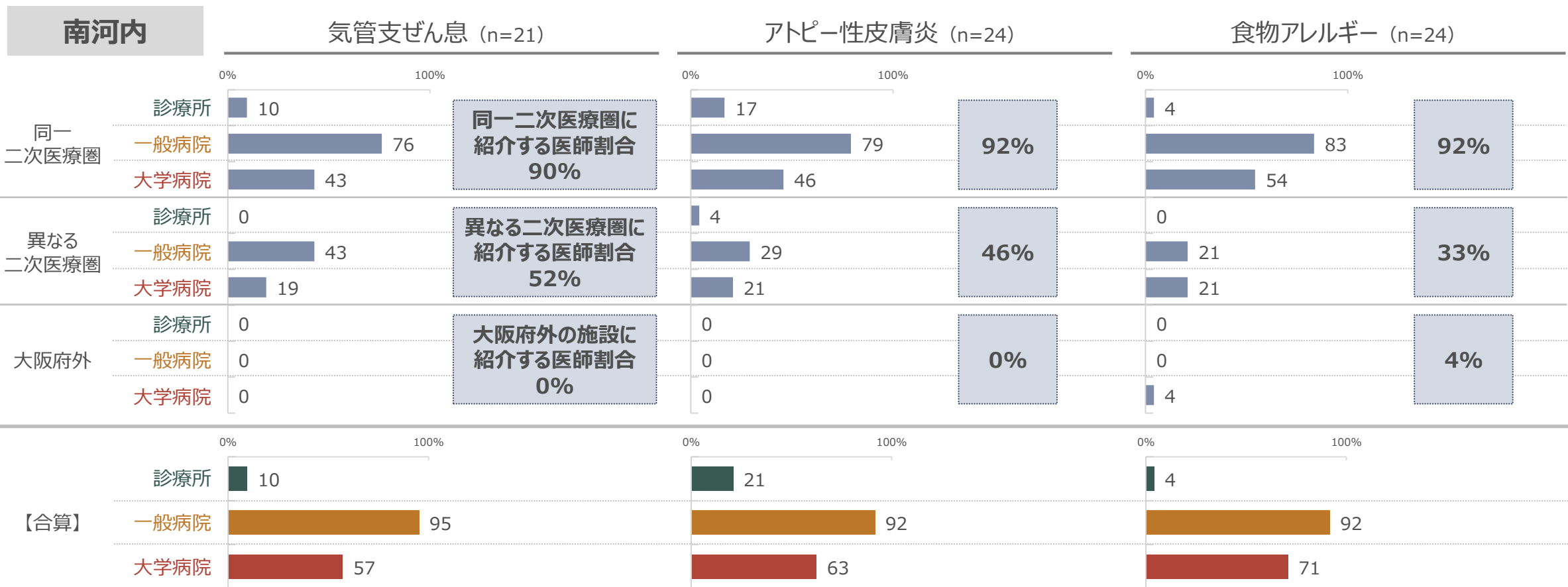
# 【中河内】 アレルギー疾患患者の紹介先（上位2つ）



Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）  
※各アレルギー疾患患者を紹介することがある医師のみ

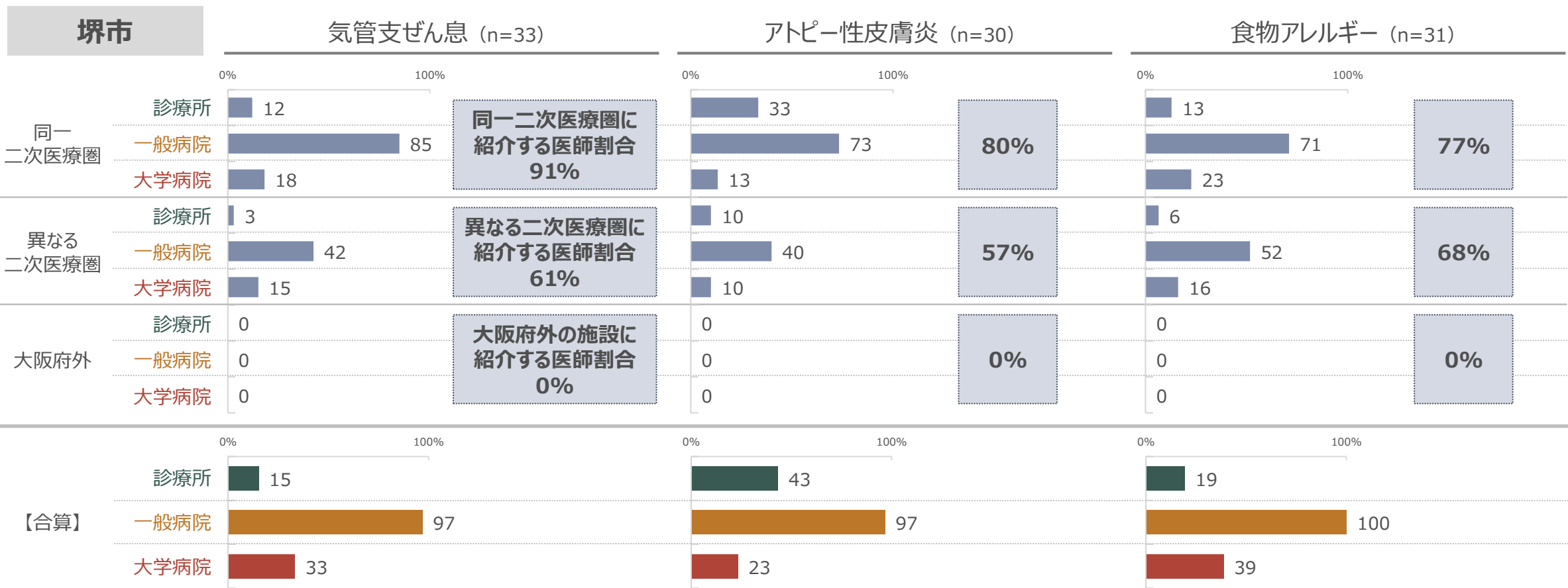


# 【南河内】 アレルギー疾患患者の紹介先（上位2つ）



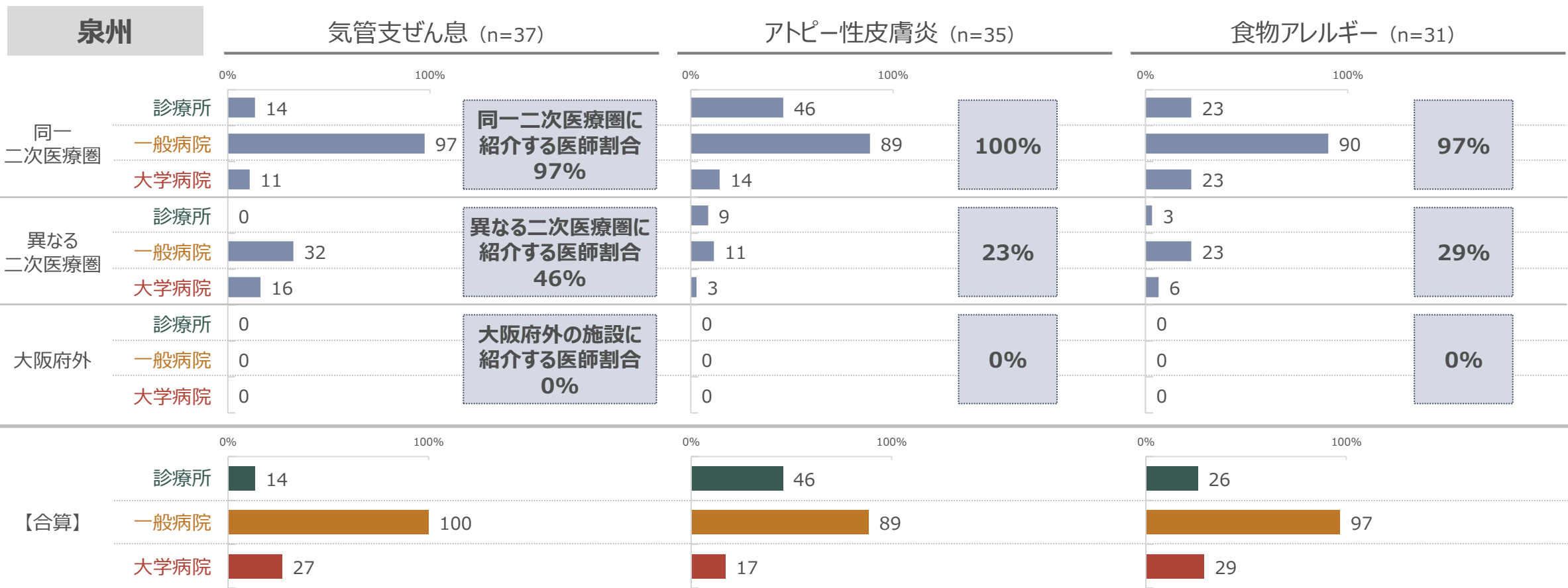
Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）  
※各アレルギー疾患患者を紹介することがある医師のみ

# 【堺市】 アレルギー疾患患者の紹介先（上位2つ）



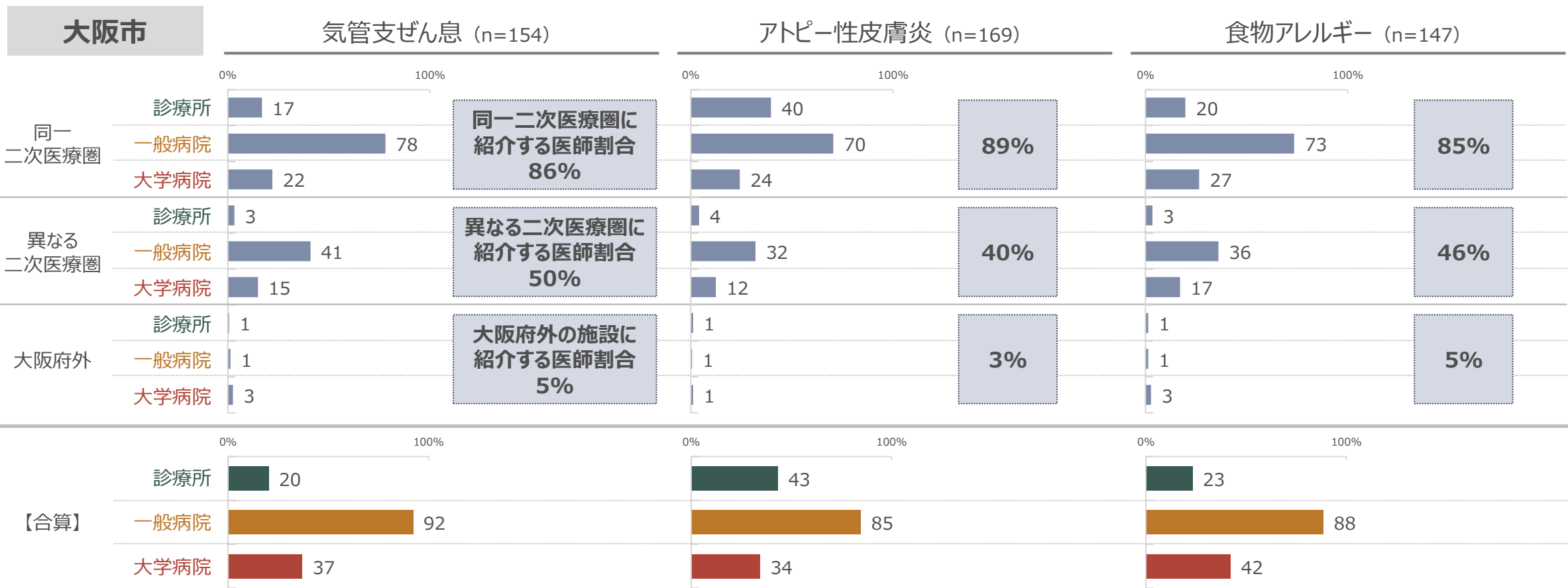
Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）  
※各アレルギー疾患患者を紹介することがある医師のみ

# 【泉州】 アレルギー疾患患者の紹介先（上位2つ）



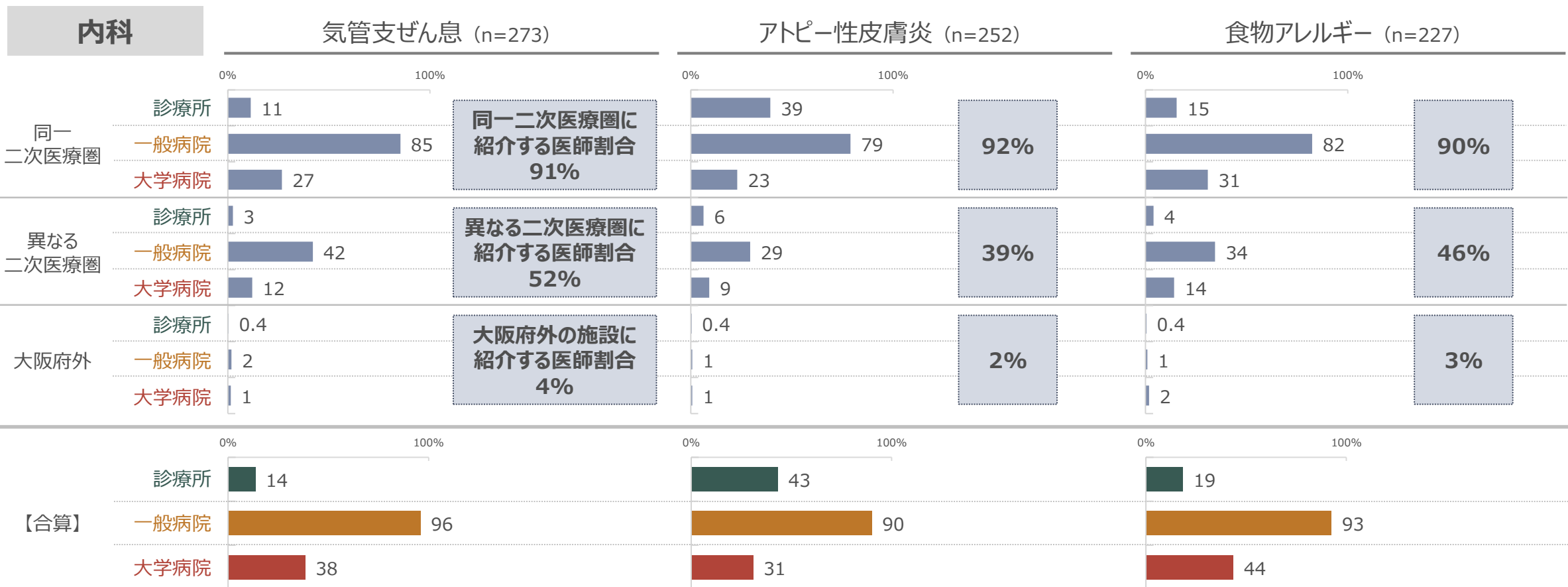
Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）  
※各アレルギー疾患患者を紹介することがある医師のみ

# 【大阪市】 アレルギー疾患患者の紹介先（上位2つ）



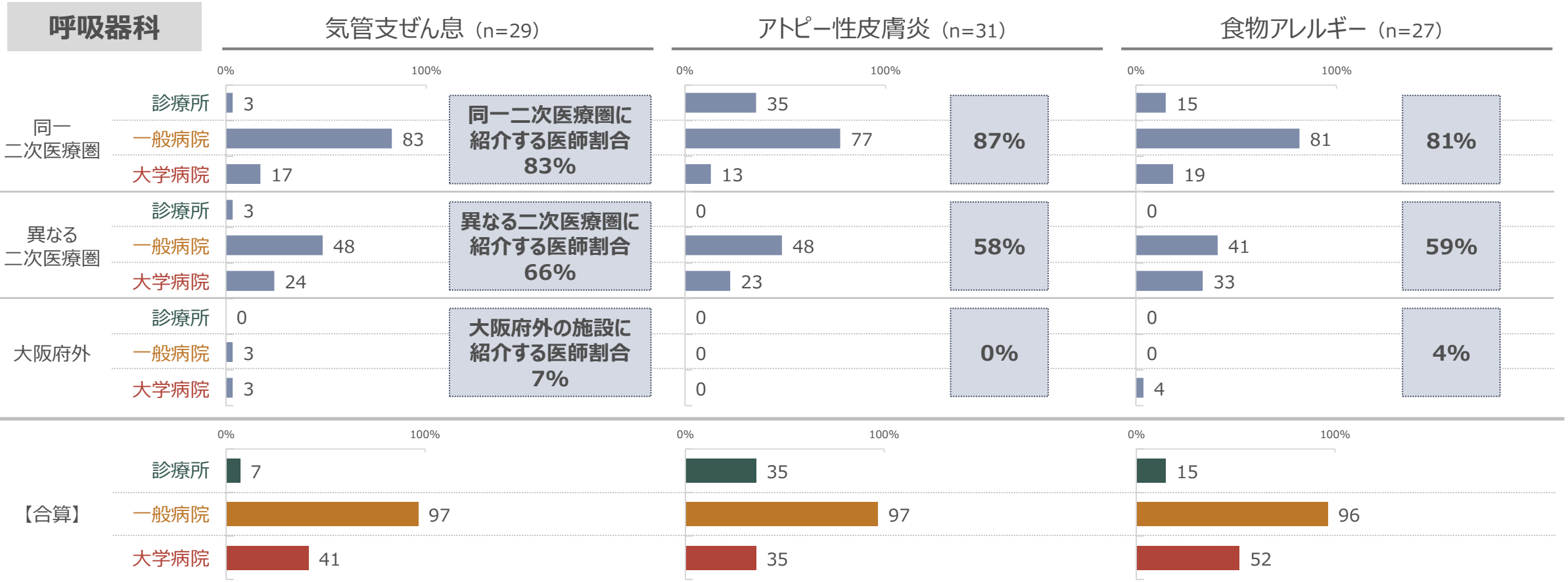
Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）  
※各アレルギー疾患患者を紹介することがある医師のみ

# 【内科】 アレルギー疾患患者の紹介先（上位2つ）



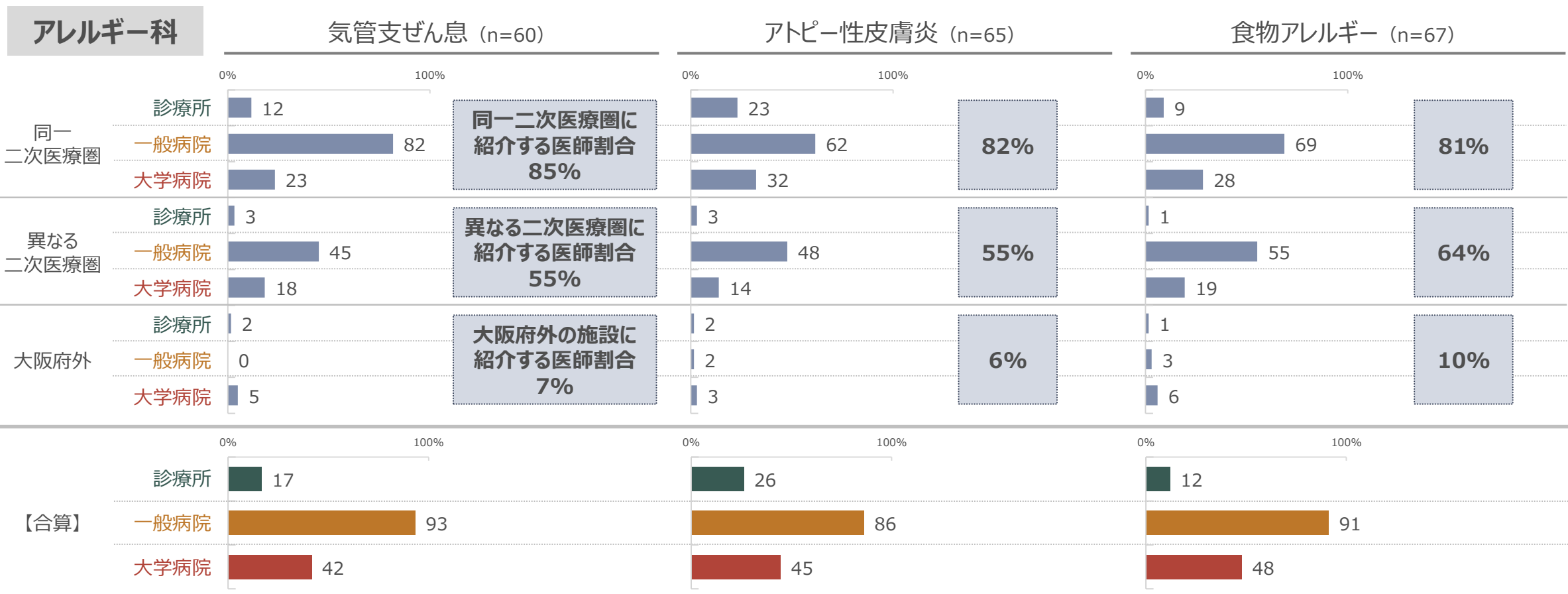
Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）  
 ※各アレルギー疾患患者を紹介することがある医師のみ

# 【呼吸器科】 アレルギー疾患患者の紹介先（上位2つ）



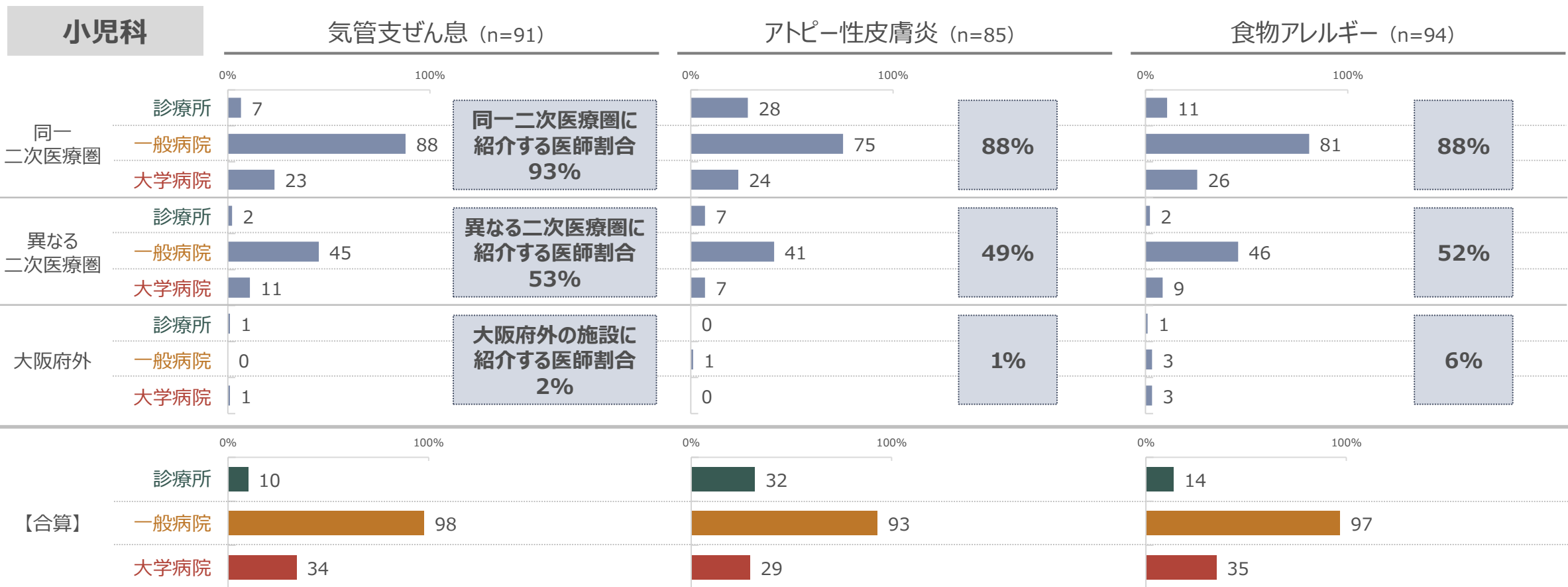
Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）  
 ※各アレルギー疾患患者を紹介することがある医師のみ

# 【アレルギー科】 アレルギー疾患患者の紹介先（上位2つ）



Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）  
※各アレルギー疾患患者を紹介することがある医師のみ

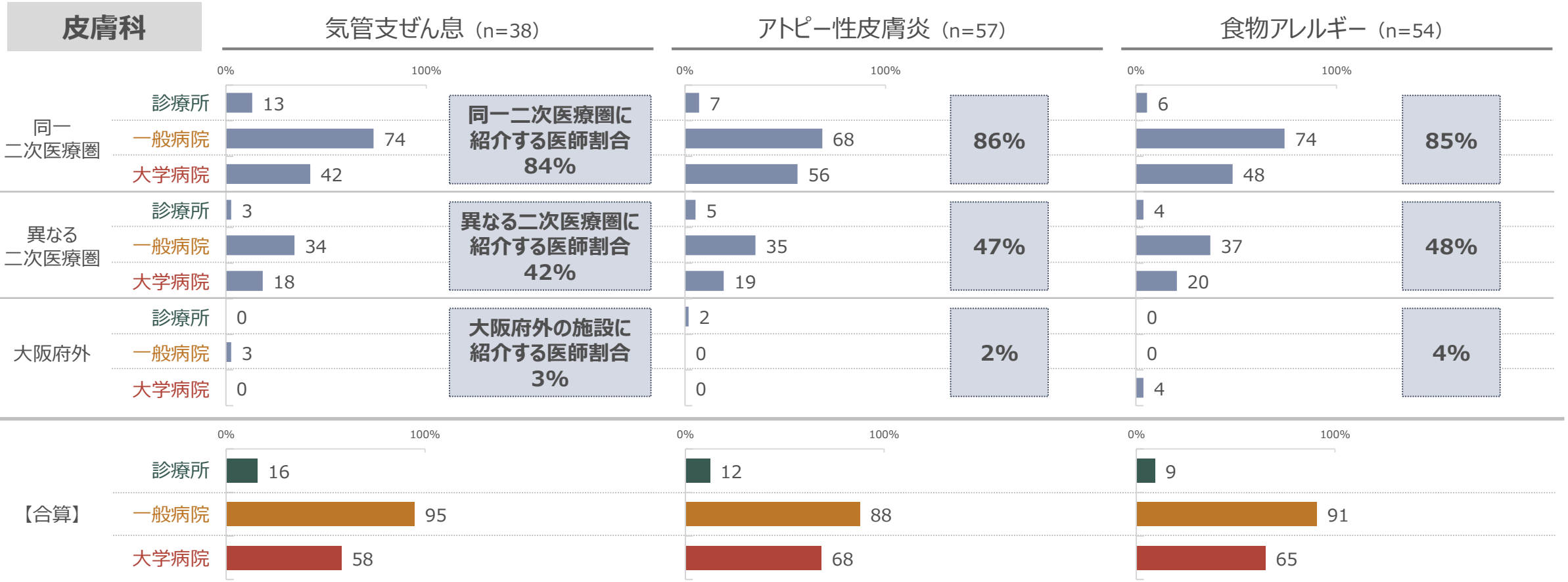
# 【小児科】 アレルギー疾患患者の紹介先（上位2つ）



Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）  
 ※各アレルギー疾患患者を紹介することがある医師のみ

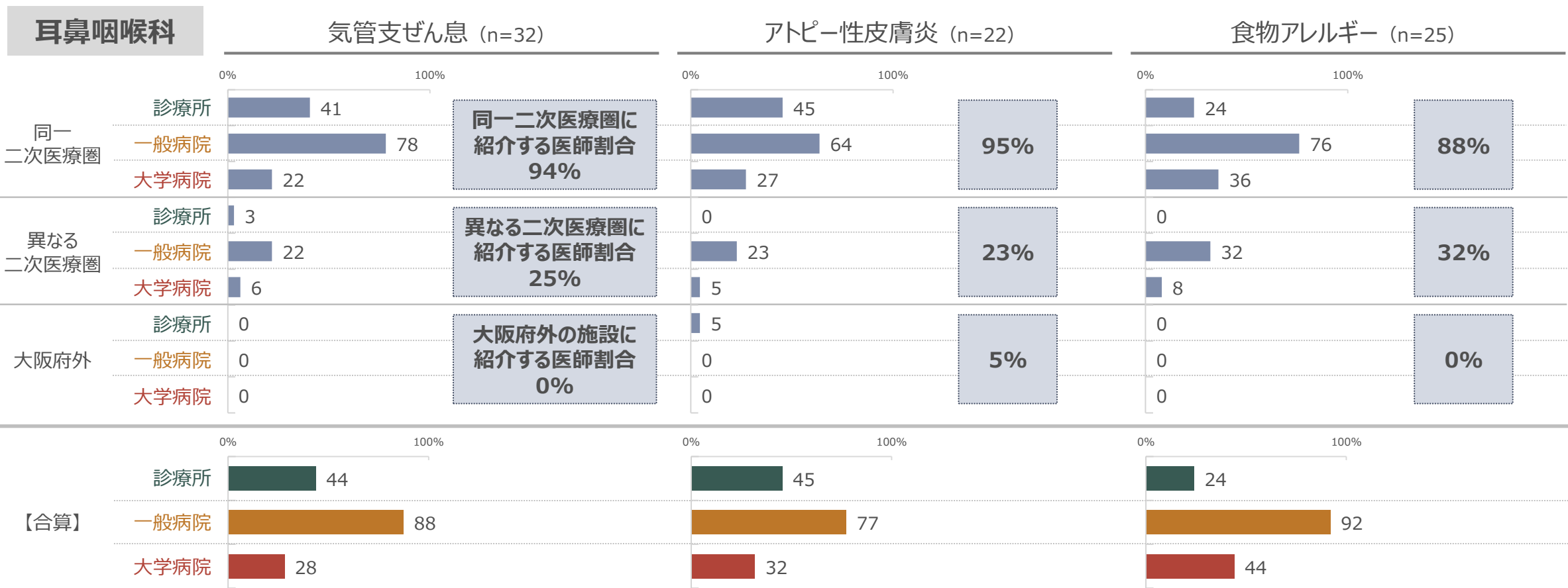


# 【皮膚科】 アレルギー疾患患者の紹介先（上位2つ）



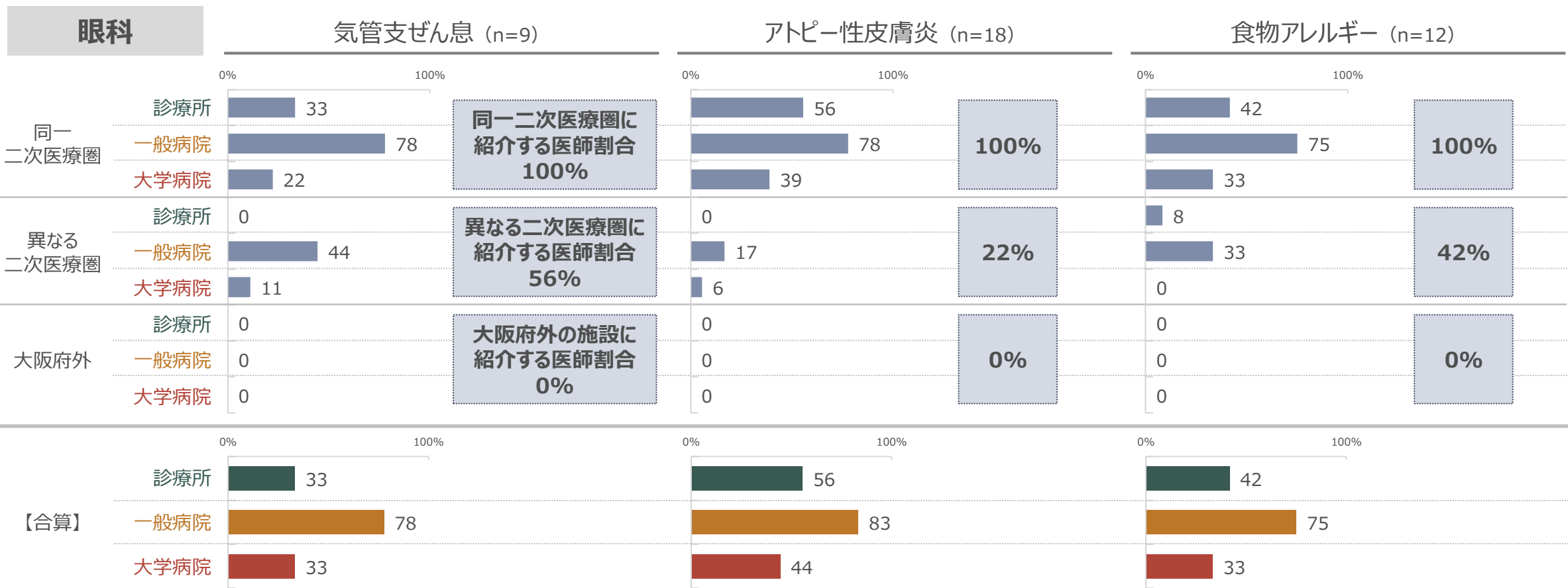
Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）  
 ※各アレルギー疾患患者を紹介することがある医師のみ

# 【耳鼻咽喉科】 アレルギー疾患患者の紹介先（上位2つ）



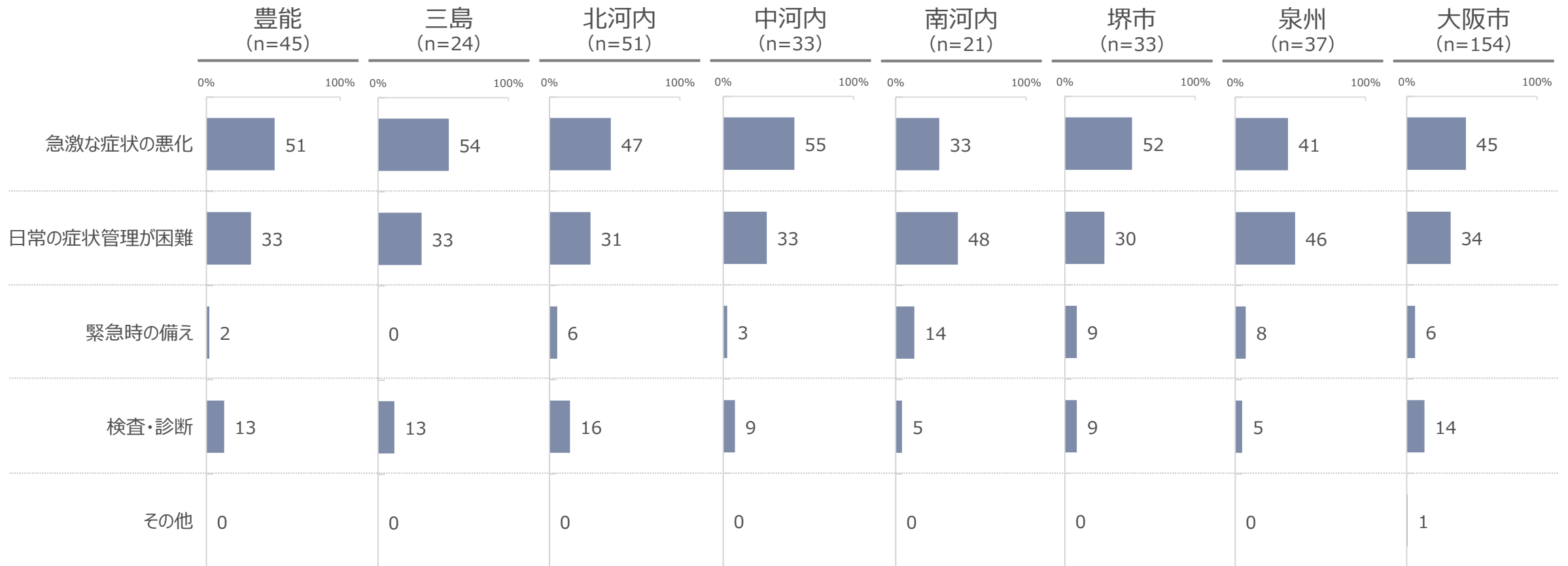
Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）  
※各アレルギー疾患患者を紹介することがある医師のみ

# 【眼科】 アレルギー疾患患者の紹介先（上位2つ）



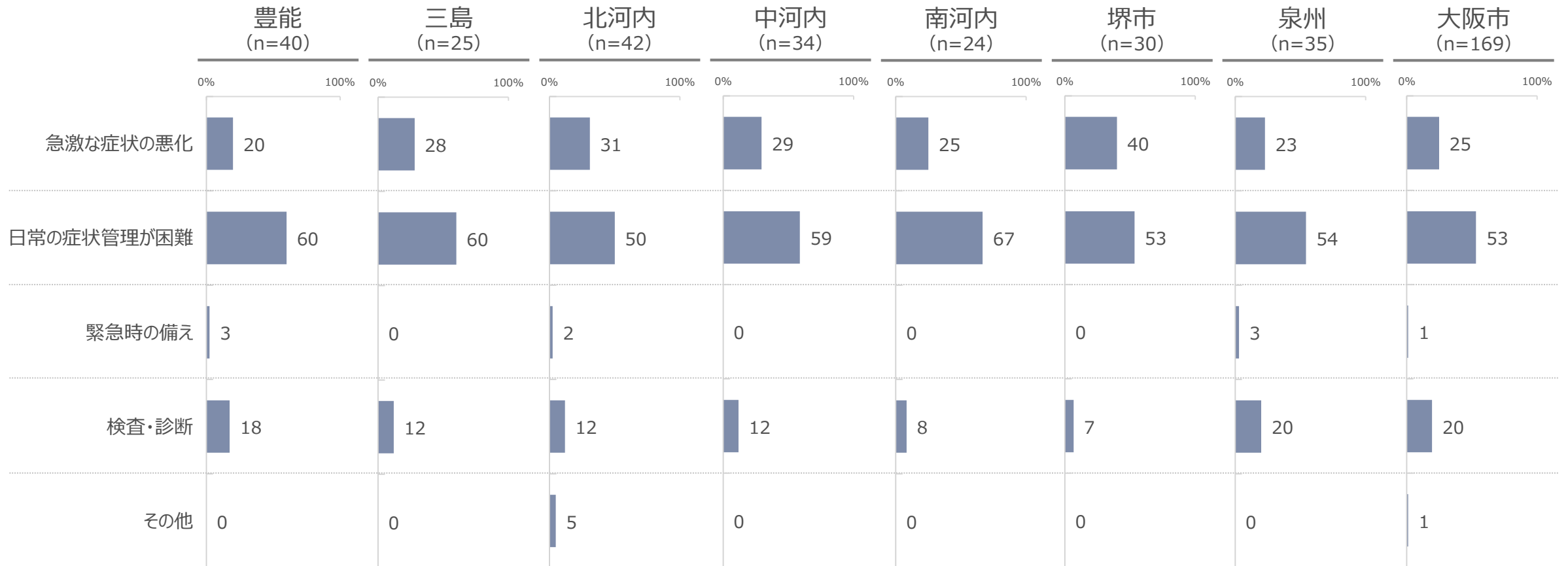
Q7. 貴院において紹介したことがある医療機関の地域について、上位2つをお選びください。（複数回答可）  
 ※各アレルギー疾患患者を紹介することがある医師のみ

# 【二次医療圏別】 気管支ぜん息患者を紹介する理由



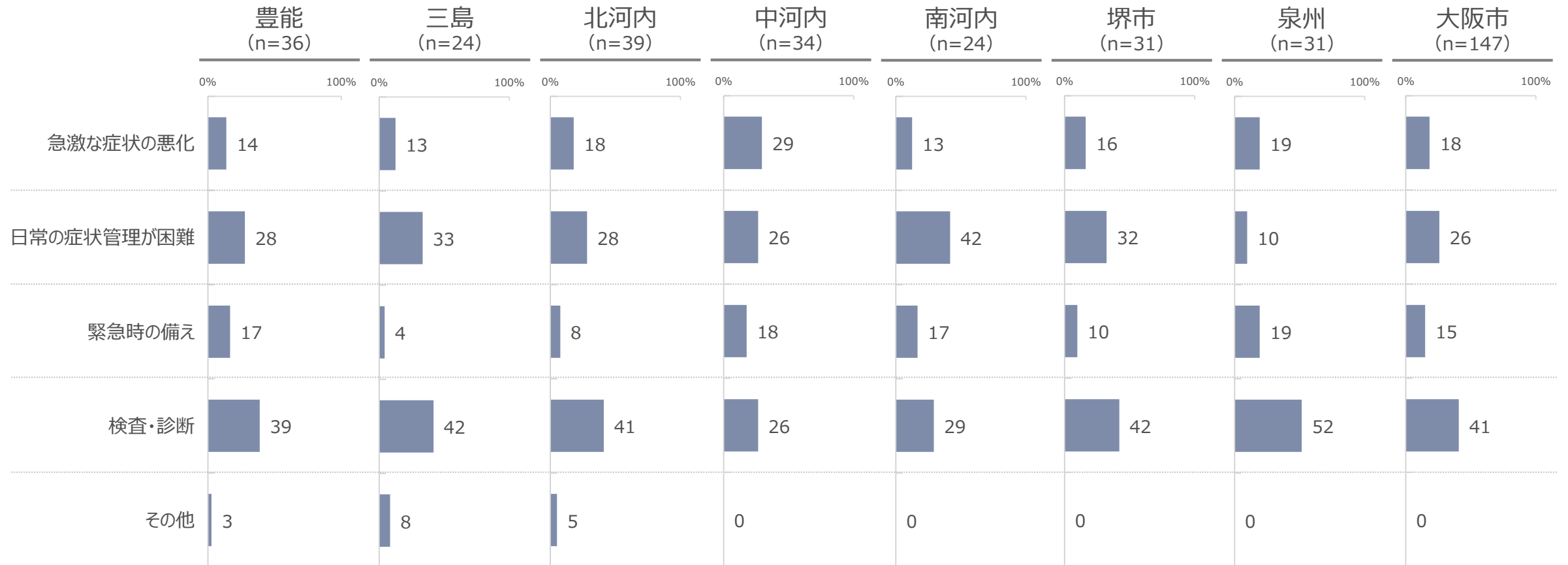
Q8. 患者を紹介する理由で最も多いものをお選びください。(ひとつだけ)  
※気管支ぜん息患者を紹介することがある医師のみ

# 【二次医療圏別】 アトピー性皮膚炎患者を紹介する理由



Q8. 患者を紹介する理由で最も多いものをお選びください。(ひとつだけ)  
※アトピー性皮膚炎患者を紹介することがある医師のみ

# 【二次医療圏別】 食物アレルギー患者を紹介する理由

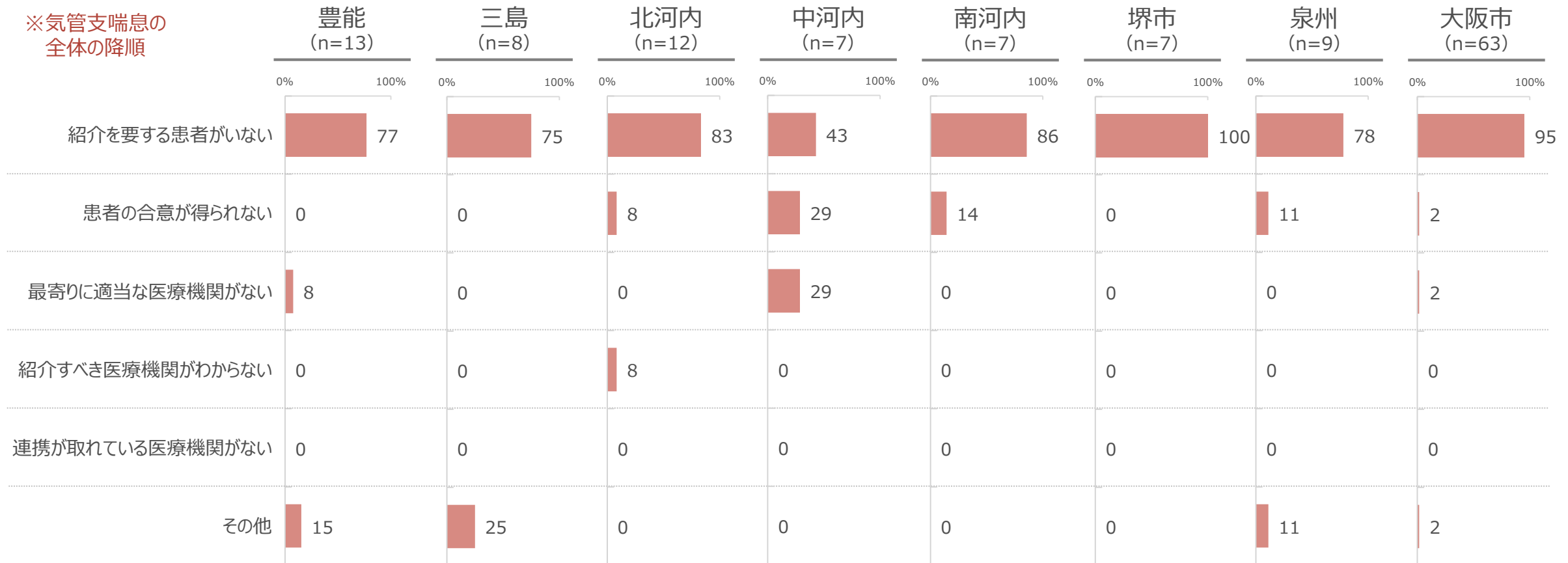


Q8. 患者を紹介する理由で最も多いものをお選びください。(ひとつだけ)  
 ※食物アレルギー患者を紹介することがある医師のみ

# 【二次医療圏別】

## 気管支ぜん息患者を紹介しない・できない理由

※気管支喘息の  
全体の降順



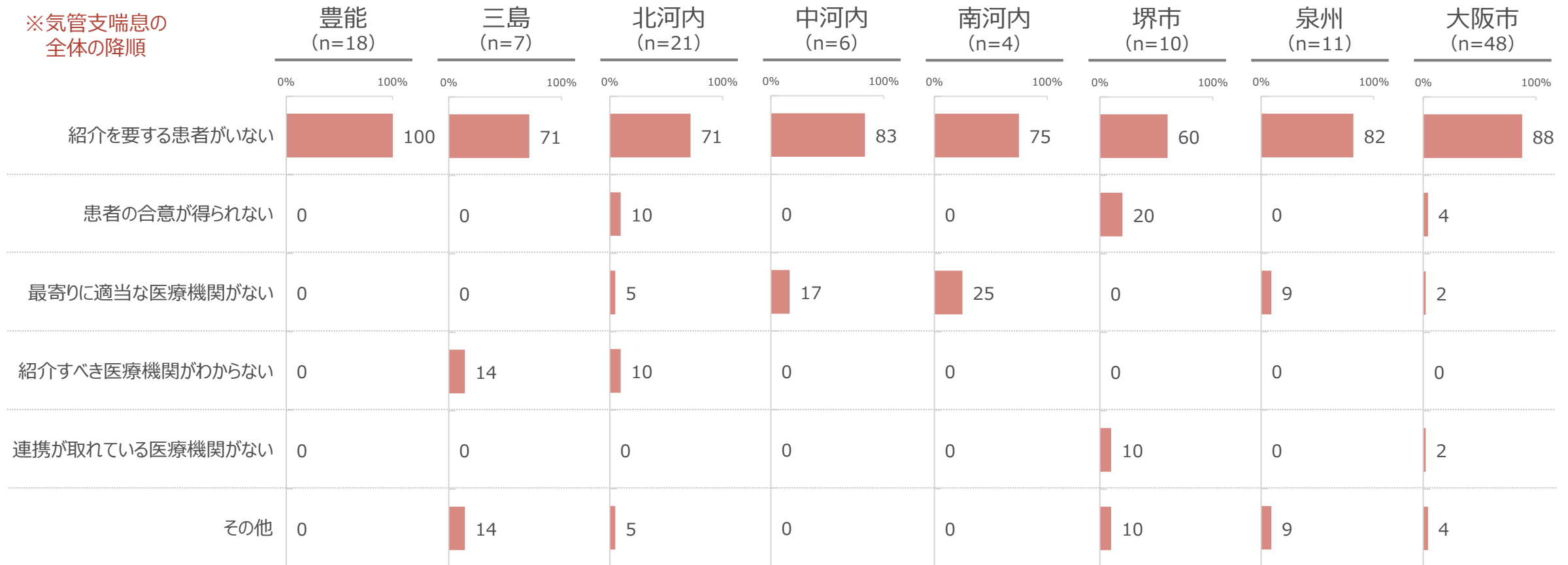
Q9. 患者を紹介しない、できない理由で最も多いものをお選びください。(ひとつだけ)

※気管支ぜん息患者を紹介しない医師のみ

# 【二次医療圏別】

## アトピー性皮膚炎患者を紹介しない・できない理由

※気管支喘息の  
全体の降順



Q9. 患者を紹介しない、できない理由で最も多いものをお選びください。(ひとつだけ)

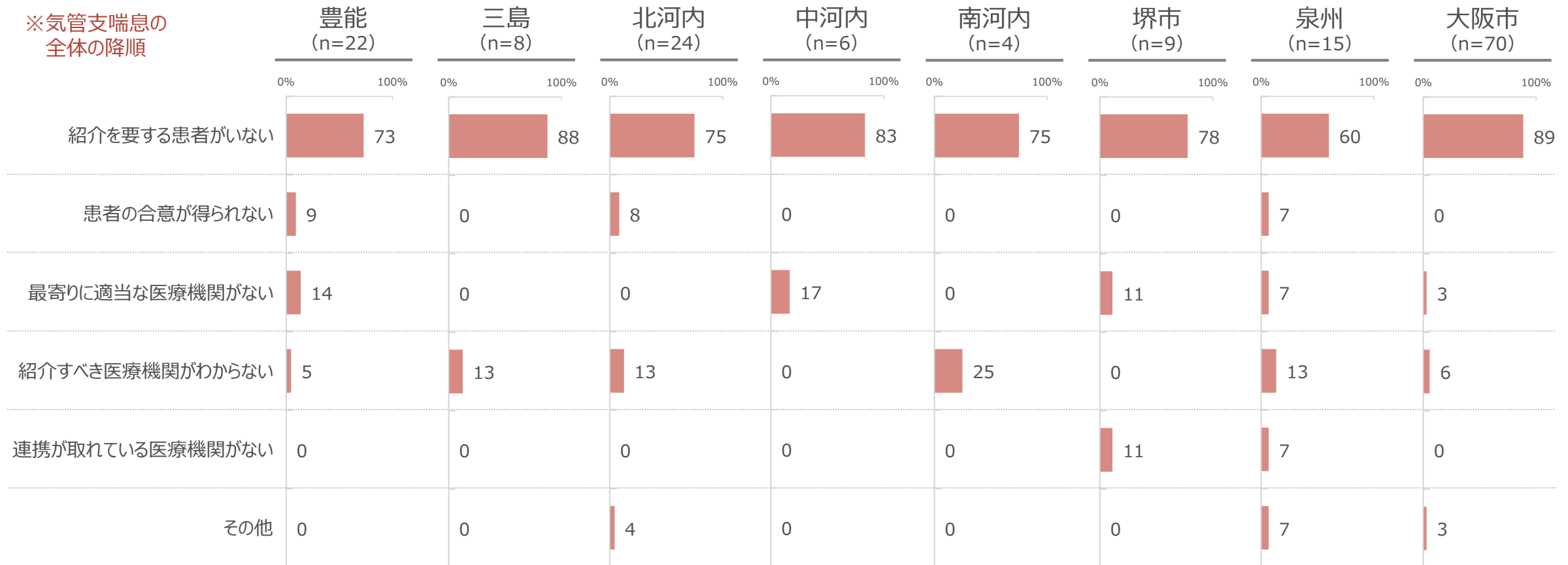
※アトピー性皮膚炎患者を紹介しない医師のみ



# 【二次医療圏別】

## 食物アレルギー患者を紹介しない・できない理由

※気管支喘息の  
全体の降順

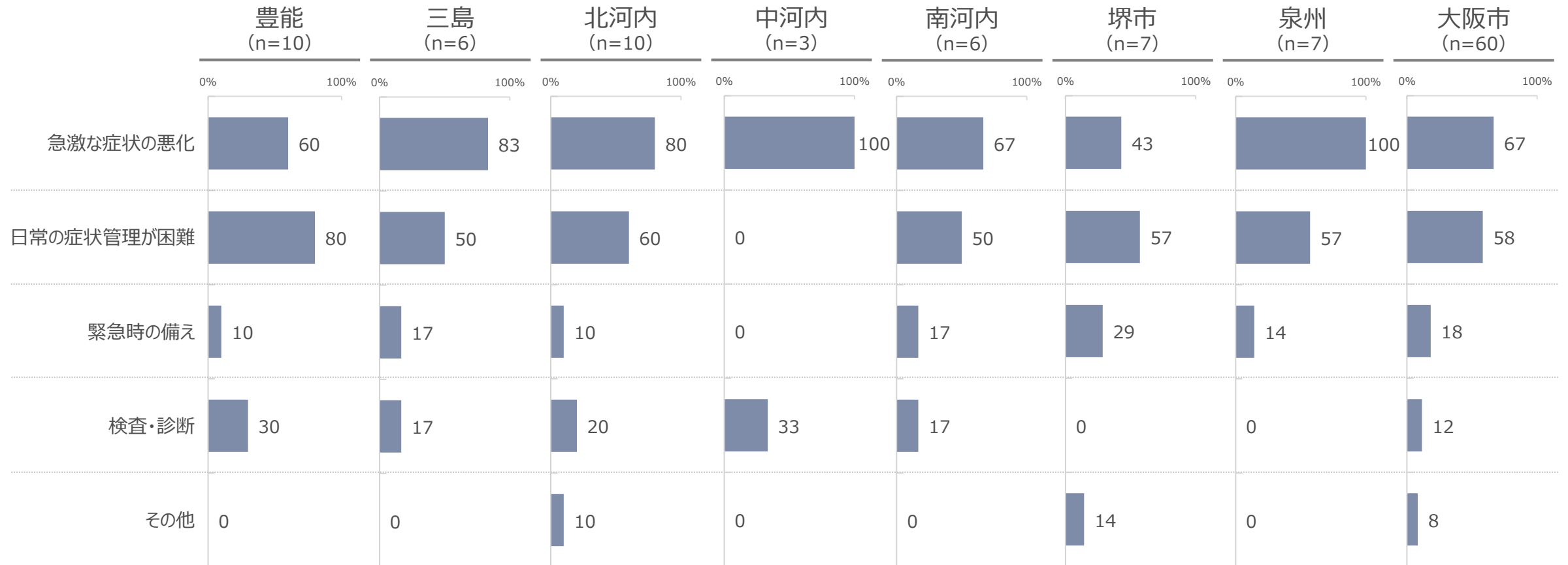


Q9. 患者を紹介しない、できない理由で最も多いものをお選びください。(ひとつだけ)

※食物アレルギー患者を紹介しない医師のみ

# 【二次医療圏別】

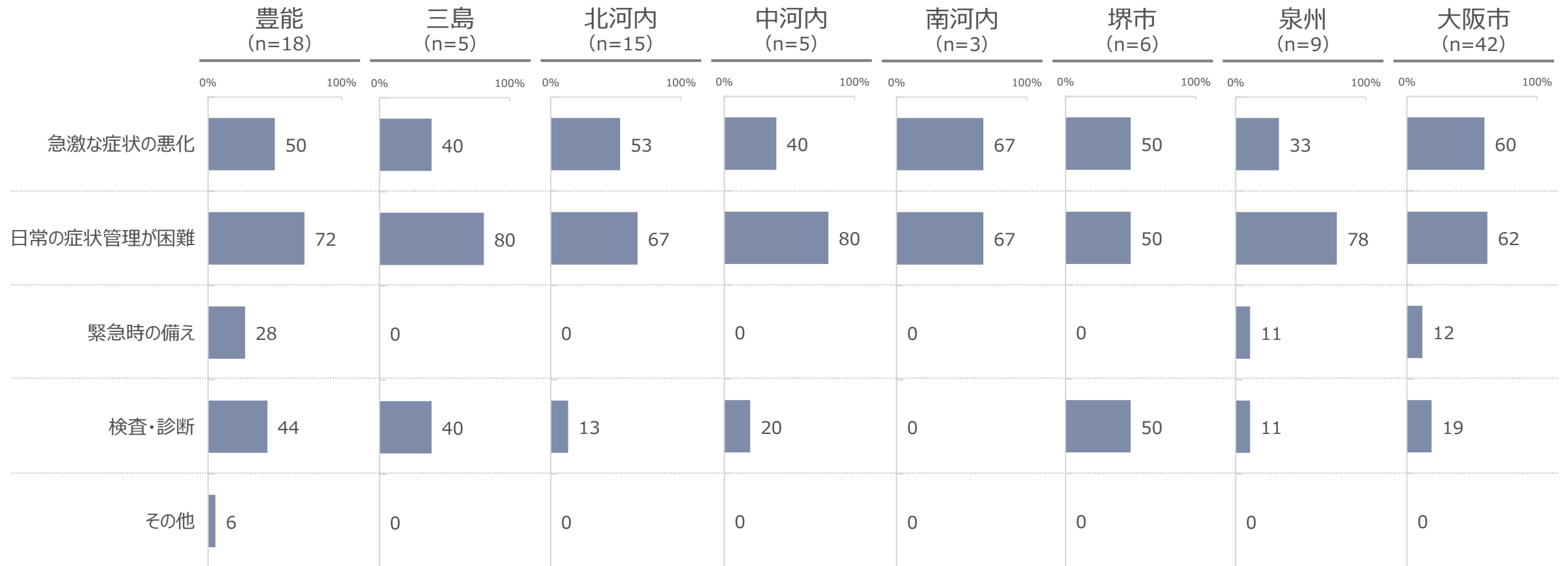
## 気管支ぜん息患者を紹介しない医師が紹介を検討するケース



Q10. Q9において「紹介を要する患者がない」と回答された方にお聞きます。どのような場合に紹介を考えますか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答可)  
 ※気管支ぜん息患者について「紹介する患者がない」と回答した医師のみ

# 【二次医療圏別】

## アトピー性皮膚炎患者を紹介しない医師が紹介を検討するケース

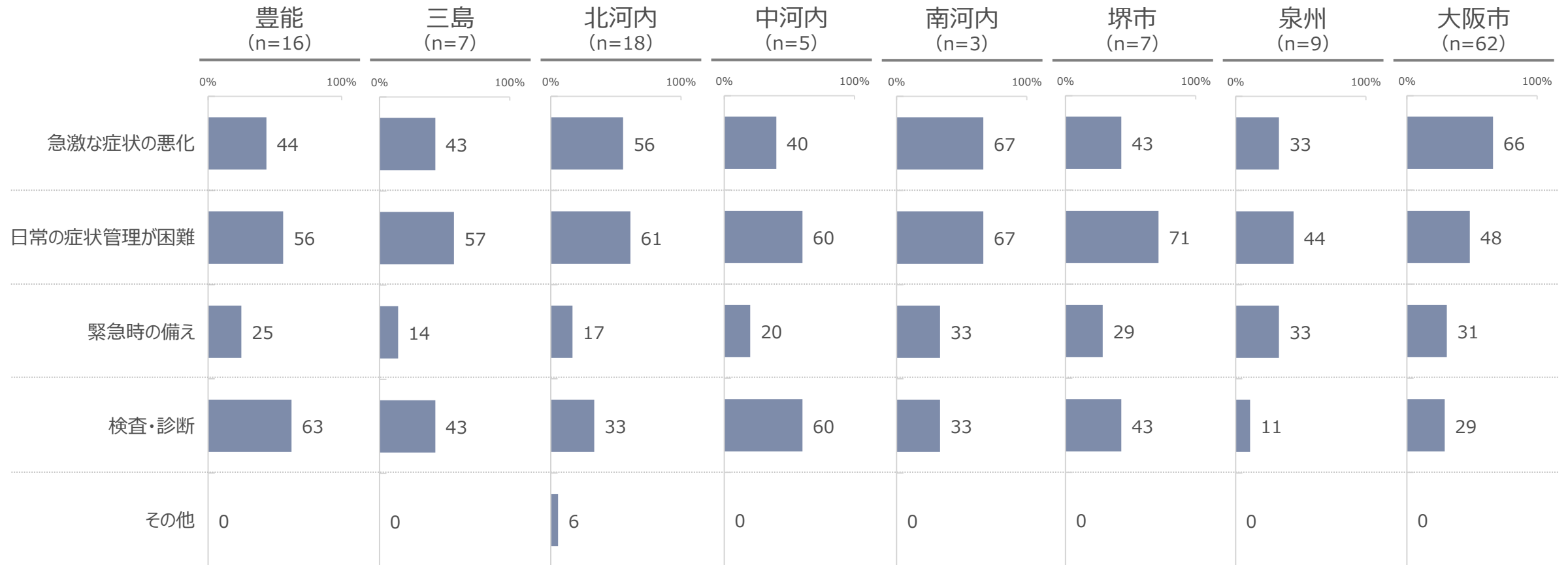


Q10. Q9において「紹介を要する患者がない」と回答された方にお聞きます。どのような場合に紹介を考えますか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答可）

※アトピー性皮膚炎患者について「紹介する患者がない」と回答した医師のみ

# 【二次医療圏別】

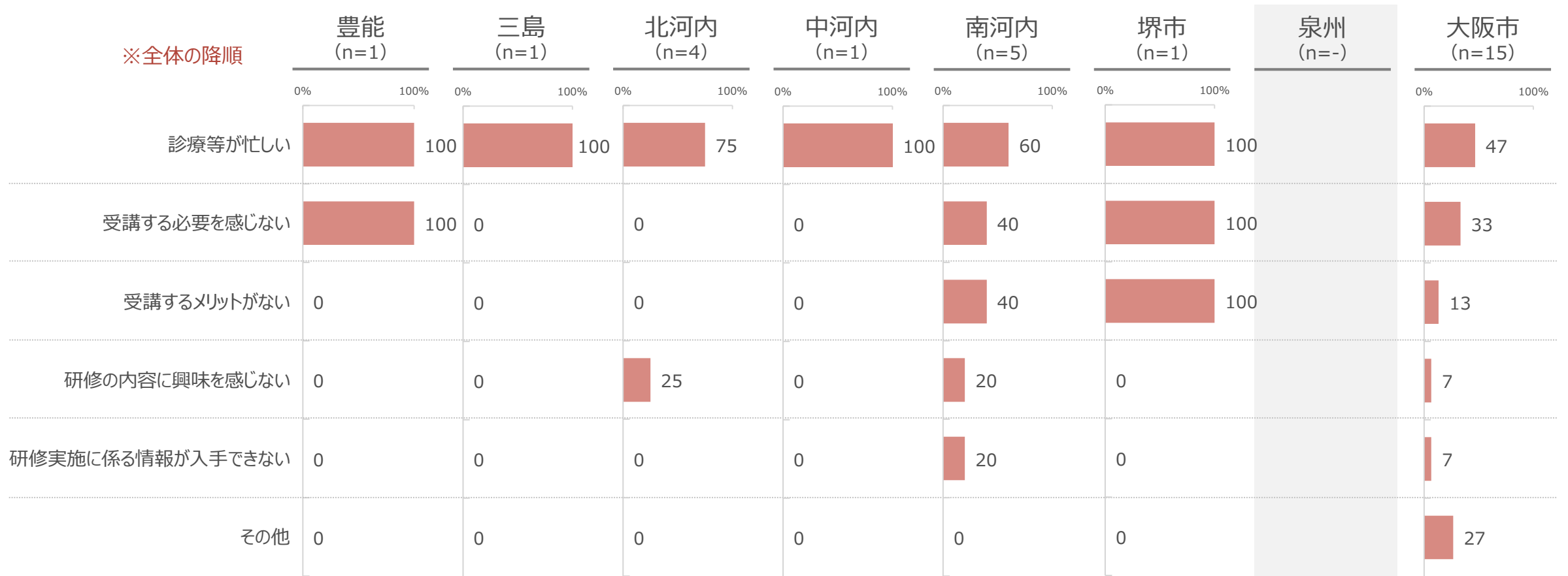
## 食物アレルギー患者を紹介しない医師が紹介を検討するケース



Q10. Q9において「紹介を要する患者がない」と回答された方にお聞きます。どのような場合に紹介を考えますか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答可）

※食物アレルギー患者について「紹介する患者がない」と回答した医師のみ

# 【二次医療圏別】 研修会に参加したいと思わない理由



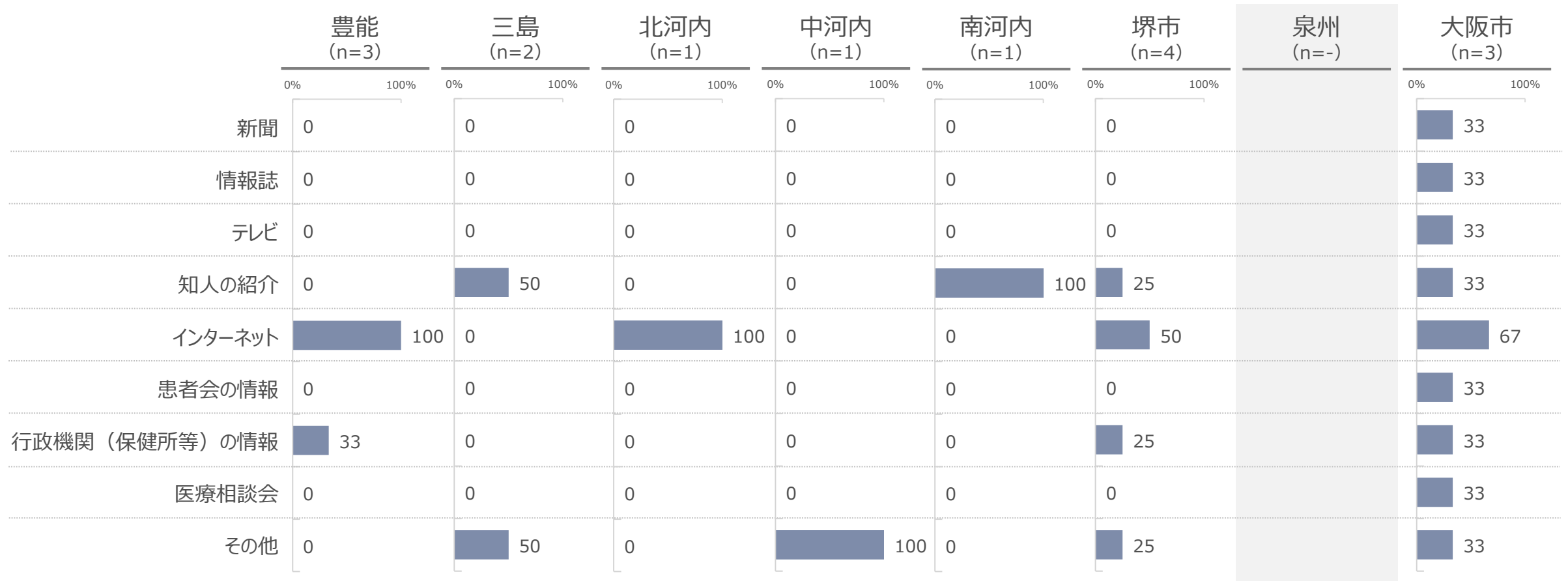
Q15. Q13で「参加したいと思わない」と回答された方にお聞きします。参加したいと思わない理由をお教えてください。（複数回答可）

※医療従事者を対象とした研修会への参加意向がない医師のみ

## IV- ii. 患者調査

## 【二次医療圏別】

## 気管支ぜん息患者が医療機関を探した方法

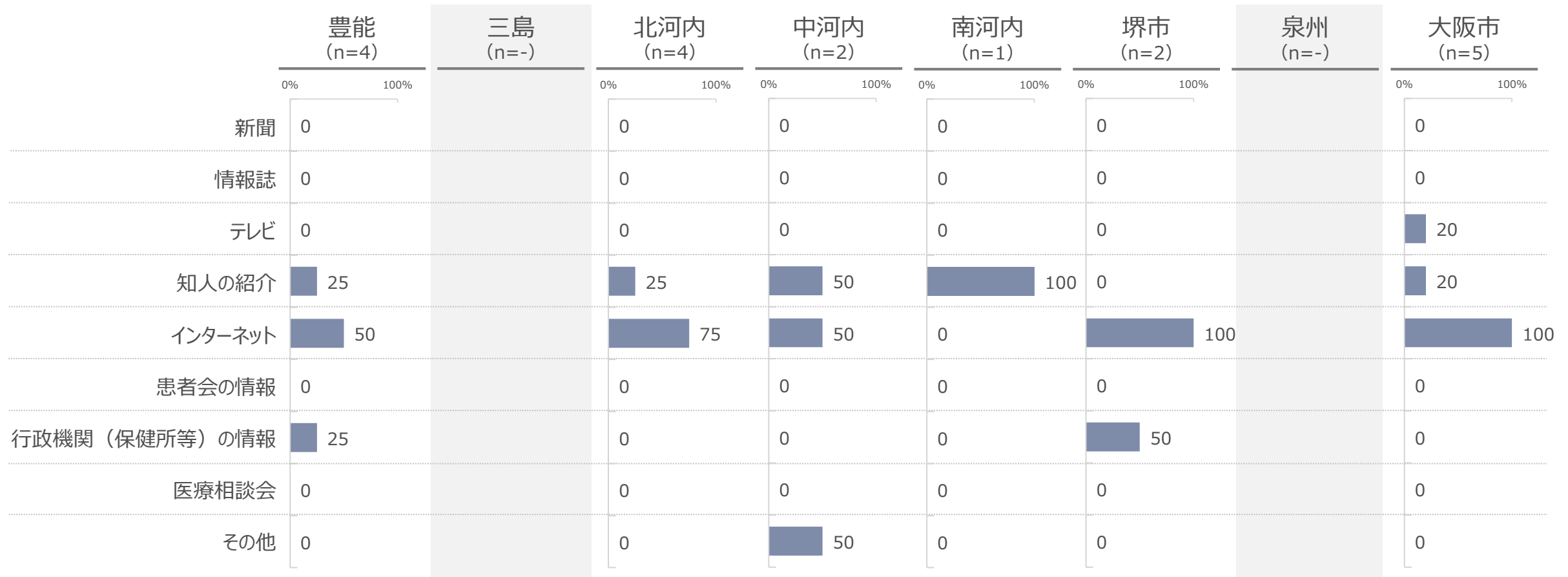


Q7-6. 「自分で他の医療機関を探して受診した」と回答した方にお聞きます。その医療機関を、どのように探されましたか。（複数回答可）

※各アレルギー疾患にて症状が安定しないなど問題が発生した場合に、主治医に相談しなかった、あるいは主治医に相談したにもかかわらず症状が改善せず、自分で他の医療機関を探して受診した患者のみ

## 【二次医療圏別】

## アトピー性皮膚炎患者が医療機関を探した方法



Q10-6. 「自分で他の医療機関を探して受診した」と回答した方にお聞きます。その医療機関を、どのように探されましたか。（複数回答可）

※各アレルギー疾患にて症状が安定しないなど問題が発生した場合に、主治医に相談しなかった、あるいは主治医に相談したにもかかわらず症状が改善せずに、自分で他の医療機関を探して受診した患者のみ



## 【二次医療圏別】

## 食物アレルギー患者が医療機関を探した方法

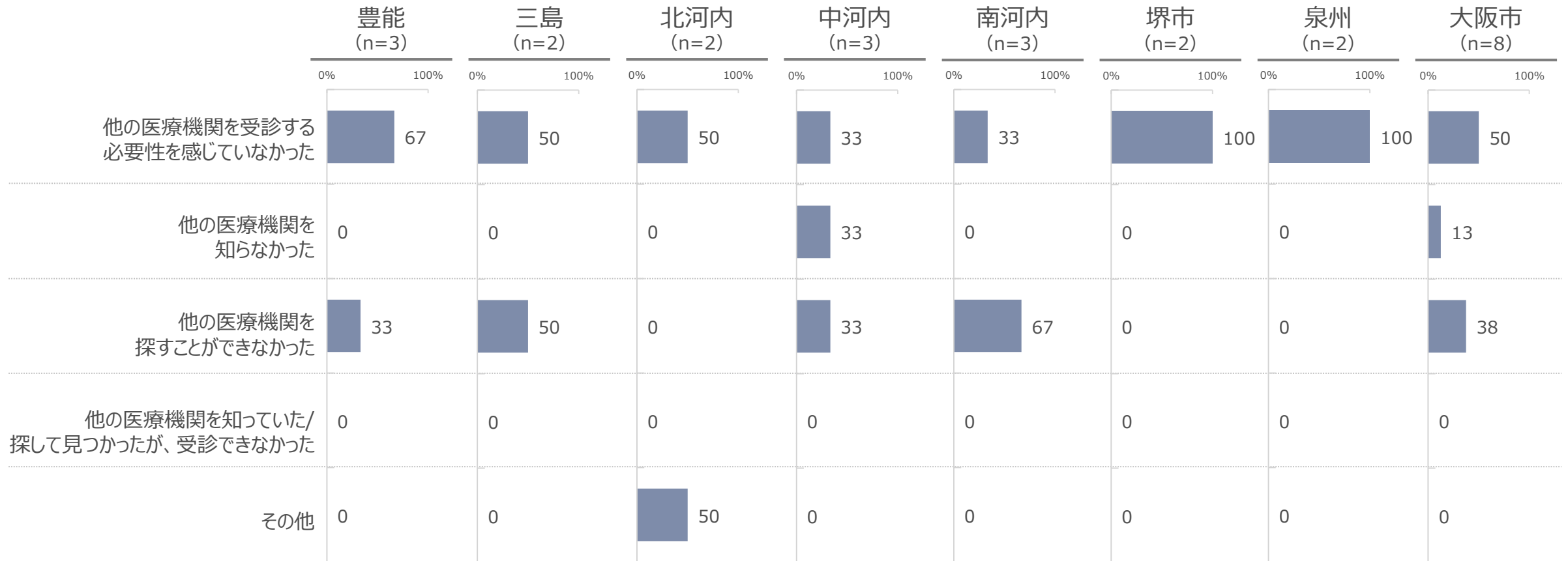


Q13-6. 「自分で他の医療機関を探して受診した」と回答した方にお聞きます。その医療機関を、どのようにして探されましたか。（複数回答可）

※各アレルギー疾患にて症状が安定しないなど問題が発生した場合に、主治医に相談しなかった、あるいは主治医に相談したにもかかわらず症状が改善せず、自分で他の医療機関を探して受診した患者のみ

## 【二次医療圏別】

## 気管支ぜん息患者が症状が改善しないが従来の治療法を継続した理由

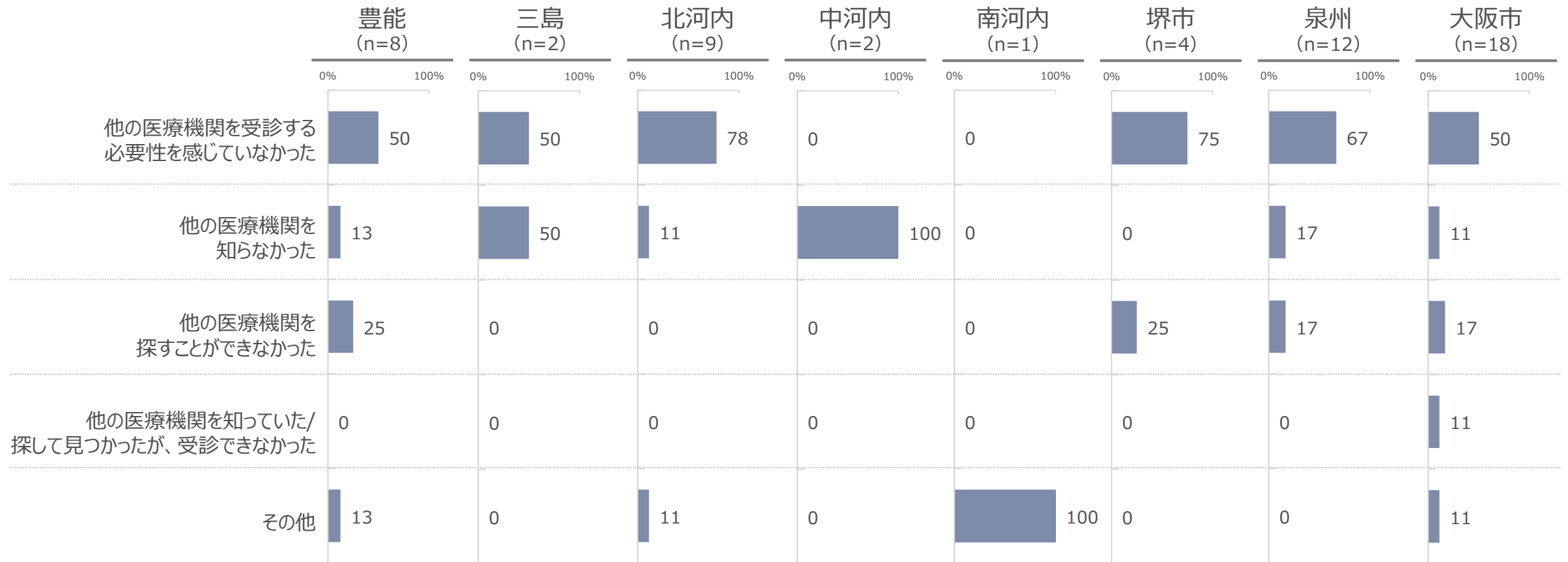


Q7-7. 「従来の治療法を継続した」と回答した方にお聞きます。理由を教えてください。（複数回答可）

※各アレルギー疾患にて症状が安定しないなど問題が発生した場合に、主治医に相談しなかった、あるいは主治医に相談したにもかかわらず症状が改善せず、従来の治療法を継続した患者のみ

## 【二次医療圏別】

## アトピー性皮膚炎患者が症状が改善しないが従来の治療法を継続した理由

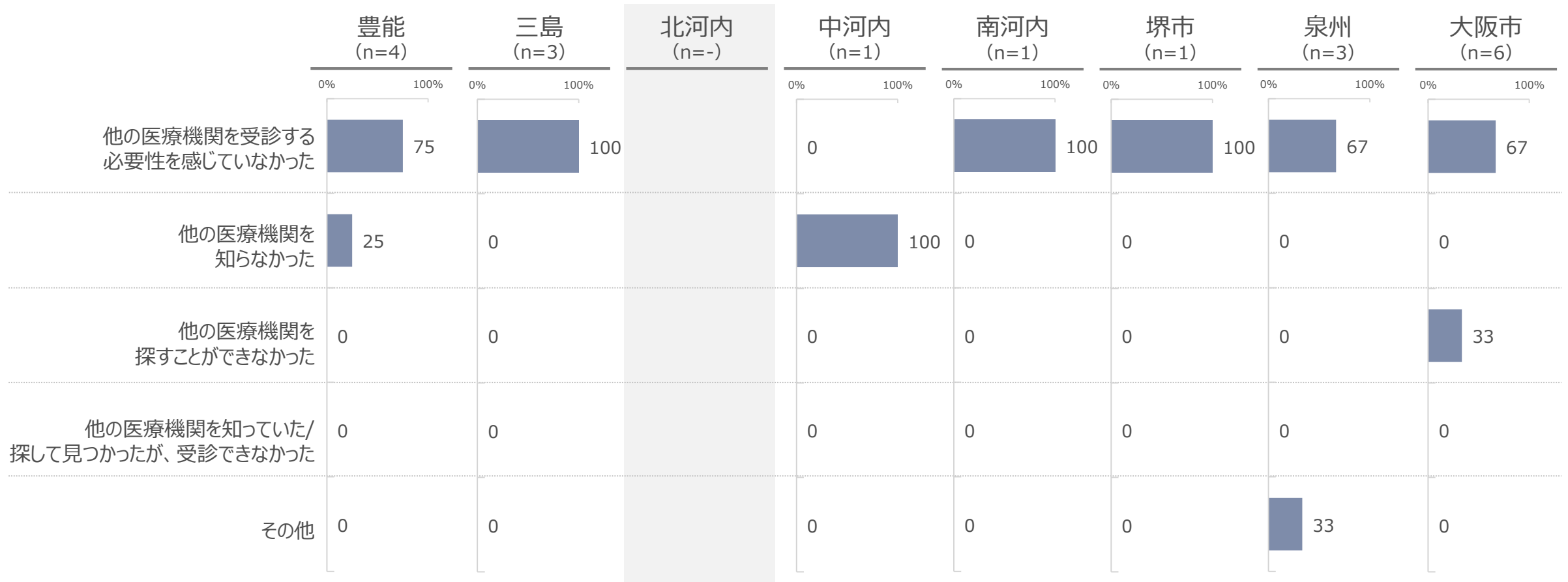


Q10-7. 「従来の治療法を継続した」と回答した方にお聞きます。理由を教えてください。（複数回答可）

※各アレルギー疾患にて症状が安定しないなど問題が発生した場合に、主治医に相談しなかった、あるいは主治医に相談したにもかかわらず症状が改善せずに、従来の治療法を継続した患者のみ

## 【二次医療圏別】

## 食物アレルギー患者が症状が改善しないが従来の治療法を継続した理由



Q13-7. 「従来の治療法を継続した」と回答した方にお聞きます。理由を教えてください。（複数回答可）

※各アレルギー疾患にて症状が安定しないなど問題が発生した場合に、主治医に相談しなかった、あるいは主治医に相談したにもかかわらず症状が改善せずに、従来の治療法を継続した患者のみ